構造関係共通事項

1．総則

1．1　適用範囲
（1）構造関係共通図（配筋標準図）は，鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工，組立等の一般的な標準図を表わす。
（2）構造関係共通図（鉄骨標準図）は，鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工，組立の一般的な標準図を表わす。
（3）構造関係共通図（配筋標準図，鉄骨標準図）以外については，図面及び監督職員の指示による。

1．2　優先順位
（1）設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
　1．建築工事特記仕様書（構造関係）
　2．図面 ┬ 下記以外の図面
　　　　 └ 構造関係共通図（配筋標準図，鉄骨標準図）
　3．国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

1．3　用語の定義
（1）設計図とは，建築構造図のうち特記仕様書，構造関係共通図以外の図面をいう。
（2）異形鉄筋の径（本文，図，表において「D，d」で示す）は，呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ，厚さ等の単位は，特記がなければ㎜とする。

1．4　記号等
設計図中で使用する記号は，表1～表8，図1を標準とする。

表1　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建　築	●	╳	∅	●	○	⊙	⊗	◎

表2　各階伏図における記号

記　号	説　　明	記　号	説　　明
S*	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	●	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
DO	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
═══	コンクリートブロック壁（ＣＢ壁）	⊕	ボーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁の種別 片持スラブ形階段を受け，かつ耐力壁の種別 土圧を受け，かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別 片持スラブ形階段を受け，かつ耐力壁の種別

表3　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建　築	⊖	╳	┼	╱	⊕	✳	╫	╱	⊕	✳	╪	╱	⊕	✳	╪

表4　スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表5　高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T，S10T）	●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	╱	│	┼	╱	✳

表6　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	⦶	⊕	⦶	✳

表7　溶接方法，溶接継手及び溶接面の分類記号

			記号
溶　接　継　手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		Ｔ型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	重ねアーク溶接（フレア溶接）		ＦＬ
溶　接　面	片面溶接		1
	両面溶接		2

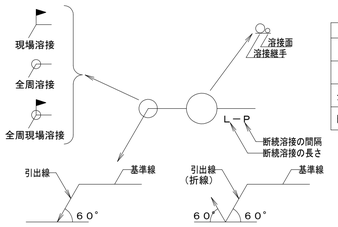


表8　溶接の補助記号

区　　分	補助記号
現　場　溶　接	⚑
全　周　溶　接	○
全 周 現 場 溶 接	⚑○
断面溶接の長さ及び間隔	Ｌ－Ｐ

※特記無き限り，完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。
図1　溶接記号の記載例

標準仕様書　５章　鉄筋工事　３節　加工及び組立よりの抜粋

５．３．２　加工
（２）次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。
　（ア）柱の四隅にある主筋の重ね継手
　（イ）最上階の柱の四隅にある主筋の柱頭の定着
　（ウ）梁の出隅及び下端の両隅にある梁主筋の重ね継手（基礎梁を除く。）
　（エ）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
　（オ）杭基礎のベース筋
　（カ）帯筋，あばら筋及び幅止め筋

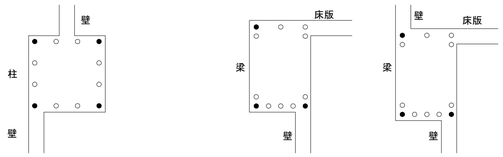
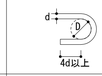
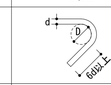
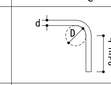
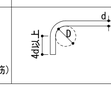


図3.3（5.3.2(2)の解説）　末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

（３）鉄筋の折曲げ形状及び寸法は，表5.3.1による。
　なお，異形鉄筋の径（この節の本文，図及び表において「d」で示す。）は，呼び名に用いた数値とする。

表5.3.1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	鉄筋の種類	折曲げ内法直径(D)		
			SD295，SD345		SD390
		呼び名	D16以下	D19～D38	D19～D38
180°			3d以上	4d以上	5d以上
135°					
90°					
135°及び90°（幅止め筋）					

（注）1．片持スラブ先端，壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には，余長を4d以上とする。
　　2．90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

５．３．４　継手及び定着
（１）鉄筋の継手は，重ね継手，ガス圧接継手，機械式継手又は溶接継手とし，適用は特記による。
　原則として，D35以上の異形鉄筋については，重ね継手を用いない。
（２）鉄筋の継手位置は，特記による。
（３）鉄筋の重ね継手は，次による。
　なお，径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは，細い鉄筋の径による。
（ア）柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは，特記による。特記がなければ，耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは，40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は表5.3.2の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
（イ）（ア）以外の鉄筋の重ね継手の長さは，表5.3.2による。

表5.3.2 鉄筋の重ね継手の長さ

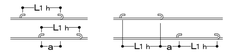
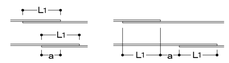
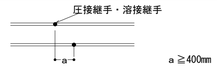
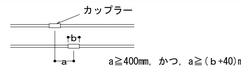
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）1．L1，L1h：重ね継手の長さ及びフックありの重ね継手の長さ
　　2．L1hは，図5.3.1に示すようにフック部分 l を含まない。
　　3．軽量コンクリートの場合は，表の値に5dを加えたものとする。

図5.3.1 フックありの重ね継手の長さ

（４）隣り合う継手の位置は，表5.3.3による。ただし，スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。
　なお，先組み工法等で，柱及び梁の主筋のうち，隣り合う継手を同一箇所に設ける場合は，特記による。

表5.3.3 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	 a＝0.5 L1h　a≧0.5 L1h
	フックなしの場合	 a＝0.5 L1　a≧0.5 L1
溶接継手	―	 a≧400㎜
機械式継手	―	 a≧400㎜，かつ，a≧（b+40）㎜

（５）鉄筋の定着は，次による。
（ア）鉄筋の定着の長さは，特記による。特記がなければ，表5.3.4による。

表5.3.4 鉄筋の定着の長さ

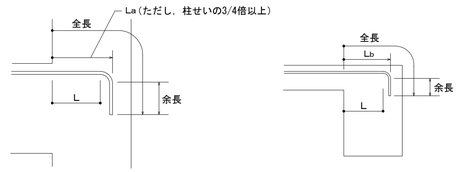
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	直線定着の長さ L1	直線定着の長さ L2	直線定着の長さ L3 小梁	直線定着の長さ L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	フックあり定着の長さ L2h	フックあり定着の長さ L3h 小梁	フックあり定着の長さ L3h スラブ
SD295	18	45d	40d	20d（片持小梁の場合は25d）	10dかつ150㎜以上（片持スラブの場合は25d）	35d	30d	10d	―
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L1，L1h：2.から4.まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
　　2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
　　3．L3　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし，基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　　4．L3h：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ
　　5．フックありの定着の場合は，図5.3.2に示すようにフック部分 l を含まない。また，中間部での折曲げは行わない。
　　6．軽量コンクリートの場合は，表の値に5dを加えたものとする。

直線定着の長さ　　フックあり定着の長さ

図5.3.2 直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ

（イ）仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが，表5.3.4のフックありの定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は，特記による。特記がなければ，図5.3.3により，次の(a)から(c)までを全て満足するものとする。
（ａ）全長は，表5.3.4の直線定着の長さ以上とする。
（ｂ）余長は8d以上とする。
（ｃ）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは，表5.3.5に示す長さとする。ただし，梁主筋の柱内定着においては，柱せいの3/4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

図5.3.3 折曲げ定着の方法

表5.3.5 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

（注）1．La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁，片持梁及び片持スラブを含む。））
　　2．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く。）
　　3．軽量コンクリートの場合は，表の値に５ｄを加えたものとする。

（６）溶接金網及びスパイラル筋の継手及び定着は，次による。
（ア）溶接金網の継手及び定着は，図5.3.4による。
　なお，L1 は表5.3.2に，L2 及び L3 は表5.3.4による。

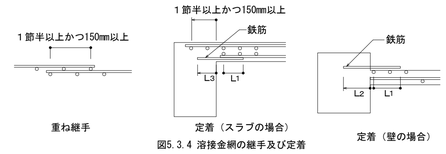


図5.3.4 溶接金網の継手及び定着

（イ）スパイラル筋の継手及び定着は，図5.3.5による。

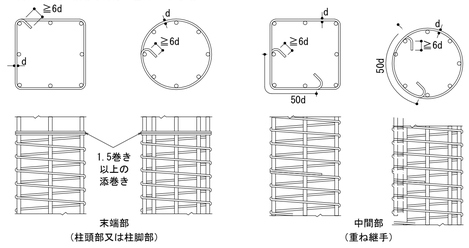


図5.3.5 スパイラル筋の継手及び定着

５．３．５　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
（１）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは，特記による。特記がなければ，表5.3.6による。ただし，柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は，主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表5.3.6 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				最小かぶり厚さ(㎜)
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．この表は，普通コンクリートに適用し，軽量コンクリートには適用しない。また，塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
　　2．「仕上げあり」とは，モルタル塗り等の仕上げのあるものとし，鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材，塗装等）のものを除く。
　　3．スラブ，梁，基礎及び擁壁で，直接土に接する部分のかぶり厚さには，捨コンクリートの厚さを含まない。
　　4．杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは，杭天端からとする。

（２）柱，梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは，最小かぶり厚さに10㎜を加えた数値を標準とする。
（３）鉄筋組立後のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。
（４）鉄筋相互のあきは図5.3.6により，次の値のうち最大のもの以上とする。ただし，機械式継手及び溶接継手の場合は，５節又は６節による。
　（ア）粗骨材の最大寸法の1.25倍
　（イ）25㎜
　（ウ）隣り合う鉄筋の径　標準仕様書（5.3.2(3)によるd）の平均の1.5倍

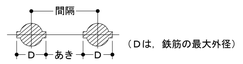


図5.3.6 鉄筋相互のあき及び間隔

（５）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合，主筋と平行する鉄骨とのあきは，(4)による。
（６）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	01	構造関係共通事項	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

配筋標準図

1．1　基礎梁主筋の継手，定着及び余長

（1） 一般事項

（ア）梁筋は，原則として，柱をまたいで引き通すものとし，引き通すことができない場合は，柱内に定着する。ただし，やむを得ず梁内に定着する場合は，図1.4による。

（イ）梁筋を柱内に定着する場合は，3.1(1)(イ)による。

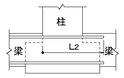


図1.1　梁筋の基礎梁内への定着

（2） 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手，定着及び余長

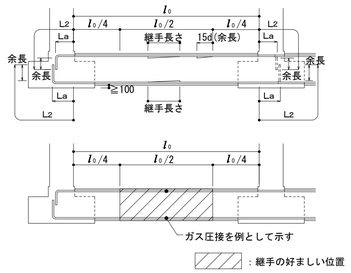


図1.2　主筋の継手，定着及び余長（その１）

1. 図示のない事項は，3.1による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。

（3）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手，定着及び余長

ただし，耐圧スラブが付く場合は，（４）による。

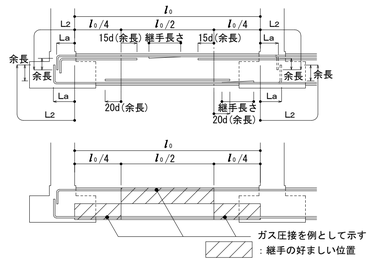


図1.3　主筋の継手，定着及び余長（その２）

1. 図示のない事項は，3.1による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。

（4）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手，定着及び余長（耐圧スラブがつく場合を含む）

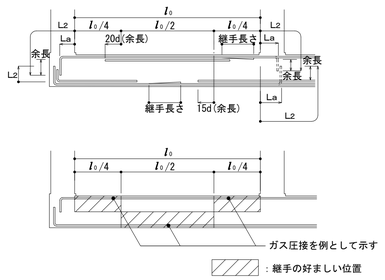


図1.4　主筋の継手，定着及び余長（その３）

1. 図示のない事項は，3.1による。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長位置を示す。
3. 破線は，柱内定着の場合を示す。
4. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。

1．2　基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は，3.2(1)による。ただし，梁の上下にスラブが付く場合で，かつ，梁せいが1.5m以上の場合は，図1.5によることができる。

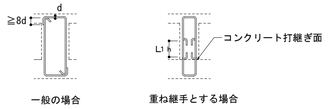
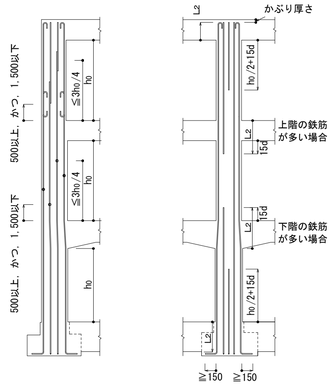


図1.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

2．1　柱主筋の継手，定着及び余長

（1）柱主筋の継手及び定着の一般事項



1. 柱の四隅にある主筋で，重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には，フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は，標準仕様書（表5.3.3）による。
3. 柱頭定着長さ L2 が確保できない場合は，構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
4. 柱頭柱主筋について，梁上端主筋との取合いを考慮し，適切なかぶり厚さを確保する。

図2.1　柱主筋の継手，定着及び余長

（2）柱打増し部

（a）打増し部分に，壁，梁，スラブ筋等がとりつく場合は，壁，梁，スラブ筋等の定着長さには，打増し部分を含まない。

（b）土に接する柱周囲の打増しは図2.2による。

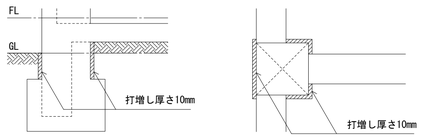
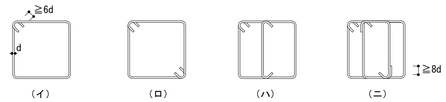


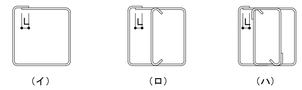
図2.2　柱打増し部

2．2　帯筋組立の形及び割付け

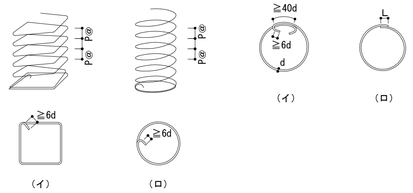
①H形



②W-Ⅰ形

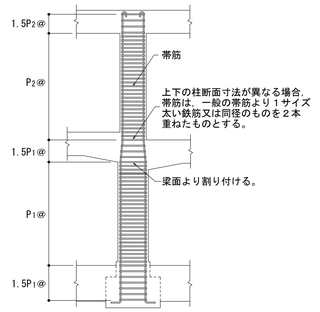


⑤ＳＰ形（スパイラル筋）　⑥丸形



1. H形を標準とする。
2. フック及び接手の位置は，交互とする。
3. 溶接は，鉄筋の組立前に行う。
4. 溶接する場合の溶接長さは，両面重ねアーク溶接（フレア溶接）の場合は5d以上，片面重ねアーク溶接（フレア溶接）の場合は10d以上とする。
5. SP形において，柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻を行う。
6. H形の135°曲げフックが困難な場合は，W-I形とする。

図2.3　帯筋組立の形



1. 柱に取り付く梁に段差がある場合，帯筋の間隔を1.5P1@または1.5P2@とする範囲は，その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお，P1@，P2@は，特記された帯筋の間隔を示す。

図2.4　帯筋の割付け

3．1　大梁主筋の継手，定着及び余長

（1） 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

（ア）梁主筋は，原則として，柱をまたいで引き通すものとし，引き通すことができない場合は，（イ）により柱内に定着することができる。ただし，やむを得ず梁内に定着する場合は，図3.1による。

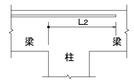


図3.1　梁主筋の梁内定着

（イ）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお，定着の方法は，標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）による。

上端筋　　：曲げ降ろす。

下端筋（一般）　：原則として曲げ上げる。

下端筋（ハンチ付）：原則として曲げ上げる。

（ウ）段違い梁は，図3.2による。

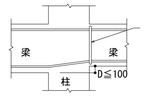
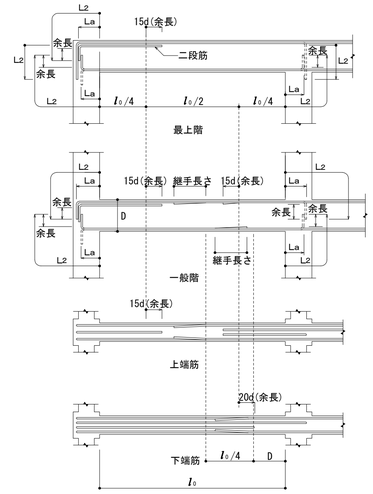


図3.2　段違い梁

（2）ハンチのない場合の重ね継手，定着及び余長



1. 継手中心位置は次による。

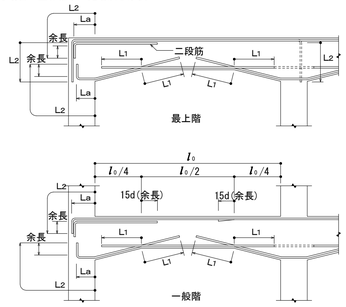
上端筋：中央 $l_0/2$ 以内

下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し，$l_0/4$ を加えた範囲以内

2. 標準仕様書（5.3.2(2)(イ)）で定めた鉄筋には，フックを付ける。
3. ━━━━ 印は，継手及び余長を示す。
4. 破線は，柱内定着の場合を示す。
5. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。

図3.3　大梁の重ね継手，定着及び余長

（3）ハンチのある場合の重ね継手，定着及び余長



1. 標準仕様書（5.3.2(2)(イ)）で定めた鉄筋には，フックを付ける。
2. ━━━━ 印は，継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは，┅┅┅┅ のように引き通すことができる。
4. 破線は，柱内定着の場合を示す。
5. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。

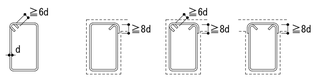
図3.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版	2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	02	配筋標準図（１）	見積版	2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版	

20230220

3．2　あばら筋（小梁，片持梁，基礎梁含む）の組立て形及び割付け等

（1）あばら筋組立の形及びフックの位置

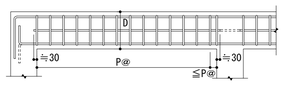


（イ）　（ロ）　（ハ）　（ニ）

1.（イ）形を標準とする。ただし，L形梁の場合は，（ロ）又は（ハ），T形梁の場合は，（ロ）～（ニ）とすることができる。
2. フックの位置は，（イ）の場合は交互とし，（ロ）の場合は，L形ではスラブの付く側，T形では交互とする。
なお，（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

図3.5　あばら筋組立の形

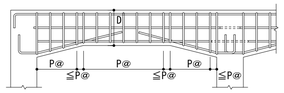
（2）あばら筋の割付け
（ア）間隔が一様でハンチのない場合



1. あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
2. 図中Ｐ@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6　あばら筋の割付け　（その1）

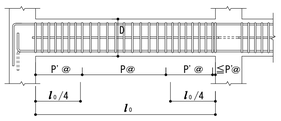
（イ）間隔が一様でハンチがある場合



1. あばら筋は，柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中Ｐ@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7　あばら筋の割付け　（その2）

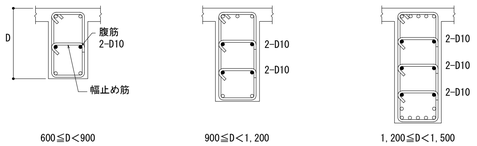
（ウ）梁の端部で間隔の異なる場合



1. あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
2. 図中Ｐ@，Ｐ'@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8　あばら筋の割付け　（その3）

（3）　腹筋及び幅止め筋



600≦D＜900　　900≦D＜1,200　　1,200≦D＜1,500

1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは，150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は，D10-1,000@程度とする。

図3.9　腹筋及び幅止め筋

3．4　小梁主筋の継手，定着及び余長

（1）　連続小梁の場合

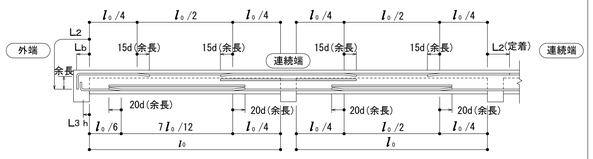
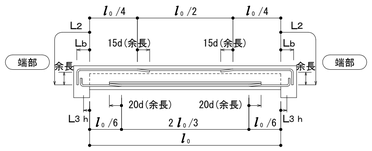
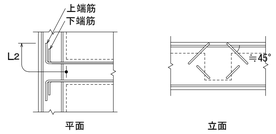


図3.10　小梁主筋の継手，定着及び余長(その1)

（2）　単独小梁の場合





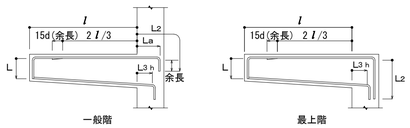
直交する梁へ斜めに定着する場合

図3.11　小梁主筋の継手，定着及び余長(その2)

1. ━━━━ 印は，余長位置を示す。
2. 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合，斜めにしても良い。
3. 図示のない事項は，1.3及び3.1に準ずる。
4. L3hを確保できない場合は，標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）によることができる。

3．5　片持梁主筋の継手，定着及び余長

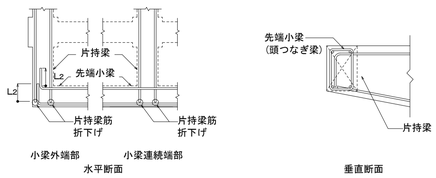
（1）先端に小梁のない場合



1. ━━━━ 印は，余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さLは，梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図時のない事項は，3.1による。
4. La の数値は，原則として，柱せいの3/4倍以上とする。
5. L3hを確保できない場合は，標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）によることができる。

図3.12　片持梁主筋の定着及び余長

（2）先端に小梁がある場合



1. 図示のない事項は，（1）による。
2. 先端小梁終端部の主筋は，片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は，片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.13　片持梁主筋の定着

4．1　壁の配筋

（1）壁の配筋は表4.1による。

表4.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	

(注)　壁筋の配筋順序は，規定しない。

（2）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表4.2による。

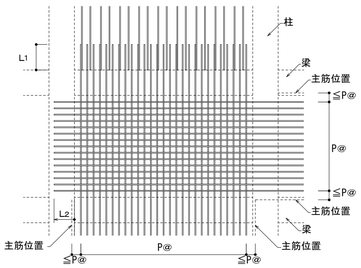
表4.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋種別(表6.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	180	KA1
	横筋	D10-200@ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	200	KA2
	横筋	D10-200@ダブル		KA4

(注)　縦筋は，横筋の外側に配筋する。

（3）土圧を受ける壁の配筋は，構造図による。

4．2　壁の継手及び定着



1. 図中のＰ@は，特記された壁筋の間隔を示す。
2. 壁配筋の重ね継手はL1，定着長さはL2とし，鉄筋の継手位置は柱・梁以外とする。
3. 幅止め筋は，縦横ともD10-1,000@程度とする。

図4.1　壁の配筋

4．3　壁の交差部及び端部の配筋

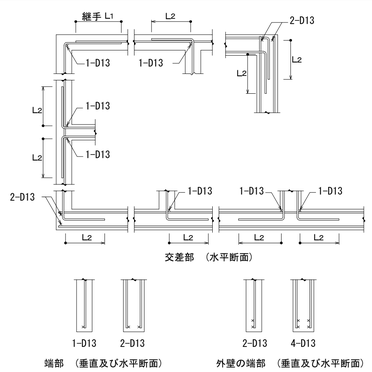


図4.2　壁の交差部及び端部の配筋

4．4　壁の開口部補強

（1）耐震壁を除く壁開口部の補強筋は，A形は表4.3，B形は表4.4とする。

表4.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表4.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（2）壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。

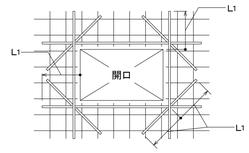


図4.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（3）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
（4）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は，構造図による。

4．5　パラペット

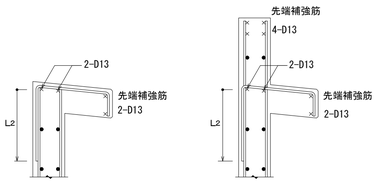


図4.4　パラペットの配筋

明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	B	建築工事	最終版　2024.3.25
	03	配筋標準図（２）	見積版　2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

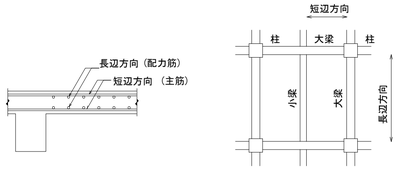
20230220

5．1　スラブの配筋

表5.1　スラブの配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域	配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10，D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10，D13-150@	S10	D10，D13-200@	D10，D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10，D13-150@	S12	同上	D10-250@
S 6	同上	D10-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10，D13-150@	D10，D13-150@	S14	同上	D10-250@

（注）上端筋，下端筋とも同一配筋とする。



1. 配筋の割付けは，中央から行い，端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは，L_1 とする。
3. 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは，構造図による。

図9.1　スラブの配筋

5．2　スラブ筋の定着及び受け筋

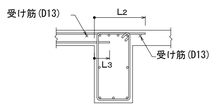


図5.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

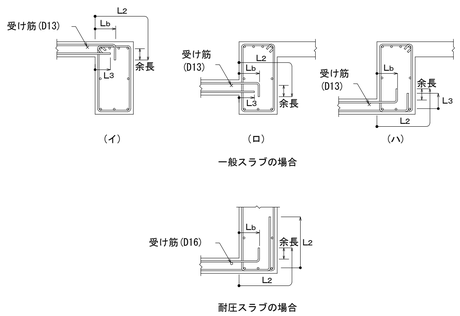


図5.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

5．3　片持スラブの配筋

表5.2　CS形配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10，D13-200@
	下	D13-300@		下	―――
CS3	上	D10，D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10，D13-300@		下	―――
CS4	上	D10，D13-200@			
	下	D10-200@			

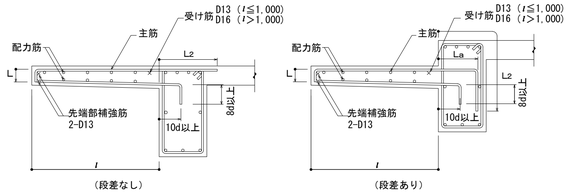


図5.4　片持スラブの配筋（CS1 から CS5）

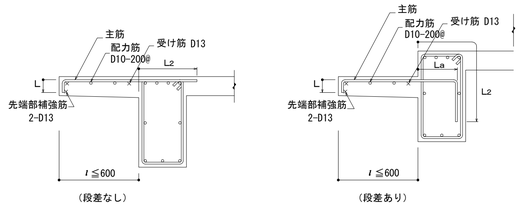


図5.5　片持スラブの配筋（CS6 及び CS7）

1. 先端の折曲げ長さは，スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は，主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

5．4　片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

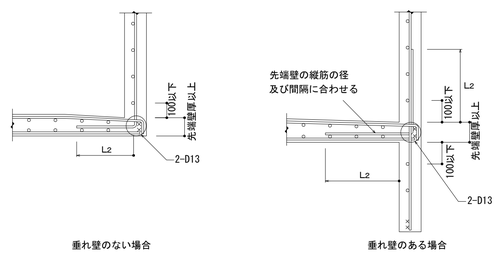
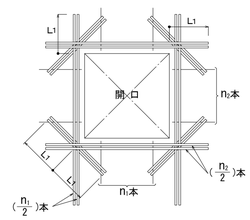


図5.6　先端に壁が付く場合の配筋

5．5　スラブの開口部の補強

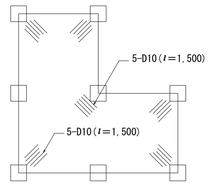


1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し，隅角部に斜め方向に2-D13（l=2L_1）シングルを上下筋の内側に配筋する。
2. スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で，鉄筋を緩やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
3. スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。

図5.7　スラブ開口部の補強配筋

5．6　出隅部及び入隅部の補強

（1）屋根スラブの出隅及び入隅部



1. 補強筋を上下筋の下側に配置する。

図5.8　出隅及び入隅部の補強配筋

（2）片持スラブの出隅部

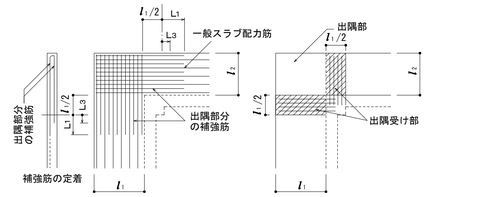
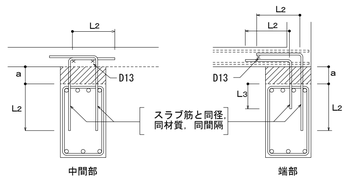


図5.9　片持スラブ出隅部の補強配筋

5．7　スラブの打継ぎの補強等

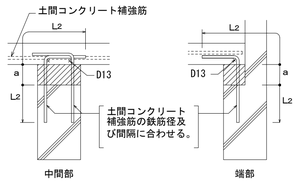
（1）土間スラブの打継ぎ補強（基礎梁とスラブを一体打ちとしないで，打継ぎを設ける場合の補強を示す。）



1. 土間コンクリートとは，土に接するスラブのうち，床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい，それ以外は土間スラブとして，梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. aが300mm以下の場合に限る。

図5.10　打継ぎ補強配筋

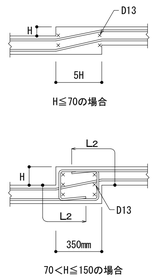
（2）土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



1. 土間コンクリートとは，土に接するスラブのうち，床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい，それ以外は土間スラブとして，梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. aが300mm以下の場合に限る。

図5.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

5．8　段差のあるスラブの補強



1. 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

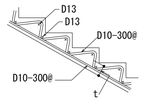
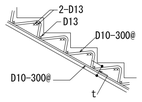
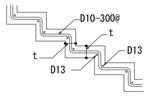
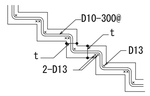
図5.12　段差のあるスラブの補強配筋

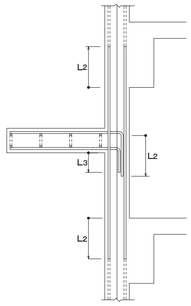
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	04	配筋標準図（3）	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

6．1　片持スラブ形階段の配筋

表6.1　片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



1. 壁配筋は，4.1(2)による。
2. 階段主筋は，壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着長さは，標準仕様書（表5.3.4）の L3 とする。

図6.1　片持スラブ形階段配筋の定着

6．2　二辺固定スラブ形階段の配筋

表6.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋，下端筋とも(全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13,D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

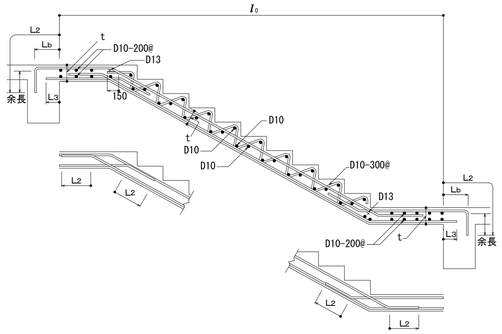
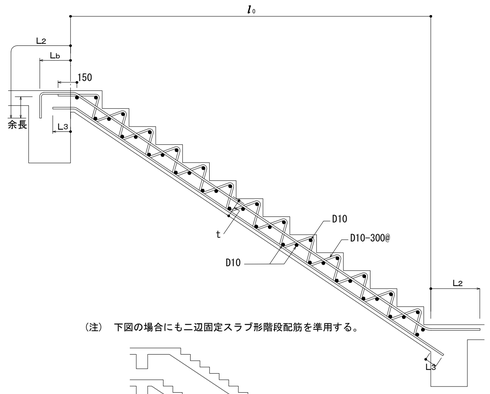


図6.2　二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注)　下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

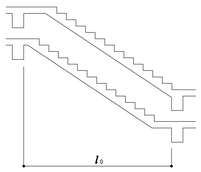


図6.3　二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

7．1　梁貫通孔の配筋

（1）梁貫通孔補強筋の名称等は，図7.1による。
（2）孔の径は，梁せいの1/3以下とし，孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
（3）孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし，梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
（4）孔は，柱面から，原則として，1.5D以上離す。ただし，基礎梁及び壁付帯梁は除く。
（5）孔が並列する場合の中心間隔は，孔の径の平均値の3倍以上とする。
（6）縦筋及び上下縦筋は，あばら筋の形に配筋する。
（7）補強筋は，主筋の内側とする。また，鉄筋の定着長さは，図7.2による。
（8）孔の径が梁せいの1/10以下，かつ，150mm未満のものは，鉄筋を緩やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
（9）溶接金網の余長は1格子以上とし，突出しは10mm以上とする。
（10）溶接金網の貫通孔部分には，鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
　　なお，リング筋は，溶接金網に４箇所以上溶接する。
（11）溶接金網の割付け始点は，横筋であばら筋の下側とし，縦筋では貫通孔の中心とする。
（12）他の開孔を設けない範囲は図7.3による。

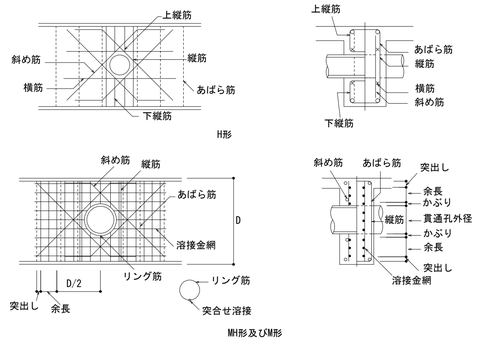
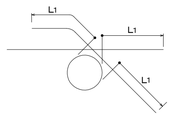


図7.1　梁貫通孔補強筋の名称等



貫通孔が円形の場合

図7.2　補強筋の定着長さ

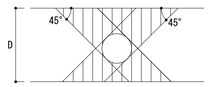
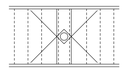
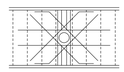
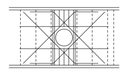


図7.3　他の開孔を設けない範囲

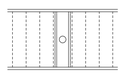
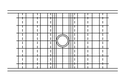
7．2　梁貫通孔の補強形式

表7.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

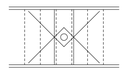
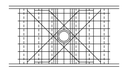
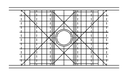
(注) --------- は，一般部分のあばら筋を示す。

表7.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13		

(注) --------- は，一般部分のあばら筋を示す。

表7.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

(注) --------- は，一般部分のあばら筋を示す。

7．3　コンクリートブロック帳壁との取合い

（1）控壁の配筋

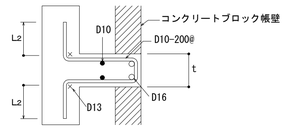


図7.3　控壁の配筋(水平，垂直とも)

（2）　帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

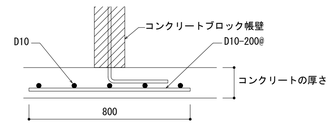


図7.4　壁付き土間コンクリートの補強配筋

明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版　2024.3.25
	05	配筋標準図（４）	見積版　2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

構造関係共通事項（鉄骨標準図）

1．1　縁端距離及びボルト間隔等

（1）縁端距離及びボルト間隔

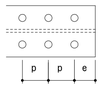
縁端距離及びボルト間隔は，表1.1による。

ただし，引張材の接合部分において，せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は，構造図による。構造図がなければ，ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また，アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位：mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

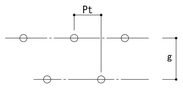


（2）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は，表1.2による。

表1.2　千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔　（単位：mm）

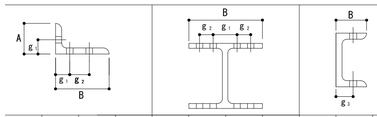
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔　Pt ねじの呼び M12,M16,M20,M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	―	40



（3）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は，表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位：mm）



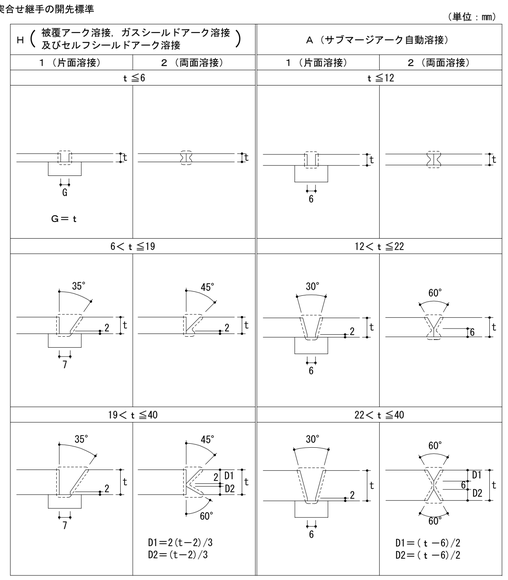
A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

1．2　溶接継手の種類別開先標準

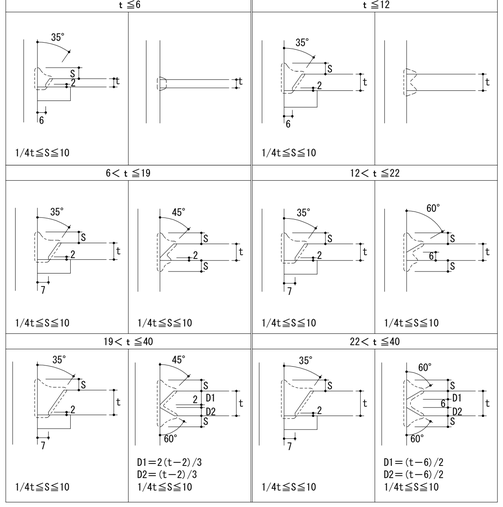
突合せ継手の開先標準

（単位：mm）



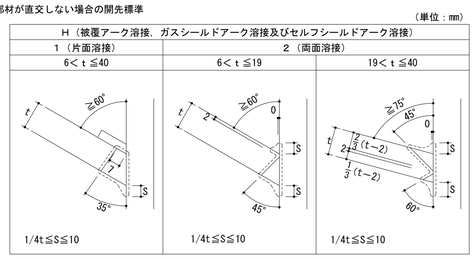
T型継手の開先標準

（単位：mm）



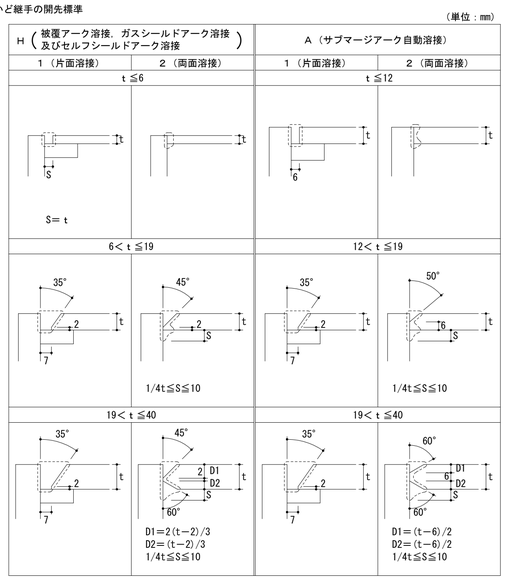
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）



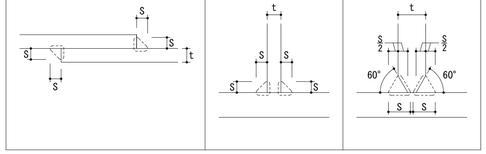
かど継手の開先標準

（単位：mm）



隅肉溶接の開先標準

（単位：mm）



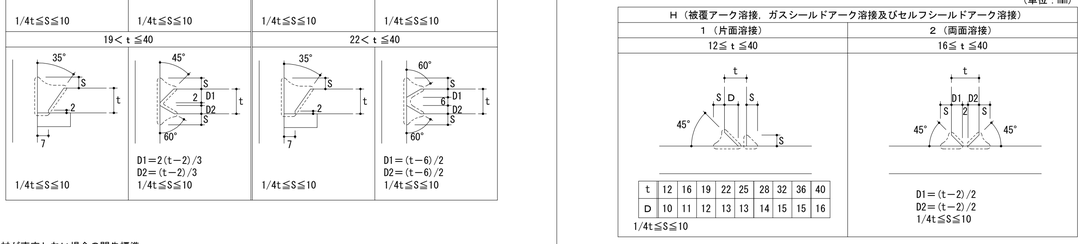
隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

（単位：mm）

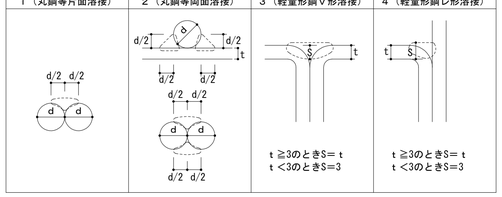


t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

1/4t≦S≦10

重ねアーク溶接（フレア溶接）の開先標準

（単位：mm）

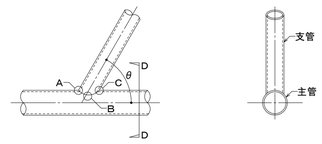


1．3　鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。　（単位：mm）

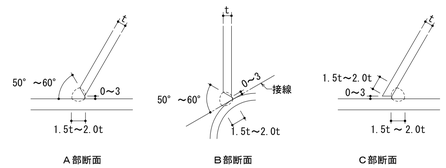
適用管厚　3.2mm≦t≦12mm

交角　30°≦θ≦150°



D－D断面図

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

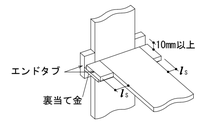


1．4　鉄骨溶接施工

（1）エンドタブ・裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は，母材と同等とする。

（2）エンドタブ

エンドタブの形状は母材と同厚，同開先のものとする。



エンドタブの長さ　（単位：mm）

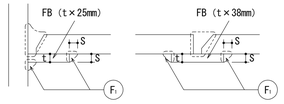
溶接方法	l_s
手　溶　接	35以上
半自動溶接	38以上
自 動 溶 接	70以上

（3）裏当て金

裏当て金の溶接

（ア）裏当て金の組立溶接は，接合部に影響を与えないように，エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い，梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

（イ）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接方法	t
手　溶　接	6以上
半自動溶接	9以上
自 動 溶 接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

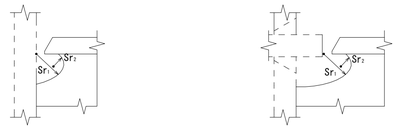
裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t>9	9

（4）スカラップ

改良型スカラップ

（ア）スカラップ半径 Sr_1 は35mmとする。Sr_2 は10mmとする。

（イ）スカラップ円弧の曲線は，フランジに滑らかに接するように加工し，複合円は滑らかに仕上げる。

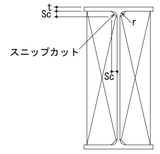


従来型スカラップ

スカラップ半径Srは35mmとする。

（5）スニップカット

（ア）スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



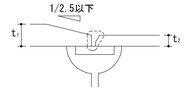
スニップカットの寸法　（単位：mm）

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

ただし，既製形鋼のスニップカットについては，Sc＝r+2により求めるものとする。

（6）溶接部分の段差

（ア）完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合又は低応力高サイクル疲労を受ける場合。



明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	06	鉄骨規準図（1）	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

（７）鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級炭素鋼 (STKR，BCR及び BCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11，15	40以下	350以下
		YGW-18，19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40以下	350以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G49A0U-CCJ G49A0U-NCC，NCCT等		
490N級炭素鋼 (STKR及び BCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11，15	30以下	250以下
		YGW-18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G49A0U-CCJ G49A0U-NCC，NCCT等		
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18，19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級炭素鋼 (STKR，BCR及び BCPに限る。)	JIS Z 3312	YGW-11，15	30以下	250以下
		YGW-18，19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N級炭素鋼 (STKR及び BCPに限る。)	JIS Z 3312	YGW-18，19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

１．５　重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は，ビートの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた長さとする。

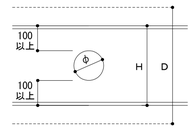
Ｌ：片面フレア溶接の場合　10d
　　両面フレア溶接の場合　5d

Ｌａ及びＬｂは1d（軽量形鋼については1S）以上
d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S：溶接のサイズ

１．６　梁貫通孔補強

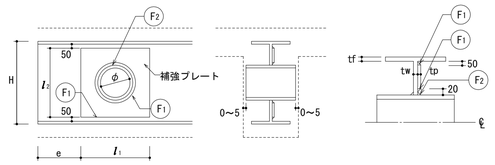
（１）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は，次による。
（ア）貫通孔の内径寸法は，鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリートの梁せいの1/3以下とする。
（イ）貫通孔間隔は，両側の貫通孔径の平均値の，鉄骨造で2倍以上，鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度　（単位：mm）



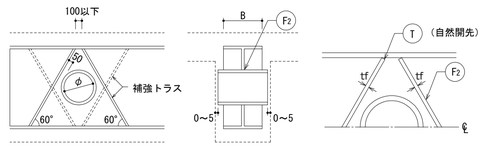
H：鉄骨せい
D：梁せい
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2，かつ，φ≦D/3）

（２）貫通孔の補強方法は，構造図による。
補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は，以下による。
補強プレート法
（ア）補強プレートが16mm以上となる場合は，必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
（イ）補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



l_1は３φ又は l_2のうち小さい方とする。　（e≧Hとする）
e：材端と補強プレートの間隔

補強トラス法
スリーブの取付けは，全周隅肉溶接とする。



１．７　その他

（１）広幅平鋼の取扱い
BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは，PL表記であっても FB又はPLとする。
（２）フィラープレートの材質
フィラープレートを使用する場合，材質はSS400とする。
（３）もや，胴縁類の取付け用ボルト
もや，胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は，二重ナットとする。

明石市政策局　企画・調整室
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号
南浦　琢磨
〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号
構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号
田中　智

明石市役所新庁舎建設工事

B	建築工事	最終版	2024. 3. 25
07	鉄骨規準図（２）	見積版	2024. 3. 25
	安井建築設計事務所	最終契約版	

20230220

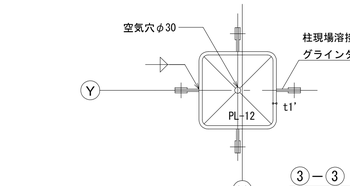
鉄骨規準図　（３）　［ＳＲＣ造］

仕口部の溶接　1:20

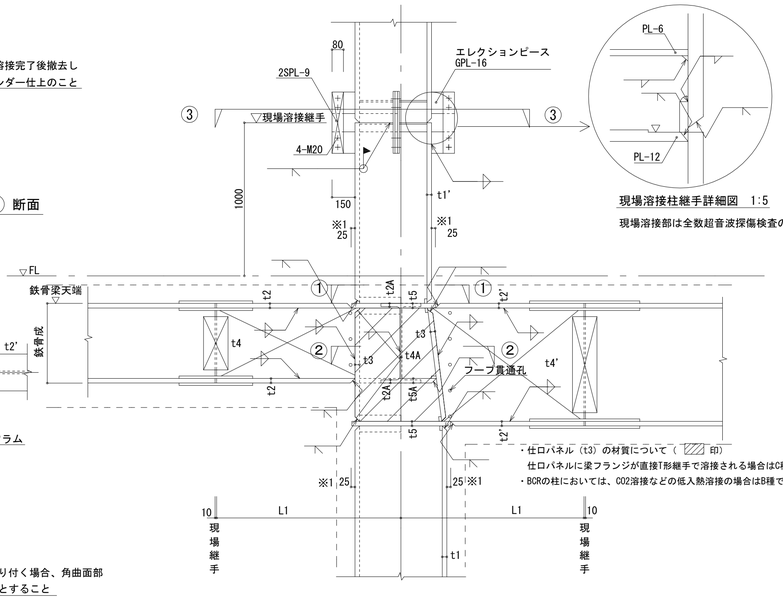
（注）・仕口部にはスカーラップを設けないことを原則とする。
・冷間成形角形鋼管の角部へのピースの取り付け要領は以下による。
１）柱梁接合部から1.5D（D:柱成）へは取り付けない。
２）ショートピードとなる溶接は避ける。

・柱梁仕口部の成は取付く大梁成の公差およびダイアフラムの笠折れ・溶接縮みなどを考慮して製作すること。

・施工者はエレクションピース・仮設ピースに関する安全性およびディテールを検討し、確認、決定した上で施工を行うこと。
その上で本規準と異なる場合は監理者に確認を得ること。



③－③　断面

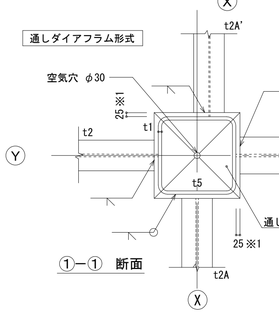


現場溶接柱継手詳細図　1:5

現場溶接部は全数超音波探傷検査のこと

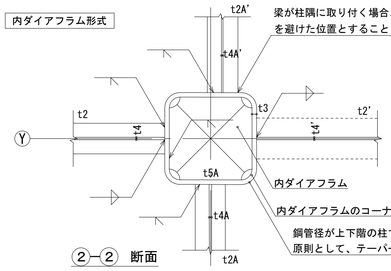
・仕口パネル（t3）の材質について（　　印）
仕口パネルに梁フランジが直接T形継手で溶接される場合はC種とする。
・BCRの柱においては、CO2溶接などの低入熱溶接の場合はB種でも可とする。

通しダイアフラム形式



①－①　断面

内ダイアフラム形式



②－②　断面

（X　梁フランジが、柱の曲げ加工面にかかる場合は
通しダイアフラム形式とする。）

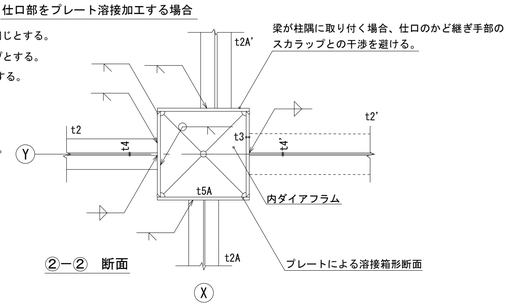
仕口部分　の　材質・板厚

ダイアフラム材質・強度　材質はC種とする。ただし、内ダイアフラムとなる場合はB種とする。強度は柱梁の鋼材のうち、最も高強度の材料と同じとする。
t5：通しダイアフラムに取り合う梁フランジ（t2，t2A，t2'，t2A'）のうち最大の板厚の2サイズ（6mm以上）アップとする。
t5A：内ダイアフラムに取り合う梁フランジ（t2，t2A，．．．．）のうち最大の板厚の2サイズ（6mm以上）アップとする。

仕口パネル部の材質・強度　上下の柱鋼管と同じB種とする。また、強度は上下柱と同強度以上のものを使用する。
ただし、仕口パネルに段違い梁のフランジが直接取り付く場合は、材種はC種とする。
t3：上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方とし、かつ、かつ寄り合う梁のウェブ板厚（t4，t4A，．．．．）以上とする。
ただし、仕口パネルを4面プレート加工により製作する場合の板厚は以下による。
1）柱鋼管がBCR材の場合は上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方の1サイズ以上とする。
2）柱鋼管がBCP材の場合は上下の柱鋼管厚（t1，t1'）の厚い方の2サイズ以上とする。

（注）　※1.　通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とし、角形鋼管厚が28mm以上の場合は30mmとする。
※2.　上下の柱鋼管径が異なる場合は原則として大臣認定取得したテーパー管（大臣認定品）を用いること。
※3.　ダイアフラム、仕ロパネル共に板厚が40mmを超える場合はTMCP鋼（大臣認定品）を用いること。

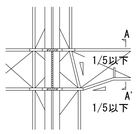
仕口部をプレート溶接加工する場合



②－②　断面

梁ハンチ要領

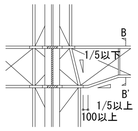
・梁に鉛直ハンチを設ける場合は、下図に示すようなリブプレートを設ける。
リブプレートは梁ウェブと同厚・同材質とする。



A-A'　断面

Sc：スニップカットの寸法
既製RH形鋼のスニップカット寸法は
Sc＝r（フィレット部半径）+2mmとする。
溶接BH形鋼のスニップカット寸法は下表による。

ウェブ板厚　tw	6	9	12	16以上
スニップカット Sc	10	12	14	15



B-B'　断面

鉛直ハンチ1/5以上の場合
リブプレート形状は上図による。

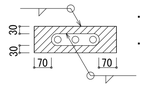
鉄筋貫通孔

・鉄筋貫通孔位置は、工作図作成の上、監理者の承認を得ること。

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
孔径	21.0φ	24.0φ	28.0φ	31.0φ	35.0φ	38.0φ	43.0φ	46.0φ

埋込み柱脚ウェブの梁主筋貫通補強要領

・貫通鉄筋が水平に3個以上並ぶ場合、下記の補強をする。

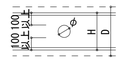


・補強プレートは柱ウェブと同厚・同材質とする。
・補強プレートが16mm以上となる場合は、
必要な厚さの1/2以上の補強プレートを柱
ウェブの両面に溶接する。

梁貫通孔の補強

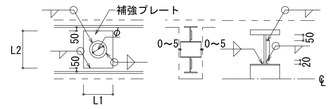
1. 梁貫通孔の限度
・梁貫通孔の内径寸法は、鉄骨成Hの0.45倍以下　かつ　鉄筋コンクリート部分の梁成Dの1/3以下とする。

梁貫通孔の位置及び大きさ
H：鉄骨成
D：鉄筋コンクリート部分の梁成
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2かつφ≦D/3）



・スリーブピッチは、隣り合うスリーブ平均の3倍以上とする。
・梁端に貫通孔を設ける場合、原則として梁端部から貫通孔の中心まで1.5D以上、内部の鉄骨せいの2.0H以上離すこと。
・梁継手部のウェブスプライスプレート端部より1.0H以上離すこと。

2. 梁貫通孔の補強要領
・梁貫通孔の補強方法は、補強プレート法とする。また、補強プレートの他に補強鋼管スリーブを溶接する。
・原則として、「1.梁貫通孔の限度」以内にあるφ≦H/5かつφ≦100の貫通孔は補強プレートは不要とし、補強鋼管スリーブのみ溶接する。



・鉄筋コンクリート部分の補強要領は、「鉄筋コンクリート配筋規準図（２）」による。

(1)　補強プレートは、梁ウェブと同厚、同材質とし、補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1/2以上の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
(2)　L1は3φまたは、L2の小さい方とする。
(3)　L2は3φまたは図示寸法のうち小さい方とする。
(4)　補強鋼管スリーブは下表による。
(5)　小梁ガセットや補強プレート同士が干渉する場合、監督職員の指示による。

貫通孔φ	補強鋼管スリーブ（STK400）
100	φ-101.6×3.2
125	φ-139.8×3.6
150	φ-165.2×4.5
175	φ-190.7×4.5
200	φ-216.3×4.5
250	φ-267.4×6.0
300	φ-318.5×7.0
350	φ-355.6×8.0
400	φ-406.4×9.0
450	φ-457.2×9.0

ＳＲＣ造の配筋要領

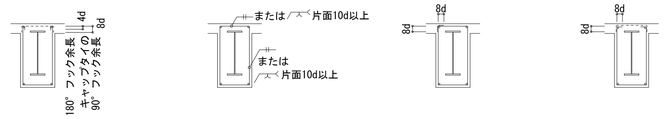
（注）SRC造の配筋要領として「鉄筋コンクリート配筋規準図」以外に下図による。

1. 大梁のあばら筋

原則として「鉄筋コンクリート配筋規準図（1）、3.梁・あばら筋」によるが、下図によってもよい。

(1) 柱コンクリート面より　Max（1.5D,2.0H）までの範囲は
(a) または (b) によってもよい。

(2) 柱コンクリート面より　Max（1.5D,2.0H）以外の範囲は
(c) または (d) によってもよい。



(a) 180°フックU字形
キャップタイ付

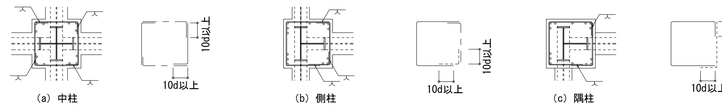
(b) 溶接形

(c) 90°フック閉鎖形

(d) 90°フックU字形
キャップタイ付

2. 柱梁接合部の帯筋

柱梁接合部の帯筋は割フープとして、片側10d以上のフレア溶接とする。
（注）梁の取付かない側には原則として溶接継手箇所を設けないこと。

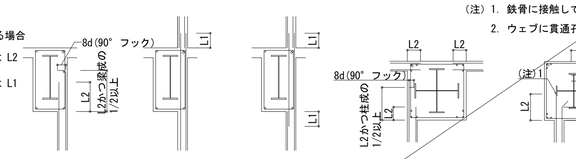


(a) 中柱　(b) 側柱　(c) 隅柱

3. 壁筋の定着

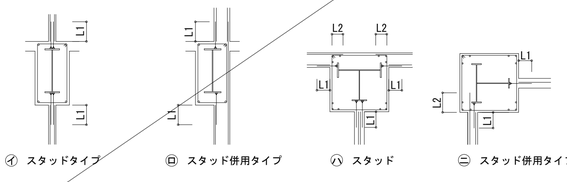
(1) コンクリート断面に定着する場合
柱または梁内へ定着する場合は L2
壁内で重ね継手を設ける場合は L1
とする。

(注) 1. 鉄骨に接触してもよい
2. ウェブに貫通孔を設ける



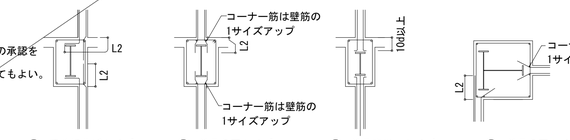
㋑ 定着長さの取り方（梁）　㋺ 通し筋タイプ　㋩ ジョイント筋の使用　㋥ 定着長さの取り方（柱）　㋭ 一般定着

(2) 鉄骨に接合する場合
壁筋と鉄骨フランジとが干渉する場合（壁筋の直線部分定着長さが15d確保できない場合）は、右図のように鉄筋工事用スタッドを鉄骨フランジにスタッド溶接の上、重ね継手（L1）とする。スタッドは干渉する壁筋と同材種で同径・同ピッチとする。



㋑ スタッドタイプ　㋺ スタッド併用タイプ　㋩ スタッド　㋥ スタッド併用タイプ

(3) その他
非耐力壁などにおいて、監理者の承認を得た場合は右図の定着を採用してもよい。



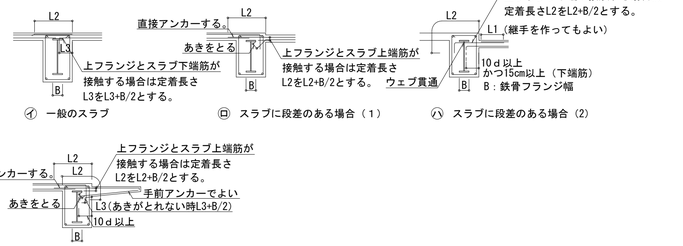
㋑ 手前折曲げタイプ　㋺ 鉄骨う回タイプ　㋩ 鉄骨突当てタイプ　㋥ 鉄骨う回タイプ

4. 小梁筋の定着

㋑ 不連続端（フランジ側面と梁筋のあきaが必要）

㋺ 連続端（連梁の下端筋は手前アンカーでもよい）

5. スラブ筋の定着



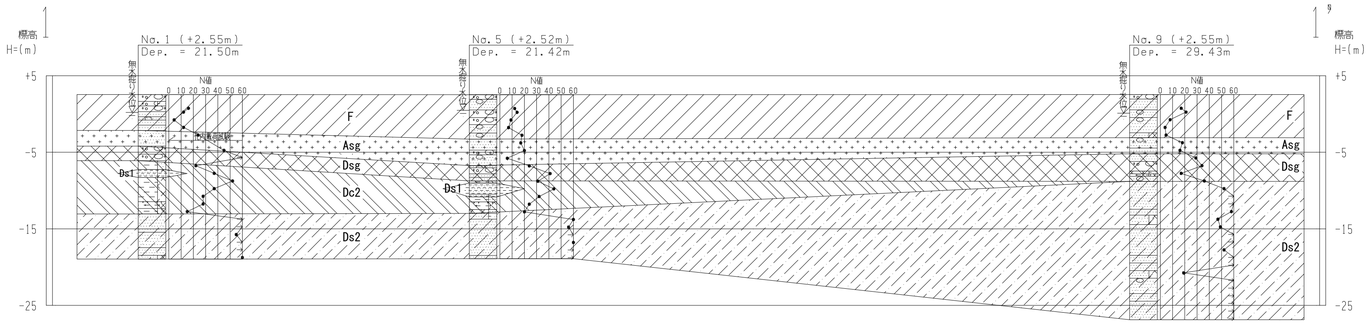
㋑ 一般のスラブ　㋺ スラブに段差のある場合（１）　㋩ スラブに段差のある場合（2）

㋥ 片持スラブ（段差のある場合）

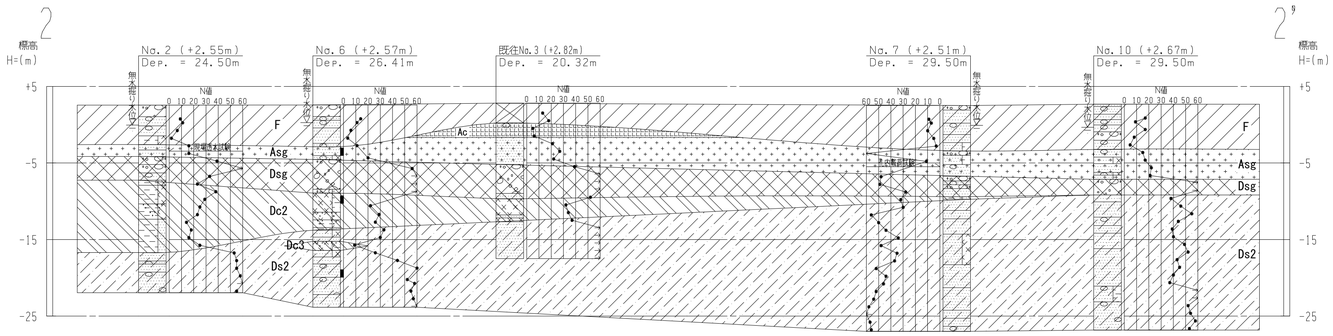
（注）スラブ筋が鉄骨フランジと接触したり、コンクリート充てん性に懸念のある箇所で定着する場合は、
鉄筋の付着性能が劣るため、上記のように定着長さを変更すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	B	建築工事	最終版　2024.3.25
	08	鉄骨規準図（３）	見積版　2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

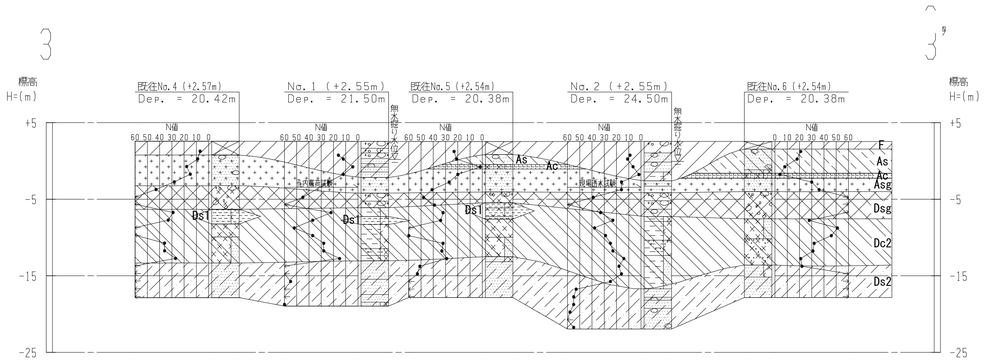
20230220



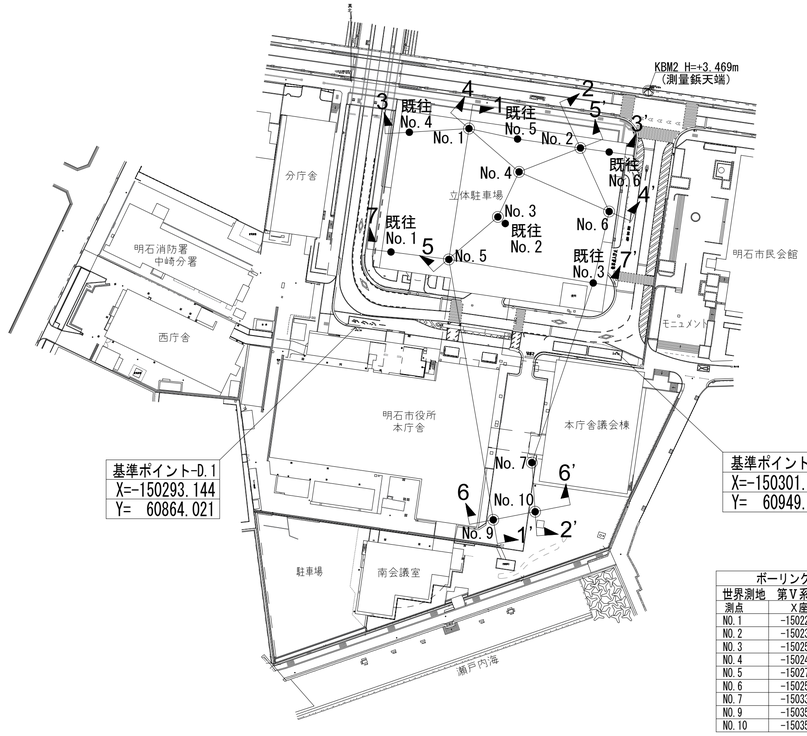
推定地層断面図（1−1’断面図）　1:400



推定地層断面図（2−2’断面図）　1:400



推定地層断面図（3−3’断面図）　1:400



調査位置図　1:1000

ボーリング調査点座標一覧表

世界測地 第Ⅴ系		
測点	X座標	Y座標
NO.1	-150228.040	60901.175
NO.2	-150234.377	60937.558
NO.3	-150256.887	60910.614
NO.4	-150242.182	60917.529
NO.5	-150270.768	60894.609
NO.6	-150255.116	60946.933
NO.7	-150337.097	60921.706
NO.9	-150355.780	60909.104
NO.10	-150353.147	60922.789

凡　例

◉ 今回調査位置

● 既往調査位置

土層分類表

地質時代		地層区分	土層区分	記号
新生代第四紀	現世	埋土	埋土	F
	完新世	沖積層	礫質土層	As
			粘性土層	Ac
			砂・礫質土層	Asg
	更新世	洪積層	砂・砂質　土層	Dsg
			第2粘性　土層	Dc2
			第1砂質　土層	Ds1
			第2砂質　土層	Ds2
			第3粘性　土層	Dc3
			第2礫質　土層	Dg2
			第5粘性　土層	Dc5

明石市政策局 企画・調整室

〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号
南浦 琢磨

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号
田中 智

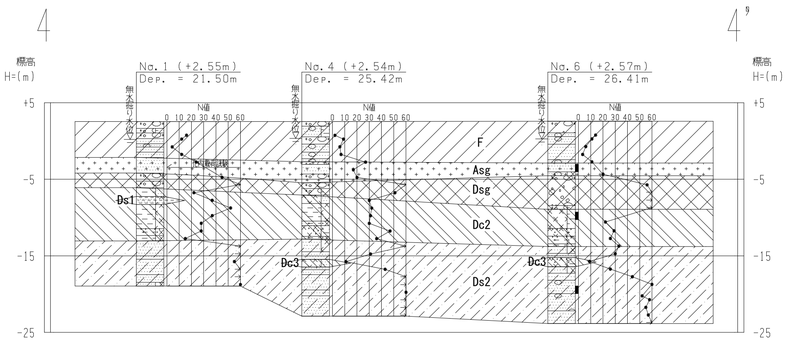
明石市役所新庁舎建設工事

B　建築工事　最終版　2024. 3. 25

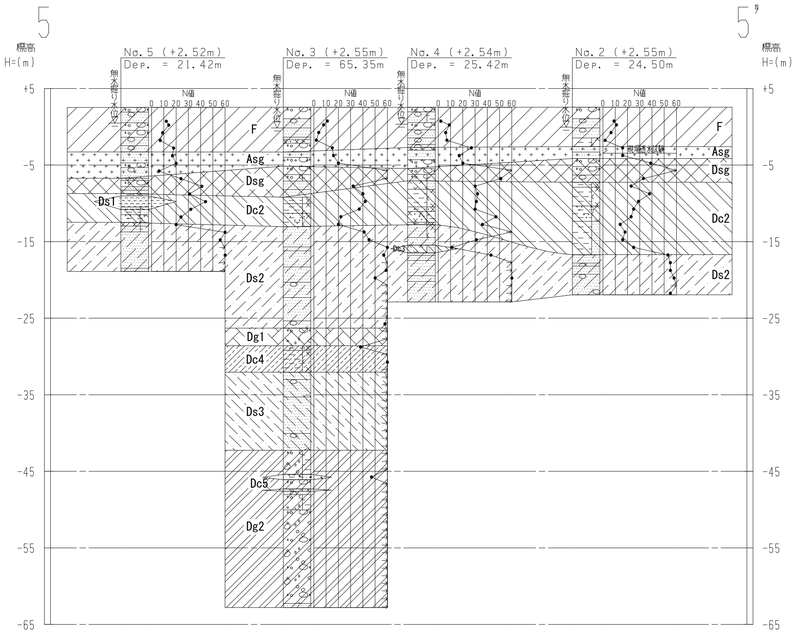
09　調査位置図・地層断面図（1）　1:400, 1000　見積版　2024. 3. 25

安井建築設計事務所　最終契約版

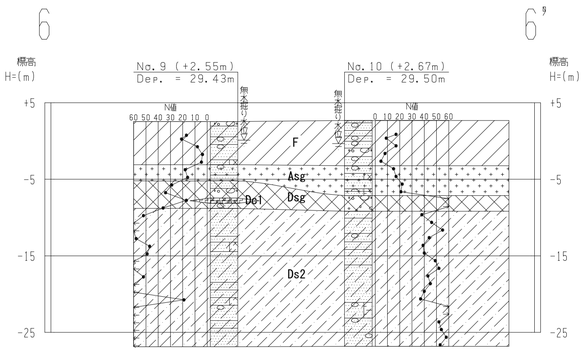
20230220



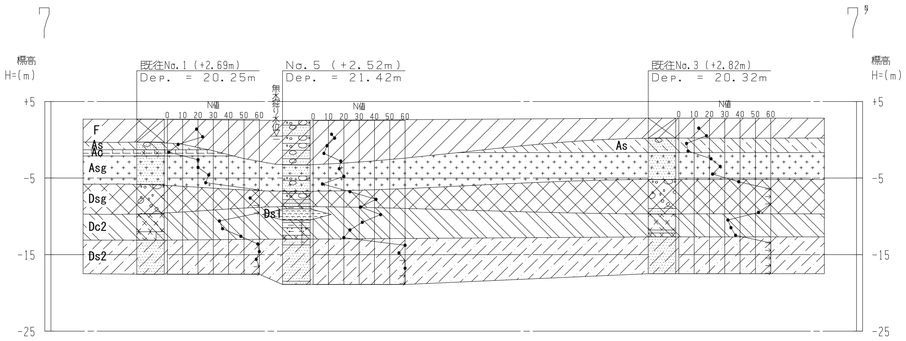
推定地層断面図（4−4'断面図）　1:400



推定地層断面図（5−5'断面図）　1:400



推定地層断面図（6−6'断面図）　1:400



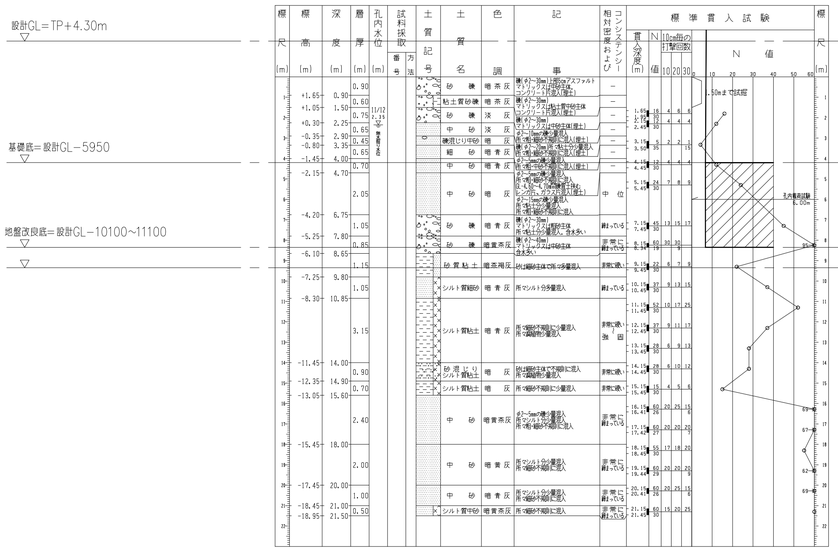
推定地層断面図（7−7'断面図）　1:400

土層分類表

地質時代		地層区分	土層区分	記号
新生代第四紀	現世	埋土	埋土	F
	完新世	沖積層	礫質土層	As
			粘性土層	Ac
			砂・礫質土層	Asg
	更新世	洪積層	砂・砂質　土層	Dsg
			第1粘性土層	Dc1
			第2粘性　土層	Dc2
			第1砂質　土層	Ds1
			第2砂質　土層	Ds2
			第3粘性　土層	Dc3
			第1礫質　土層	Dg1
			第4粘性　土層	Dc4
			第3砂質　土層	Ds3
			第2礫質　土層	Dg2
			第5粘性　土層	Dc5

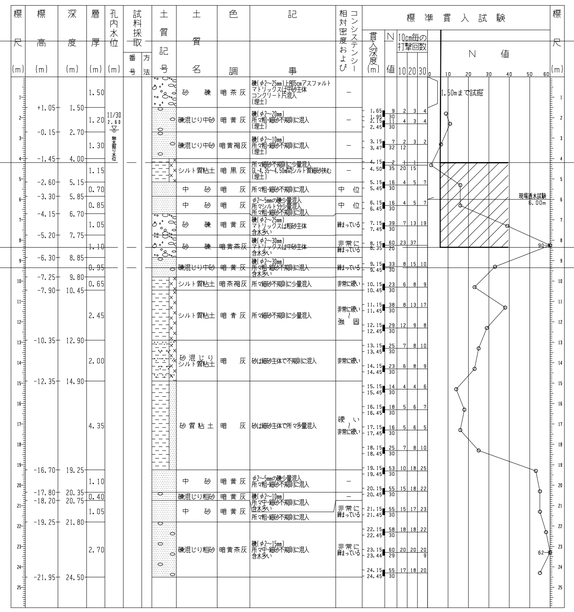
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	10	地層断面図（2） 1:400,1000	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



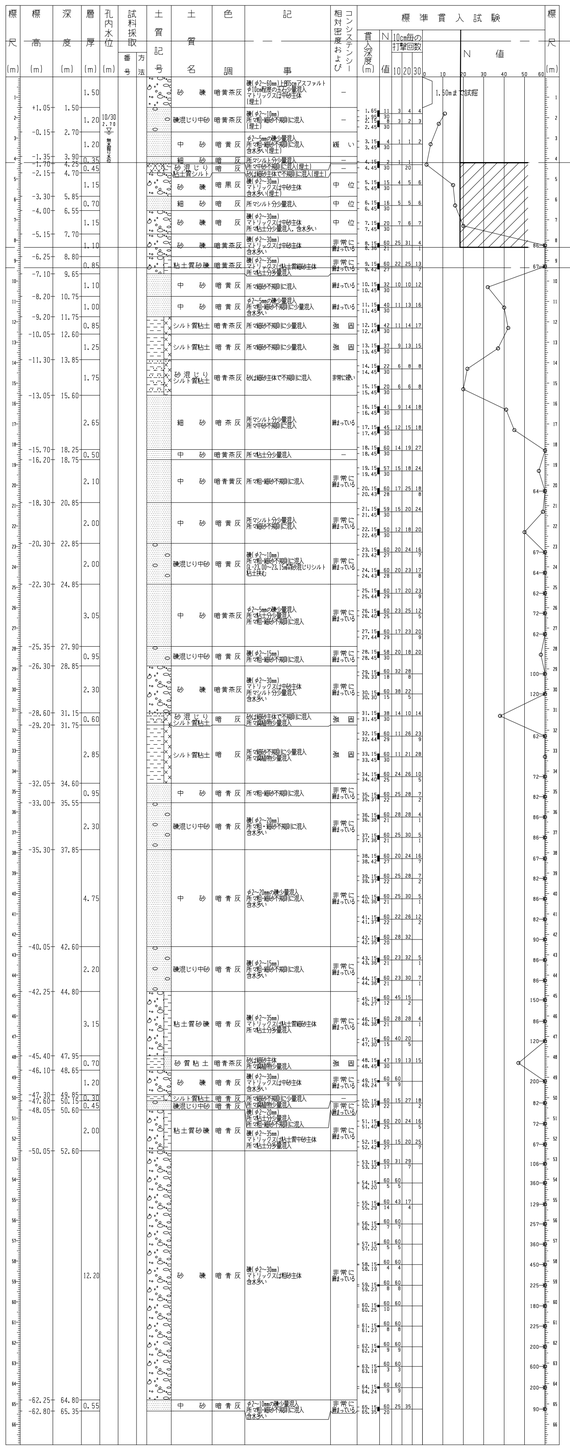
ボーリング柱状図NO.1　1:150

孔口標高 TP＋2.55m



ボーリング柱状図NO.2　1:150

孔口標高 TP＋2.55m

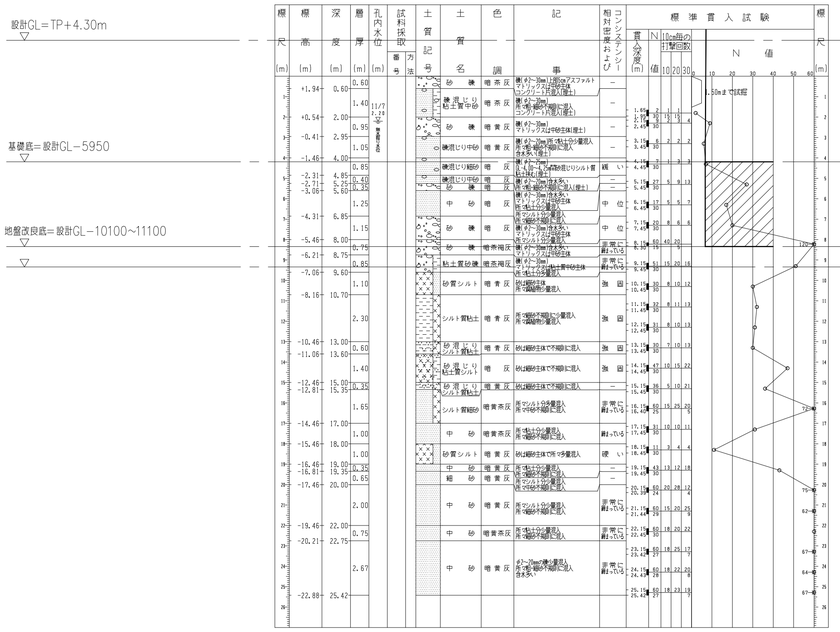


ボーリング柱状図NO.3　1:150

孔口標高 TP＋2.55m

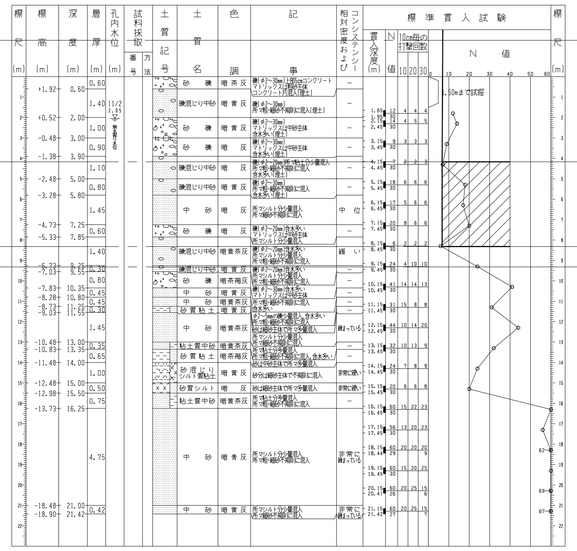
明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	B	建築工事	最終版　2024. 3. 25
	11	土質柱状図（1）　1:200	見積版　2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



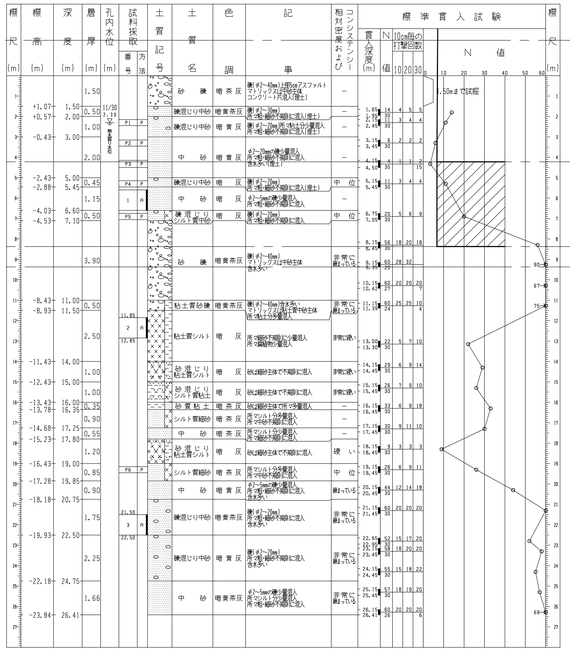
ボーリング柱状図NO.4　1:150

孔口標高 TP+2.54m



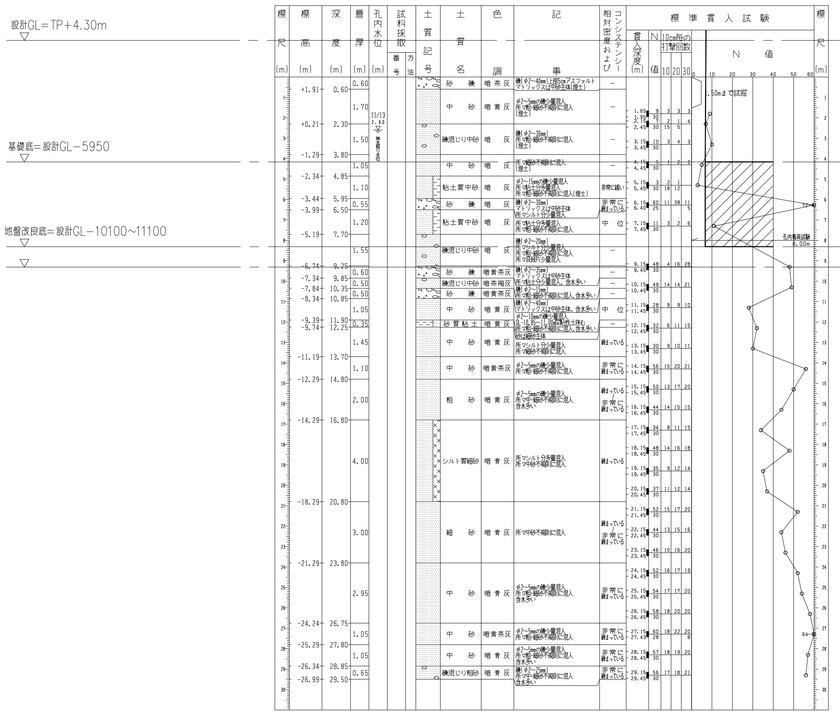
ボーリング柱状図NO.5　1:150

孔口標高 TP+2.52m



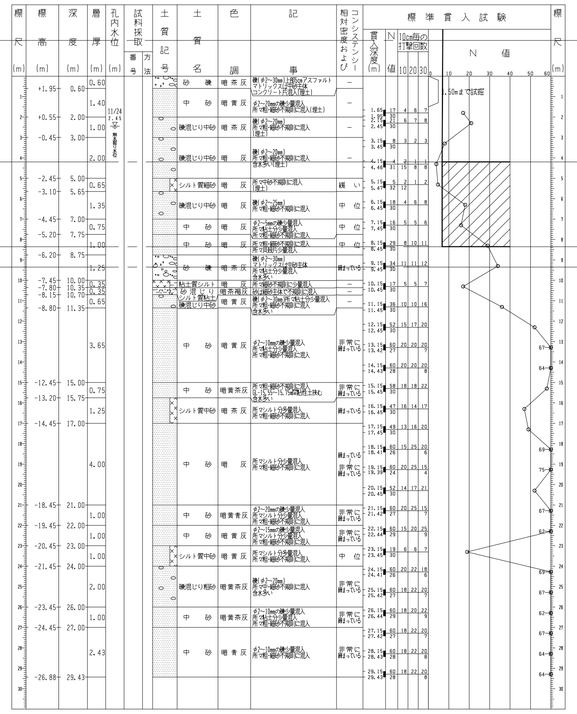
ボーリング柱状図NO.6　1:150

孔口標高 TP+2.57m



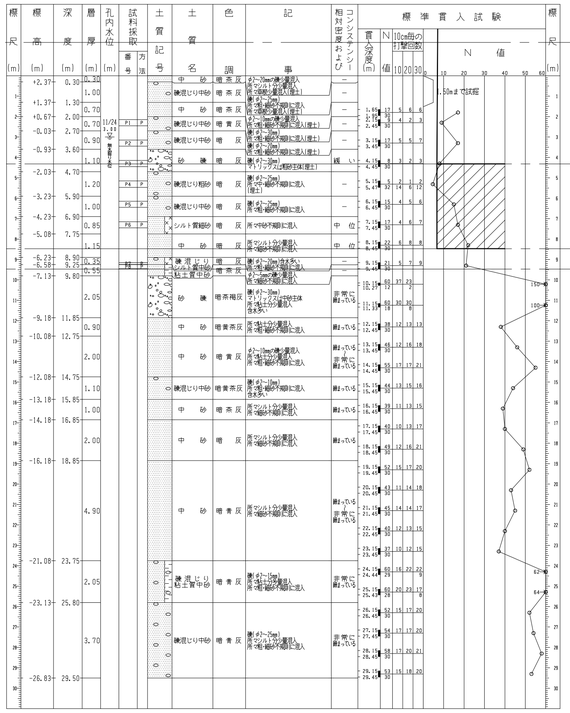
ボーリング柱状図NO.7　1:150

孔口標高 TP+2.51m



ボーリング柱状図NO.9　1:150

孔口標高 TP+2.55m

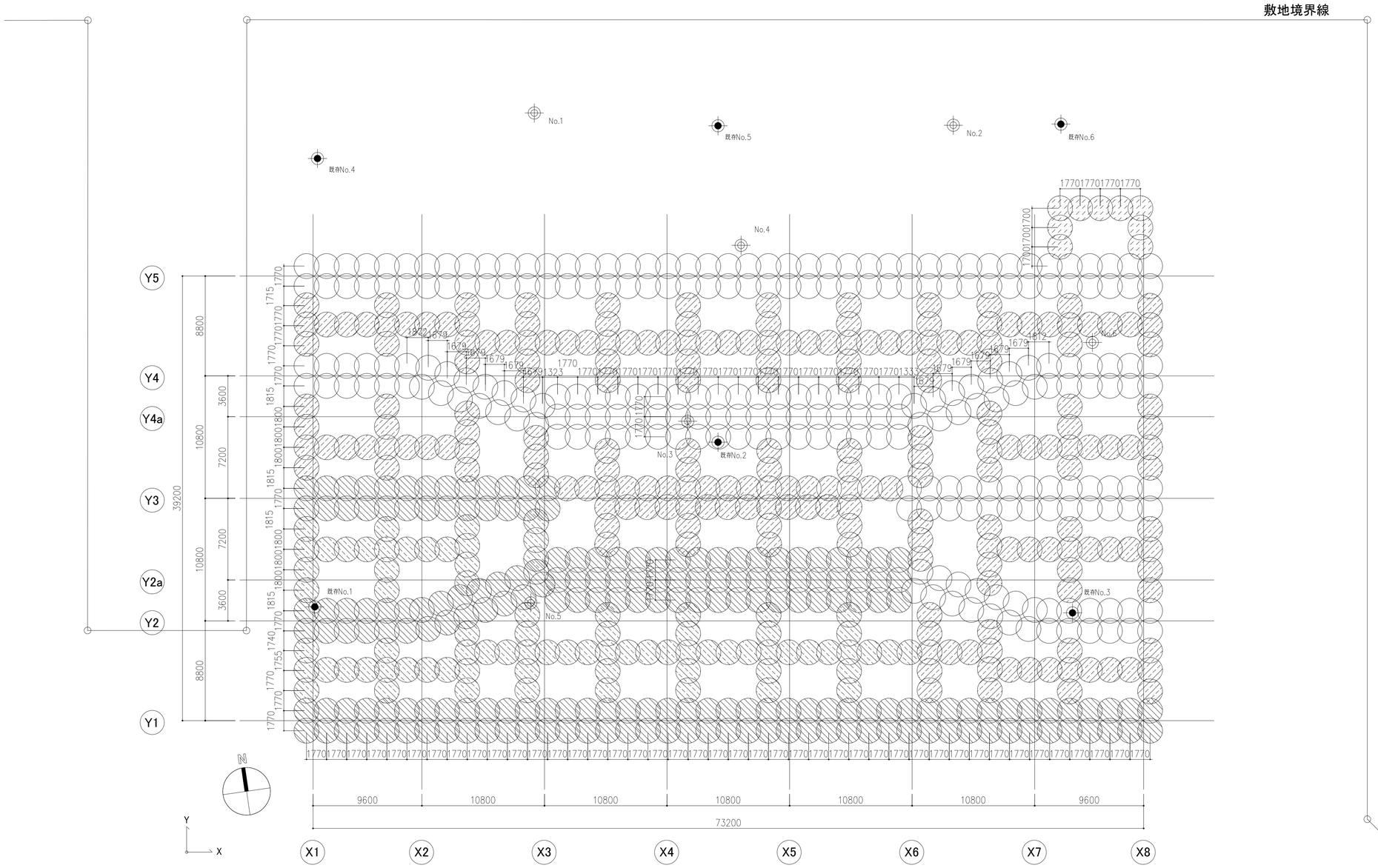


ボーリング柱状図NO.10　1:150

孔口標高 TP+2.67m

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	12	土質柱状図 (2) 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



地盤改良（深層混合処理工法）地業工事特記仕様書

1．工法概要

本地業は、スラリー状の固化材を地盤に注入しながら供回り防止装置を装着した攪はん装置を用いて原地盤と機械的に混合攪はんし、固化材の化学反応により所要の強度を有する改良体を築造するものである。

2．一般事項

(1) 本仕様書に特記のない事項は、公共建築工事標準仕様書（平成31年版）によるほか、「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター」2018年版（以下、センター指針）による。

3．固化材の配合及び使用量

(1) 改良体の設計基準強度　Fc= 1600 kN/m2　以上

(2) 掘削深度（改良長＋空掘長）は図示により、改良率 68.3 %程度とする。

(3) 固化材は、セメント系固化材としメーカーの仕様によるものとする。

(4) 固化材スラリーの配合　設計用固化材添加量　C0= 300 kg/m3

設計用スラリー濃度　W/C= 100 %

(5) 施工に先立ち室内配合試験計画書及び施工計画書を作成する。計画書に基づき当試地盤土を採取し、室内配合試験を行った結果により上記配合を決定する。尚、配合試験に使用する固化材は、セメント系固化材とする。

また、供試体材齢は7日及び28日とする。

(6) 特殊な地盤や施工実績の少ない施工機械・施工方法を使用する場合は、試験施工を行ない、その施工性の調査、改良体の強度等の確認をする。

(7) 施工について疑義が生じた場合は、直ちに監理者・設計者と協議する。

4．品質管理

(1) 支持層は攪はん装置の電流計の値や攪はん能率などの施工データを確認する。

(2) 本工事施工終了後にコア抜き供試体を採取し、 JIS A 1216 による一軸圧縮試験（材齢28日）及び六価クロム溶出試験を実施する。

① コア抜き供試体の採取方法は改良コラム100本を1単位（端数切り上げ）として、1単位毎に1個所とする。

② コア抜き供試体の本数は、採取位置毎に3体とし、採取位置はコラム頭部及び想定地質毎に深さ方向のコア抜きを行なう。（地層・深度については、下表による。）

採取番号	深度	地層	備考
1	設計GL−6.0~10.0m	埋土、砂層	各深度よりまんべんなく採取する

③ 一軸圧縮強さが「センター指針」2編　6章　6.2検査方法　検査手法Aを満たす事を確認する。

(3) 六価クロム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム」溶出試験実施要領（案）」を適用する。

(4) コア抜き後の穴埋めは、設計基準強度以上の改良土等により行なう。

5．報告書

工事完了後、次の項目についてまとめ監理者に提出し、確認を受ける。

(1) 施工日、時間、混合状況及び締め固め状況

(2) 改良範囲、改良厚さ、仕上がり厚さ

(3) 固化材の配合と固化材使用量

(4) コアの強度試験結果・支持層確認結果・六価クロム溶出試験結果

(5) 工事写真

(6) その他施工報告（監理者・設計者からの指示等）

基礎伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

・道路境界線、隣地境界線、建物位置 は意匠図による。

・KBM1＝T.P.+3.634 とする。KBMの位置は　意匠図　による。

・設計GL＝T.P.+4.3 (KBM1+0.666) とする。

・基礎底 は 設計GL−5950 とする。

・フーチング芯＝通芯 とする。

・支持層 は 砂レキ層（深層地盤改良底） とする。

・長期設計地耐力 は 400kN/m2 とする。

・建設に障害となる埋設物の存在が確認された場合、設計変更その他について別途協議を行うこと。

・支持層を乱さないよう掘削を行うこと。支持層を乱した場合、支持層と認められる位置まで地盤改良を行うものとする。

・ ◈ 印は今回ボーリング調査位置（No.1~No.6）を示す。

・ ◈ 印は既存ボーリング調査位置（No.1~No.6）を示す。

（明石市庁舎新築敷地地質調査報告書　昭和43年8月21日~10月4日）

地盤改良仕様

共通事項（特記なき限り）

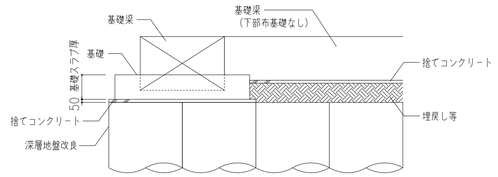
・施工地盤面~改良天端まで空堀とする。

・セメント系固化剤を使用する場合は、六価クロムの溶出について試験を行うこと。

・液状化抑止の改良部分は躯体下に埋戻し等を設け、改良体と躯体の縁を切ること。

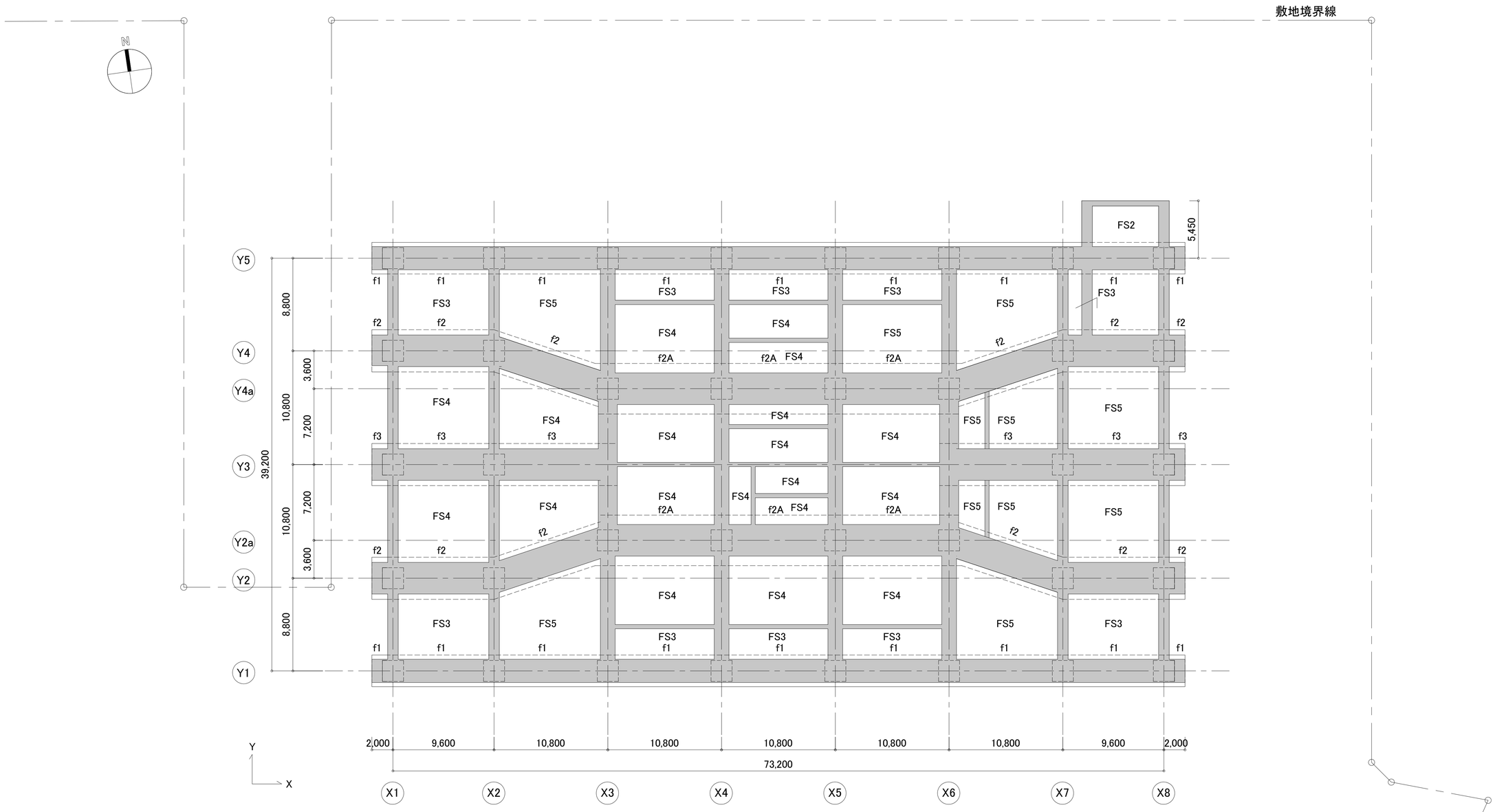
・地盤改良仕様

記号	改良径	改良天端	改良下端	本数	備考
○	2200φ	設計GL−6000	設計GL−10100	244	布基礎下改良
▨	2200φ	設計GL−6000	設計GL−11100	192	布基礎下改良
▨	2200φ	設計GL−5700	設計GL−10100	9	基礎梁下改良
▨	2200φ	設計GL−6000	設計GL−10100	213	液状化抑止改良
▨	2200φ	設計GL−6000	設計GL−11100	79	液状化抑止改良



明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	13	地盤改良伏図 A1 1:200 A3 1:400	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



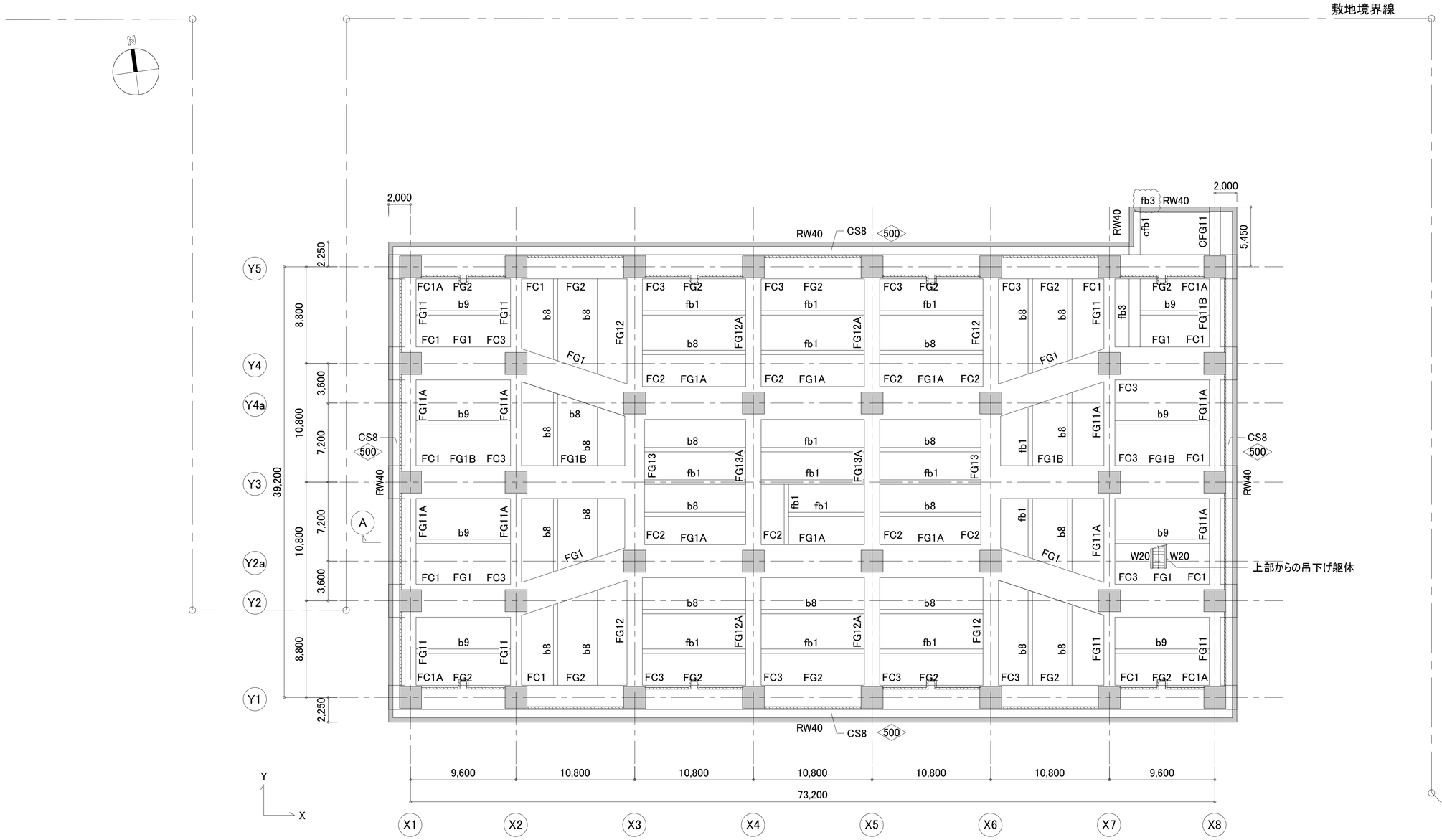
基礎・ピット伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

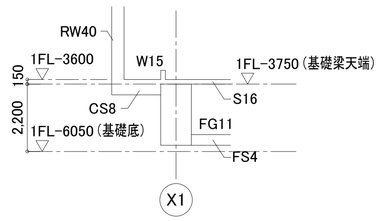
- 設計GLは T.P.+4.3m とする。
- 底版下端は 設計GL−5650 とする。
- 基礎底は 設計GL−5950 とする。
- フーチング芯＝通り芯 とする。
- ⊠ 印は釜場を示し、サイズは意匠図による。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	14	基礎・ピット伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

202230220



免震層伏図　1:200



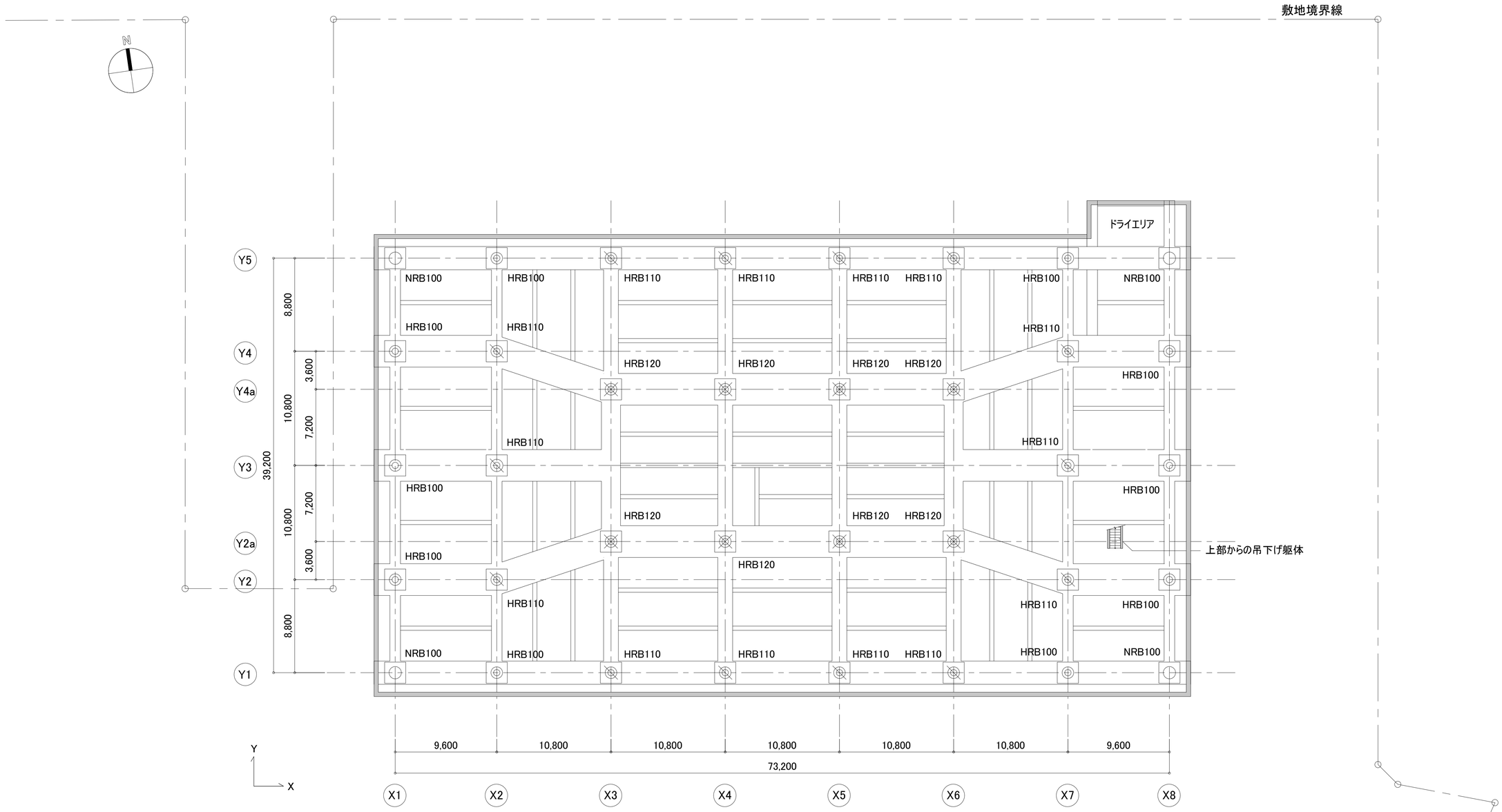
A　断面図　1:100

共通事項（特記なき限り）

- 梁天端は 1FL-3750 , スラブ天端は 1FL-3600 とする。
- スラブは S16 とする。
- ▨ 印は釜場を示し、サイズは意匠図による。
- ▨ 印部分は W15 を示す。
- 免震材料基礎芯＝通り芯とする。
- 厚み70mm以上の増し打ち部にはひび割れ防止筋D10@200タテヨコを見込むこと。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 1:100	最終版 2024. 3. 25
	15	免震層伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



NRB：天然ゴム系積層ゴム支承

記号	符 号	ゴム径	基 数
◯	NRB100	1000φ	4
計			4

HRB：高減衰ゴム系ゴム支承

記号	符 号	ゴム径	基 数
◎	HRB100	1000φ	10
⊘	HRB110	1100φ	14
⊗	HRB120	1200φ	8
計			32

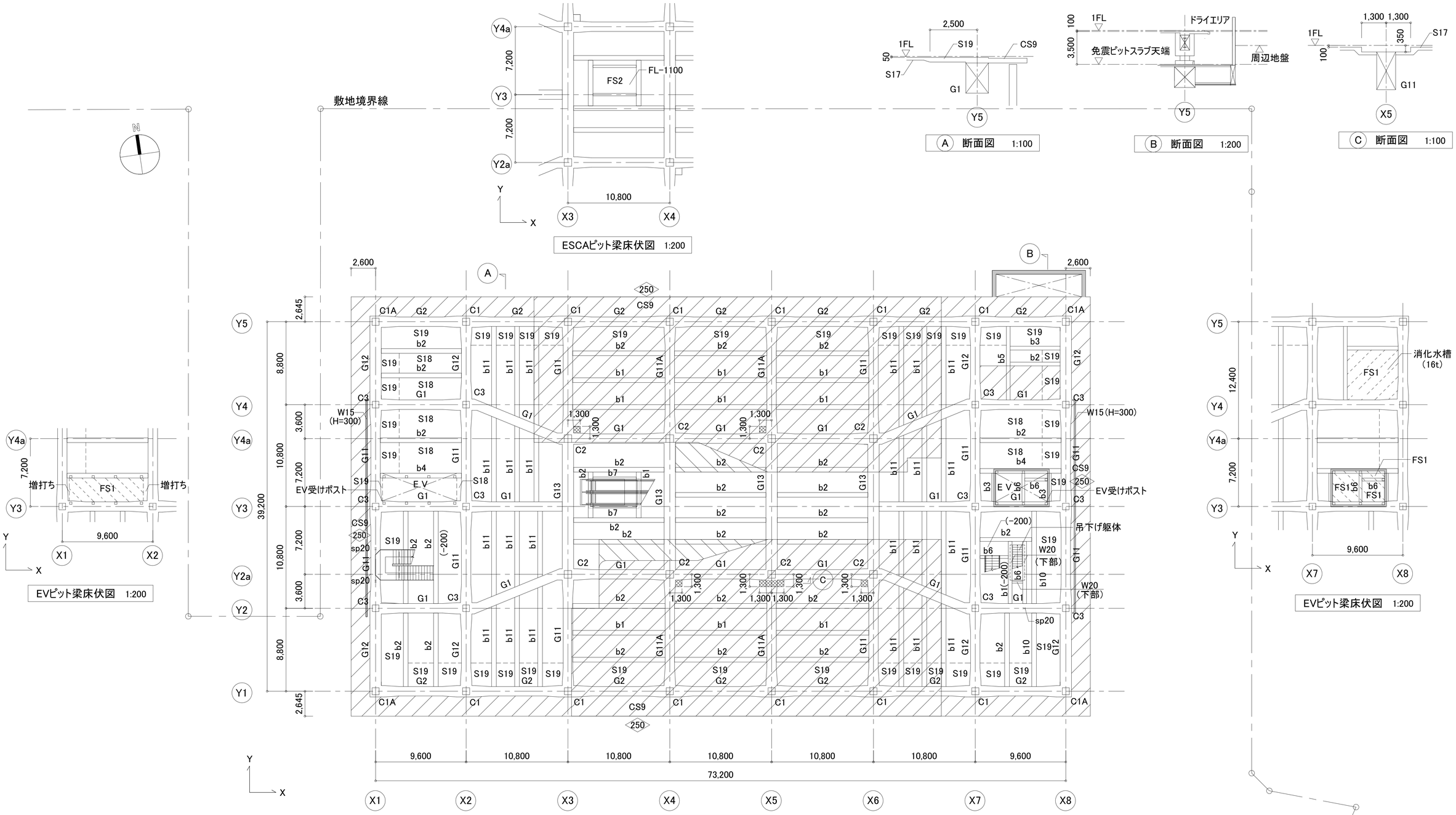
免震材料配置図 1:200

共通事項（特記なき限り）

◦ 免震材料芯 = 通り芯 とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	16	免震材料配置図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

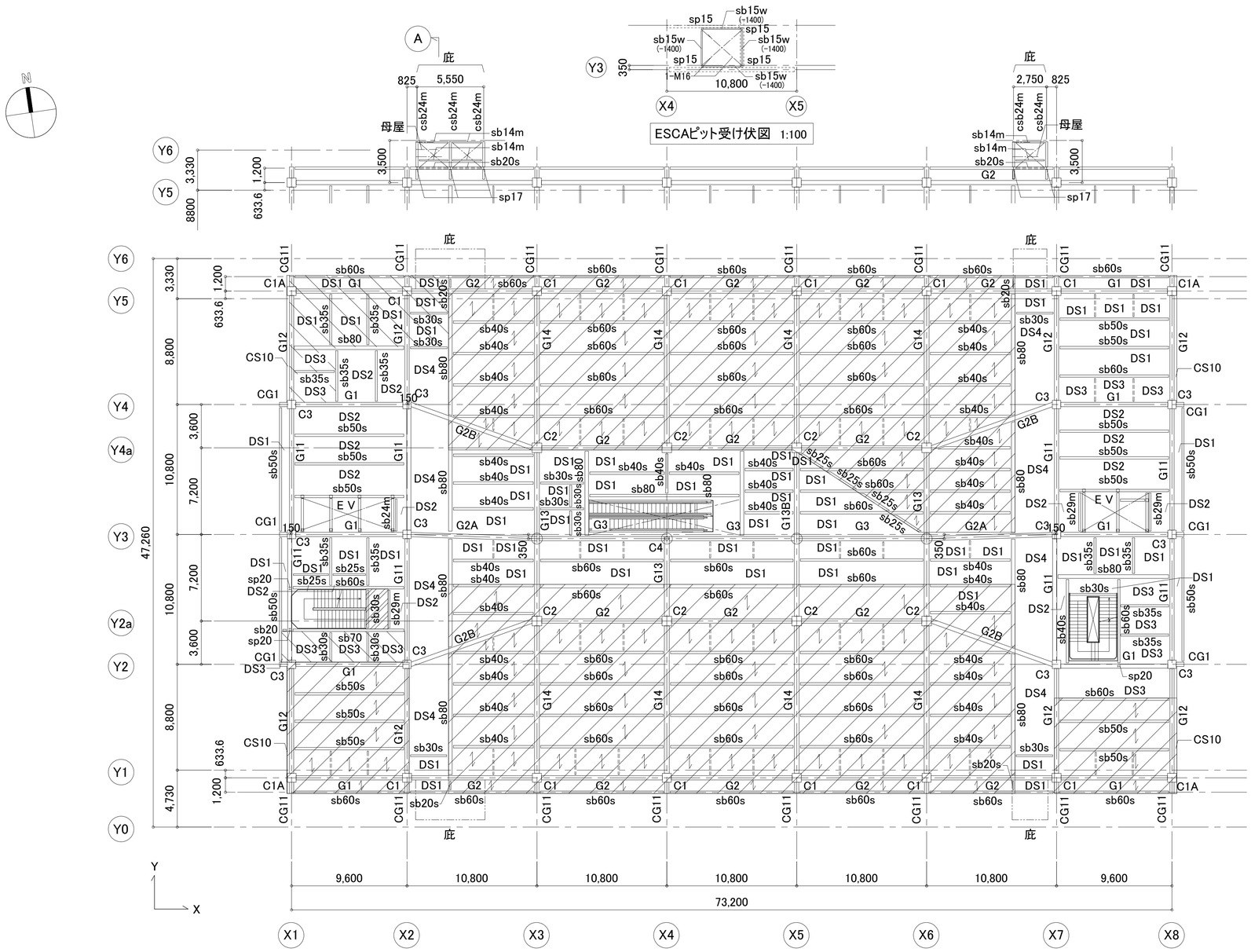


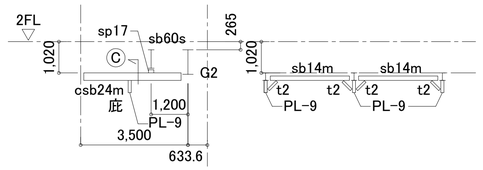
共通事項(特記なき限り)

- 1FL= 設計GL+100 とする。
- 設計GLは T.P.+4.3m とする。
- 大梁天端は FL-350 とする。
- 小梁天端、スラブ天端は FL-50 とする。
- スラブ符号は S17 とする。
- スラブ厚は 150mm とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分のスラブ天端は FL-300 とする。
- 印部分は スラブ上部打増し (ア)50 とする。
- 印部分のスラブ天端は FL-1850 とする。
- 印部分のスラブ天端は FL-1400 とする。

- (　　) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁上(下)打増しを行うものとする。
- FS1 スラブ天端は 1FL-1400 とする。
- FS2 スラブ天端は 1FL-1100 とする。
- EV受ポストは sp25 とする。

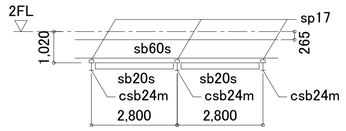
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 1:100	最終版 2024. 3. 25
	17	1階梁床伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版





Ⓐ 断面図 1:100

Ⓒ 断面図 1:100



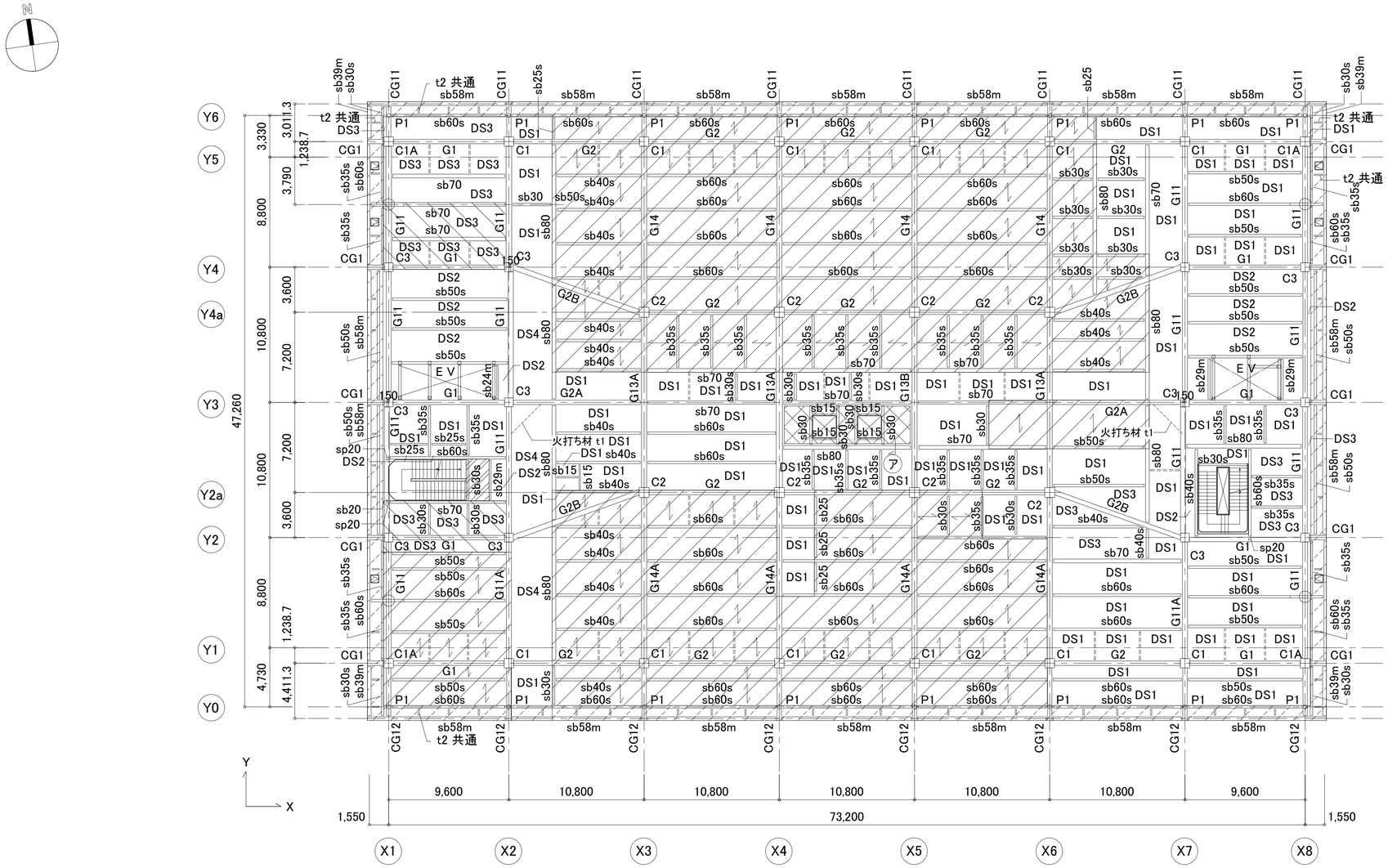
Ⓑ 断面図 1:100

共通事項(特記なき限り)

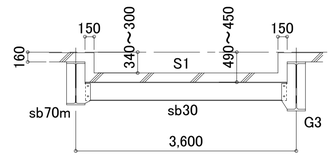
- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40とする。
- スラブ符号は DS11 とする。
- (　　) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ---- 印は 大梁座屈止めt1 を示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- 庇梁天端は 2FL-1020 とする。
- 庇水平ブレースは HV16(1-M16ターンバックル) とする。
- 庇母屋は C-100x50x20x2.3@600 とする。
- エスカレーター脱落防止　上部架構の層間変形角は 1/200以内とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 1:100	最終版 2024. 3. 25
	18	2階梁床伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



3 階 梁床伏図 1:200



ア 断面詳細図 1:50

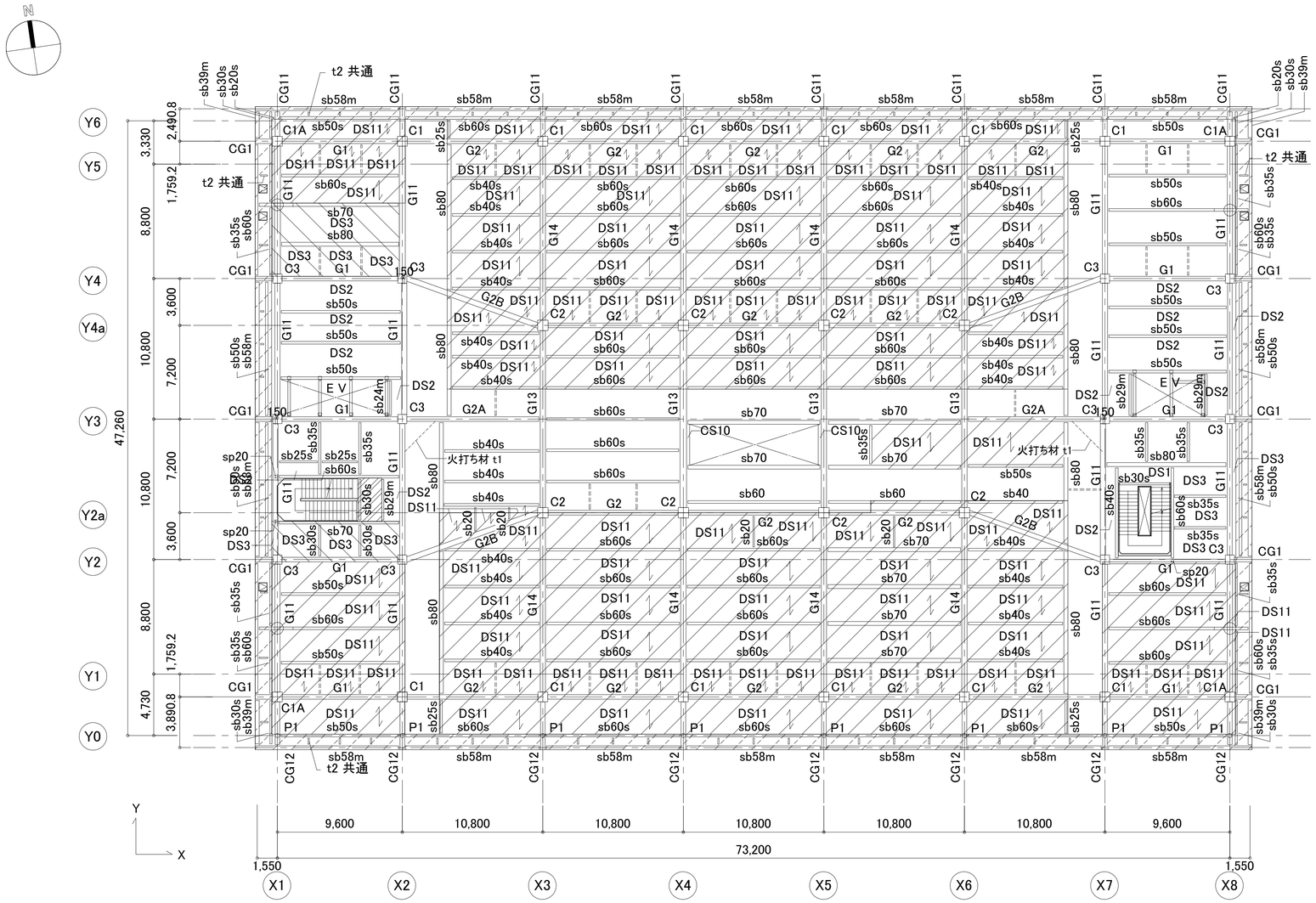
B40の梁段差かさ上げ要領に倣うこと。

共通事項（特記なき限り）

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS11 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分のスラブ符号は S17、スラブ天端は FL-340～-300 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250 、スラブ天端はFL-100とし、スラブ符号はDS1とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40とする。
- （　　）内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁（下）天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- 印は 大梁座屈止めt1 を示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- 印は避難ハッチを示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 1:50	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	19	3階梁床伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



4 階 梁床伏図 1:200

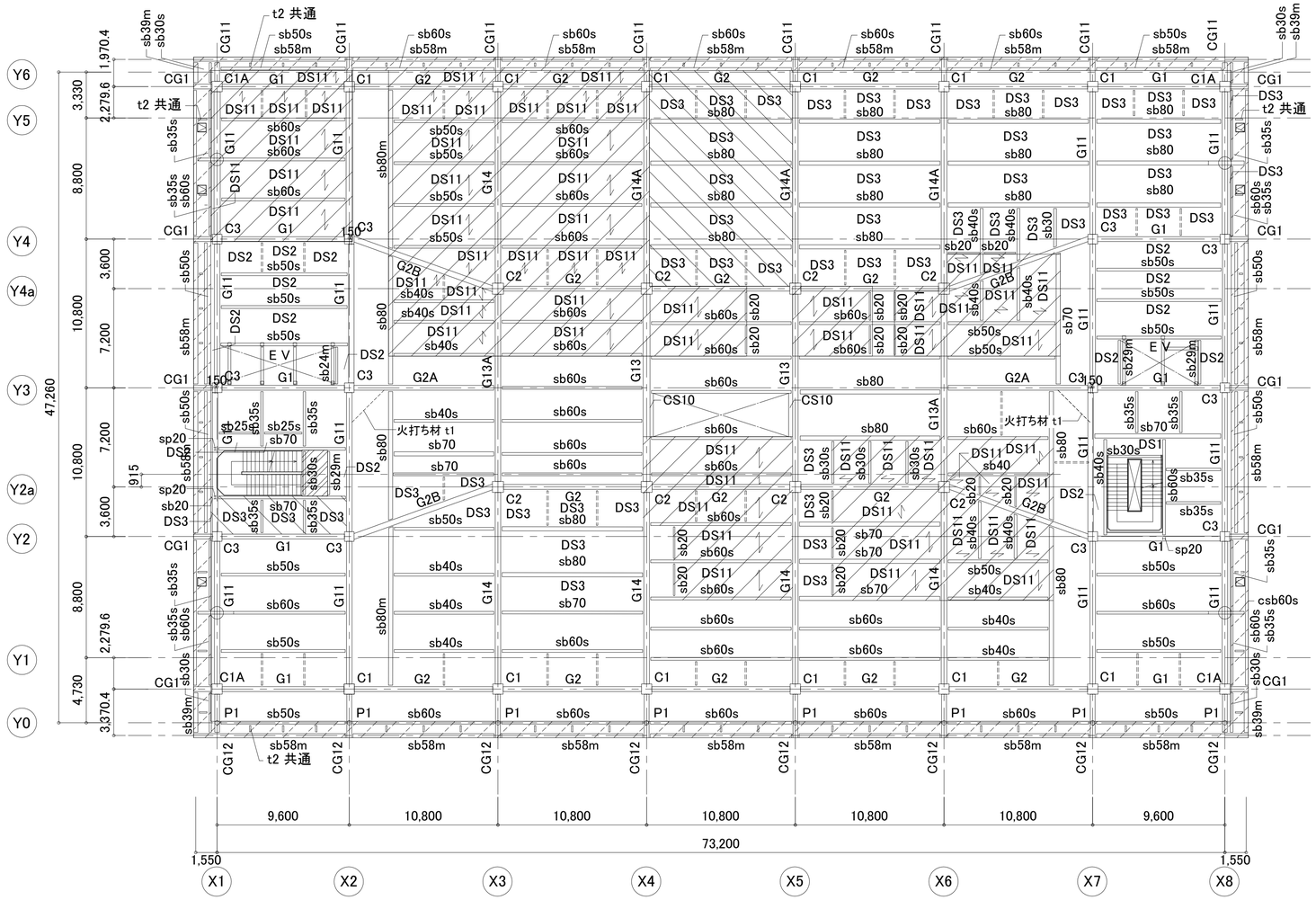
共通事項（特記なき限り）

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250 、スラブ天端は FL-100 とし、スラブ符号はDS1とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40とする。
- （　　）内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁（下）天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ==== 印は 大梁座屈止めt1 を示す。

- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	20	4階梁床伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



5 階 梁床伏図 1:200

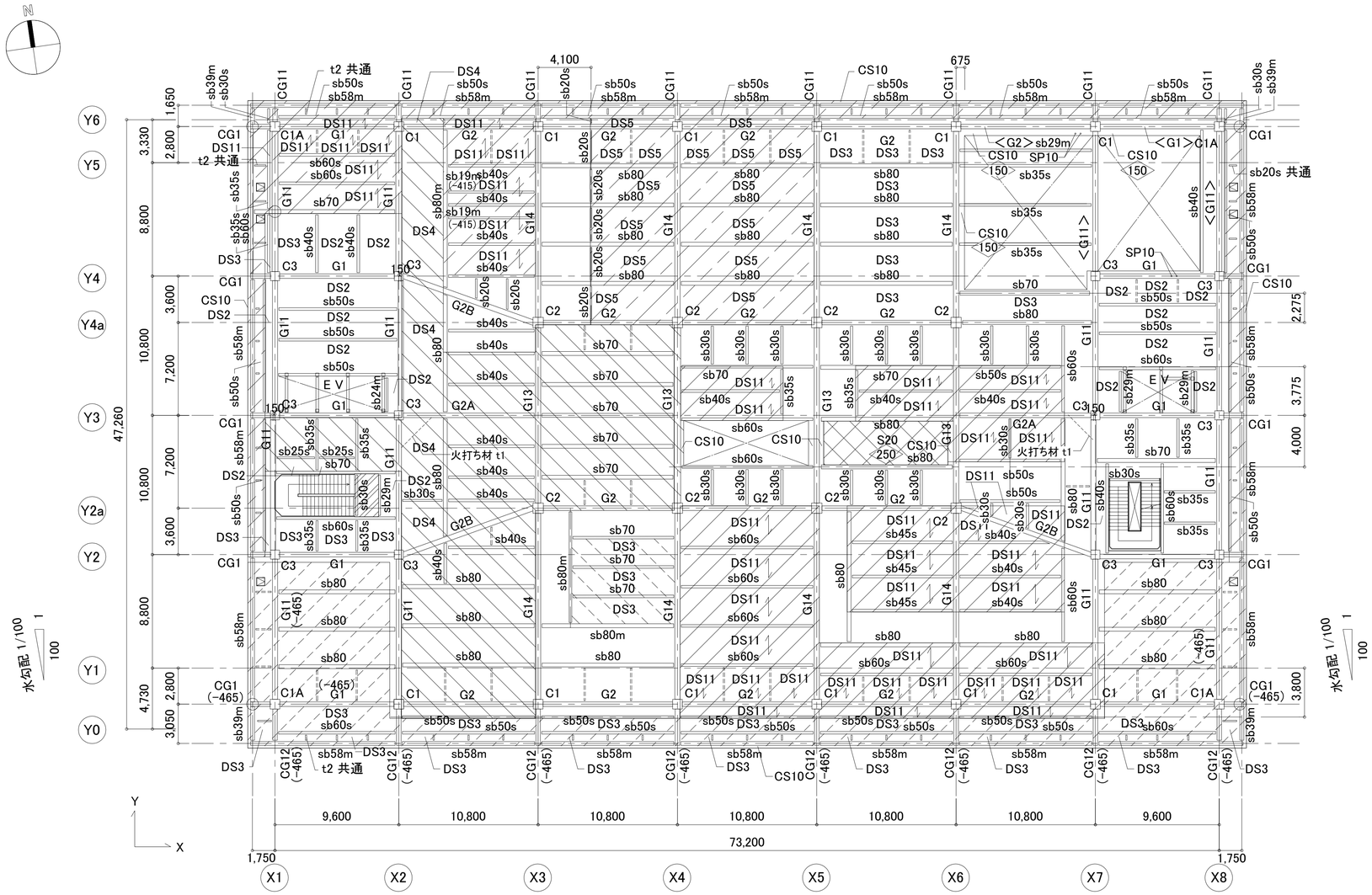
共通事項（特記なき限り）

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250 、スラブ天端は FL-100とし、スラブ符号はDS1とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40とする。
- （　　）内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁（下）天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- 印は 大梁座屈止めt1 を示す。

- 印は避難ハッチを示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	21	5階梁床伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



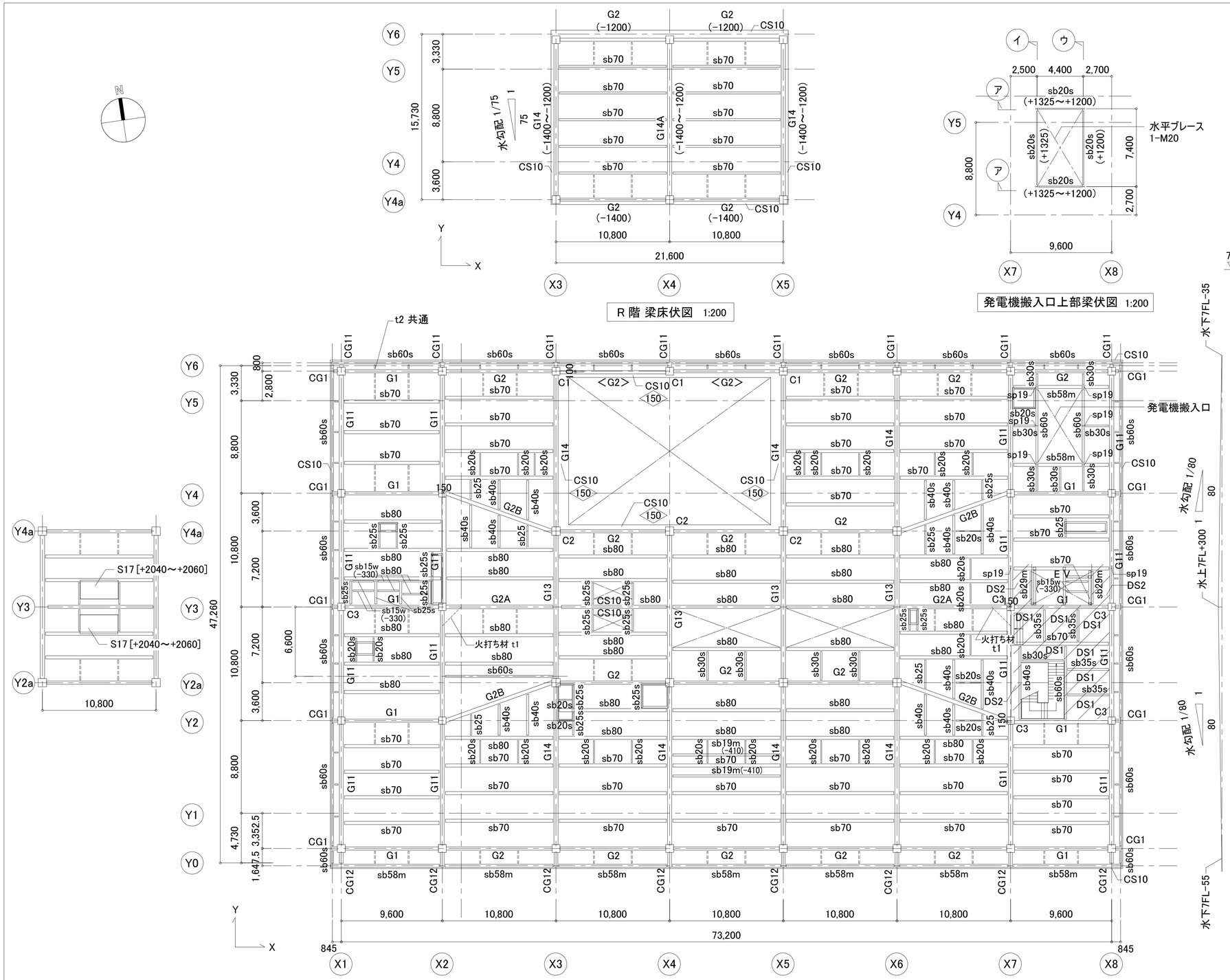
6 階 梁床伏図　1:200

共通事項（特記なき限り）

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分のスラブ天端は FL-340～300 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-450 、スラブ天端は FL-300とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250 、スラブ天端は FL-100とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265 、スラブ天端は FL-100とする。
- （　　）内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁（下）天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ==== 印は 大梁座屈止めt1 を示す。
- ←→ 印はデッキ敷き方向を示す。
- ＜　＞付大梁はカバーPL付きを示す。
- 印は剛接合を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	22	6階梁床伏図 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



R 階 共通事項(特記なき限り)

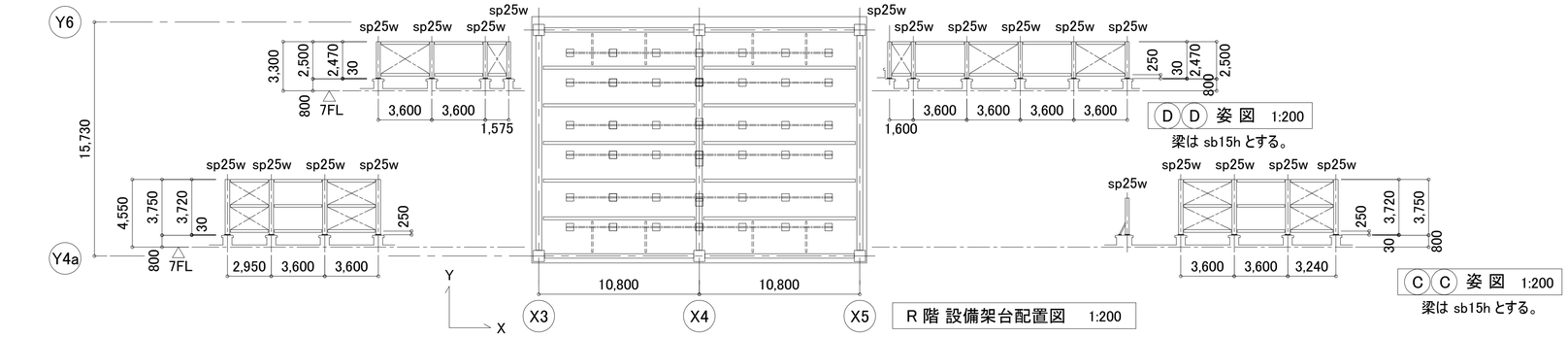
- 大梁天端は FL−280 とする。
- 小梁天端、スラブ天端は 水勾配による。
- スラブ符号は DS1 とする。
- (　　) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ==== 印は t1 を示す。

7階 共通事項(特記なき限り)

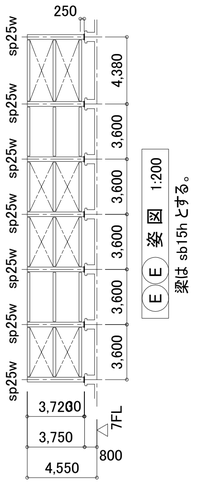
- 大梁天端は FL−280 とする。
- 小梁天端、スラブ天端は 水勾配による。
- ▨ 印部分の小梁天端は FL+140、スラブ天端は FL+290とする。大梁上はCTで嵩上げを行うものとする。
- スラブ符号は DS4 とする。
- (　　) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- [　] 内寸法はFLからのスラブ天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ==== 印は 大梁座屈止めt1 を示す。
- ⊕ 印は剛接合を示す。
- ⟵ 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。

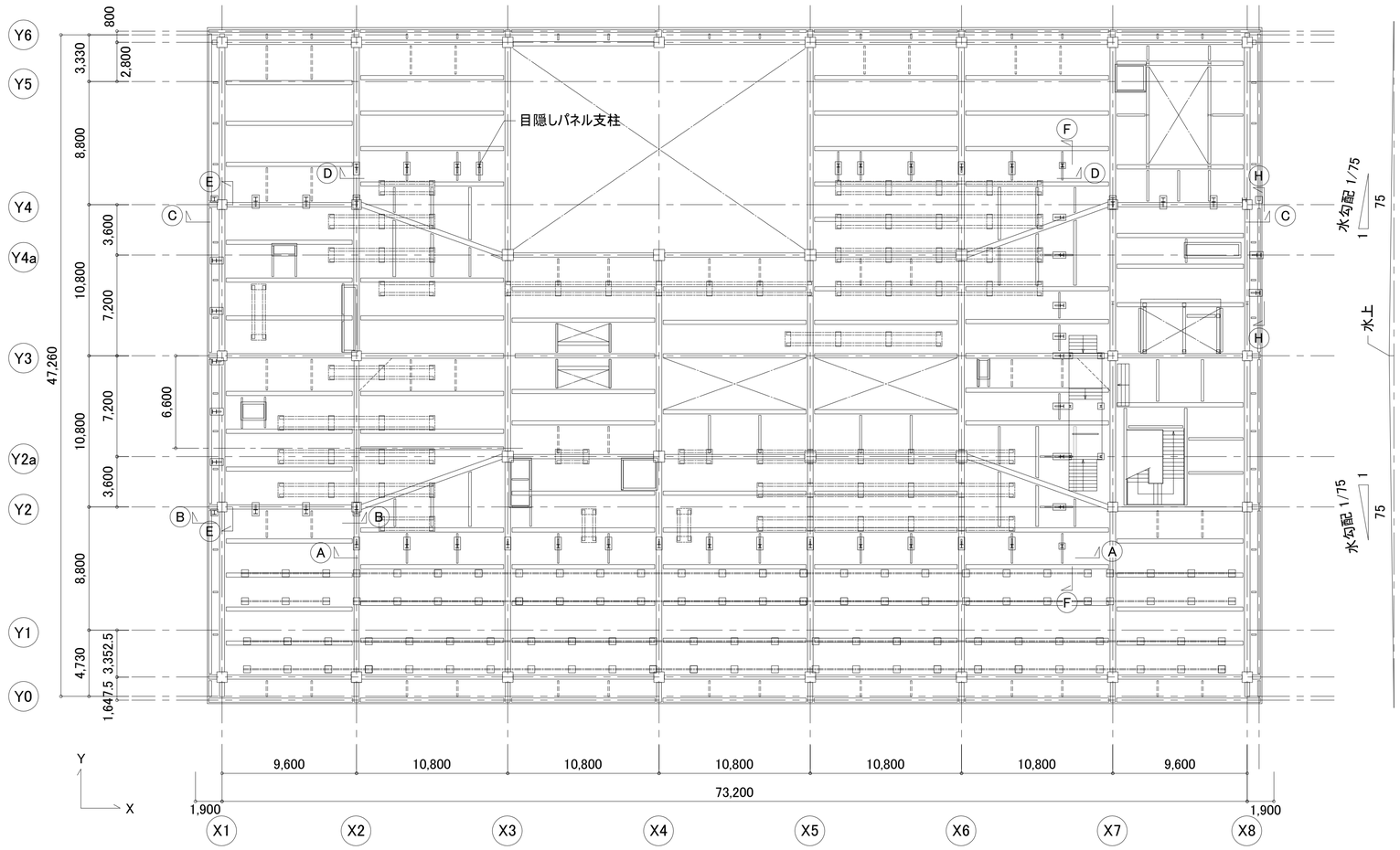
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	23	7階・R階 梁床伏図 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

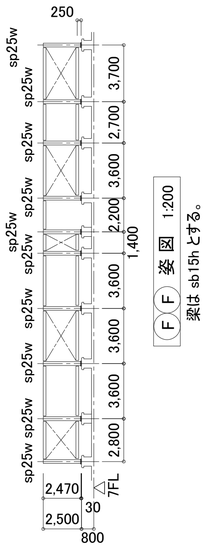
20230220

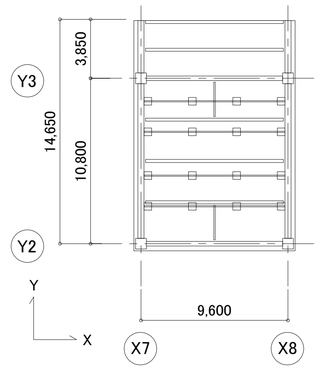


R 階 設備架台配置図 1:200

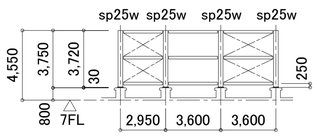








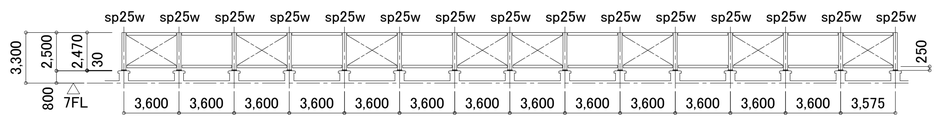
R 階 設備架台配置図 1:200



7 階 設備架台配置図 1:200

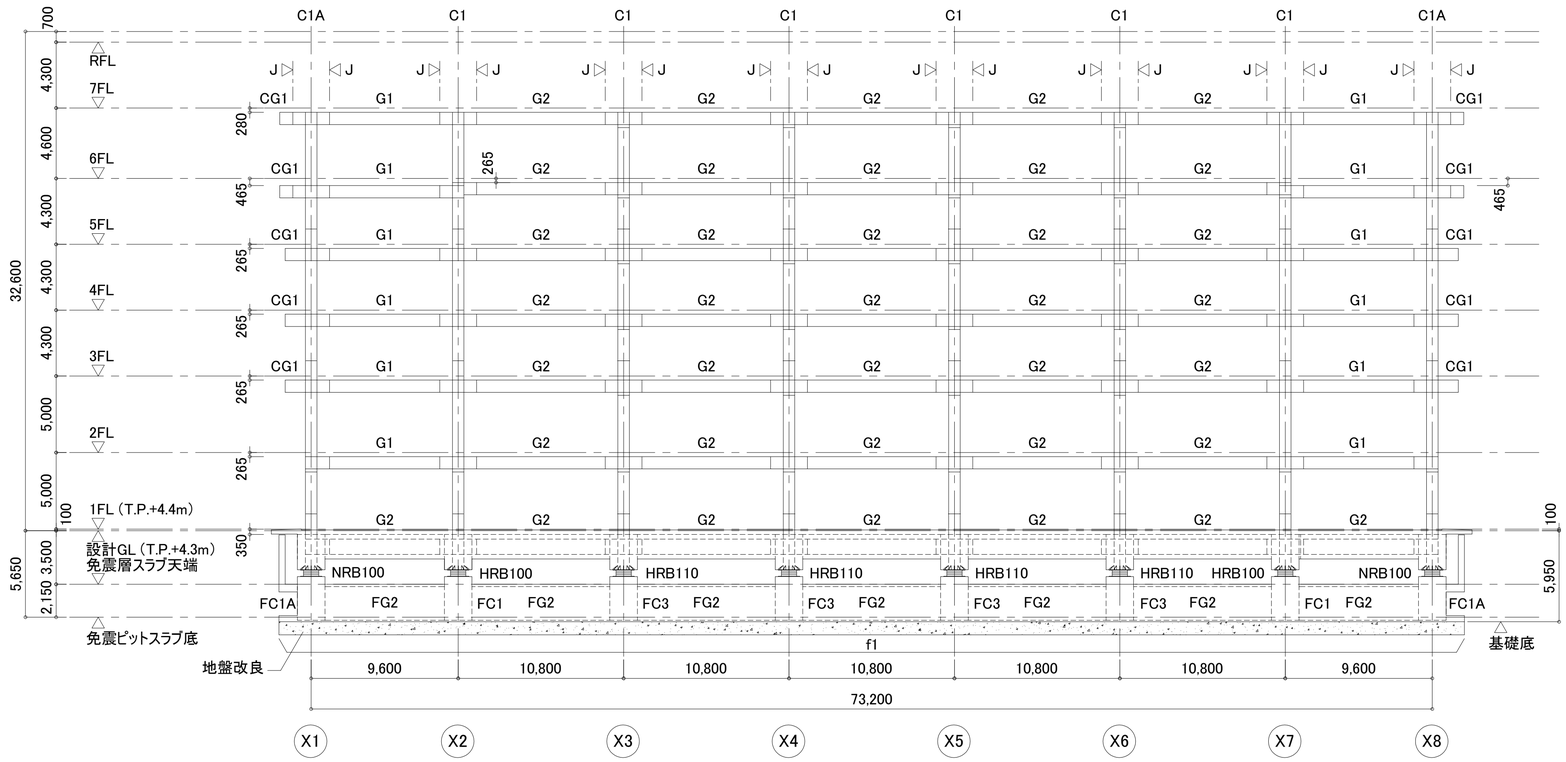
7・R階 共通事項（特記なき限り）

- 設備架台はH-150×150×7×10とする。
- 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキ（JIS H 8643）とする。

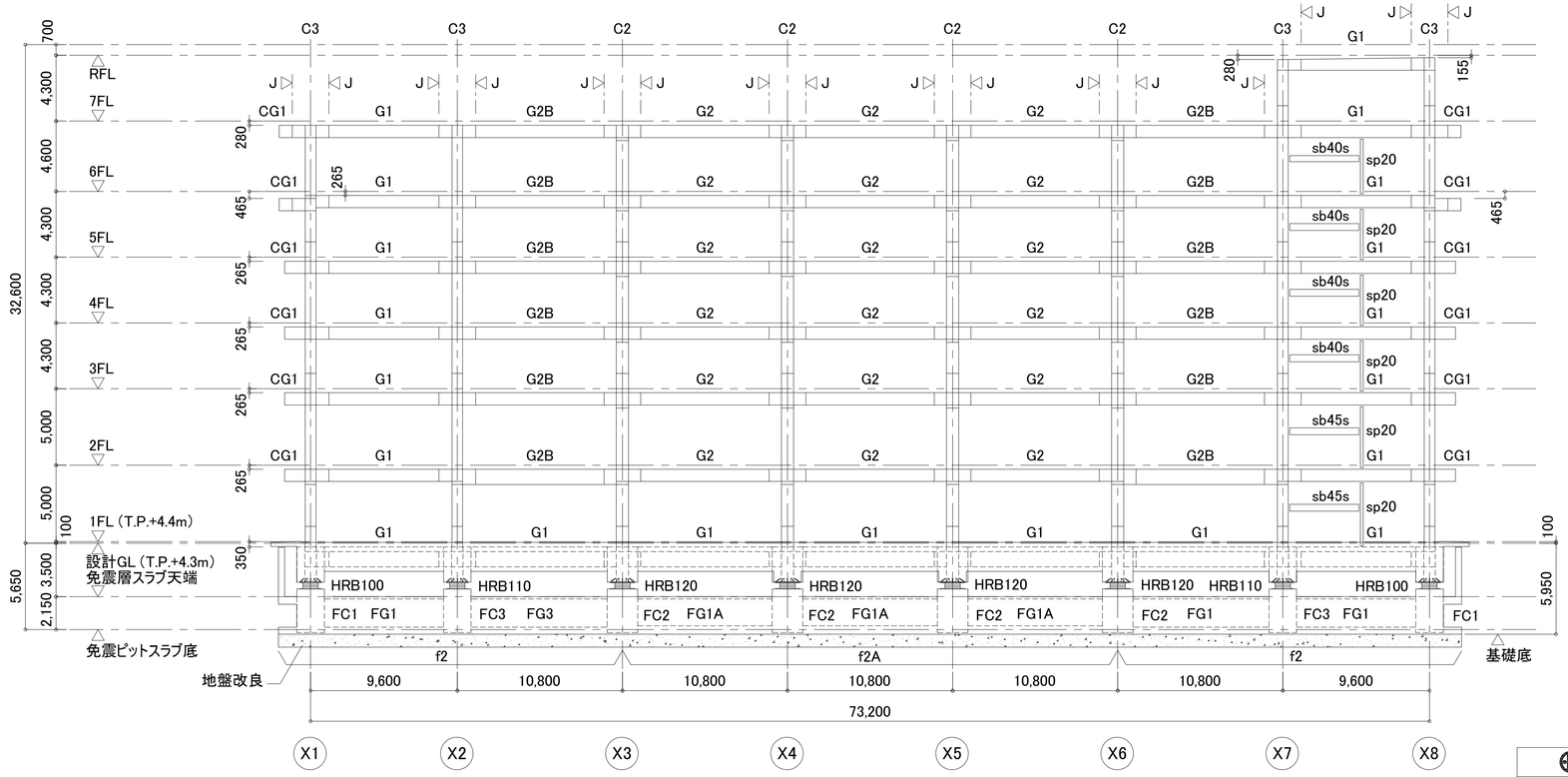


明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	24	7, R階 設備架台配置図 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



Y1 通 軸組図 1:200



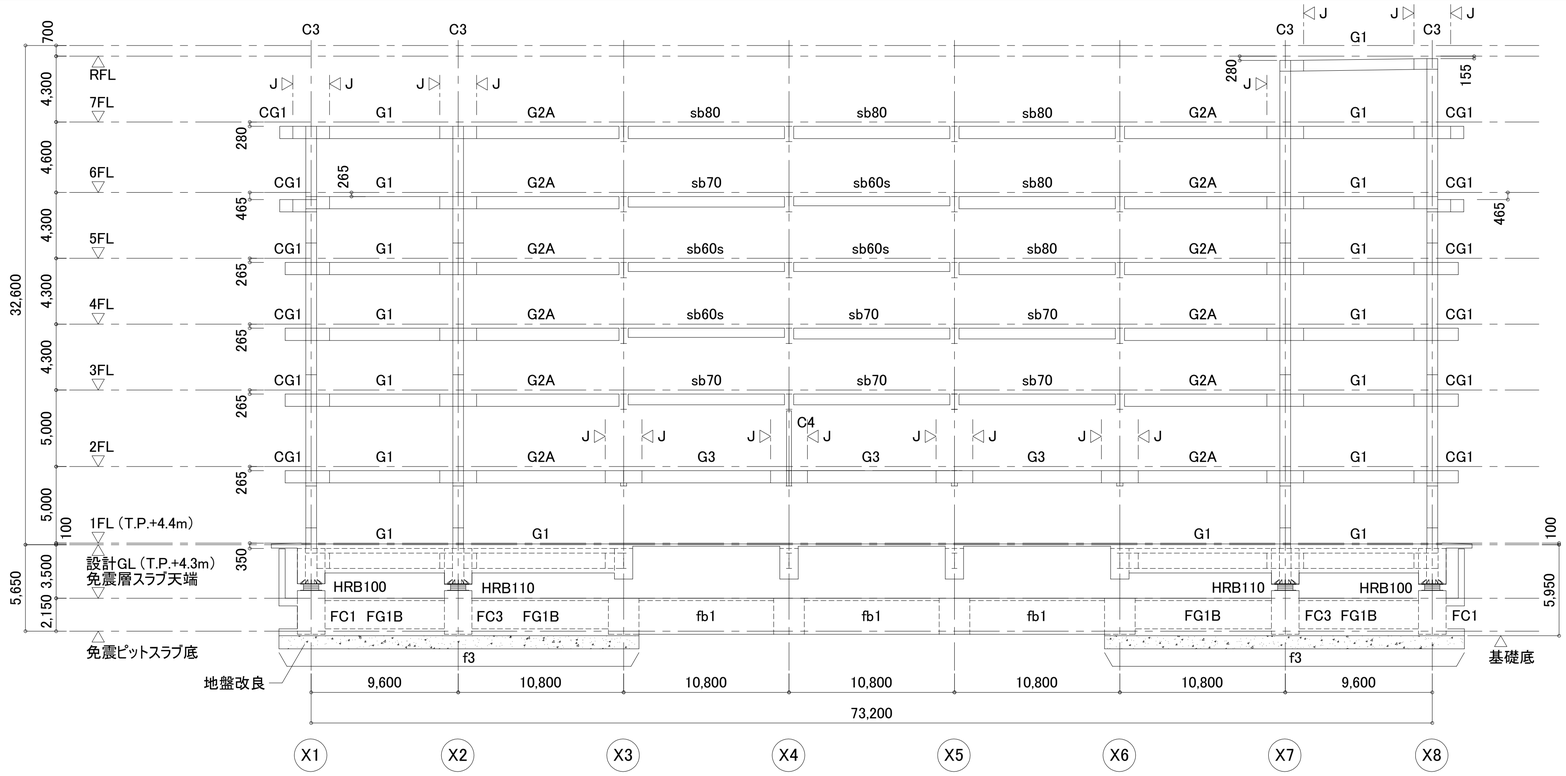
Y2 Y2a 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

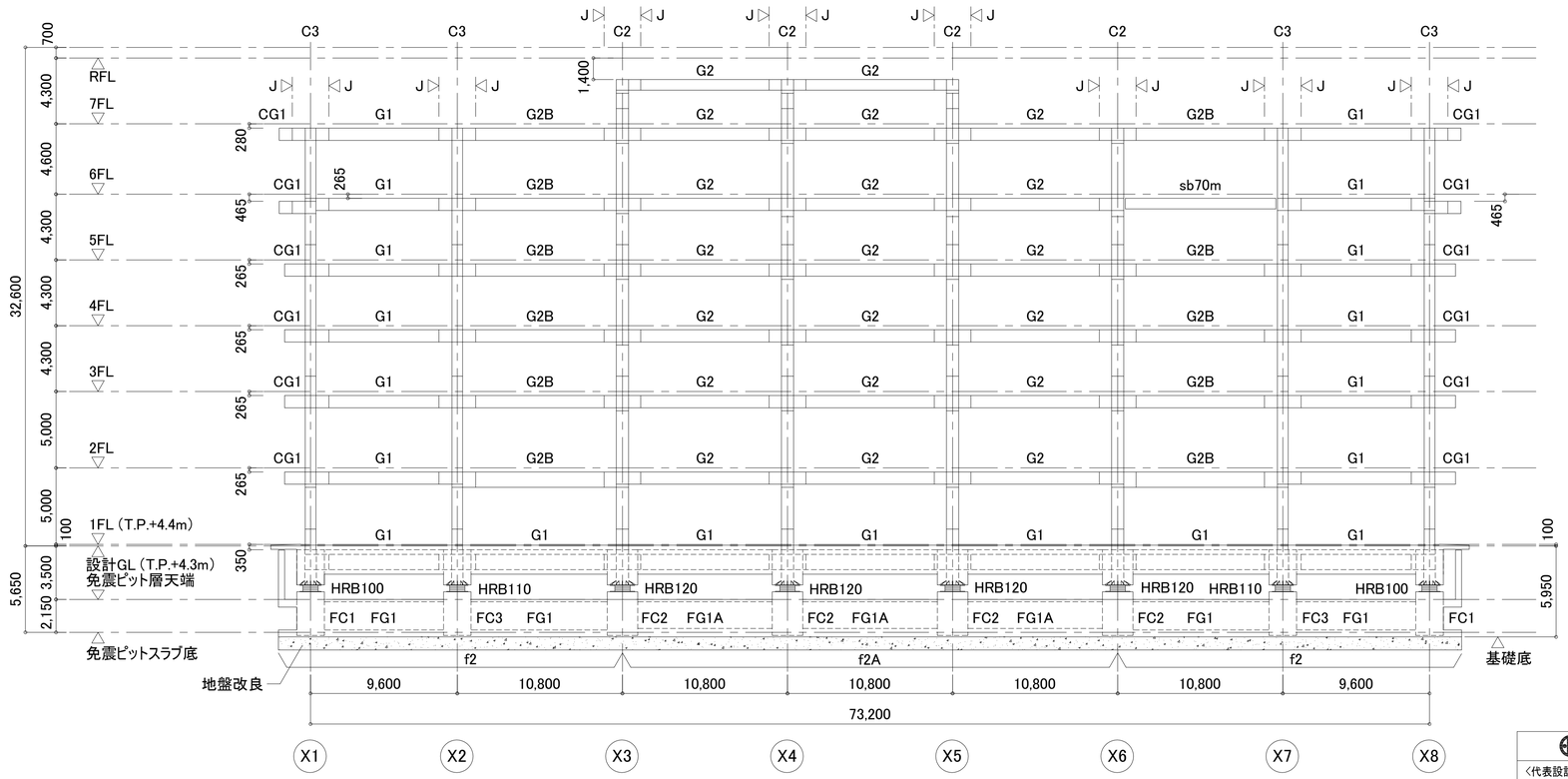
- ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
- 印部分は地盤改良を示す。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	25	軸組図 (1) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



Y3 通 軸組図 1:200



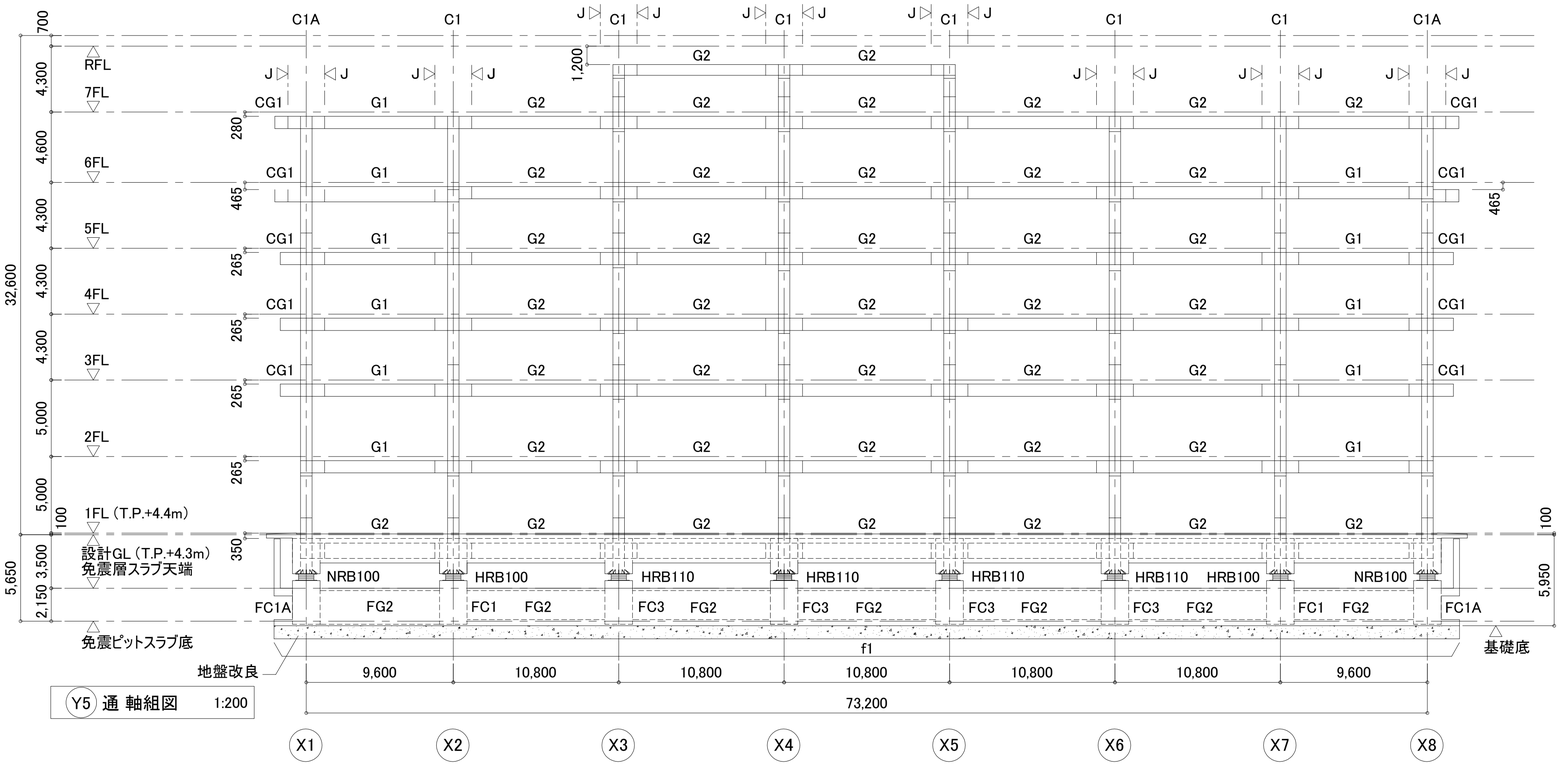
Y4 Y4a 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

- ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
- 印部分は地盤改良を示す。
- X4通りの2C4柱は、建方時に地組みを行うか、または
  ボルト本締めが終了するまで支保工にてサポートすること。

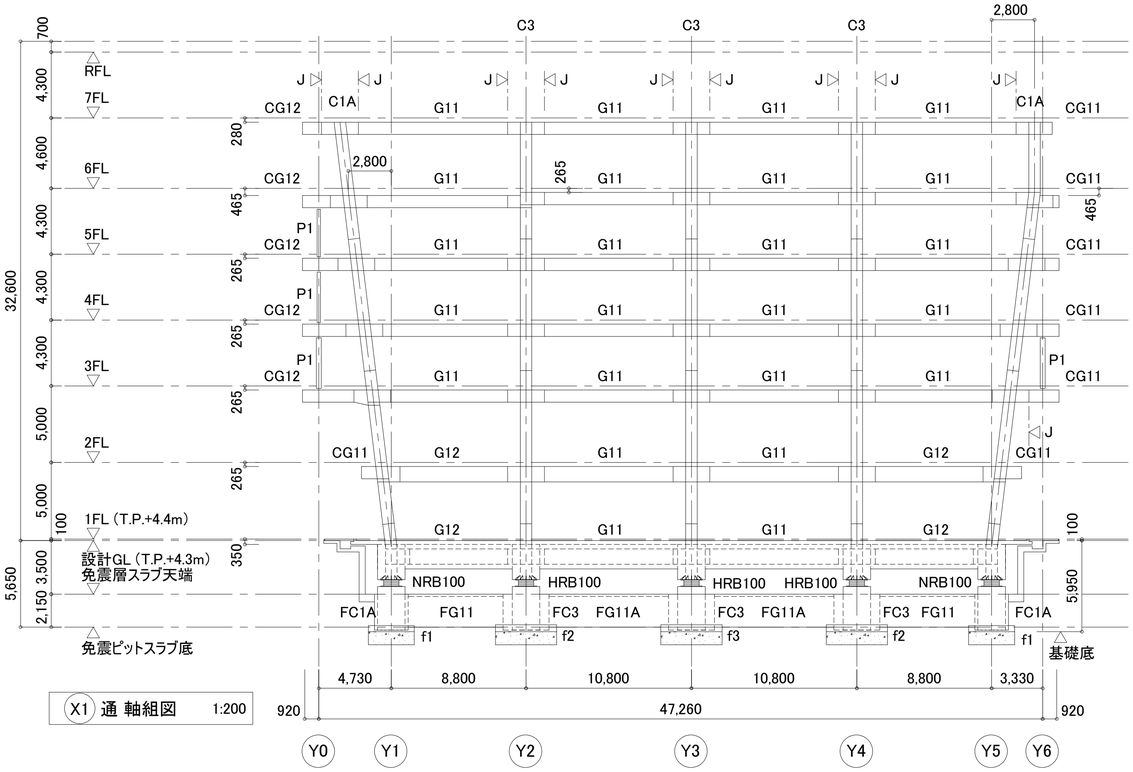
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	26	軸組図 (2) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

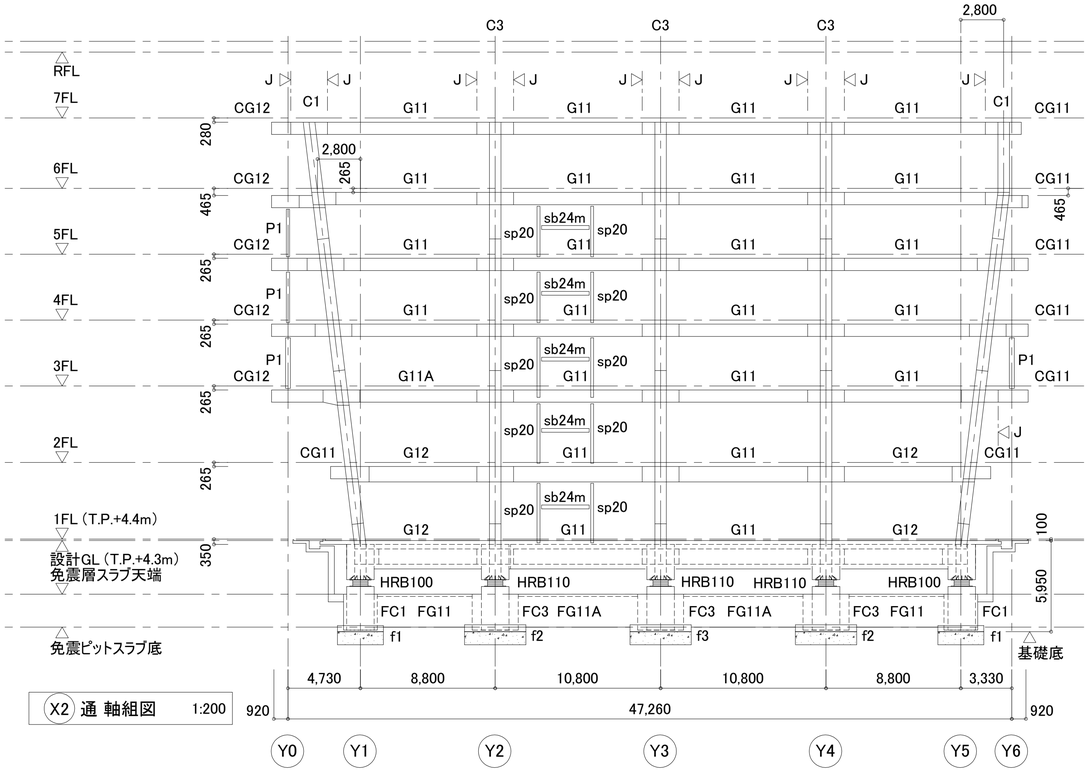
20230220



共通事項（特記なき限り）

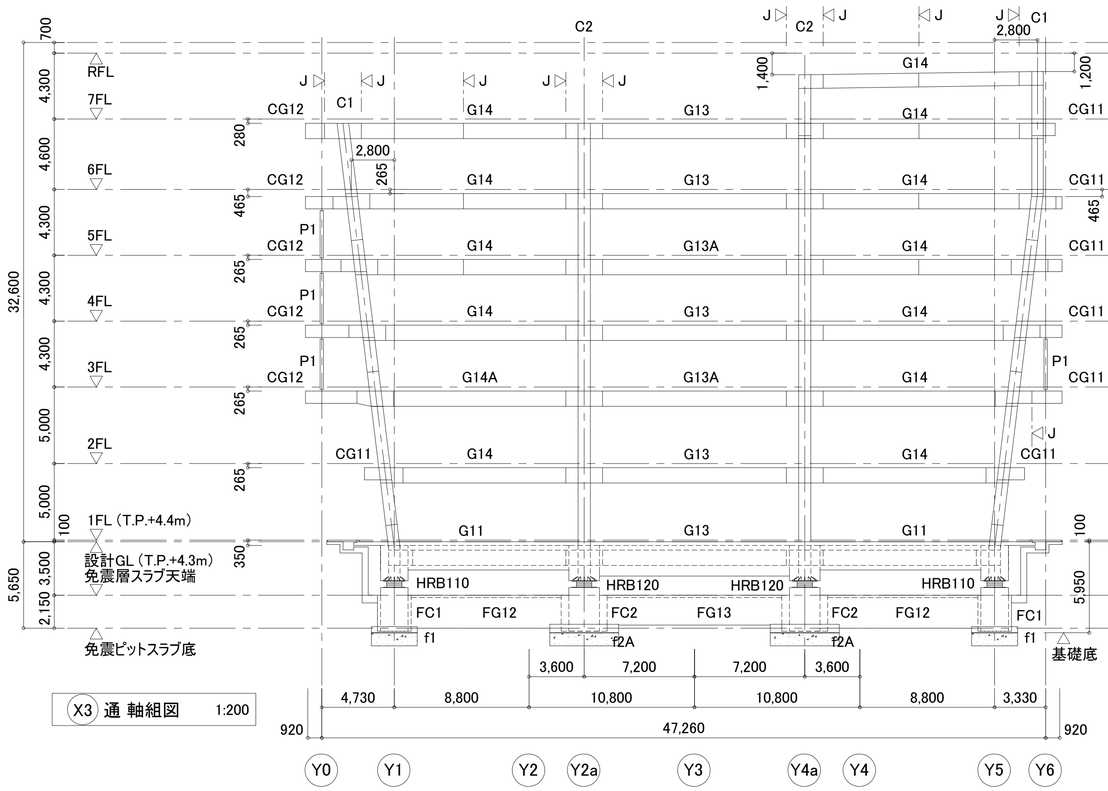
- ◁J 印は現場継手位置を示す。（柱芯+1200とする。）
- 印部分は地盤改良を示す。



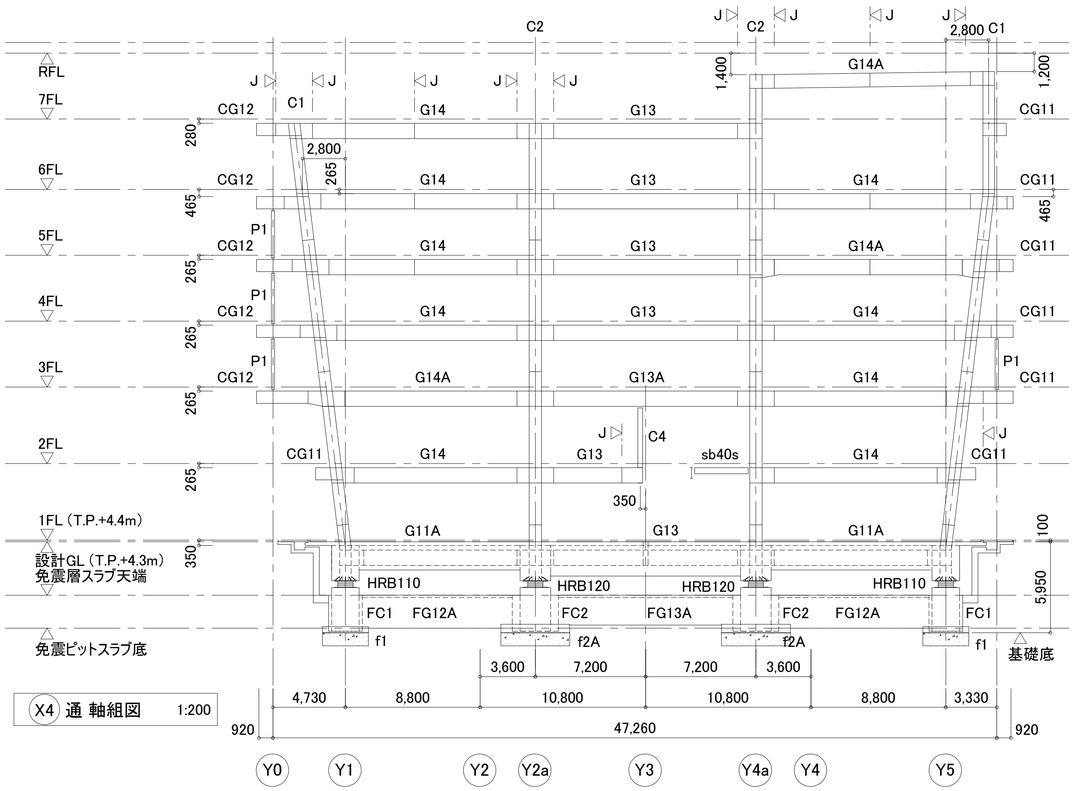


明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	27	軸組図 (3) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

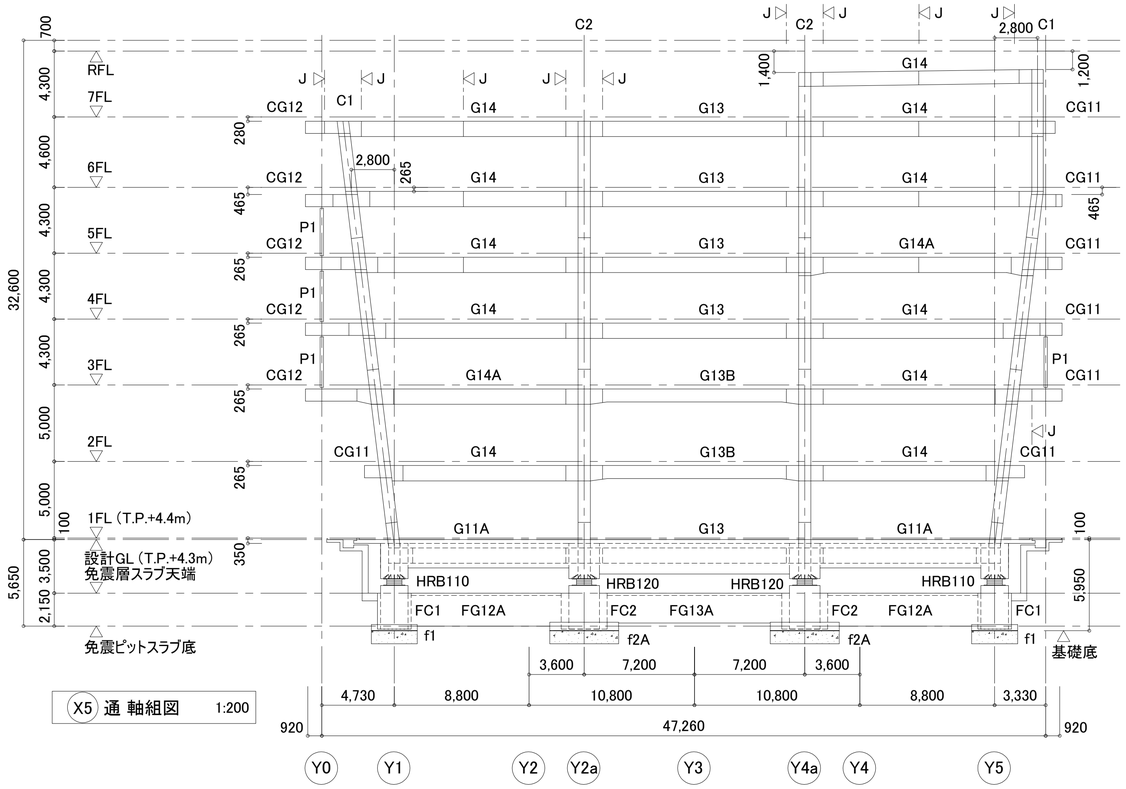
20230220



X3 通 軸組図 1:200



X4 通 軸組図 1:200



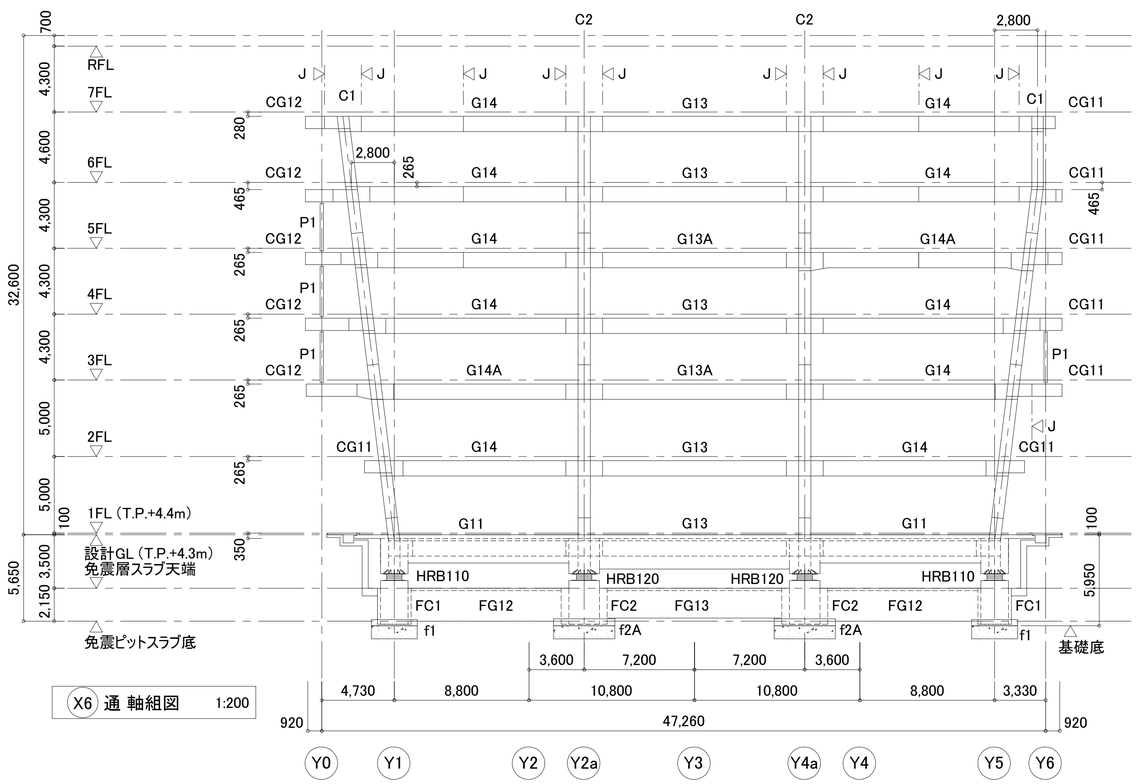
X5 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

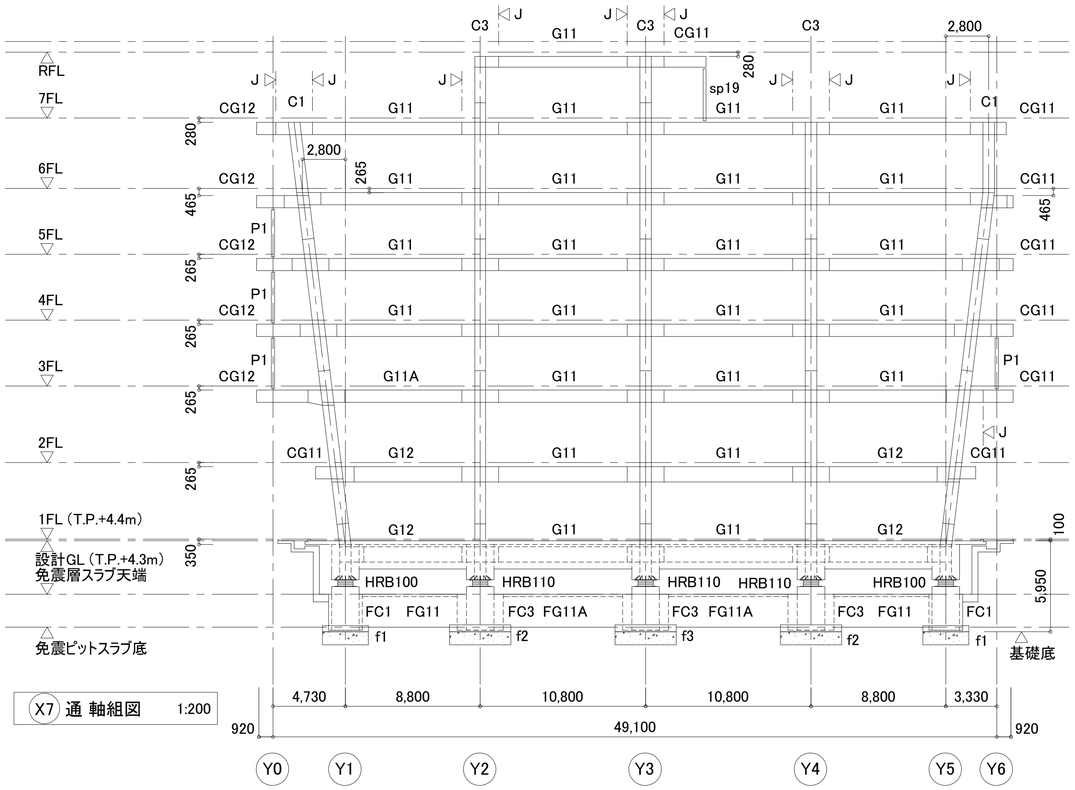
- ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
- 印部分は地盤改良を示す。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	28	軸組図 (4) 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

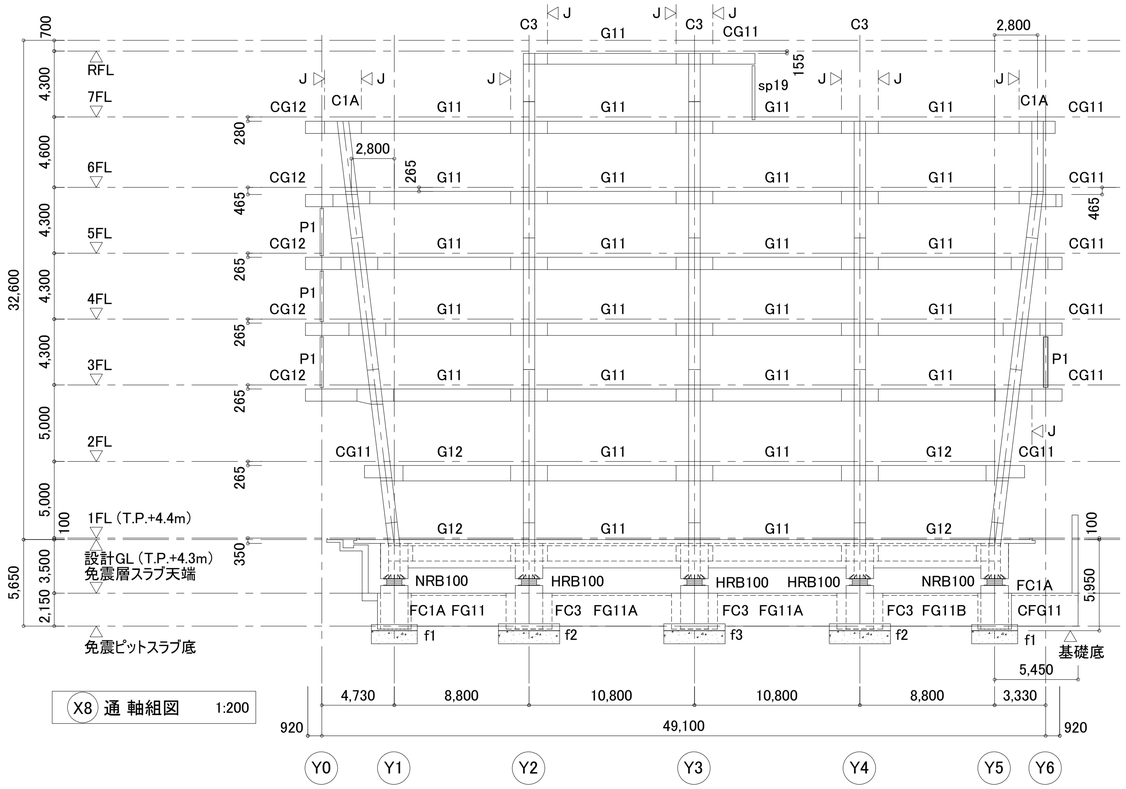
20230220



X6 通 軸組図 1:200



X7 通 軸組図 1:200



X8 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

- ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
- 印部分は地盤改良を示す。

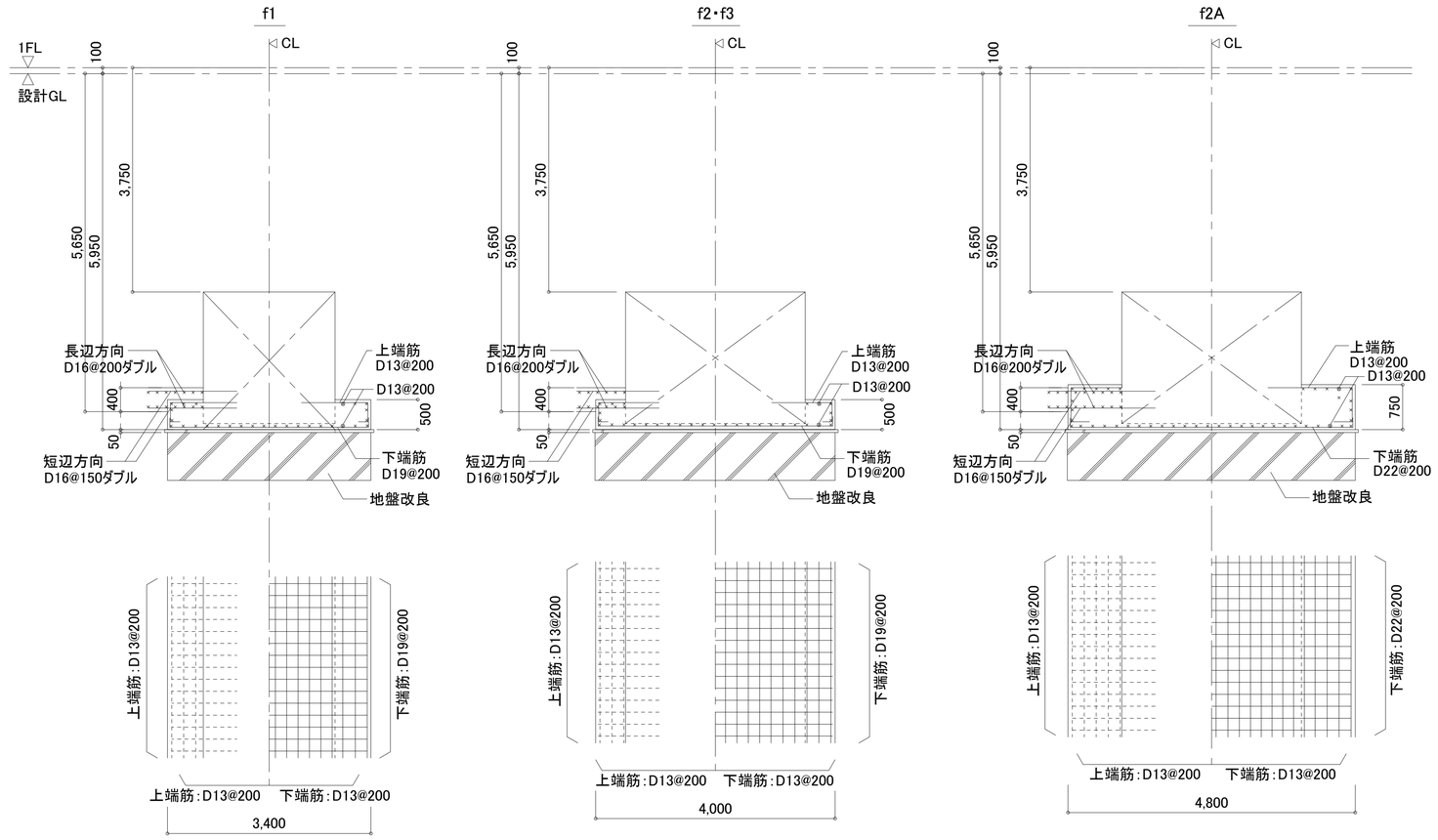
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	29	軸組図 (5) 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

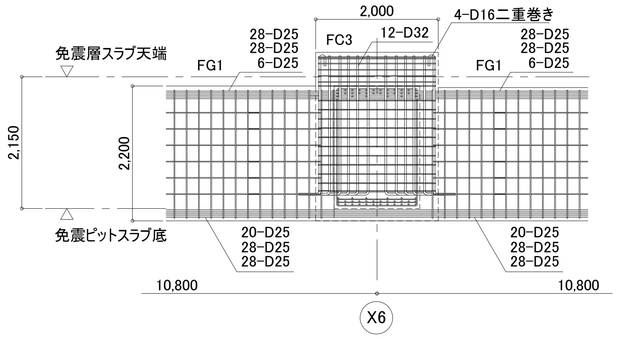
20230220

基礎リスト　1:50

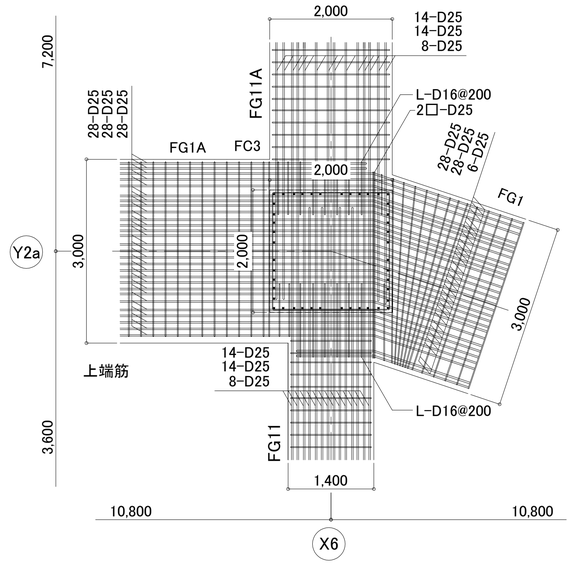
共通事項（特記なき限り）

- 基礎下地業は　捨コンクリート 厚50 とする。
- 柱芯=通芯とする。
- ベース筋はフック付きとする。
- 基礎鉄筋は　溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。（HDZT77）





基礎梁配筋要領図（側面図）　1:50

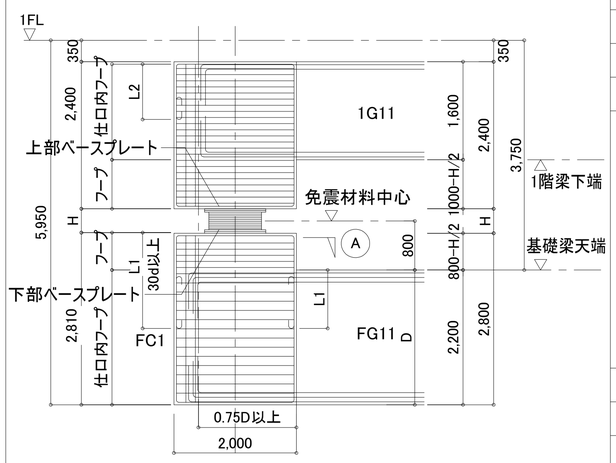


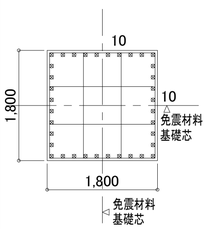
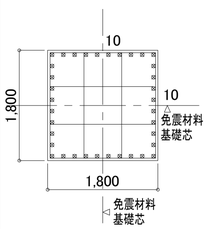
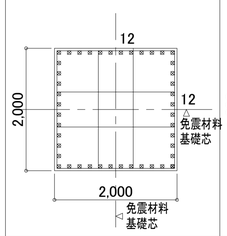
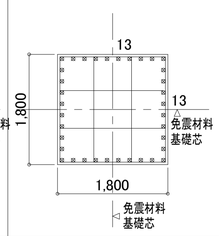
基礎梁配筋要領図（平面図）　1:50

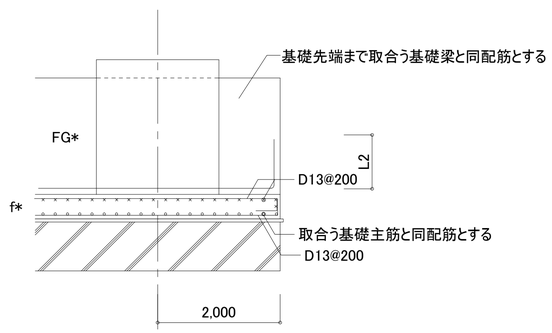
免震材料基礎リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）

- 帯筋は　溶接閉鎖型帯筋　を原則とし、同等性能の仕様とする。
  また、接合部帯筋はタガ型帯筋も可とする。
- 免震材料より下部の礎柱主筋は　溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。（HDZT77）



符号	FC1	FC2	FC3	FC1A
免震材料符号	HRB100	HRB110	HRB120	NRB100
H	456.6	454.2	449.6	400.0～500.0
免震部材外径	1,000	1,100	1,200	1,000
A 断面				
主　筋	36-D32	36-D32	44-D32	48-D32
フープ筋	4-D13@100　(2-D13@150)	4-D13@100　(2-D13@150)	4-D13@100　(2-D13@150)	4-D13@100　(2-D13@150)
備　考	(　)内は仕口内フープを示す	(　)内は仕口内フープを示す	(　)内は仕口内フープを示す	(　)内は仕口内フープを示す



基礎片持ち部配筋要領図　1:50

明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨	B	建築工事　A1 1:50　A3 1:100	最終版　2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	30	基礎リスト・基礎梁配筋要領図	見積版　2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

（2023年版）

基礎梁リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）

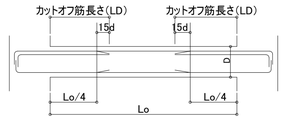
- スターラップは □-D16@200　とする。
- 腹筋は　10-D13，幅止筋は　D10@1000以内　とする。
- 梁下地業は　捨てコンクリート㋐50 とする。
- 基礎梁下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋（HDZT77）とする。
- X方向の主筋を下側に配筋（先行筋）する。
- カットオフ長さLdは Lo/4+15d以上（Lo:内法スパン）とする。
- 溶融亜鉛メッキ鉄筋の継手は　重ね継手　とする。
- 鉄筋継手位置は、下記の通りとする。

X方向梁（連続基礎と取り合う基礎梁）：配筋標準図(1)　1.1(4)

Y方向梁(一般基礎梁)：配筋標準図(1)　1.1(3)

凡　例
スターラップ 4-D13@200 は
右図 ▥-D13@200　を示す。

- カットオフ筋の定着要領



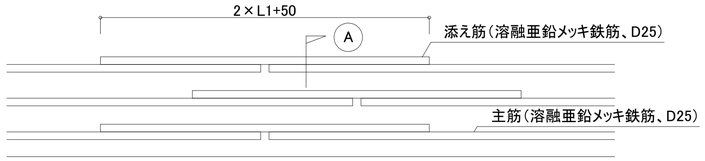
符号	FG1			FG1A		FG1B		
位置	X1・X8端	中央	他端	端部	中央	他端	中央	X2・X7端
断面	2,200 / 3,000 28 28 … 10 28 28	2,200 / 3,000 28 28 4 … 4 28 28	2,200 / 3,000 28 28 6 … 20 28 28	2,200 / 3,000 28 28 10 … 28 28 28	2,200 / 3,000 28 28 6 … 10 28 28	2,200 / 3,000 30 30 … 10 30 30	2,200 / 3,000 30 30 10 … 30 30	2,200 / 3,000 30 30 … 35 35 35
上端筋	56-D25	60-D25	62-D25	66-D25	62-D25	60-D25	70-D25	60-D25
下端筋	66-D25	60-D25	76-D25	84-D25	66-D25	70-D25	60-D25	105-D25
スターラップ	8-D16@200	8-D16@200	8-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200
腹　筋	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13
カットオフ筋	Ld=3200（下端筋）		Ld=3200（下端筋）	Ld=3200（下端筋）		Ld=2700（下端筋）		Ld=4300（下端筋）
備考								

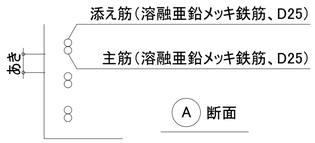
符号	FG2	CFG11		FG11			FG11A		FG11B	
位置	全断面	元端	先端	Y1・Y5端	中央	Y2・Y3端	端部	中央	Y5端	Y4端・中央
断面	2,200 / 2,200 16 16 … 16 16	2,000 / 1,000 8 8 6 … 4 8	2,000 / 1,000 8 4 … 8	2,000 / 1,000 8 8 6 … 6 8 8	2,000 / 1,000 8 8 2 … 4 8 8	2,000 / 1,000 8 8 8 … 4 8 8	2,000 / 1,000 8 8 6 … 4 8 8	2,000 / 1,000 8 8 … 8 8	2,000 / 1,200 11 11 10 … 11 11	2,000 / 1,200 11 11 … 11 11
上端筋	32-D25	22-D25	12-D25	22-D25	18-D25	24-D25	22-D25	16-D25	32-D25	22-D25
下端筋	32-D25	12-D25	8-D25	22-D25	20-D25	20-D25	20-D25	16-D25	22-D25	22-D25
スターラップ	6-D16@200	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150
腹　筋	12-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13
カットオフ筋				Ld=2800（上端筋・下端筋とも）		Ld=2800（上端筋・下端筋とも）	Ld=3200（上端筋・下端筋とも）		Ld=3100（上端筋）	
備考										

符号	FG12			FG12A			FG13		FG13A	
位置	Y1,Y5 端	中央	Y2a,Y4a 端	Y1,Y5 端	中央	Y2a,Y4a 端	両 端	中央	端部	中央
断面	2,000 / 1,400 14 14 4 … 4 14 14	2,000 / 1,400 14 14 … 4 14 14	2,000 / 1,400 14 14 8 … 4 14 14	2,000 / 1,400 14 14 6 … 6 14 14	2,000 / 1,400 14 14 … 4 14 14	2,000 / 1,400 14 14 12 … 4 14 14	2,000 / 2,000 14 14 8 … 8 14 14	2,000 / 2,000 20 20 20 … 20 20	2,000 / 1,400 14 14 13 … 4 14 14	2,000 / 1,400 14 14 … 14 14
上端筋	32-D25	28-D25	36-D25	34-D25	28-D25	40-D25	36-D25	60-D25	41-D25	28-D25
下端筋	32-D25	32-D25	32-D25	34-D25	32-D25	32-D25	36-D25	40-D25	32-D25	28-D25
スターラップ	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	6-D16@200	6-D16@200	3-D16@200	3-D16@200
腹　筋	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13
カットオフ筋			Ld=3200（上端筋）			Ld=3500（上端筋）			Ld=3900（上端筋）	
備考										

溶融亜鉛メッキ鉄筋の継手要領

・隣り合う鉄筋の継手位置は、構造関係共通事項　表5.3.3　による。





明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	B 31	建築工事 基礎梁リスト　A1 1:50　A3 1:100	最終版　2024.3.25 見積版　2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

1．一般事項

(1) 用語の定義

用語の定義は事業契約書に準じる。

建物所有者　　：明石市
建物設計者　　：安井建築設計事務所
監督員　　：未定
工事監理者　　：未定
建物施工者　　：未定
建物管理者　　：建物所有者もしくは　建物所有者に委託された者
免震建物点検技術者：建物所有者により委託された、免震構造に対する深い知識があり免震建物の維持管理経験がある者
（原則として「免震建物点検技術者」の資格を有する者）

(2) 免震材料

・免震材料は国土交通省大臣認定品とする。

(3) 免震材料製作メーカー

・免震材料の製作メーカーの選定においては、工事監理者の確認を受けること。
・次に示す記録、証明書、その他書類を提出し、監理者の確認を受けること。

書類	内容
・製作要領書	工場管理体制、製作工程、出荷管理、製品検査要領等
・検査要領	製品検査、受入検査、施工時検査、竣工時検査
・施工要領書	製作要領書に基づいた製造者作成のもの
・材料検査記録	ミルシート、製作要領書に基づいた製造者作成のもの
・製品検査記録	
・製品検査成績表	可撓継手、免震Exp.J含む
・仮設計画	

2.免震層設計クリアランス

・免震層設計クリアランスは下記とする。
（仕上げ・設備全共通）
水平方向（全方向）：最小クリアランス550mm、設計クリアランス600mm
鉛直方向 ：最小クリアランス30mm、設計クリアランス50mm

3. 設計条件

・各免震材料の特性のばらつきは材料リストに記載する値とする。
※設計に採用するばらつきの値は、各製品の合計値の最大値を上限値、最小値を下限値とする。

4. 施工・検査（建物竣工までの品質管理体制）

・本建物に使用する免震材料の製造時における品質管理は、免震材料の製造者の責任において自主管理を行い、適宜、監督員、工事監理者、建物施工者が確認すること。
・免震材料の製造者は、材料の出荷前に「JSSI免震構造施工標準2021」に基づく製品検査を実施し、製品の形状・力学的性能について建物設計者の承認を受ける。
更に、材料の寸法形状・外観等について監督員・工事監理者の確認を受けること。
・次に示す記録、証明書、その他書類を提出し、監理者の確認を受けること。

試験項目	
材料試験	ベースプレート、長ナット、アンカーボルト
	ベースプレート下の充填材料試験
性能確認試験	支承材の性能確認試験

・性能検査は、本工事使用実機による全数検査を原則とする。
・性能検査では、所定のばらつき範囲内である事を確認し、建物設計者により免震層の偏心率を小さくする配置を検討した上で、協議して配置を決定すること。
・免震材料の現場受入検査は、建物施工者が実施すること。
・免震材料の現場受入後の保管、設置取付け工事の施工管理、材料据え付け後の施工中の養生及び維持管理は建物施工者の責任において行い、工事監理者が確認する。
・建物竣工時における免震材料及び、その他の免震構造の主要な部分について、本建物が設計意図に沿って竣工したことを示す施工報告書を作成し、監督員、工事監理者、建物施工者が確認する。更に、建物所有者の確認も受けること。
・次に示す報告書を提出すること。

書類
・免震材料製品検査報告書
・免震部施工時試験報告書
・免震部竣工時検査報告書

・免震層に関する施工報告書は竣工後の維持管理の初期値とする。
・その他免震材料の施工、検査基準等は日本免震構造協会（JSSI）の『JSSI免震構造施工標準2021』に基づき協議することができる。

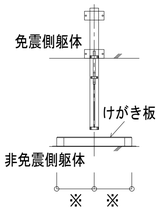
5. 免震建物に付随する付属物の設置

(1) 注意書きの設置

・建物出入口その他の見やすい場所に、「免震建物であり、地震時に建物が可動すること及び可動部分に物を置かないこと」「建物の可動範囲に積雪した場合は、EXP.Jの動きを妨げないよう速やかに除去すること」を示した注意書きを設置すること。
設置場所は意匠図・構造図によるほか、工事監理者の指示による。

(2) 維持管理用必要器具の設置

地震時のオービット観測用ケガキの設置　（2ヶ所）
・地震時の免震層変形および地震後の原点復帰の確認のためけがき変位記録計を計2箇所設置すること。けがき板（PL-3.2）の材質はステンレス、その他
構成部材はステンレスもしくは鉄骨部材の場合亜鉛メッキ相当の防食仕様とすること。
・施工時にけがき板の予備を6枚用意し、けがき変位記録計下に設置すること。
・地震後には、必要に応じてけがき板の取替えを行うこと。



※寸法は、設計クリアランス+100mm以上とする

6. その他

(1) 免震材料の設置

・免震材料据付用ジグ類、鉄骨建て方用ジグ、プレート類は適宜見込むこと。

(2) 免震材料の取替え時の留意事項

・何らかの理由で免震材料の改修・取替えを行う場合には、交換する免震材料の数・位置等によりジャッキアップの箇所や上下構造体の応力・変形等の検討を行うこと。必要に応じて適切な補強を施すこと。
・免震材料の取替えを行う場合は、事前に図面および現地確認に基づき適切な交換ルートを計画すること。
・免震材料の取替えに伴い、設備配管類を一時的に取り外し復旧する場合は、当該設備の機能停止について、建物の所有者または管理者と事前に調整して合意を得ること。

(3) その他

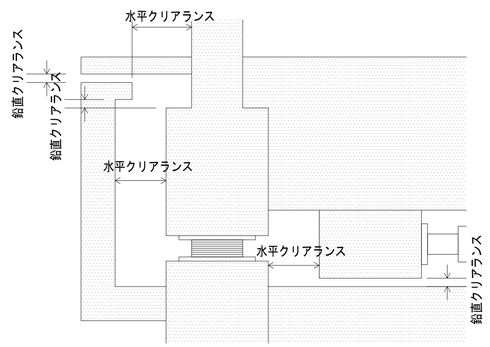
・免震部材の納期等に配慮して、工事工程を計画すること。
・以下の項目については、試験施工を実施すること。
各試験施工の合否基準は「JSSI免震構造施工標準2021」による。

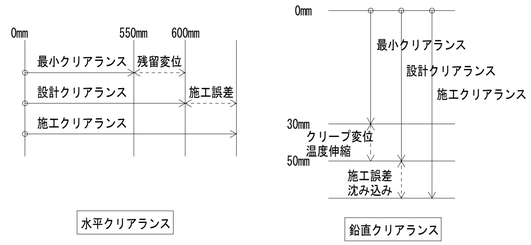
試験施工	可撓継手性能確認試験
	ベースプレート下の充填試験施工
	2000×2000（1ヶ所）

共通事項（特記なき限り）

・表記する免震材料以外の採用は原則不可とする。
・免震材料取付け部材（アンカーボルトなど）は、施工者や各免震材料製造メーカーの材料調達その他を考慮して決定するものとする。
ただし、免震層および免震材料の仕様を満足し、工事監理者の確認を得て最終決定すること。
・認定範囲内で、屋外仕様とする。（鉄骨は亜鉛めっき相当）
・同種別の免震材料（天然ゴム系積層ゴム支承）の中で、数社の製品が混材することは不可とする。

	符号	種類	装置径（mm）	ゴム層厚（mm）	備考
支承材	NRB100	天然ゴム系積層ゴム	1000	192～201	ゴム種別G4
	HDR100	高減衰ゴム系積層ゴム	1000	201	ゴム種別X4S
	HDR110		1100	200	
	HDR120		1200	200	





・最小クリアランス……竣工後地震時の残留変位等を見込んだ維持管理上の最小限のクリアランス
・設計クリアランス……建物竣工時に確保されていなければならないクリアランス
・施工クリアランス……設計クリアランスが竣工時に確保するために施工誤差等を考慮して施工者が定めるクリアランス

図1　クリアランスの構成

免震材料維持管理仕様書（竣工時検査までを本工事範囲とする）

特記なき限り時期、方法、点検箇所、管理値は日本免震構造協会「免震建物の維持管理基準-2022-」による。

1．建物竣工までの品質管理体制

建物が竣工するまでの免震装置の製造および現場据え付け、建物竣工までの工事中の品質管理および施工監理は以下の体制で実施する。

(1) 設計者，施工者，免震材料製造者
・免震材料仕様書　1. 一般事項による

(2)建物竣工までの品質管理体制
・免震材料仕様書　4. 施工・検査による

2. 建物竣工後の維持管理体制

(1) 点検の種別と実施時期

点検は目的に合わせて以下のように分類され、必要な時期に実施する。
各検査において、記録を残し、建物管理者が保管するものとする。

a.竣工時検査
実施者　：建物施工者

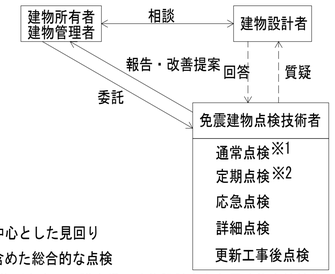
b.定期点検
通常点検：異常の早期発見のための目視点検（年1回）
実施者　：建物管理者（もしくは免震建物点検技術者）
定期点検：専門技術者による目視、計測（竣工後5、10年、以後10年毎）
実施者　：免震建物点検技術者

c.応急点検：大きな地震や暴風を受けた場合の点検
実施者　：免震建物点検技術者
実施時期
①　概ね気象庁震度階v弱以上の地震。
②　概ね平均風速30m/sを超える強風。
③　水害や火災が免震層に及んだ場合。

d.詳細点検
実施者　：免震建物点検技術者

(2) 維持管理体制

・維持管理は図2に示す体制で実施する。
・建物所有者は、建物設計者あるいは建物施工者から維持管理に関する提案を受け、建物管理者（建物所有者が兼ねる場合もある。以下同様）、免震建物点検技術者へ委託し、『定期点検』異常時の『応急点検』『詳細点検』を行う。建物管理者、免震建物点検技術者からの点検結果の報告を受け、必要に応じて改善などの処置を実施する。
・建物管理者は、地震、火災、水害などの応急点検の必要が生じた場合、免震建物点検技術者に連絡する。
・建物設計者は、建物所有者からの依頼によって、その代理人として相談などを含め維持管理に協力する。
・免震建物点検技術者は、点検を実施した点検結果の判定を行い、結果を建物所有者・建物管理者に報告する。災害発生時には建物管理者からの連絡の有無にかかわらず応急点検の必要性を判断し、建物所有者・建物管理者の承認のもとに応急点検を実施し、必要に応じて詳細点検を実施し、改善処置を提案する。



※1　目視を中心とした見回り
※2　計測を含めた総合的な点検
※3　－＞は建物所有者の承諾を得て建物設計者と免震建物点検技術者が直接やり取りする場合想定

図2　維持管理体制

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	32	免震材料特記仕様書（1）	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

(a)竣工時検査要領

位置			点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置
免震材料	積層ゴム支承	NRB100 HDR100 HDR110 HDR120	被覆ゴムの外観	変色	目視	全数	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処
				傷	目視 計測		深さd<被覆ゴム厚さ	管理値以内：補修 管理値以上：調査
			取付部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処
			積層ゴムの変位	鉛直・水平変位	計測		±5mm以下	調査のうえ対処
				水平精度	計測		1/400以下	初期値計測
	すべり支承		すべり板	汚れ、異物	目視	全数	摩擦面に有害な汚れ、異物の付着	汚れ、異物の除去
				発錆、傷	目視 計測		摩擦に影響を与える錆、傷の有無	錆、傷の除去
			鋼材部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				ボルト・ナット	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処
			装置の変位	鉛直・水平変位	計測		±5mm以下	調査のうえ対処
				水平精度	計測		1/500以下	初期値計測
	転がり支承		転がり面	汚れ・異物付着	目視	全数	異常がない、異物の付着がない	調査のうえ対処
				発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない グリースの充填確認	塗装の修復
				傷	目視		損傷がない	補修・取替え
			鋼材部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				ボルト・ナット	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処
			装置の変位	鉛直・水平変位	計測		±5mm以下 可動長が設計クリアランス以上あること	調査のうえ対処 初期値計測
				水平精度	計測		1/500以下	
				ねじれ角度	計測		1/200以下	
	履歴系ダンパー		鋼材ダンパーの外観	本体	目視	全数	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処
				発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			鉛ダンパーの外観	表面亀裂	目視		亀裂が見当たらない	調査のうえ対処
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			装置の変位	水平変位	計測		±5mm以下	調査のうえ対処 初期値計測
				水平精度	計測		傾き1/300以下 反り1/400以下かつ4mm以下	
			可動範囲	躯体等との接触	目視		上下変位で躯体と接触しない	調査のうえ対処
	流体系ダンパー		ピストンロッドの外観	本体	目視	全数	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処
				発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	補修の修復
				取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			オイル	油漏れ	目視		滴下がない	メーカーへ問い合わせ
			減衰	減衰係数	確認		製品検査時に数値確認	
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			ピストンロッドの変位	鉛直・水平変位	計測		±5mm以下	調査のうえ対処 初期値計測
				水平精度	計測		傾き1/300以下 反り1/400以下かつ4mm以下	

(a)竣工時検査要領（つづき）

位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置
免震層・建物外周部	建物	周辺環境	クリアランス	計測 目視	外周 免震層	既定の寸法（設計クリアランス）を確保している 可動範囲内に障害物がない エキスパンション状況確認	整備・除去 初期値計測
			位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認
			建物位置	計測		位置確認	初期値計測
			不同沈下	計測		レベル確認	
	EXP.J	EXP.J	位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認
			可動・作動状況	目視		可動範囲内に障害物がない 可動部にいびつな変形がない	調査のうえ対処
			取付部	目視		発錆・傷・亀裂・損傷がない	
	設備配管 配線免震材料	周辺状況	障害物	目視	免震層	可動範囲内に障害物がない	整備・除去
			可燃物	目視		可燃物がない	
			排水状況	目視		排水状況がよい	調査のうえ対処
設備配管・配線可トウ部	設備配管	可トウ部	液体漏れ	目視	免震層	異常がない	管理者に報告
		継手部	傷・亀裂	目視		傷・亀裂がない	
	電気配線	変位	余長	確認		十分な余長がある	
		吸収部	アース	確認		設置確認	
その他	表示	表示板		確認	建物	設置確認	設置
	けがき式変位計	けがき板・変位計		確認	建物	設置確認	設置

(b)通常点検要領

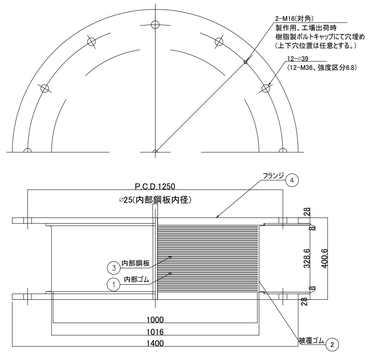
位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置
その他	表示	表示板		確認	建物	設置確認	設置
	けがき式変位計	けがき板・変位計		確認	建物	設置確認	設置
免震層・建物外周部	建物	周辺環境	位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認
			建物位置	計測		施工時より±50mm程度	計測
			不同沈下	計測		施工時同等程度	必要に応じて計測

(c)定期検査要領

位置			点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置
免震材料	積層ゴム支承	NRB100 HDR100 HDR110 HDR120	積層ゴムの変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直-5%程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/400程度	
	すべり支承		装置の変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直-5%程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/500程度	
	転がり支承		装置の変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/500程度	
				ねじれ角度	計測		1/200程度	
	履歴系ダンパー		装置の変位	水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		傾き1/300程度 反り1/400程度かつ4mm程度	
	流体系ダンパー		ピストンロッドの変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		傾き1/300程度 反り1/400程度かつ4mm程度	
免震層・建物外周部	建物		周辺環境	位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認
				建物位置	計測		施工時より±50mm程度	計測
				不同沈下	計測		施工時同等程度	必要に応じて計測
その他	表示		表示板		確認	建物	設置確認	設置
	けがき式変位計		けがき板・変位計		確認	建物	設置確認	設置

高減衰ゴム系積層ゴム支承 （認定番号：MVBR-0510/0519）

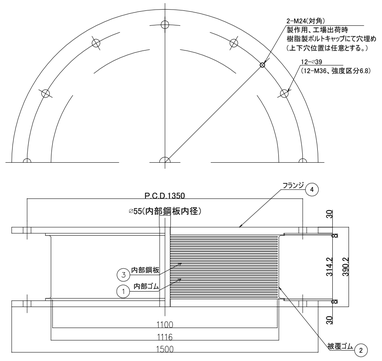
符号 ： HRB100（HS100X4S）



重量 1.77ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	符号	HRB100			
	記号	HS100X4S			
①		内部ゴム	ー	高減衰ゴム	6.7t×30層 ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：X0.4S
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	8.0t ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：被覆ゴム
③		内部鋼板	29	SS400	4.4t
④		フランジ	2	SM490A	36.0t

符号 ： HRB110（HH110X4S）

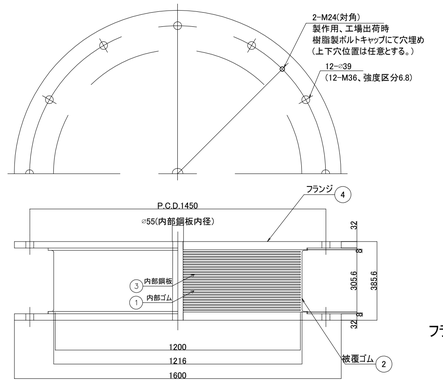


重量 1.77 ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	製品番号	HRB110			
	記号	HH110X4S			
①		内部ゴム	ー	高減衰ゴム	7.4t×27層 ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：X0.4S
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	8.0t ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：被覆ゴム
③		内部鋼板	26	SS400	4.4t
④		フランジ	2	SM490A	38.0t

ばらつき		Keq(+側)	Heq(+側)	Keq(−側)	Heq(−側)
	製造ばらつき	+10.0%	−10.0%	−10.0%	+10.0%
	経年変化	+10.0%	−10.0%		
	温度変化	+21.0%	+7.0%	−16.0%	−12.0%
	合計	+41.0%	−13.0%	−26.0%	−2.0%

符号 ： HRB120（HH120X4S）

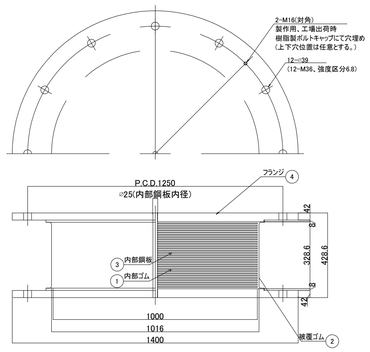


重量 2.38 ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	製品番号	HRB120			
	記号	HH120X4S			
①		内部ゴム	ー	高減衰ゴム	8.0t×25層 ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：X0.4S
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	8.0t ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：被覆ゴム
③		内部鋼板	24	SS400	4.4t
④		フランジ	2	SM490A	40.0t

天然ゴム系積層ゴム支承 ※下記のいずれかによる

認定番号：MVBR-0509/0518

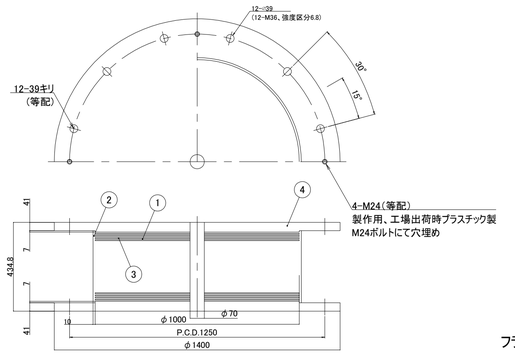


重量 2.11ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	製品番号	NRB100			
	記号	NS100G4			
①		内部ゴム	ー	天然ゴム	6.7t×30層 ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：G0.40
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	8.0t ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ規格：被覆ゴム
③		内部鋼板	29	SS400	4.4t
④		フランジ	2	SM490A	50.0t

ばらつき		Kh(+側)	Kh(−側)
	製造ばらつき	+15.0%	−15.0%
	経年変化	+10.0%	
	温度変化	+ 6.0%	− 5.0%
	合計	+31.0%	−20.0%

認定番号： MVBR-0305

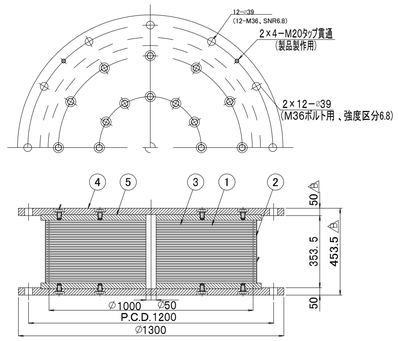


重量 2.12 ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	製品番号	NRB100			
	記号	RB-R-4100			
①		内部ゴム	ー	天然ゴム	6.0t×33層 (G4)
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	10.0t
③		内部鋼板	32	SS400	4.4t
④		フランジ	2	SS400	48.0t

ばらつき		Kh(+側)	Kh(−側)
	製造ばらつき	+15.0%	−15.0%
	経年変化	+10.0%	
	温度変化	+ 5.6%	− 5.3%
	合計	+30.6%	−20.3%

認定番号：MVBR-0615



重量 2.3 ton
フランジ部の防錆処理：溶融亜鉛めっき

符号	記号	名称	数量	材質	備考
	製品番号	NRB100			
	記号	R40-1000-7.5×26			
①		内部ゴム	ー	天然ゴム	7.5t×26層 (G=0.39 N/mm²)
②		被覆ゴム	ー	合成ゴム	5.0t
③		内部鋼板	25	SS400	4.5t
④		フランジ	2	SS400	50.0t
⑤		連結鋼板	2	SS400	28.0t

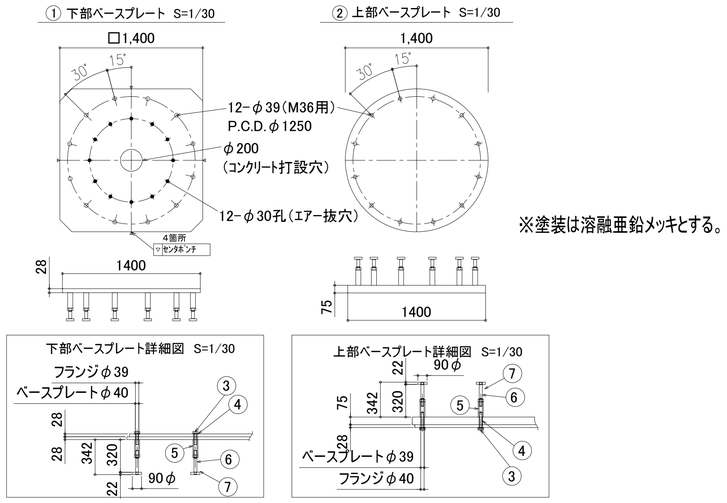
ばらつき		Kh(+側)	Kh(−側)
	製造ばらつき	+15.0%	−15.0%
	経年変化	+10.0%	
	温度変化	+ 5.0%	− 5.0%
	合計	+30.0%	−20.0%

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	34	免震材料リスト（1）	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

高減衰ゴム系積層ゴム支承（認定番号 ： MVBR-0510/0519）

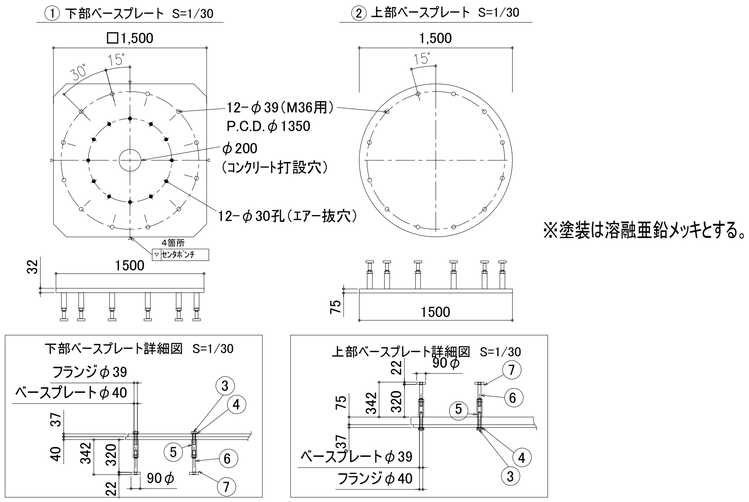
符号 ： HRB100（HS100X4S）



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

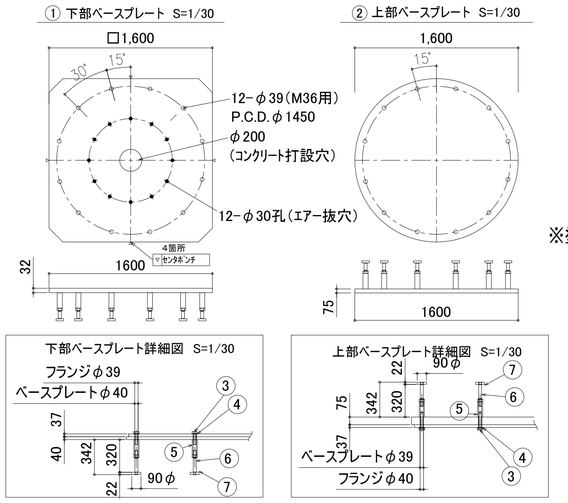
符号 ： HRB110（HH110X4S）



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

符号 ： HRB120（HH120X4S）

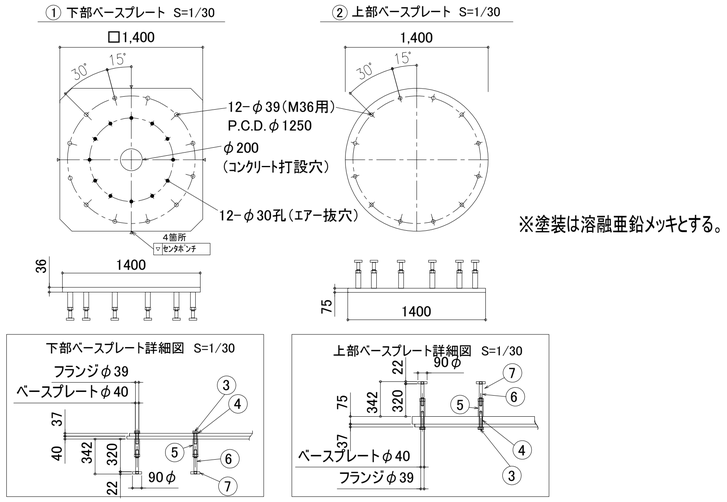


※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

天然ゴム系積層ゴム支承（NRB100）

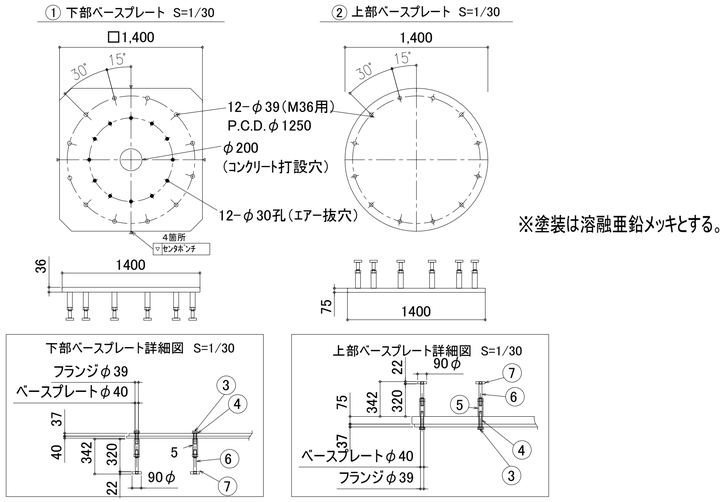
記号 :NS100G4



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

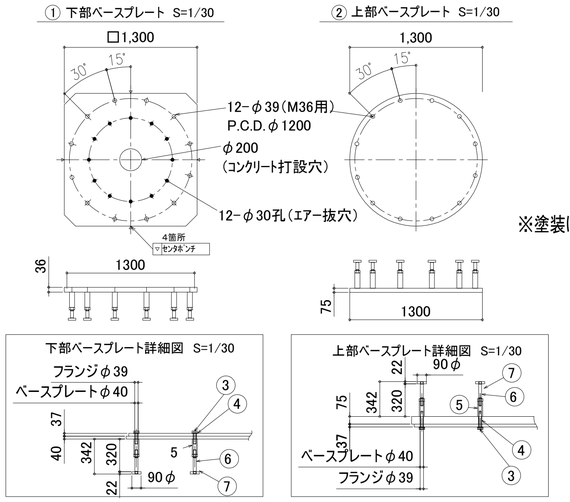
記号 :RB-R-4100



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

記号 :R40-1000-7.5×26



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36×100	12(片側)	6.8	HDZ35
④	座金　M36用	12(片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55×180×M36	12(片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36×320	12(片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ×22t×M36	12(片側)	SM490	

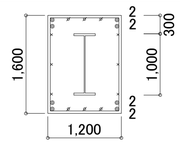
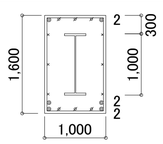
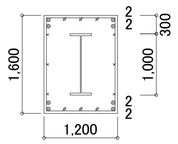
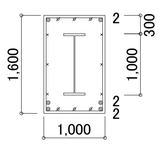
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	35	免震材料リスト（2）	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

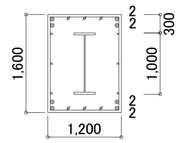
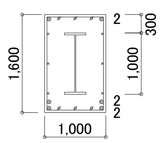
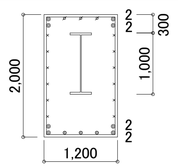
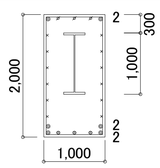
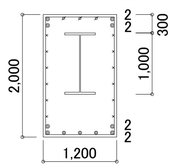
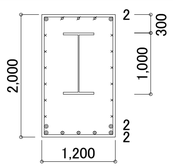
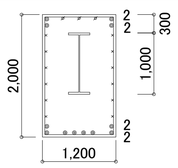
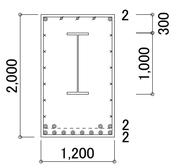
20230220

大梁リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）
- スターラップは □-D16@200 とする。
- 腹筋は 10-D13, 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- Y方向の主筋を上側に配筋する。
- カットオフ長さは Lo/4+15d以上（Lo:内法スパン）とする。
- HYは外法一定H形鋼を、BHはビルドH形鋼を示す。
- 主筋間隔が300を超える場合、D16@300を追加する。

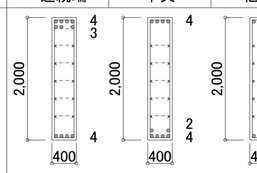
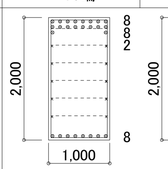
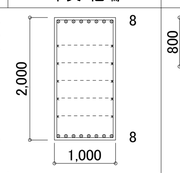
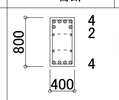
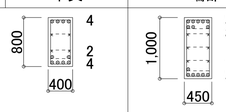
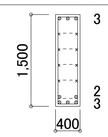
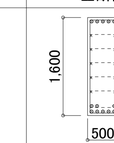
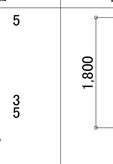
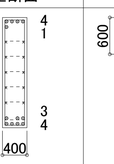
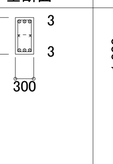
凡 例
スターラップ 4-D13@200 は
右図 ▥-D13@200 を示す。

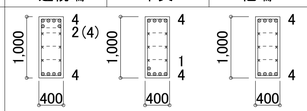
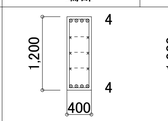
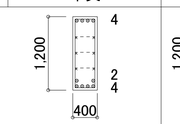
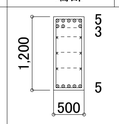
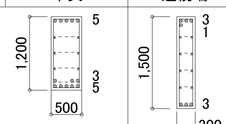
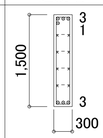
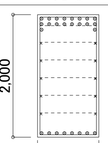
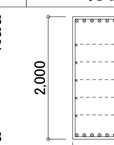
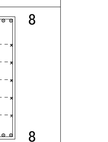
符号		G1		G2				
1階	位置	端部	中央	端部	中央			
	断面							
	上端筋	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32			
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32	4-D32			
	スターラップ							
	腹 筋	6-D13		6-D13				
	鉄骨梁	HY-1000x350x19x32（SN490B）		HY-1000x350x19x32（SN490B）				
	備考							

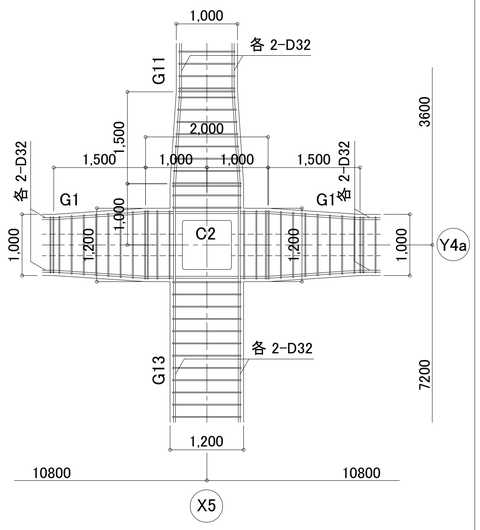
符号		G11		G11A		G12		G13		
1階	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	
	断面									
	上端筋	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32	
	下端筋	4-D32	4-D32	4-D32+3-D25（補助筋）	4-D32+3-D25（補助筋）	4-D32+3-D25（補助筋）	4-D32+3-D25（補助筋）	4-D32+4-D32（補助筋）	4-D32+8-D32（補助筋）	
	スターラップ									
	腹 筋	6-D13								
	鉄骨梁	HY-1000x350x16x32（SN490B）		HY-1000x350x16x32（SN490B）		BH-1000x500x22x36（SN490B）		HY-1000x350x19x32（SN490B）		
	備考			3-D25（補助筋）はパネルゾーンへの定着不要とする。		3-D25（補助筋）はパネルゾーンへの定着不要とする。		4-D32（補助筋）はパネルゾーンへの定着不要とする。		

小梁リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）
- スターラップは □-D13@200 とする。
- 腹筋は 10-D13, 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 土に接する梁下地業は捨てコンクリート ㋐50、砕石 ㋐60とする。
- カットオフ長さは Lo/4+15d以上（Lo:内法スパン）とする。

符号	fb1			fb3		b1		b2		b3	b4	b5	b6	b7
位置	連続端	中央	他端	Y5端	中央・他端	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面														
上端筋	7-D25	4-D25	4-D25	18-D25	8-D25	6-D25	4-D25	8-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	2-D22
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	8-D25	8-D25	4-D25	6-D25	6-D25	7-D25	5-D25	8-D25	8-D25	3-D25	2-D22
スターラップ				□-D16@150									□-D10@200	□-D10@200
腹 筋						4-D13		6-D13		8-D13			2-D13	6-D10
備 考	下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。（HDZT77）			下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。(HDZT77)										

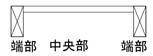
符号	b8			b9		b10		b11			cfb1	
位置	連続端	中央	他端	端部	中央	端部	中央	連続端	中央	他端	元端	先端
断面												
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	8-D25	5-D25	4-D25	3-D25	3-D25	18-D25	8-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25	5-D25	8-D25	3-D25	5-D25	3-D25	8-D25	8-D25
スターラップ								□-D10@200			□-D16@150	
腹 筋	6-D13			6-D13		6-D13		8-D10				
備 考	()付き数値はfb1と連続する端部の配筋を示す。										下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。(HDZT77)	



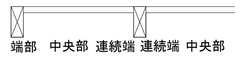
1階梁配筋要領図　1:50

地中小梁位置凡例

- 地中小梁リストに明記した位置は、下図による。



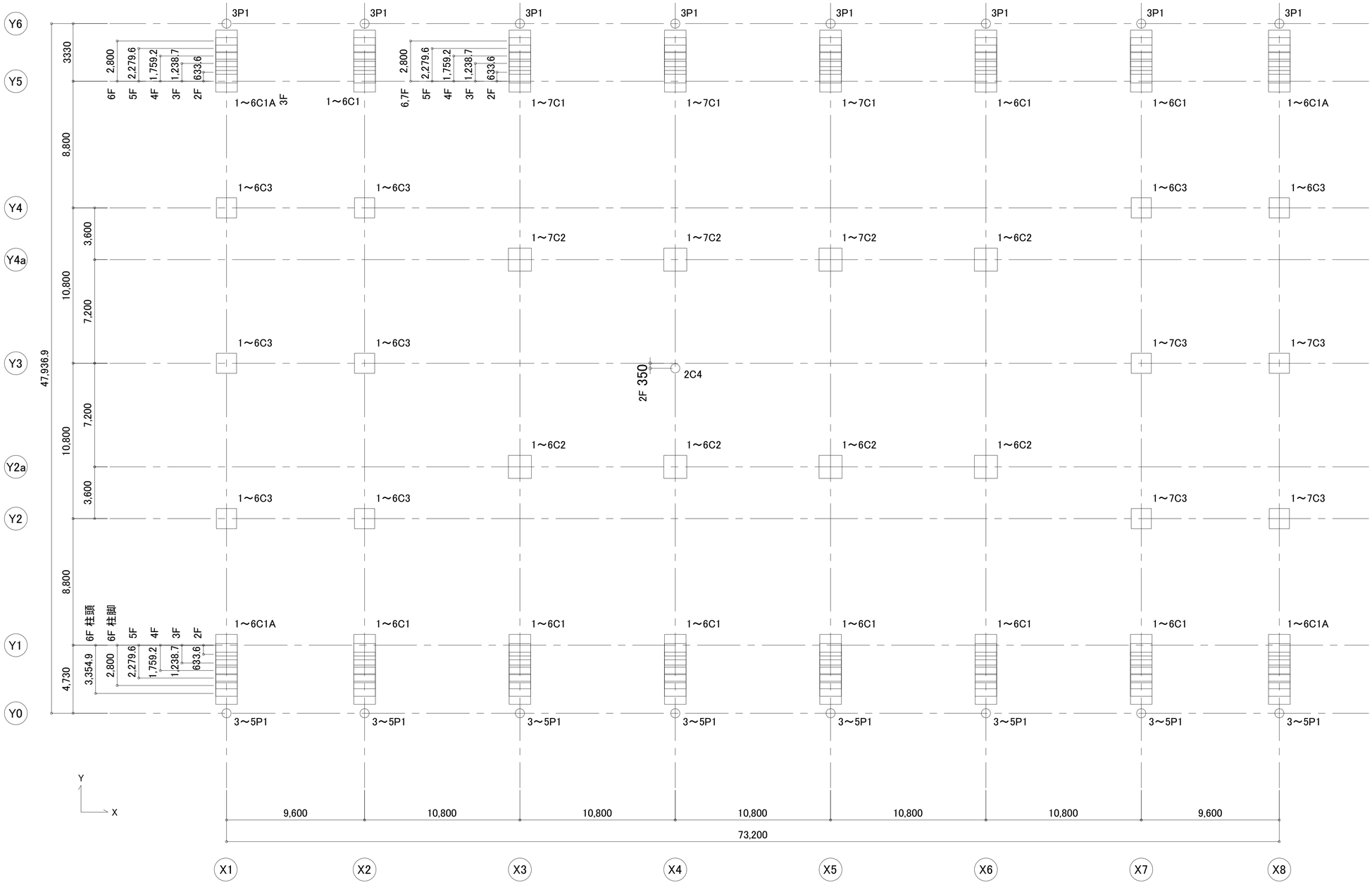
【単純梁】



【連続梁】

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	36	大梁・小梁リスト A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



柱芯線　1:75　1:150

共通事項（特記なき限り）

- 柱芯=通芯 とする。
-
-
-

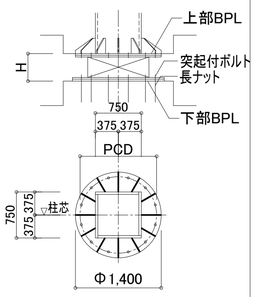
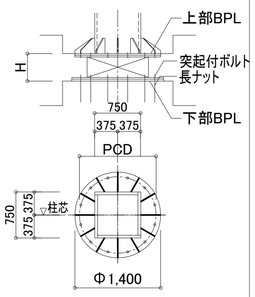
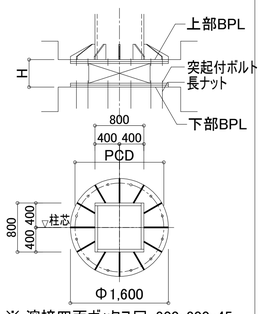
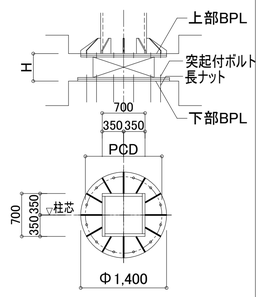
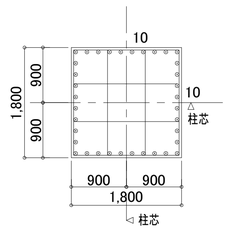
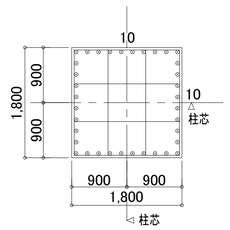
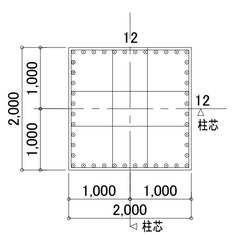
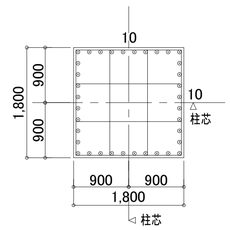
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	A1 1:75 A3 1:150
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	37	柱芯線図	A1 1:150 A3 1:300
		安井建築設計事務所	

最終版	2024.3.25
見積版	2024.3.25
最終契約版	

20230220

鉄骨柱 リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）
- 角形鋼管は BCP325（大臣認定品） とする。
- 通しダイアフラム材質は SN490C、内ダイアフラム材質は SN490B とする。
- ダイアフラム等板厚が40mmを超える場合は TMCP鋼（大臣認定品）を用いる。
- 外部に面する部材は 溶融亜鉛メッキ 550 g／m 以上とする。

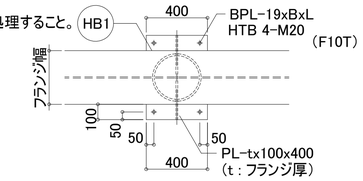
符号	C 1	C1A	C 2	C 3	C 4	P 1
7 階	□-750x750x25		□-800x800x32	□-700x700x25		
6 階	□-750x750x28	□-750x750x28	□-800x800x32	□-700x700x28		
5 階	□-750x750x28	□-750x750x28	□-800x800x32	□-700x700x28		○-216.3x12.7（STKN400B）
4 階	□-750x750x32	□-750x750x32	□-800x800x32	□-700x700x32		○-216.3x12.7（STKN400B）
3 階	□-750x750x32	□-750x750x32	□-800x800x36	□-700x700x36		○-318.5x12.7（STKN400B）
2 階	□-750x750x36	□-750x750x36	□-800x800x36	□-700x700x36	○-318.5x12.7（STKN400B）	
1 階	□-750x750x36	□-750x750x40	□-800x800x36	□-700x700x36		
備 考						
ブラケット柱	 ※ 溶接四面ボックス□-750x750x45（TMCP325B）	 ※ 溶接四面ボックス□-750x750x45（TMCP325B）	 ※ 溶接四面ボックス□-800x800x45（TMCP325B）	 ※ 溶接四面ボックス□-700x700x50（TMCP325B）		
上部BPL（TMCP325C）	PL-75xΦ1400 ,PL-75xΦ1500	PL-75xΦ1400	PL-75xΦ1600	PL-75xΦ1400 ,PL-75xΦ1500	——	——
下部BPL（SN490C）	PL-28xΦ1400 ,PL-32xΦ1500	PL-36xΦ1400	PL-32xΦ1600	PL-28xΦ1400 ,PL-32xΦ1500	——	——
アンカーボルト	12-M36	12-M36	12-M36	12-M36	——	——
リブPL	PL-22 , h=250 （SN490B）	PL-22 , h=250 （SN490B）	PL-25 , h=250 （SN490B）	PL-22 , h=250 （SN490B）		
柱 脚 根巻き						
立上り筋	36-D25	36-D25	44-D25	36-D25		
フープ筋	4-D16@100	4-D16@100	4-D16@100	4-D16@100		
備 考						

鉄骨間柱 リスト 1:50

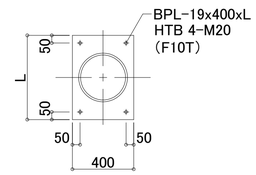
共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SN400A とする。
- ボルトは 高力ボルト（HTB）F10T、メッキボルトはF8T とする。
- ガセットプレートは 母材と同材質 とする。

符号	sp17	sp19	sp25	sp20w		
部材メンバー	H-175x175x7.5x11	H-194x150x6x9	□-250x250x6	H-200x200x8x12		
鋼材種別	——	——	STKR400	——		
ガセットプレート（t x B x D）	PL-9x80x150	PL-9x140x150	——	PL-9x140x150		
高力ボルト（m x n）	2-M20（1 x 2）	4-M16（2 x 2）	——	4-M20（2 x 2）		
柱脚	——	——	露出柱脚	——		
ベースプレート	——	——	BPL-16×300×410	——		
アンカーボルト	——	——	4-M20	——		
備 考	上部アルミパネル支持材詳細図による	sp19取合い詳細図による	EV受けポスト	鉄骨階段詳細図による		

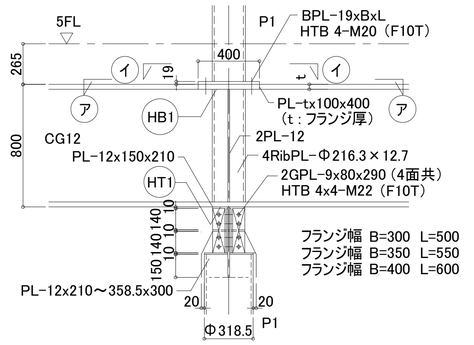
余盛はG処理すること。



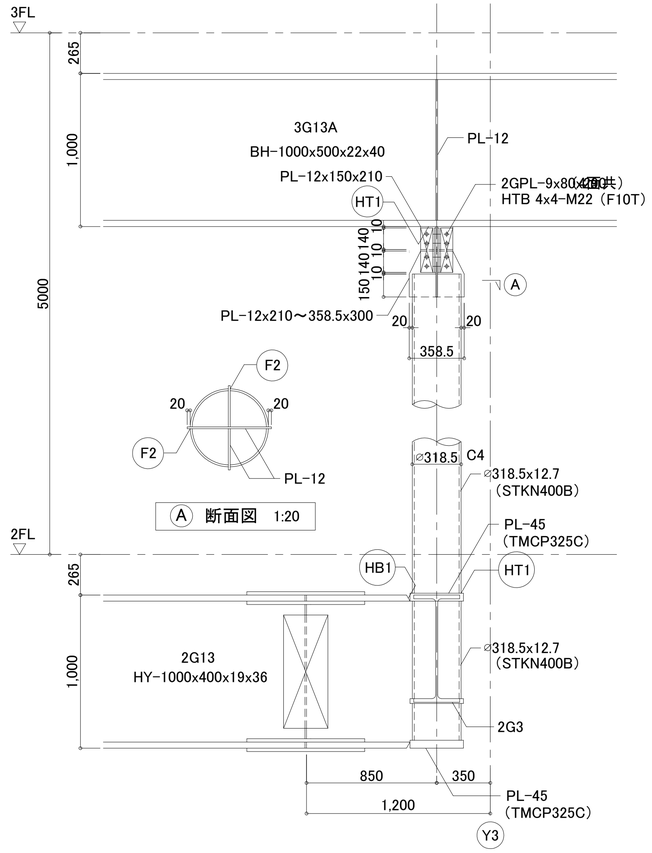
ア ア 断面図 1:20



イ イ 断面図 1:20



P1 支柱取付要領図 1:20



A 断面図 1:20

C4 支柱取付要領図 1:20

特記なき限り、鋼材種別は SN490B とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 A1 1:20 A3 1:40	最終版 2024. 3. 25
	38	柱, 間柱リスト・各部詳細図 A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

鉄骨大梁リスト

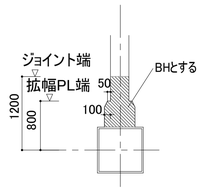
共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SN490B とする。（※）付きはSN400Bとする。
- H-はJISH形鋼、HY-は外法一定H形鋼、BH-はビルドH形鋼を示す。
- 外部に面する部材は 溶融亜鉛メッキ550 g／m²以上とする。
-

符号	G 1		G 2		G2A		G2B		G 3		G11		G11A		G12	
R 階	全断面	H-700x300x13x24（※）	全断面	H-700x300x14x28		――		――		――	全断面	H-700x300x13x24		――		――
7 階	全断面	H-800x300x14x26	全断面	H-800x300x14x26	全断面	HY-800x350x14x25	全断面	HY-800x350x14x25		――	全断面	HY-800x350x16x28		――		――
6 階	端 部	HY-800x300x16x28	端 部	HY-800x300x16x32	X3・X6端	HY-800x350x16x28	端 部	HY-800x350x16x28		――	端 部	HY-800x350x16x36		――		――
	中 央	HY-800x300x16x25	中 央	HY-800x300x16x28	中央・他端	HY-800x350x16x25	中 央	HY-800x350x16x25			中 央	HY-800x350x16x32				
5 階	全断面	HY-800x350x16x28	端 部	HY-800x350x16x32	全断面	HY-800x350x14x28	全断面	HY-800x400x16x32		――	端 部	HY-800x350x16x36		――		――
			中 央	HY-800x350x16x28							中 央	HY-800x350x16x32				
4 階	端 部	HY-800x350x16x32	端 部	HY-800x350x16x36	全断面	HY-800x350x14x28	全断面	HY-800x400x16x32		――	端 部	HY-800x400x16x32		――		――
	中 央	HY-800x350x16x28	中 央	HY-800x350x16x32							中 央	HY-800x400x16x28				
3 階	端 部	HY-800x350x16x36	端 部	HY-800x350x16x36	全断面	HY-800x350x14x28	全断面	HY-800x400x16x32		――	端 部	HY-800x400x16x36	端 部	BH-800x400x19x36		――
	中 央	HY-800x350x16x32	中 央	HY-800x350x16x32							中 央	HY-800x400x16x32	中 央	HY-800x400x19x32		
2 階	端 部	HY-800x350x16x36	端 部	HY-800x350x16x36	全断面	HY-800x350x14x28	端 部	HY-1000x350x19x36	全断面	HY-800x350x14x28	端 部	HY-1000x350x19x32		――	端 部	HY-1000x350x19x36
	中 央	HY-800x350x16x32	中 央	HY-800x350x16x32			中 央	HY-1000x350x19x32			中 央	HY-1000x350x19x28			中 央	HY-1000x350x19x32
備 考																

符号	G13		G13A		G13B		G14		G14A		CG1		CG11		CG12	
R 階		――		――		――	全断面	HY-900x350x16x28	全断面	HY-900x400x19x36			全断面	H-700x300x13x24		――
7 階	端 部	BH-1000x400x19x40		――		――	端 部	HY-1000x400x19x40		――			全断面	H-800x300x14x26	全断面	H-800x300x14x26
	中 央	HY-1000x400x19x36					中 央	HY-1000x400x19x36								
6 階	端 部	BH-1000x400x19x40		――		――	端 部	BH-1000x400x19x40		――	全断面	H-588x300x12x20	全断面	H-800x300x14x26	全断面	H-800x400x16x36
	中 央	HY-1000x400x19x36					中 央	HY-1000x400x19x36								
5 階	端 部	HY-1000x400x19x40	端 部	BH-1000x500x22x40		――	端 部	HY-1000x400x19x40	端 部	BH-1200x450x22x40	全断面	H-588x300x12x20	全断面	HY-800x300x16x32	全断面	H-800x400x16x36
	中 央	HY-1000x400x19x36	中 央	BH-1000x500x22x36			中 央	HY-1000x400x19x36	中 央	BH-1000x450x22x36						
4 階	端 部	HY-1000x400x19x40		――		――	端 部	HY-1000x400x19x40		――	全断面	H-588x300x12x20	全断面	HY-800x350x16x32	全断面	H-800x400x16x32
	中 央	HY-1000x400x19x36					中 央	HY-1000x400x19x36								
3 階		――	全断面	BH-1000x500x22x40	端 部	HY-1000x400x19x36	端 部	HY-1000x400x19x40	端 部	BH-1000x500x22x40	全断面	H-588x300x12x20	全断面	HY-800x350x19x32	元 端	H-1000x400x16x32
					中 央	HY- 850x400x19x36	中 央	HY-1000x400x19x36	中 央	BH-1000x500x22x36					先 端	H- 800x400x16x32
2 階	端 部	HY-1000x400x19x40		――	端 部	HY-1000x400x19x40	端 部	HY-1000x400x19x40		――	全断面	H-588x300x12x20	全断面	H-588x300x12x20		――
	中 央	HY-1000x400x19x36			中 央	HY- 850x400x19x36	中 央	HY-1000x400x19x36								
備 考																

梁端部拡幅要領 1:30

共通事項（特記なき限り）
- 適用部位は下記の上フランジ部とする。
- 7階 G13
- 6階 G13
- 6階 G14
- 3階 G11A

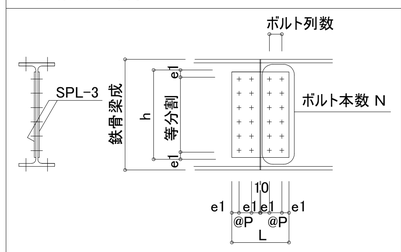


鉄骨継手リスト（フランジ・ウェブ）

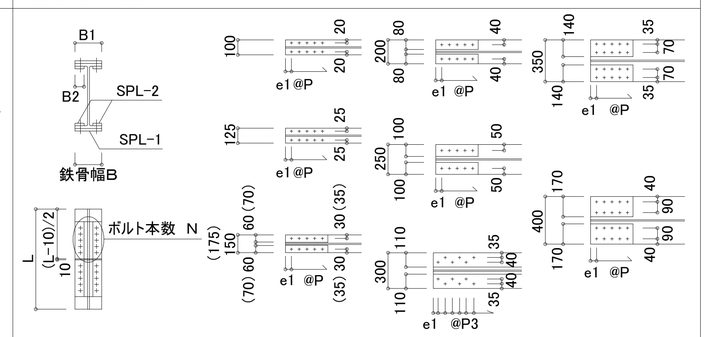
共通事項（特記なき限り）
- スプライスプレートは 母材と同材質 とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキ部材については メッキボルト F8T とする。
- 継手は 原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。
- フィラープレートは SS400 とする。

材 質	部材メンバー（中央断面）	フランジ継手 ボルト 径	列	本数N	SPL-1 板厚	B1	SPL-2 板厚	B2	L	ウェブ継手 ボルト 径	列	本数N	SPL-3 板厚	h	L	備 考
SN490B	H-588x300x12x20	M22	チドリ4	20	12	300	16	110	530	M22	2	10	9	440	290	
	H-700x300x13x24	M22	チドリ4	14	19	300	19	110	710	M22	2	12	12	530	290	
	HY-700x300x14x28	M22	チドリ4	16	19	300	22	110	800	M22	2	12	12	530	290	
	H-800x300x14x26	M22	チドリ4	14	19	300	19	110	710	M22	2	14	12	620	290	
	HY-800x300x16x25	M22	チドリ4	14	19	300	19	110	710	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x300x16x28	M22	チドリ4	16	19	300	22	110	800	M22	2	18	16	560	290	P=90
	HY-800x350x14x25	M22	4	16	16	350	19	140	530	M22	2	14	12	620	290	P=90
	HY-800x350x14x28	M22	4	16	19	350	22	140	530	M22	2	14	12	620	290	
	HY-800x350x16x25	M22	4	16	16	350	19	140	530	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x350x16x28	M22	チドリ5	20	19	350	22	140	530	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x350x16x32	M22	チドリ6	24	22	350	22	140	620	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x400x16x32	M22	4	16	22	400	22	170	530	M22	2	18	16	560	290	片持ち梁3CG1のハンチ部に採用する。
	HY-800x350x19x32	M22	4	20	22	350	22	140	650	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x400x16x28	M22	4	20	16	400	19	170	650	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x400x16x32	M22	4	20	19	400	22	170	650	M22	2	18	16	560	290	
	HY-800x400x19x32	M22	4	24	19	400	22	170	770	M22	2	20	16	620	290	
	HY-800x400x19x36	M22	4	24	22	400	25	170	770	M22	2	20	16	620	290	
	HY-850x400x19x36	M22	チドリ4	16	22	400	25	170	530	M22	2	18	16	560	290	2・3G13Bのハンチ部に採用する。
	HY-850x400x19x40	M22	4	24	22	400	22	140	770	M22	2	20	16	620	290	
	HY-900x350x16x28	M22	4	16	19	350	19	140	530	M22	2	20	16	620	290	
	HY-900x400x19x36	M22	4	24	22	400	25	170	770	M22	2	22	16	680	290	
	HY-1000x350x19x28	M22	4	20	19	350	22	140	650	M22	2	24	16	740	290	
	HY-1000x350x19x32	M22	4	20	22	350	22	140	650	M22	2	24	16	740	290	
	HY-1000x400x19x36	M22	4	24	22	400	22	170	770	M22	2	24	16	740	290	
	HY-1000x400x19x40	M22	4	28	25	400	25	170	890	M22	2	28	16	860	290	
	BH-1000x450x22x36	M22	4	20	22	450	25	200	650	M22	2	22	16	680	290	5G14Aのハンチ部に採用する。
	BH-1000x500x22x36	M24	4	20	25	500	25	230	650	M24	2	24	16	740	290	
	BH-1000x500x22x40	M24	4	20	25	500	25	230	650	M24	2	24	16	740	290	
SN400B	H-588x300x12x20	M22	チドリ4	8	12	300	16	110	440	M22	1	7	9	440	170	
	H-700x300x13x24	M22	チドリ4	10	19	300	19	110	530	M22	1	9	9	560	170	

柱・梁 ウェブ継手



柱・梁フランジ継手



柱・梁・フランジ・ウェブ 共通

	e1	P	P3
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	39	鉄骨大梁・継手リスト	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

鉄骨二次部材リスト

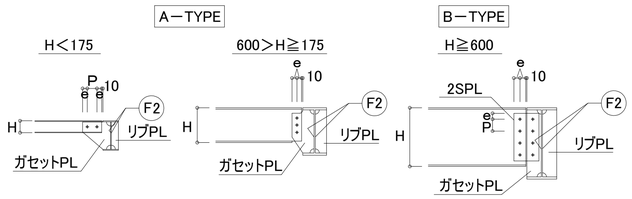
共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別　SN400A　とする。
- ボルト 特記なき限り 高力ボルト（HTB）F10T、メッキボルトは F8T とする。
- GPLは　母材と同材質とする。
- H-は JISH形鋼、HY-は 外法一定H形鋼を示す。
- 小梁継手TYPEは　A－TYPE　とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキ　550 g／m² 以上とする。
- 雨水のたまる部分には　水抜き穴を設ける事。（20φ@1500以内）
-

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート（GPL）	スプライスプレート（2-SPL）	備 考
sb14m	H-148x100x6x9	2-M16	PL-6		
sb15w	H-150x150x7x10	2-M20	PL-9		
sb15h	H-150x150x7x10	2-M20	PL-9		ヨコ使い
sb20s	H-200x100x5.5 x 8	2-M16	PL-6		
sb24m, csb24m	H-244x175x7x11	3-M20	PL-9		
sb25s	H-250x125x 6 x 9	2-M20	PL-9		
sb29m	H-294x200x 8x 12	3-M20	PL-9		
sb30s	H-300x150x6.5 x 9	2-M20	PL-9		
sb35s	H-350x175x 7 x11	4-M20	PL-9		
sb39m	H-390x300x10x16	4-M20	PL-12		
sb40s	H-400x200x 8 x13	4-M20	PL-9		
sb45s	H-450x200x 9 x14	5-M20	PL-12		
sb50s	H-500x200x10x16	5-M20	PL-12		2～6G11の片側のみ取付く場合、B-TYPEとする。
sb60s, csb60s	H-600x200x11x17	6-M20	PL-12		2～6G11の片側のみ取付く場合、B-TYPEとする。
sb58m, csb58m	H-588x300x12x20	6-M20	PL-16	PL- 9	B－TYPE
sb70	HY-700x250x12x19	7-M22	PL-16	PL- 9	B－TYPE
sb80	HY-800x250x14x22	8-M22	PL-16	PL- 9	B－TYPE
sb80m	H-800x300x14x26	8-M22	PL-16	PL- 9	B－TYPE
csb19m	H-194x150x6x9	－	－	－	上部アルミパネル受け詳細図参照
t1	[-150x75x6.5x10	3-M20	PL-9		大梁座屈止め部材
t2	2L-75x75x6	2-M20	PL-6		外周部ねじれ止め部材

小梁継手要領図　（リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする）

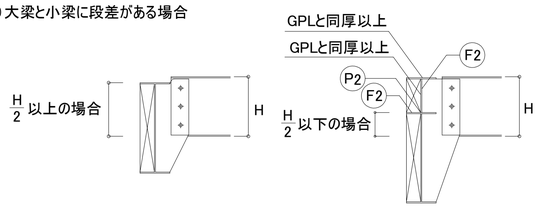
特記なき限り
- リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする。
- 座屈止め要領と仕様が異なる場合は、座屈止め要領を優先する。
- ガセットプレート形状については座屈止メ要領を考慮して定める。

（1）一般継ぎ手要領

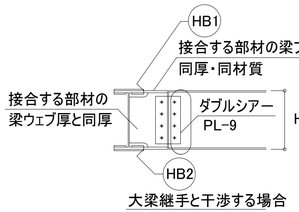


・ガセットプレートテーパー部形状は監督員の承諾を得て変更可

（2）大梁と小梁に段差がある場合



・大梁下端より小梁下端が下に来る場合も上記に準ずる。



大梁継手と干渉する場合

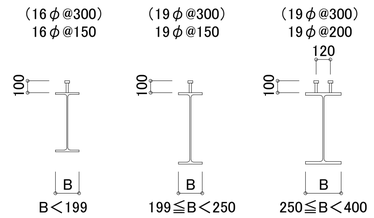
ボルトピッチ

共通事項（特記なき限り）
- 小梁・間柱・横座屈補剛等共通とする。

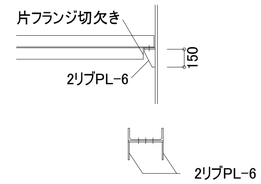
	M16	M20	M22
P	60	60	70
e	40	40	40

梁上端スタッドボルト要領（大梁・小梁）

特記外　1.コンクリート床を支持する梁上共通
2.（　）内は　小梁の場合を示す。



横使い小梁（wb）ガセットプレート要領

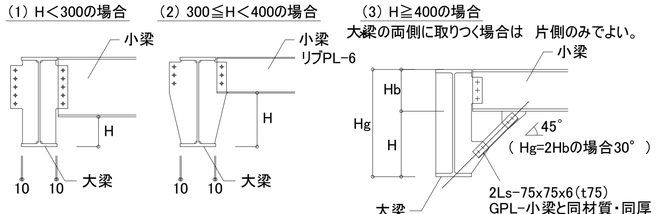


大梁座屈止め要領図

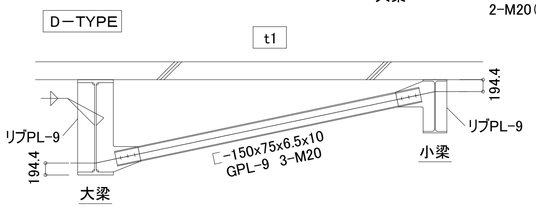
特記なき限り
- リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする。
- Hg：大梁せい，Hb：小梁せい　とする。

C－TYPE

（1）H＜300の場合　（2）300≦H＜400の場合　（3）H≧400の場合
大梁の両側に取りつく場合は　片側のみでよい。

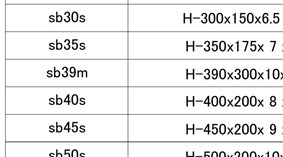


D－TYPE

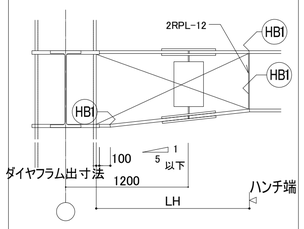


吊りフック要領図

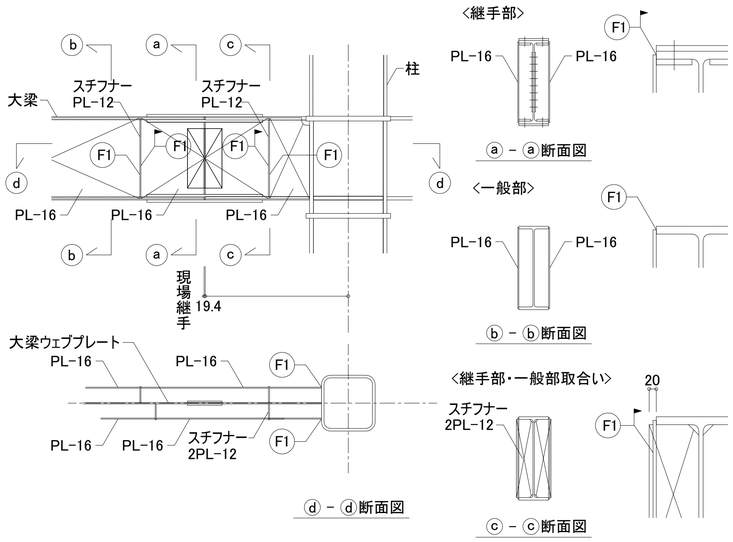
本図は 3ton用，5ton用 とする。
鋼材種別はSN400Aとする。
ESCA上部梁に4箇所設置する。
（3G13A,sb30s）2階1箇所、3階3箇所。



ハンチ継手要領図



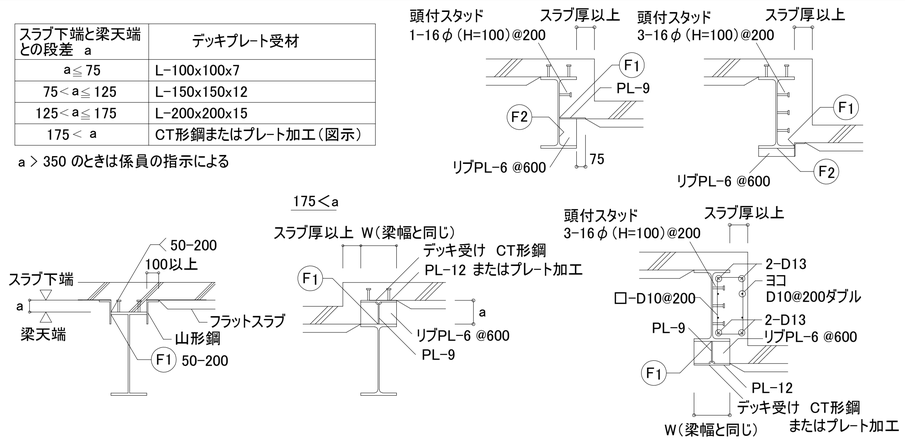
補強プレート要領図



梁段差かさ上げ材要領

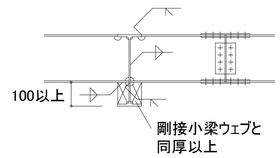
スラブ下端と梁天端との段差　a	デッキプレート受材
a≦ 75	L-100x100x7
75＜ a≦ 125	L-150x150x12
125＜ a≦ 175	L-200x200x15
175＜　a	CT形鋼またはプレート加工（図示）

a ＞ 350 のときは係員の指示による

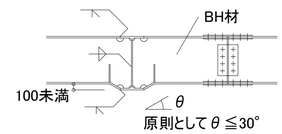


剛接小梁要領

直交する梁とのせいの差が100以上の場合



直交する梁とのせいの差が100未満の場合



明石市政策局　企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号 南浦　琢磨 〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号 構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号 田中　智	B	建築工事	最終版　2024. 3. 25
	40	鉄骨二次部材リスト	見積版　2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

（2023年版）

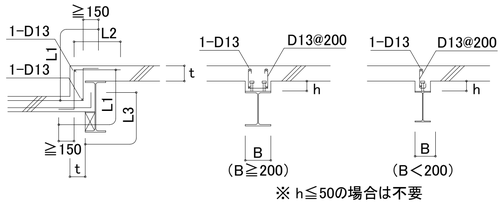
20230220

床版リスト

共通事項（特記なき限り）
- 直押え部分は　スラブ天端増打 ㋐10 とする。
- 土に接するスラブ下地業は 捨コンクリート ㋐50、砕石 ㋐ 60 とする。
- フロアヒンジ部については 部分については床を下げることで対応すること。

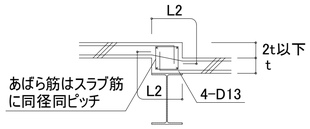
符　号	版　厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備　　考
FS1	250	上	D13 @150	D13 @150	
		下	D13 @150	D13 @150	
FS2	150	上	D10D13 @150	D10D13 @150	
		下	D10D13 @150	D10D13 @150	
FS3	300	上	D16 @150	D16 @200	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋
		下	D16 @150	D16 @200	(HDZT77)とする。
FS4	350	上	D16 @150	D16 @200	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋
		下	D16 @150	D16 @200	(HDZT77)とする。
FS5	400	上	D16 @150	D16 @150	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋
		下	D16 @150	D16 @150	(HDZT77)とする。
		上			
		下			
S16	150	上	D13 @125	D13 @150	
		下	D13 @125	D13 @150	
S17	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S18	150	上	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
S19	250	上	D16 @150	D10・D13 @150	
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
S20	250	上	D13 @150	D10・D13 @150	
		下	D13 @150	D10・D13 @150	
CS8	500	上	D19 @150	D13 @200	
		下	D19 @150	D13 @200	
CS9	250	上	D16 @150	D10・D13 @150	
		下	D16 @150	D10・D13 @150	
CS10	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	CS10短辺方向鉄筋は左記配筋または隣接する
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	スラブ配筋のうち鉄筋量が多いほうを採用する
DS1	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
DS2	150	上	D10・D13 @150	D10・D13 @150	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
DS3	150	上	D13 @150	D10・D13 @150	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D13 @150	D10・D13 @150	
DS4	150	上	D13 @200	D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D13 @200	D13 @200	
DS5	165	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	

鉄骨部分スラブ段差配筋要領



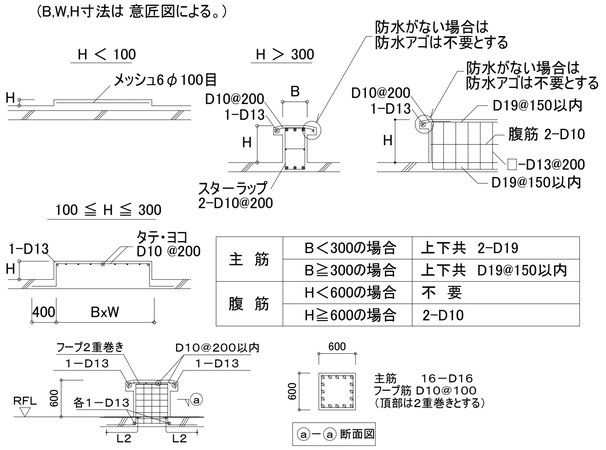
※ h≦50の場合は不要

※段差部は原則、低い方のスラブレベルに応じて梁を設けるものとする。
※小梁を介さず同一スパン内でスラブ高さが異なる場合は
　鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領(B)に準じる。



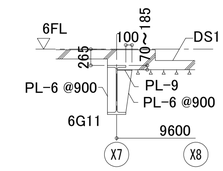
機械基礎配筋図　1:50

(B,W,H寸法は 意匠図による。)

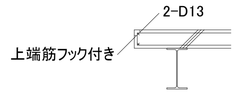


主　筋	B＜300の場合	上下共　2-D19
	B≧300の場合	上下共　D19@150以内
腹　筋	H＜600の場合	不　要
	H≧600の場合	2-D10

展望テラス部（長辺側）納り要領図　1:50

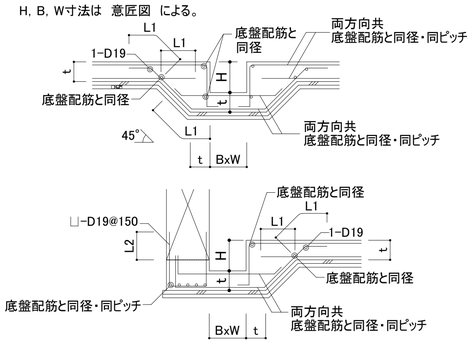


鉄骨造スラブ小口配筋要領　1:50



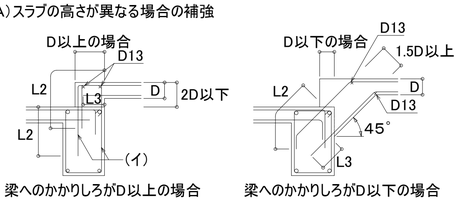
釜場配筋要領図　1:50

H, B, W寸法は　意匠図　による。



鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領

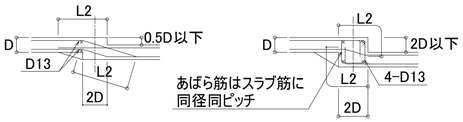
(A)スラブの高さが異なる場合の補強



梁へのかかりしろがD以上の場合　　梁へのかかりしろがD以下の場合

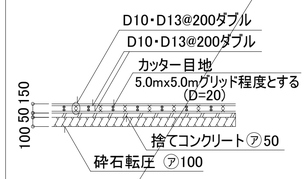
(イ)はスラブ端部上端筋と同径、同間隔とする。

(B)同一スパン内でスラブの高さが異なる場合の補強

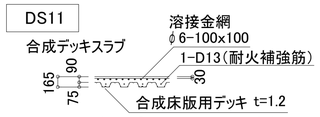


土間コンクリート配筋図　1:50

(注:Fc18とする。)
※構造スラブと接する箇所は
目地(意匠図参照)を設けること。



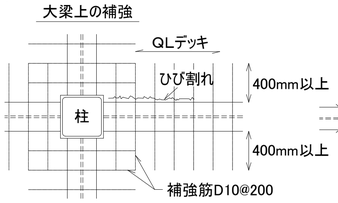
DS11



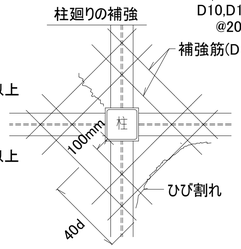
＊材料：合成スラブ工業会会員の製造する製品とする。
＊材質：SDP2G(Z12)
＊耐火性能：2時間耐火認定品
＊その他：デッキ厚さは スパン・荷重に応じて最終決定すること。

合成スラブ範囲の補強要領

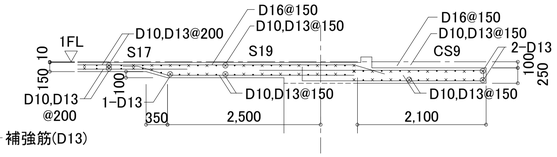
大梁上の補強



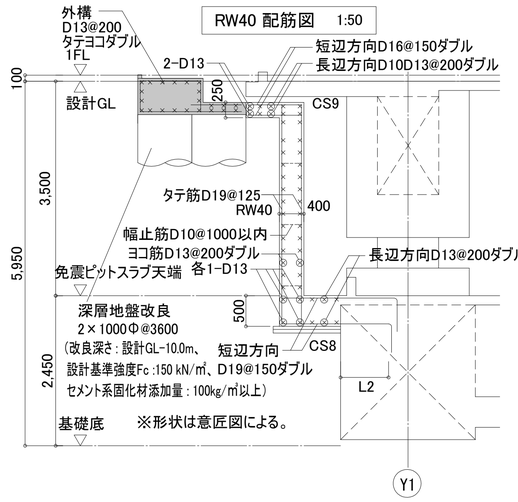
柱廻りの補強



S17,S19,CS9取合い部配筋要領図　1:50



RW40 配筋図　1:50



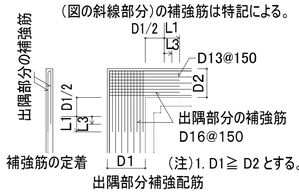
壁リスト　1:50

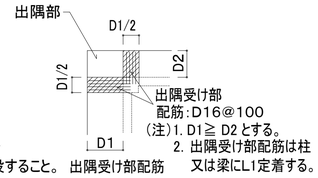
特記なき限り
- 巾止筋は　タテヨコ共　D10@1000以下　とする。

符　号		W15	W18	W20
壁 厚(mm)		150	180	200
断　面 (鉛直断面)		150	180	200
縦　筋		D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル
横　筋		D13 @200 ダブル	D10D13 @200 ダブル	D10D13 @200 ダブル
壁開口部 補強筋	縦筋	2-D13	4-D13	4-D13
	横筋	2-D13	4-D13	4-D13
	斜筋	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル
備　考		バルコニー腰壁		

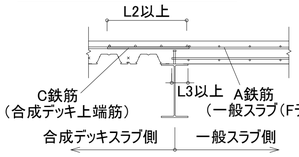
1階片持ちスラブの出隅、入隅の補強配筋要領

補強の配筋および出隅受け部分
(図の斜線部分)の補強筋は特記による。





デッキスラブ取合い要領図



※C鉄筋は梁フランジ全面まで配筋すること。
また、A鉄筋は合成デッキ部に定着すること。
なお、直交方向の配筋についても同様とする。

床型枠用鋼製デッキプレート仕様

注)フラットデッキは「フラットデッキ建設技術評価取得品」とする。

- スラブ段差がある箇所は「普通型枠」を使用してもよい。
- 受注者に施工に先立ち、施工の安全性を確保すること。

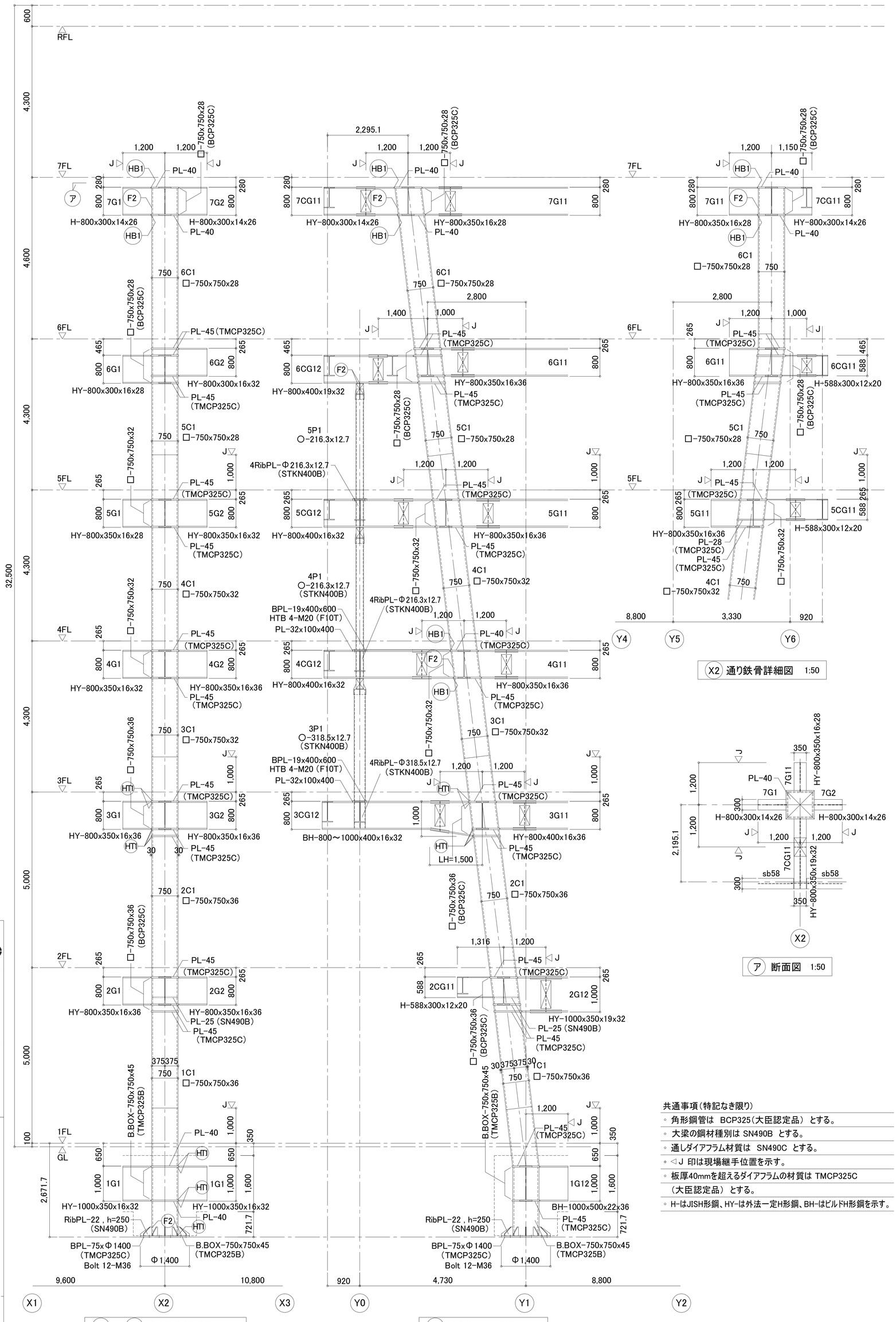
＜リブ高さ75の場合＞

スパンL※	デッキプレート厚さ t
L ≦ 2.4m	t=0.8mm
2.4m＜ L ≦ 2.7m	t=1.0mm
2.7m＜ L ≦ 2.9m	t=1.2mm
2.9m＜ L ≦ 3.1m	t=1.6mm

- ※スパンL=スラブ短辺方向寸法=フラットデッキ支持方向寸法を示す。
- スパンL>3.1mの場合 ペコビームなど仮設材を用いてコンクリートを打設すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	41	床版リスト・各部取合図 A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

(2023年版)　　20230220



共通事項（特記なき限り）

- 角形鋼管は BCP325（大臣認定品） とする。
- 大梁の鋼材種別は SN490B とする。
- 通しダイアフラム材質は SN490C とする。
- ◁J 印は現場継手位置を示す。
- 板厚40mmを超えるダイアフラムの材質は TMCP325C（大臣認定品） とする。
- H-はJISH形鋼、HY-は外法一定H形鋼、BH-はビルドH形鋼を示す。

明石市政策局 企画・調整室

〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第72090号 南浦 琢磨

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智

明石市役所新庁舎建設工事

B 建築工事

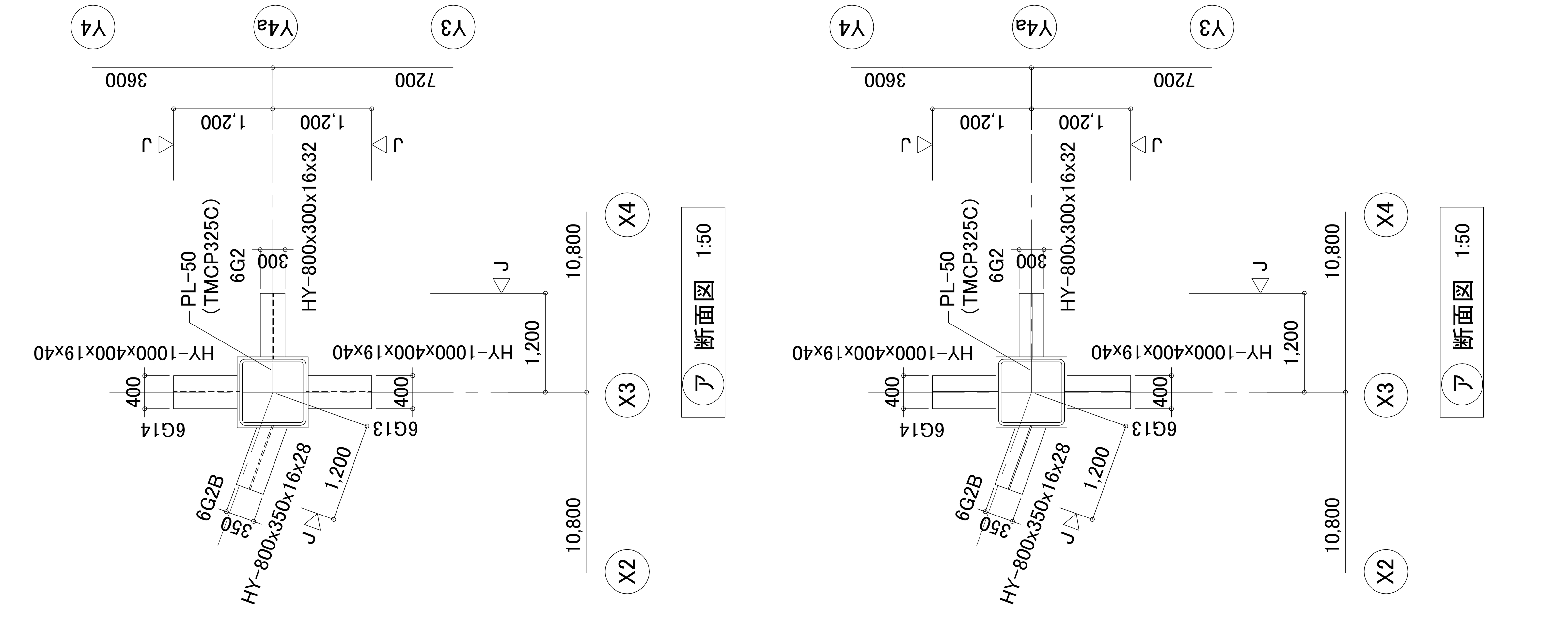
42 鉄骨架構詳細図（1）

A1 1:50 A3 1:100

安井建築設計事務所

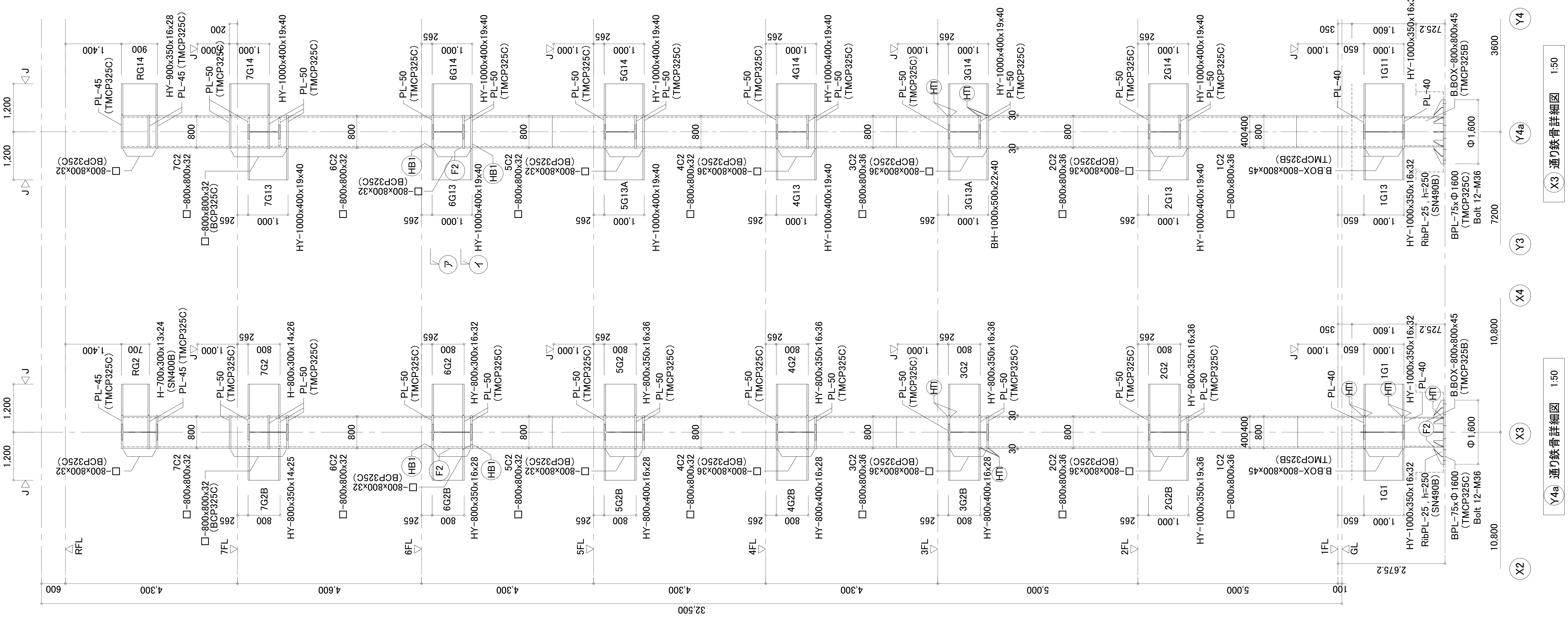
最終版	2024.3.25	
見積版	2024.3.25	
最終発行版		

20220220



共通事項（特記なき限り）

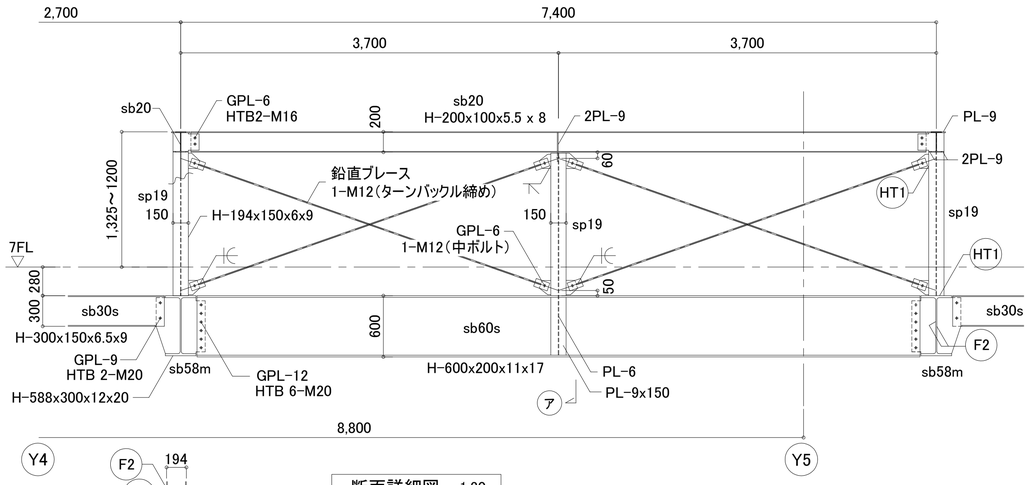
- ○ 角形鋼管は BCP325（大臣認定品） とする。
- ○ 大梁の鋼材種別は SN490B とする。
- ○ 通しダイアフラム材質は SN490C とする。
- ○ ▽J 印は現場継手位置を示す。
- ○ 板厚40mmを超えるダイアフラムの材質は TMCP325C（大臣認定品） とする。
- ○ H-はJISH形鋼、HY-は外法一定H形鋼、BH-はビルドH形鋼を示す。

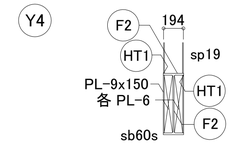


明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	43	鉄骨架構詳細図（2） A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

マシンハッチ上部詳細図 1:30





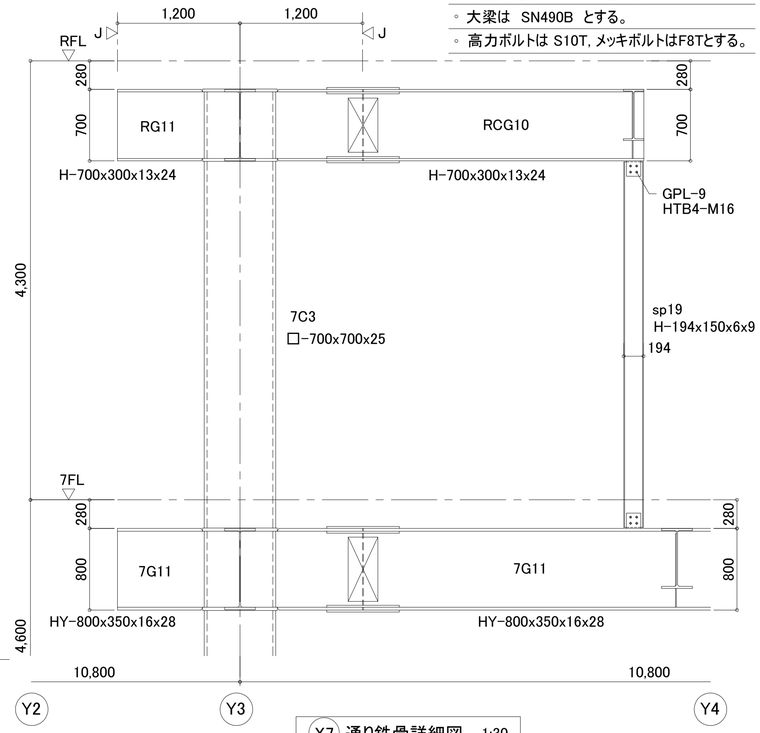
ア 断面図 1:30

断面詳細図 1:30

共通事項(特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

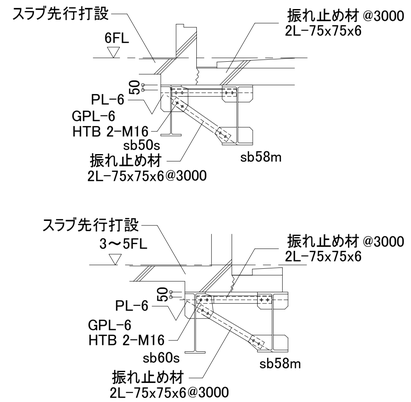
sp19 取合い詳細図 1:30

共通事項(特記なき限り)
- 角型鋼管は BCP325 とする。
- 大梁は SN490B とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。



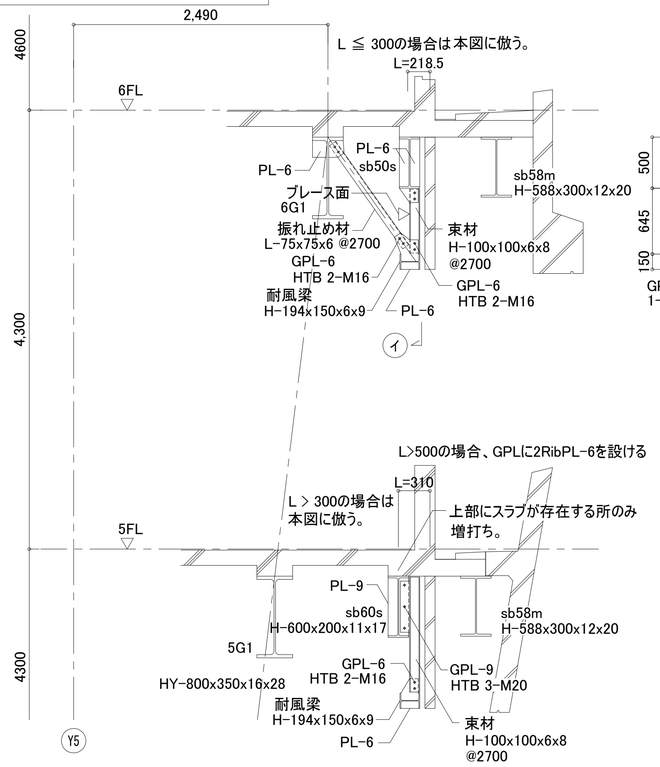
X7 通り鉄骨詳細図 1:30

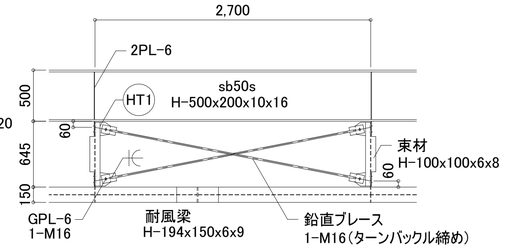
外周部ねじれ止め部材詳細図 1:30



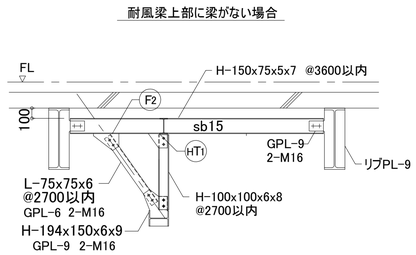
共通事項(特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 外周部のPCa版を支持する小梁の端部から500の位置にねじり止め部材を適宜追加する。

バルコニー部受け材納り図 1:30





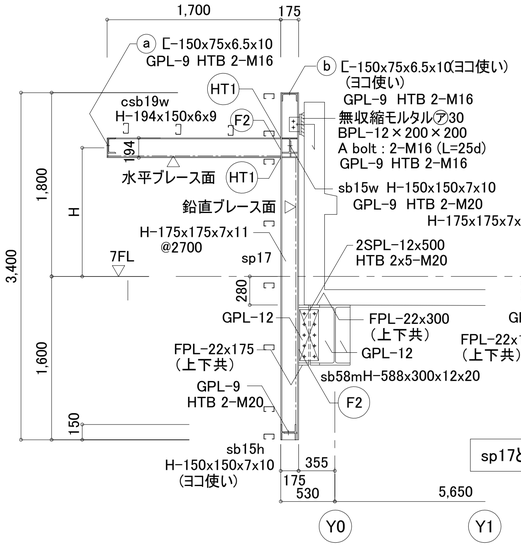
イ 断面図 1:30



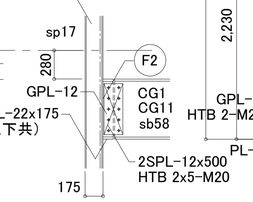
共通事項(特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

上部アルミパネル支持材詳細図 1:30

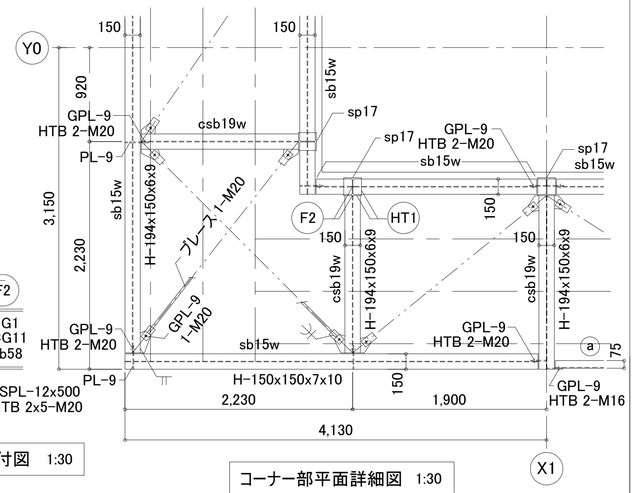
H寸法は7階上部アルミパネル受け材図による。
ブレースは 1-M20ターンバックル締め
GPL-9 1-M20 とする。



鉄骨断面詳細図 1:30



sp17と直行梁との取付図 1:30



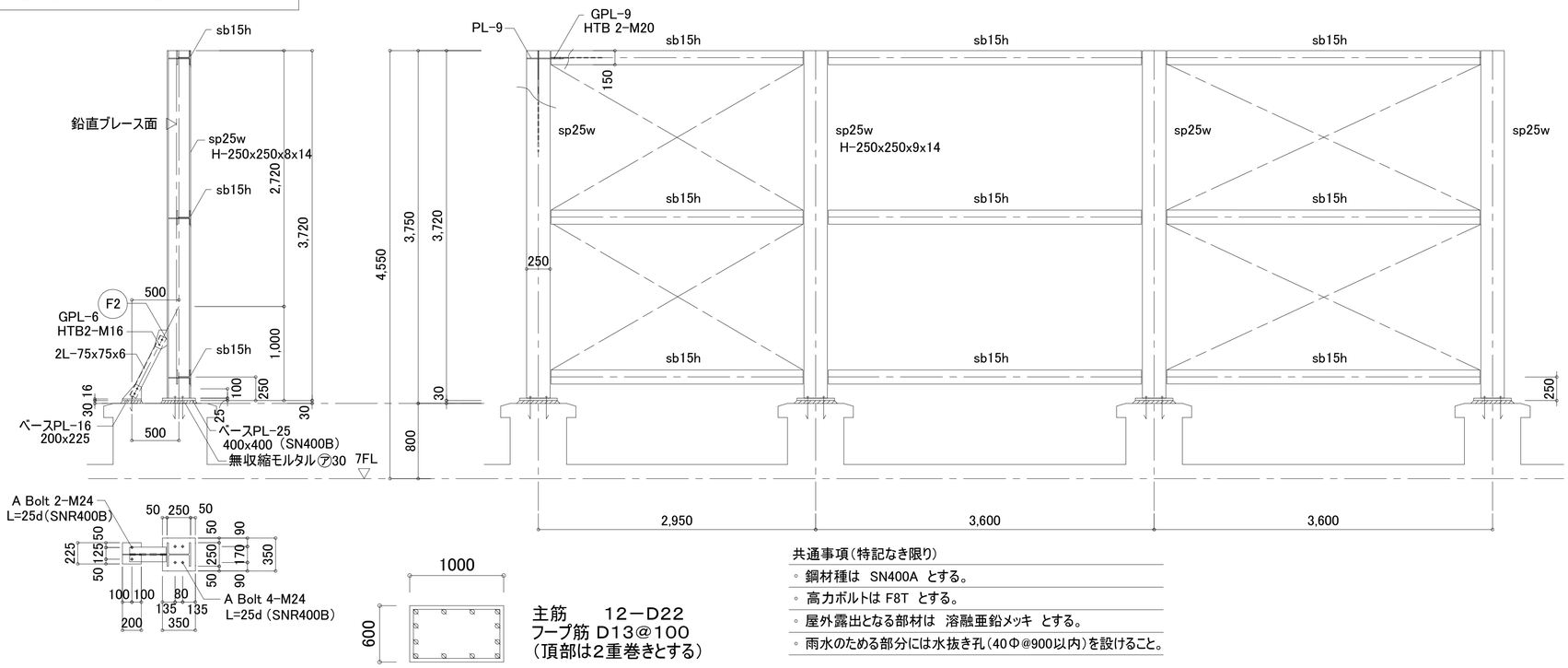
コーナー部平面詳細図 1:30

共通事項(特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。
- ------は母屋C-100×50×20×2.3@450を示す。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎 建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	44	各部鉄骨詳細図 (1) A3 1:60 A1 1:30	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

屋上目隠し壁受け材納り図 H=4550 1:30

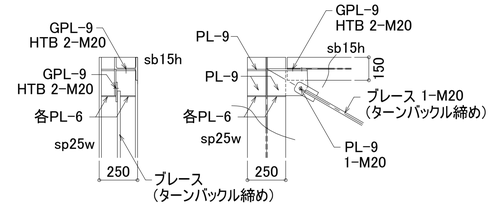


主筋 12－D22
フープ筋 D13@100
(頂部は2重巻きとする)

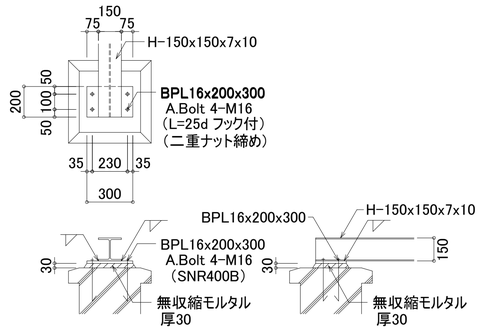
共通事項(特記なき限り)

- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキ とする。
- 雨水のためる部分には水抜き孔(40Φ@900以内)を設けること。

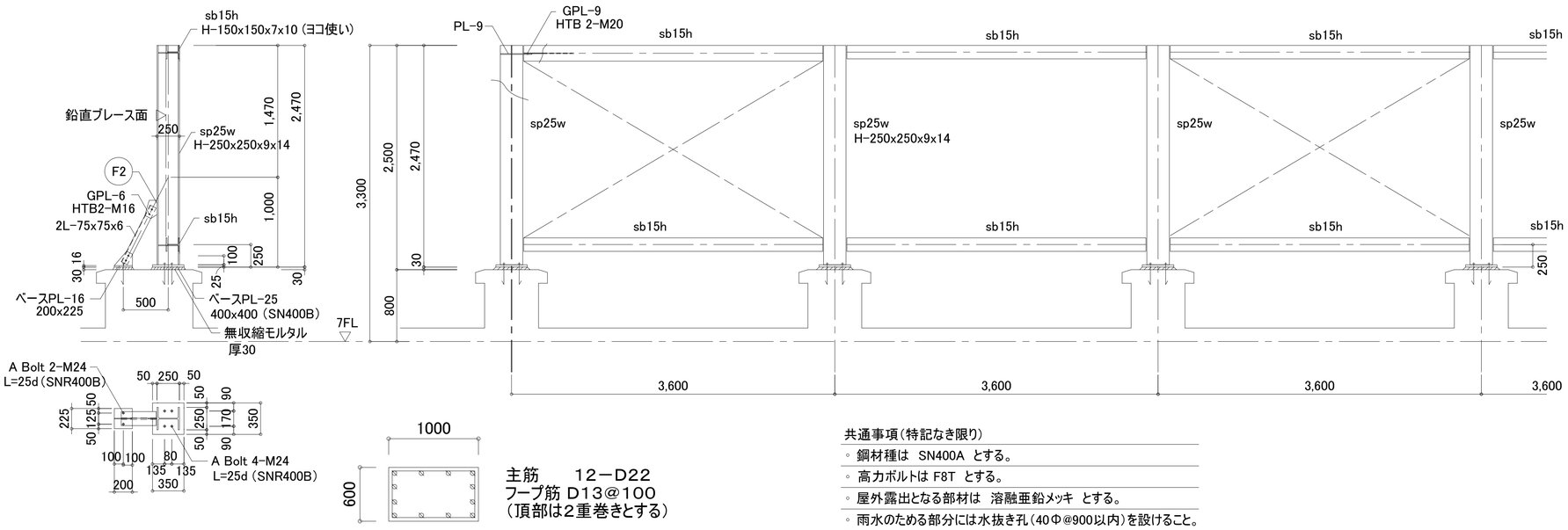
屋上目隠し壁 鉛直ブレース取付詳細図 1:20



設備架台取合い詳細図 1:20



屋上目隠し壁受け材納り図 H=3300 1:30



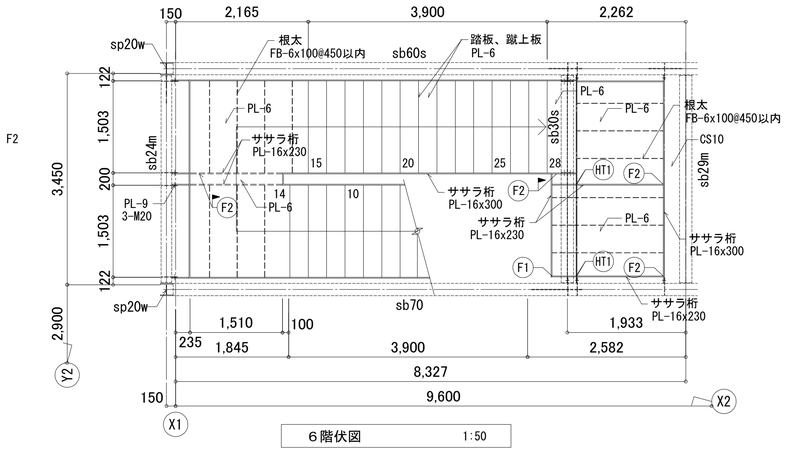
主筋 12－D22
フープ筋 D13@100
(頂部は2重巻きとする)

共通事項(特記なき限り)

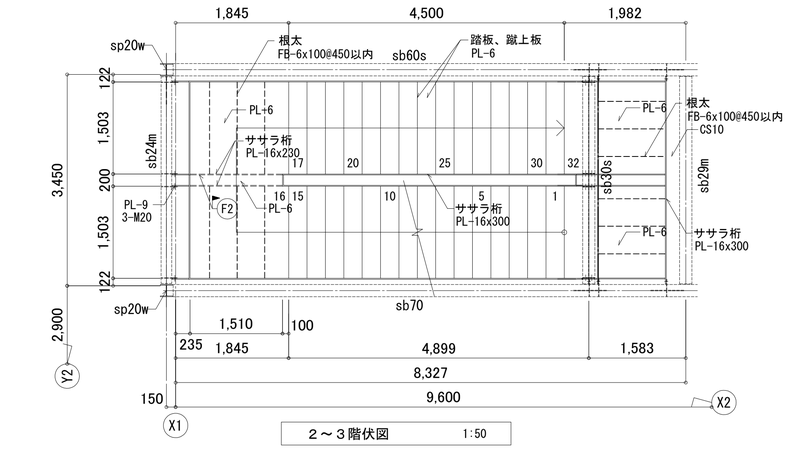
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキ とする。
- 雨水のためる部分には水抜き孔(40Φ@900以内)を設けること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	45	各部鉄骨詳細図 (2) A3 1:60 A1 1:30	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

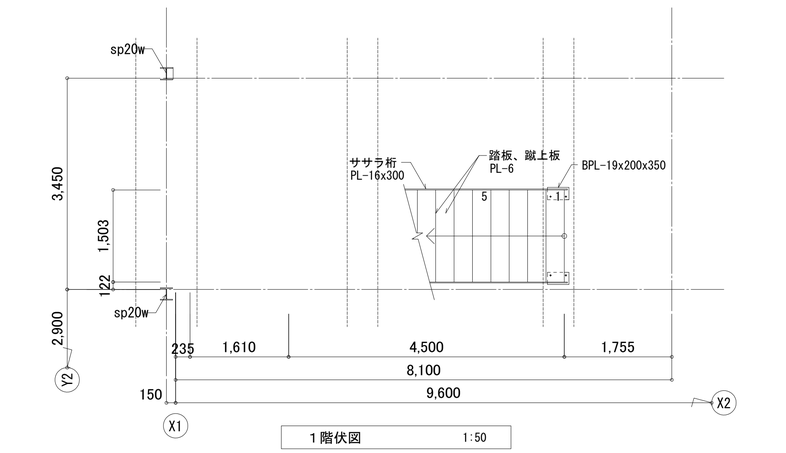
20230220



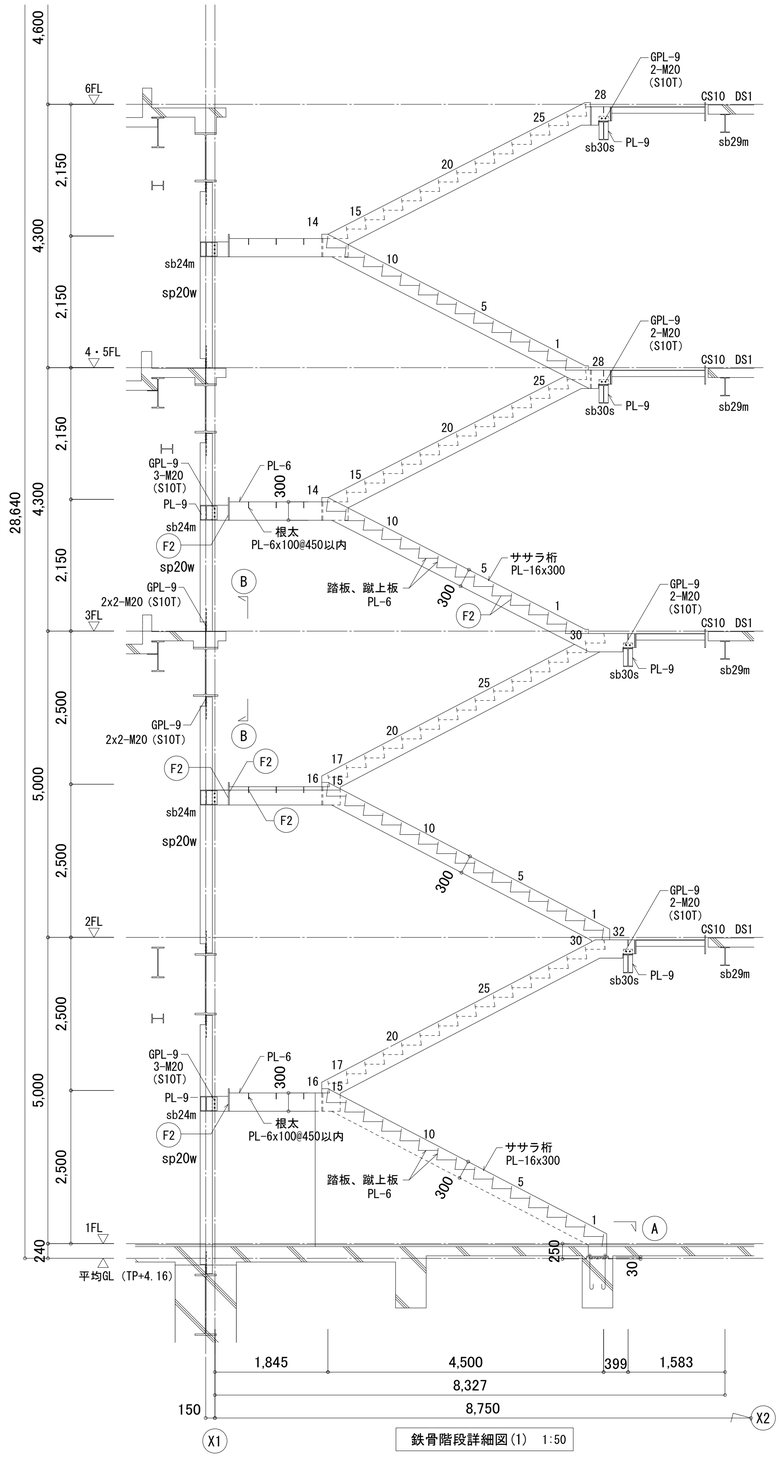
6階伏図 1:50



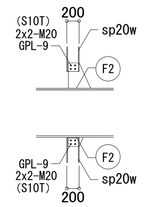
2～3階伏図 1:50



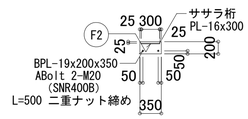
1階伏図 1:50



鉄骨階段詳細図(1) 1:50



B 詳細図 1:50



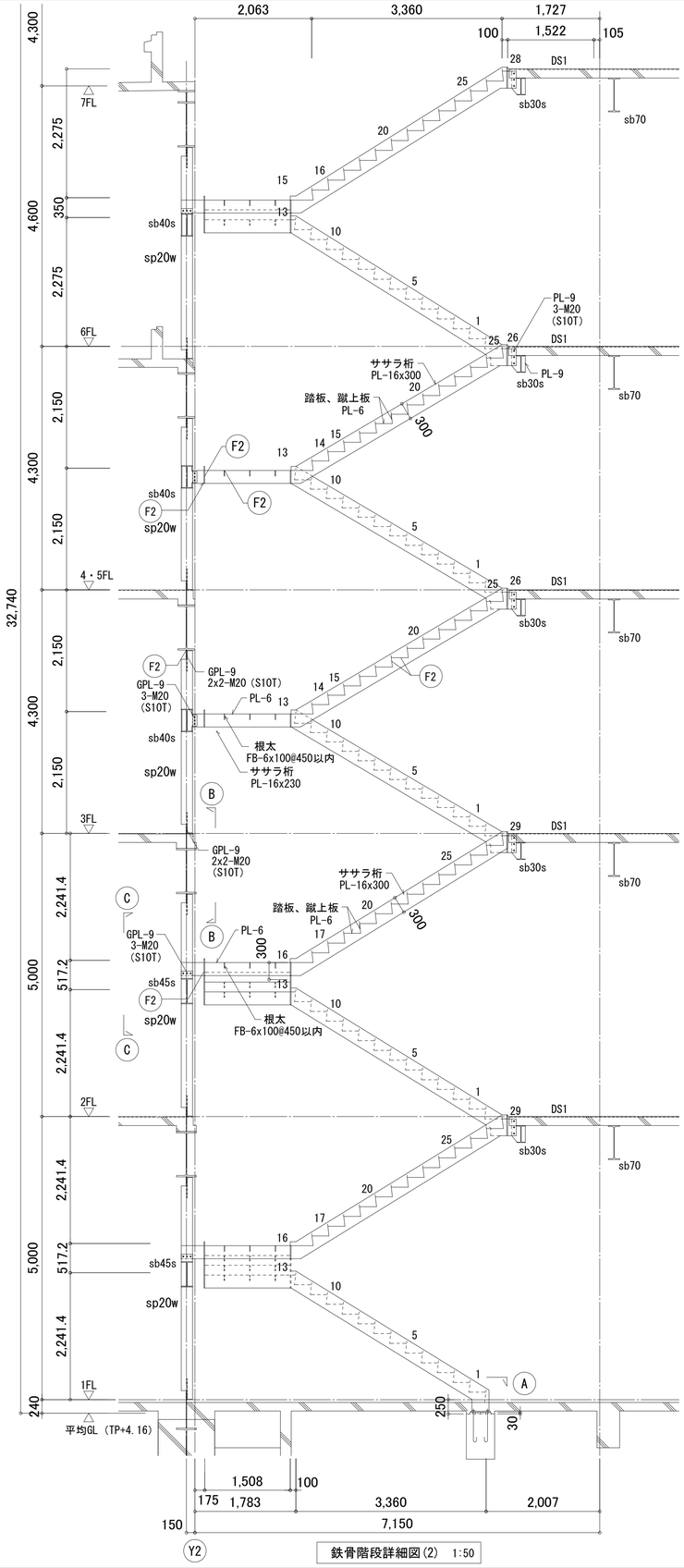
A 詳細図 1:50

共通事項（特記なき限り）

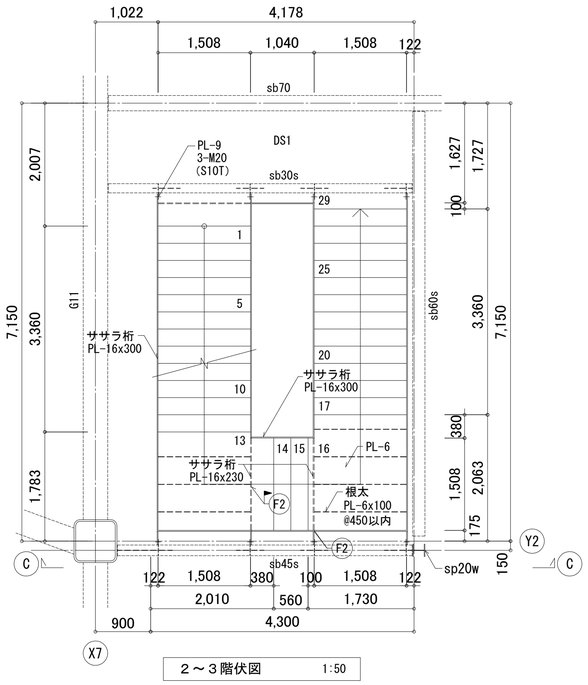
- ○ 鋼材種は SN400A とする。
- ○ 高力ボルトは S10T とする。
- ○ アンカーボルト材質は SNR400B とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版	2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	46	鉄骨階段詳細図（1） A1 1:50 A3 1:100	見積版	2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版	

20230220

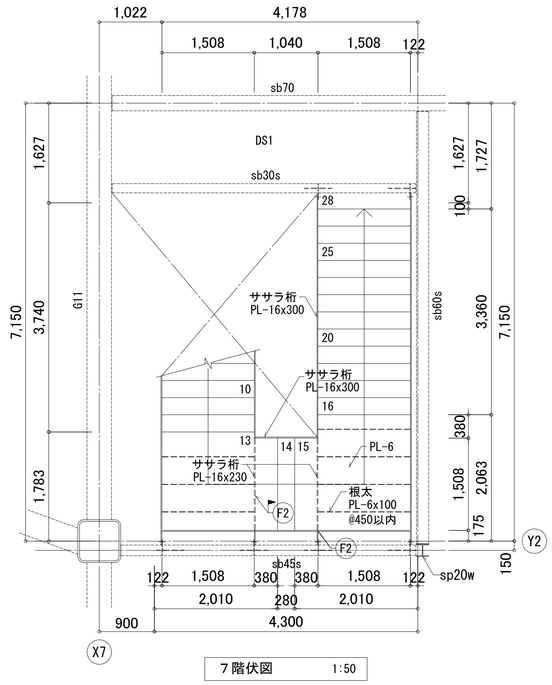


鉄骨階段詳細図(2)　1:50

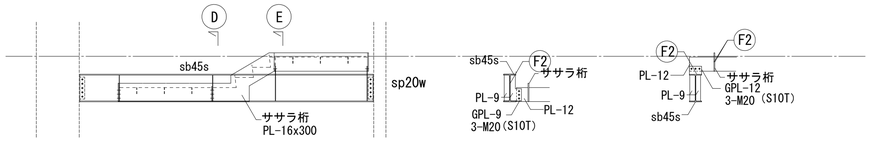


２～３階伏図　1:50

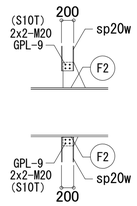
注）各階の段割りは意匠図に倣う。



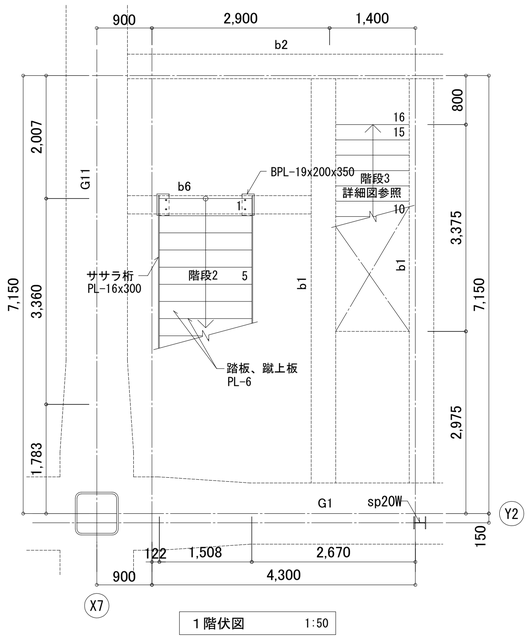
７階伏図　1:50



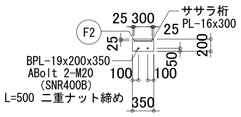
Ⓒ Ⓒ 断面詳細図 1:50　　Ⓓ 断面詳細図 1:50　　Ⓔ 断面詳細図 1:50



Ⓑ 詳細図　1:50



１階伏図　1:50



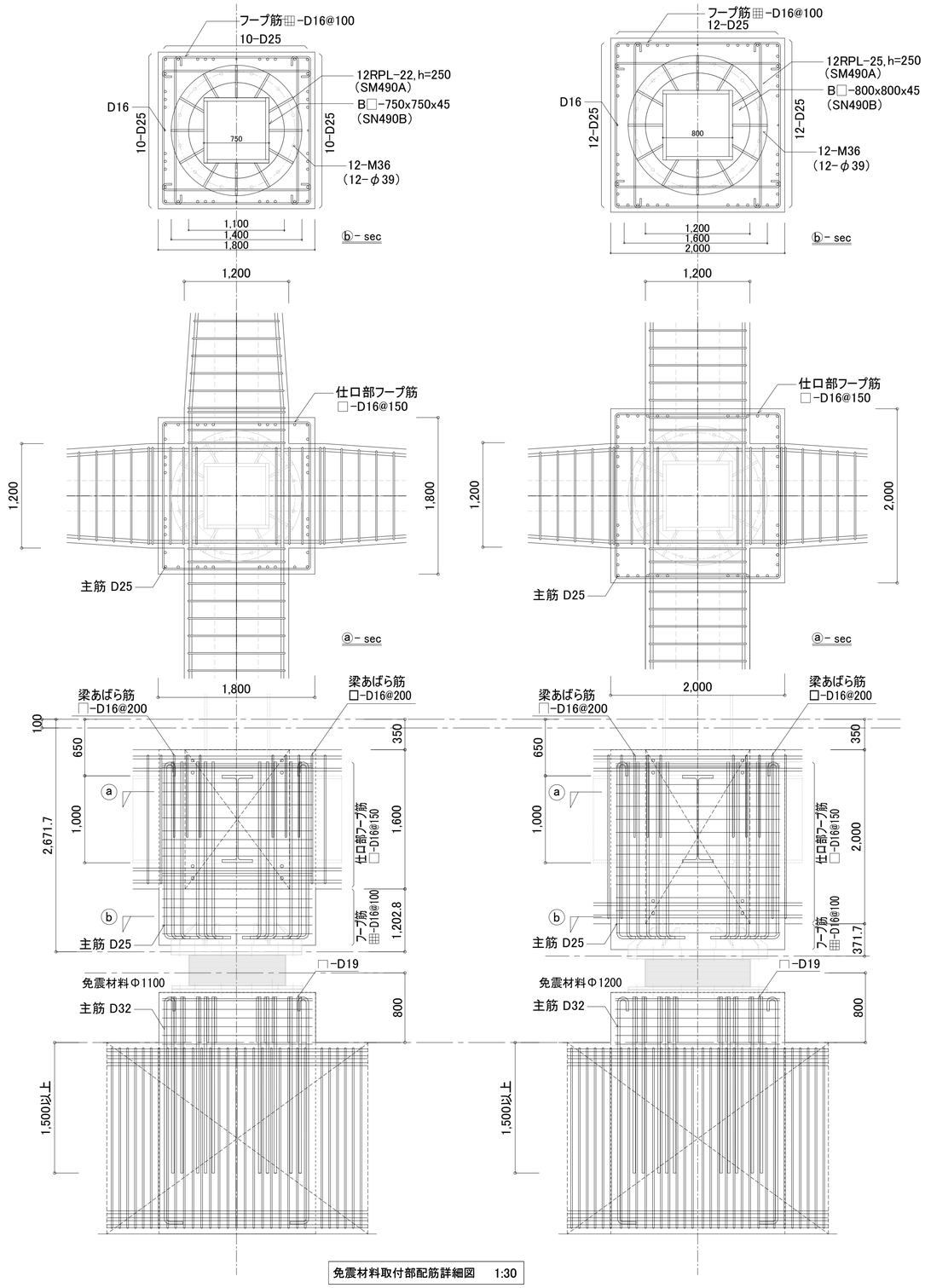
Ⓐ 詳細図　1:50

共通事項（特記なき限り）

- ○ 鋼材種は SN400A とする。
- ○ 高力ボルトは S10T とする。
- ○ アンカーボルト材質は SNR400B とする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版	2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	47	鉄骨階段詳細図（２） A1 1:50 A3 1:100	見積版	2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版	

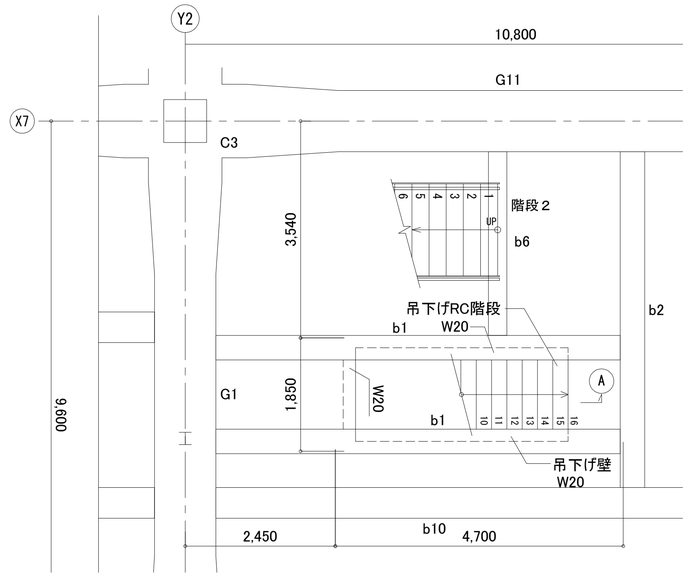
20230220



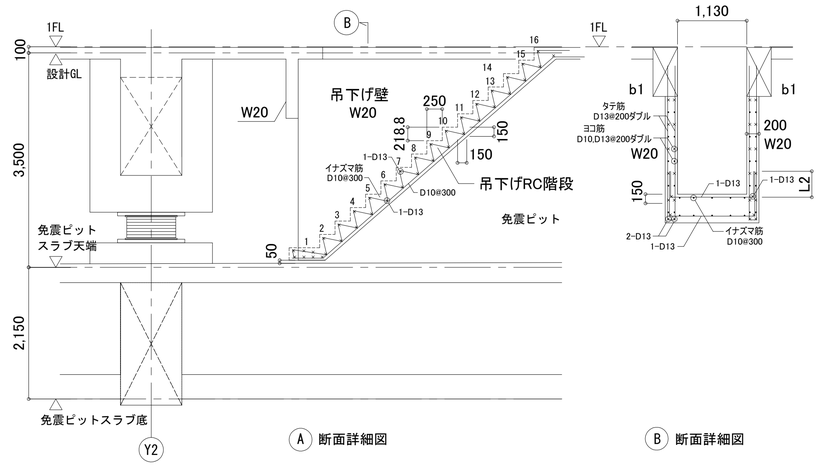
免震材料取付部配筋詳細図　1:30

共通事項（特記なき限り）

- SRC梁のフープ貫通部には、ウェブ同材質かつウェブ同厚/2以上×100×900を両面に設ける。
- 主筋間隔@300を超える箇所には ひび割れ防止筋D16を配筋すること。
- 免震材料基礎頭部はかんざし筋 □-D19を設けること。



RC階段平面図　1:50

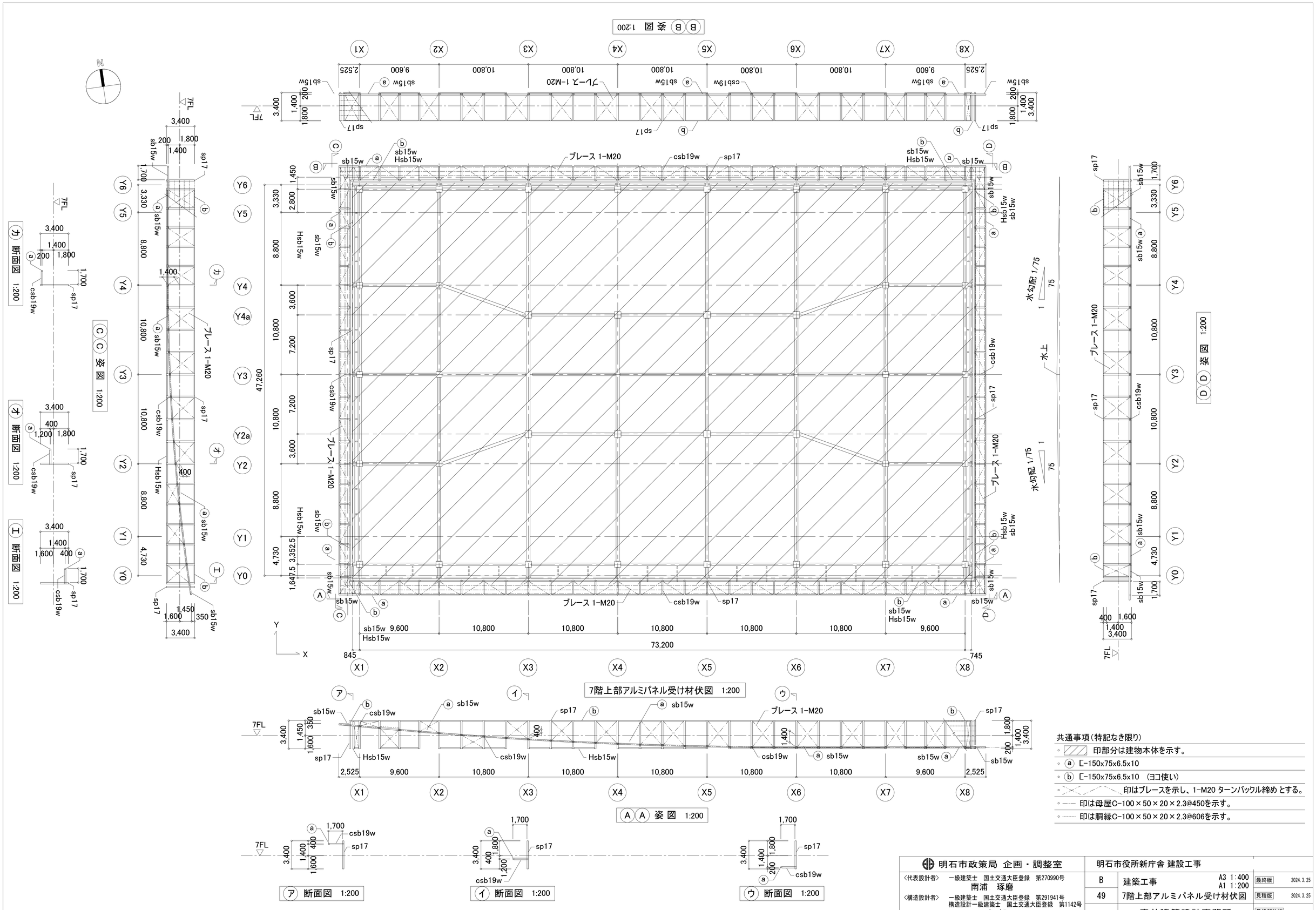


A 断面詳細図　　B 断面詳細図

RC階段配筋詳細図　1:50

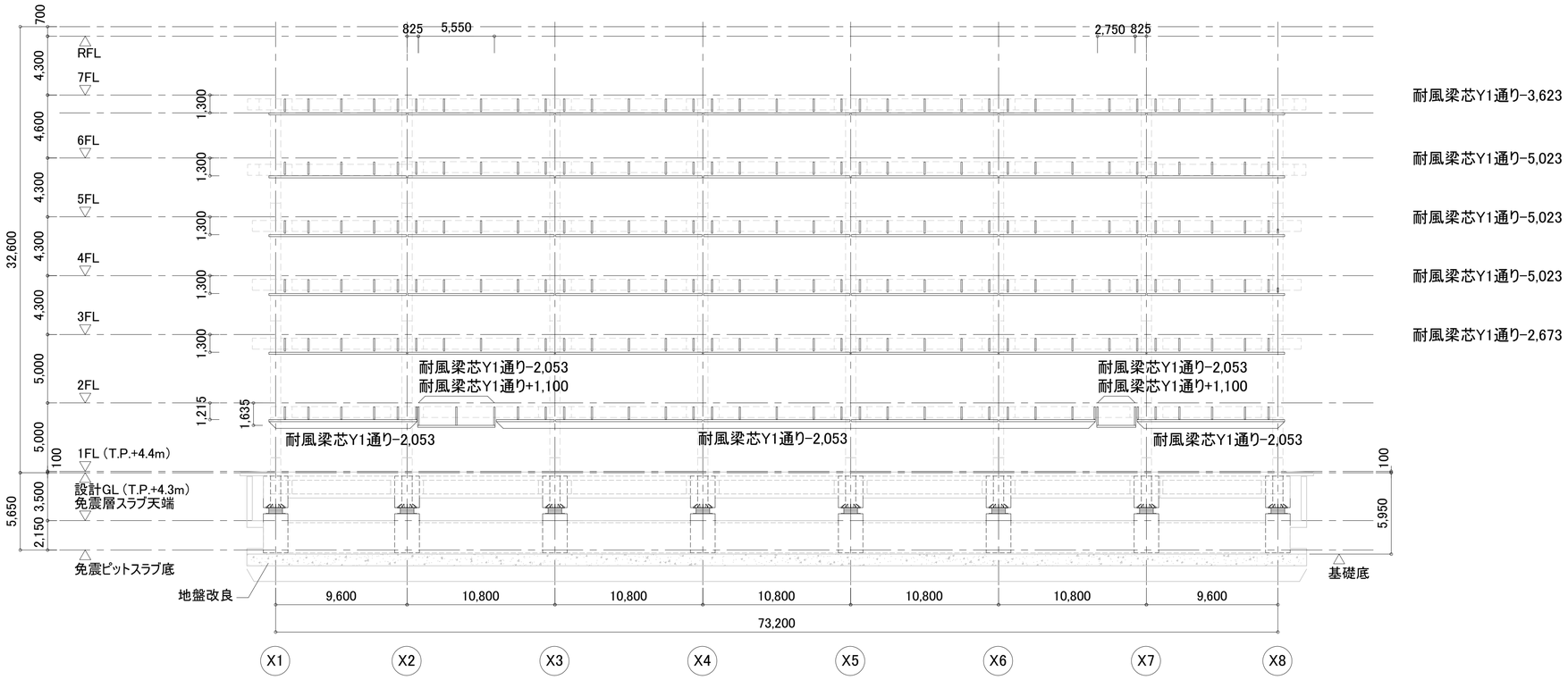
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	48	各部配筋詳細図 1:30	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

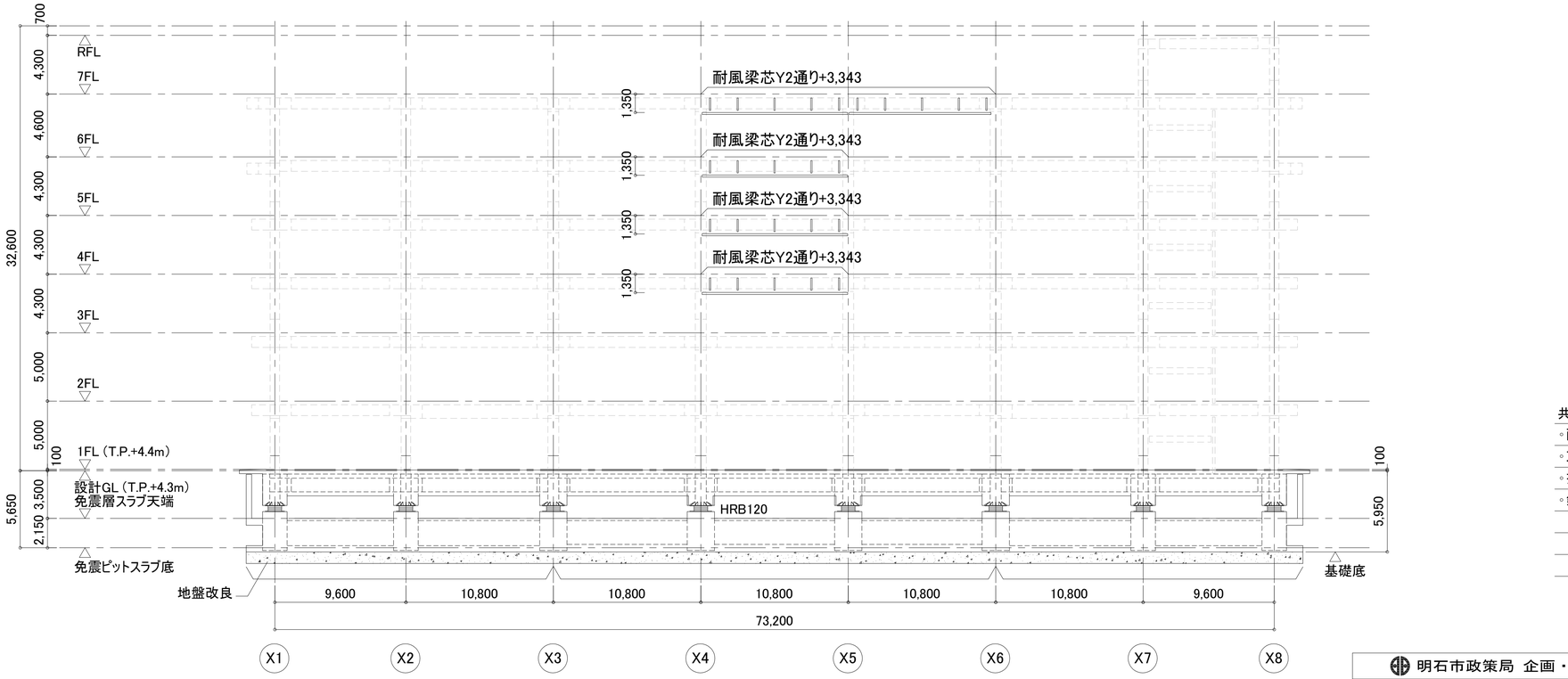


明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎 建設工事			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	A3 1:400 A1 1:200	最終版 2024.3.25
	49	7階上部アルミパネル受け材伏図		見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所		最終契約版

20230220



Y1 通 軸組図 1:200



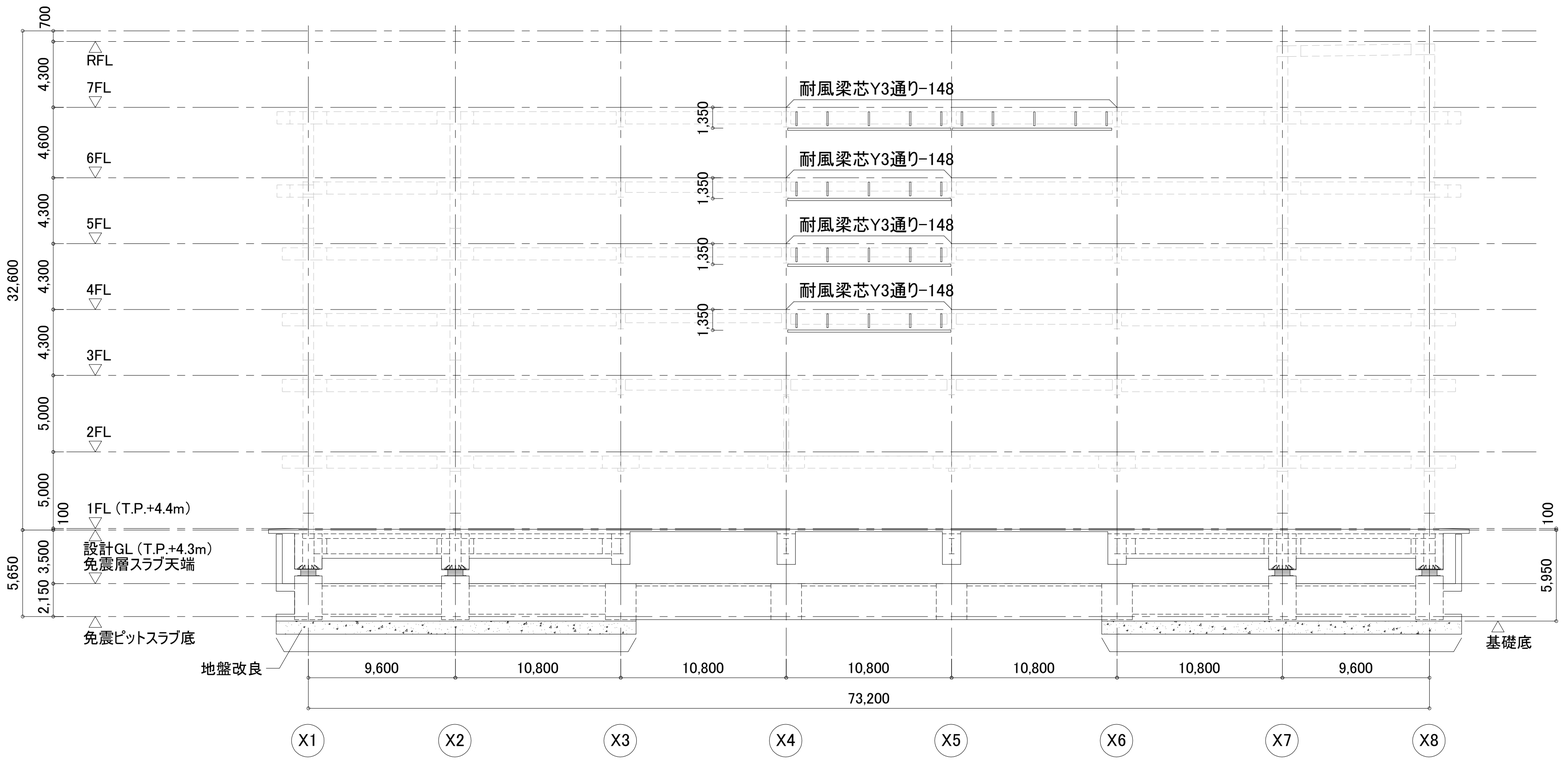
Y2 Y2a 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

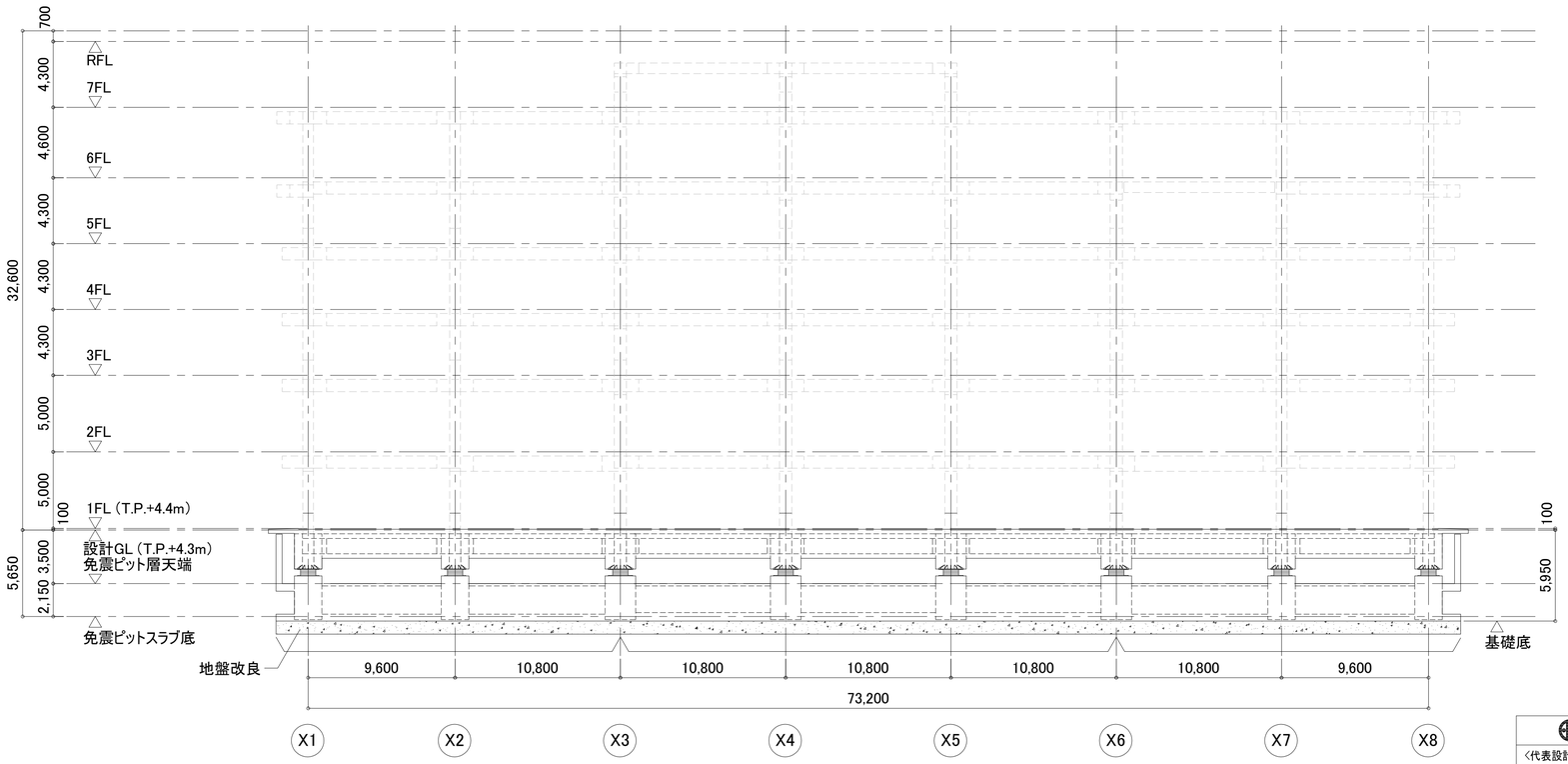
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	50	外装受け鉄骨軸組図(1) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



Y3 通 軸組図 1:200



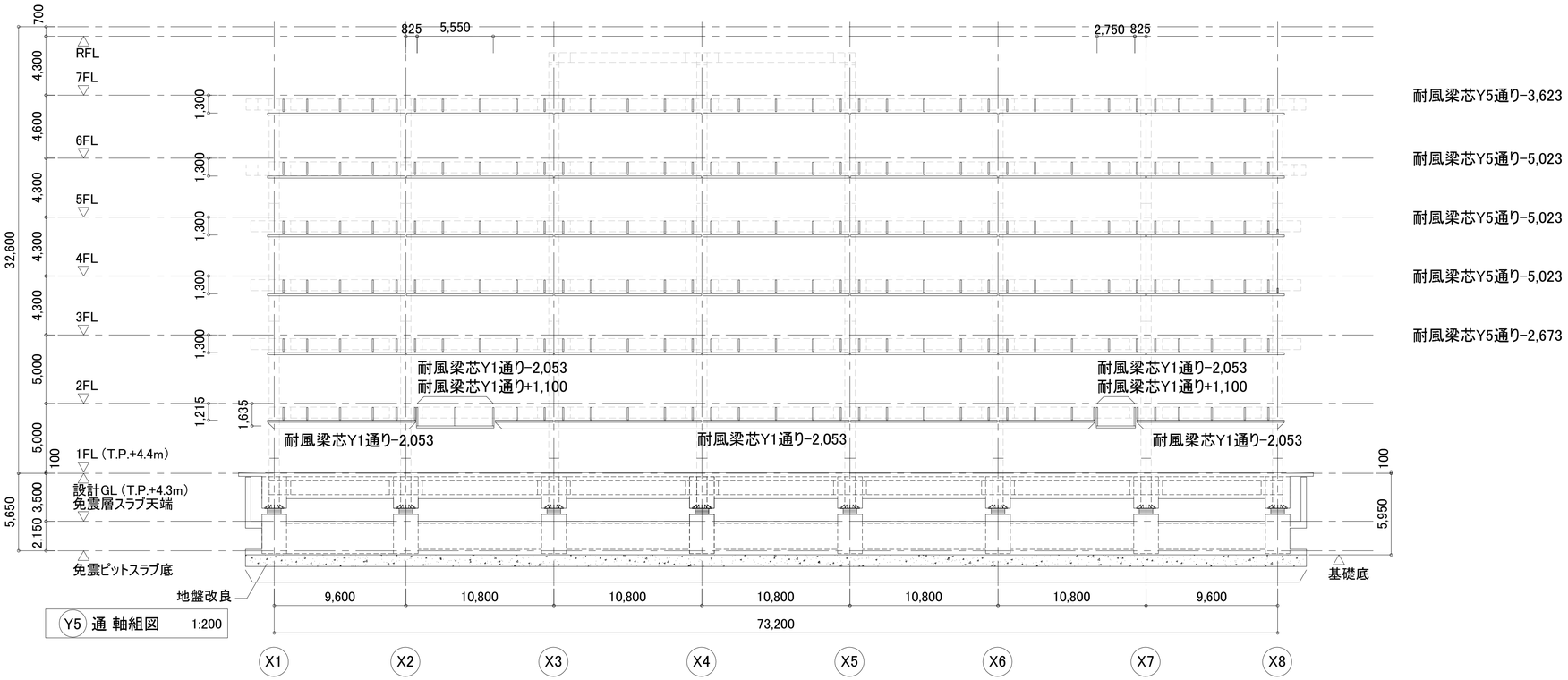
Y4 Y4a 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	51	外装受け鉄骨軸組図(2) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

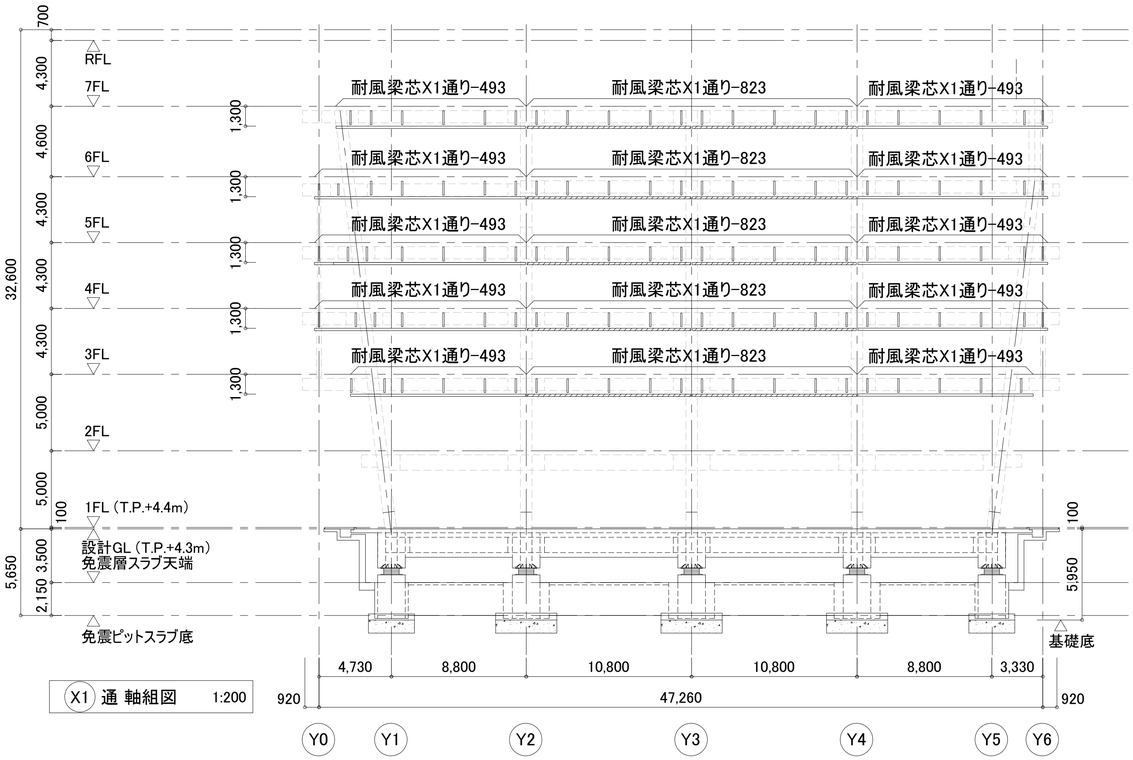
20230220



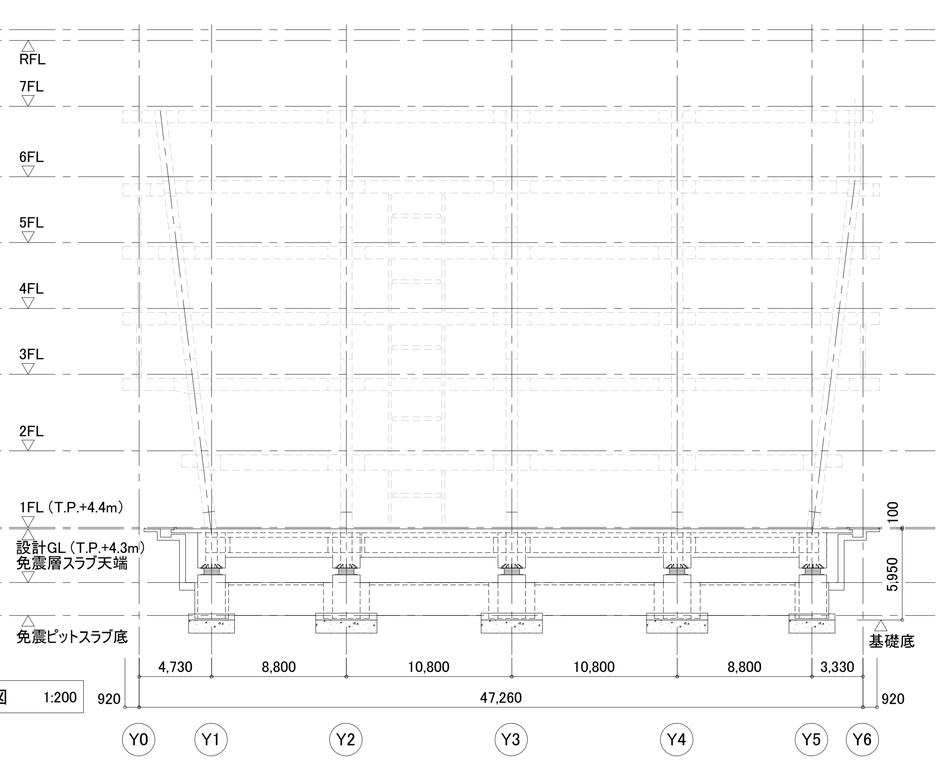
Y5 通 軸組図 1:200

共通事項(特記なき限り)

- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。



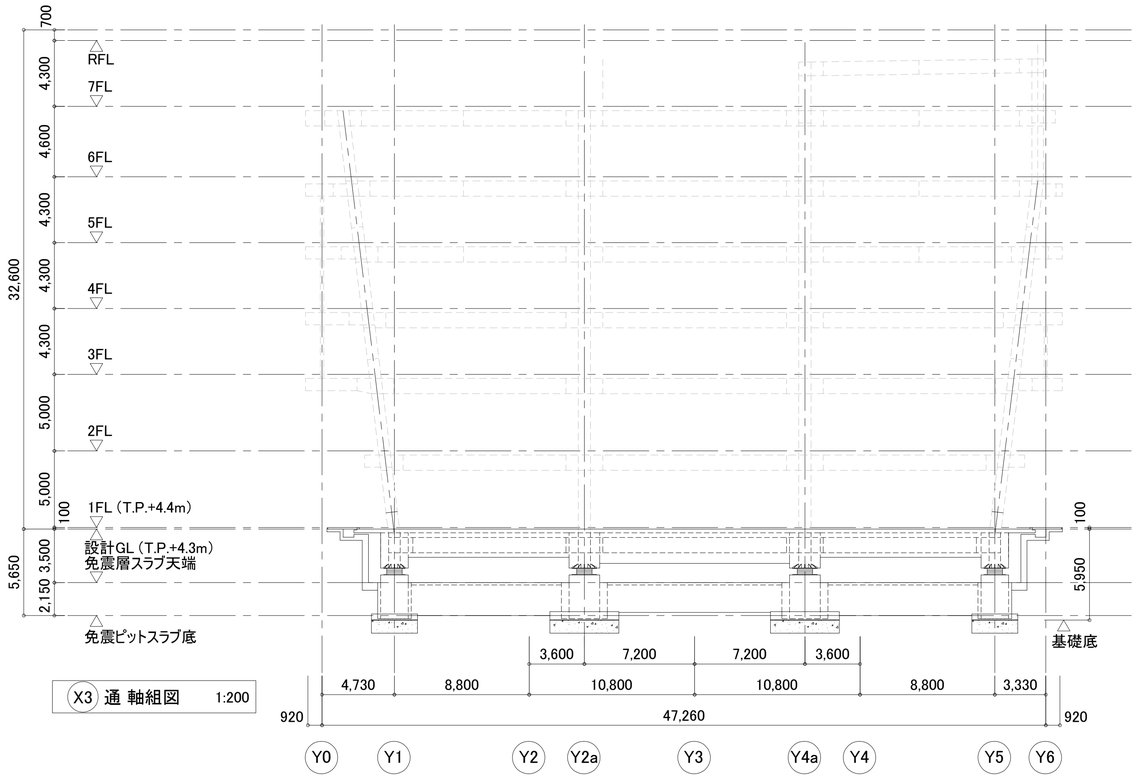
X1 通 軸組図 1:200



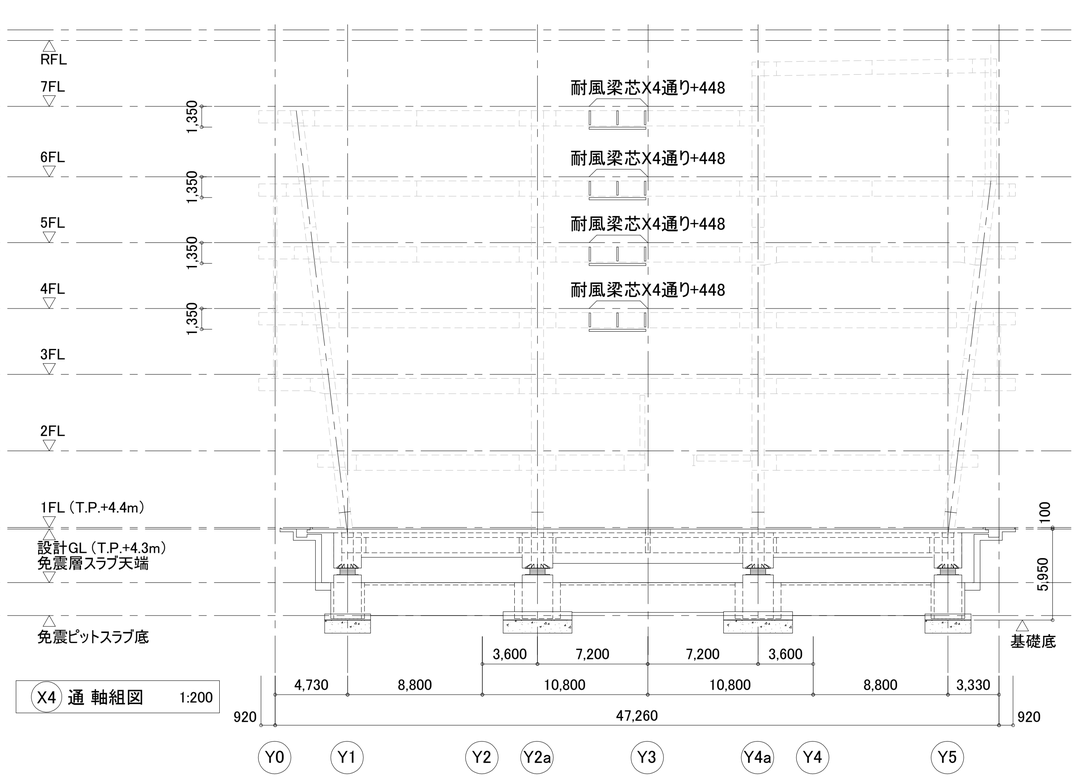
X2 通 軸組図 1:200

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	52	外装受け鉄骨軸組図(3) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

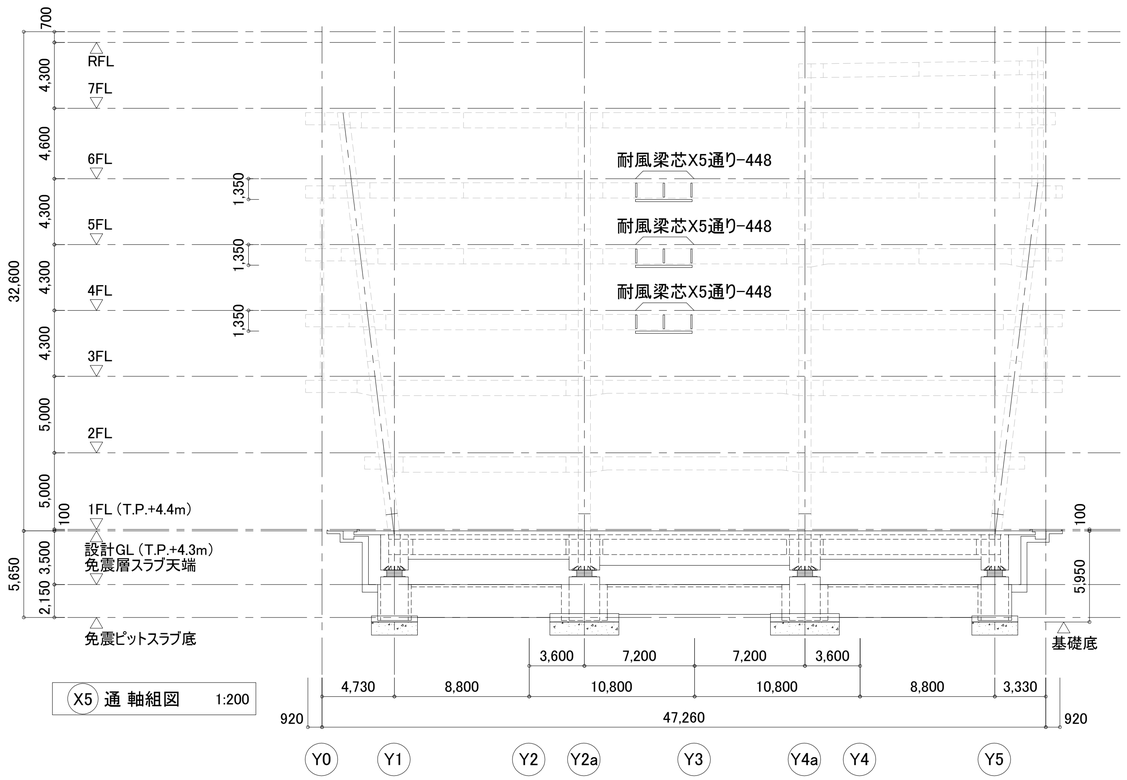
20230220



X3 通 軸組図 1:200



X4 通 軸組図 1:200



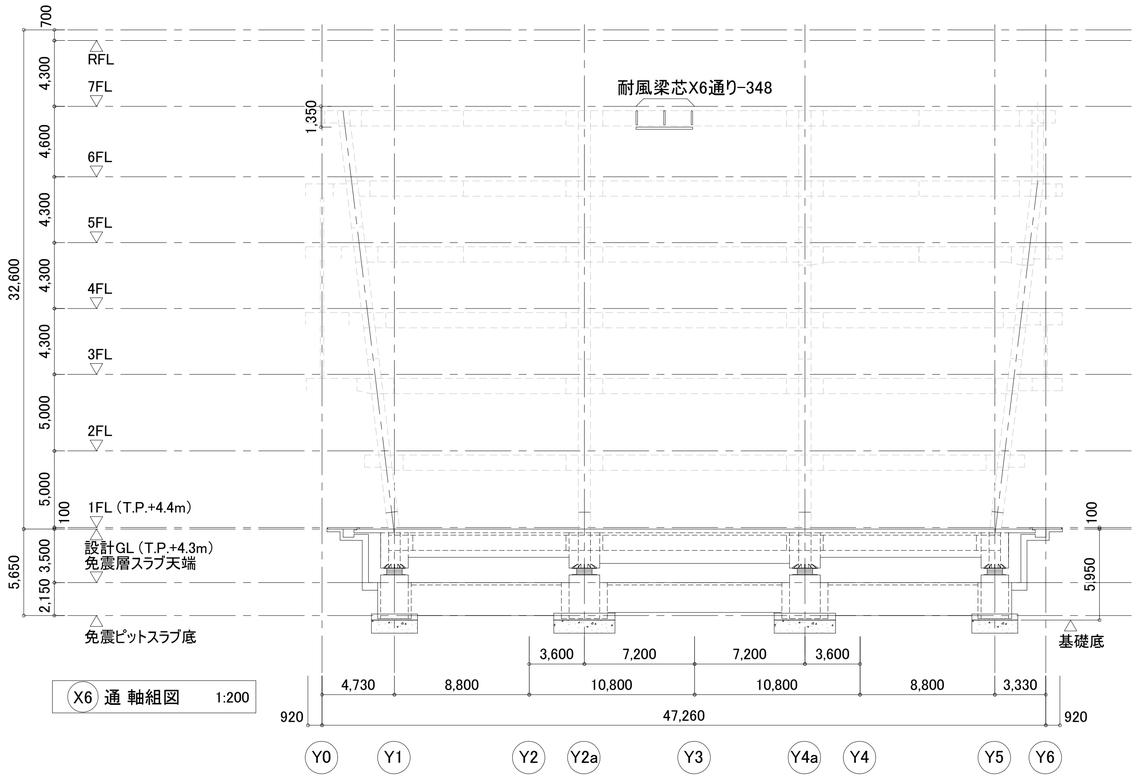
X5 通 軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）

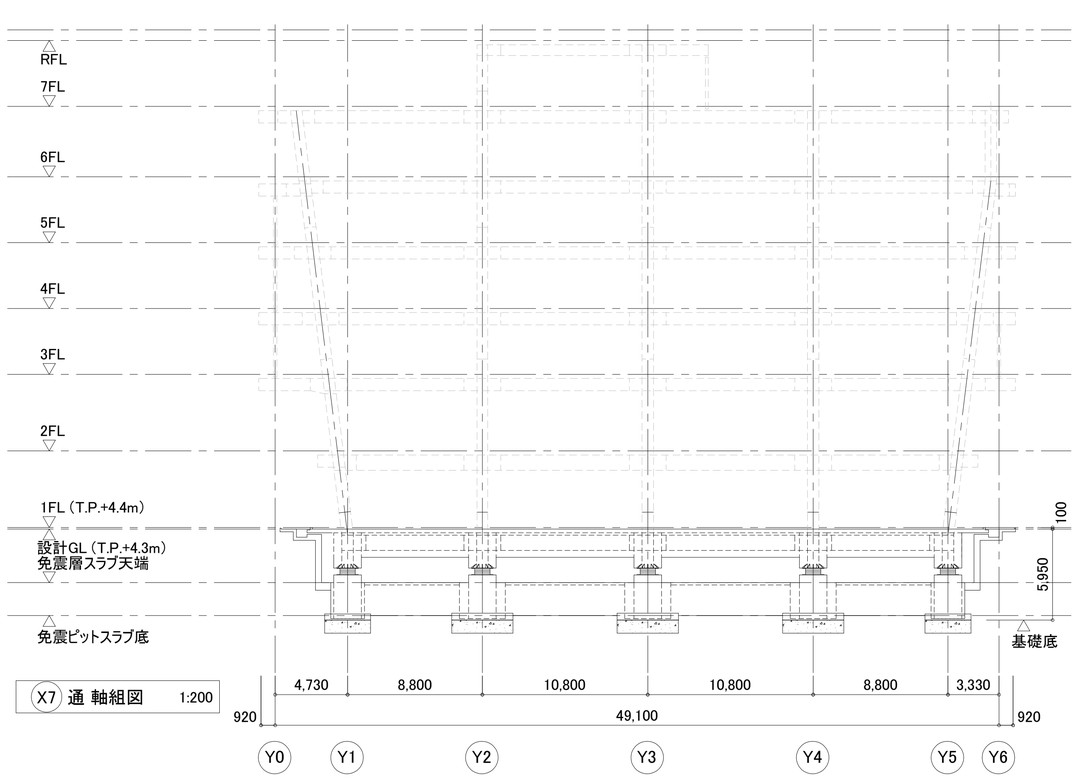
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	53	外装受け鉄骨軸組図(4) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

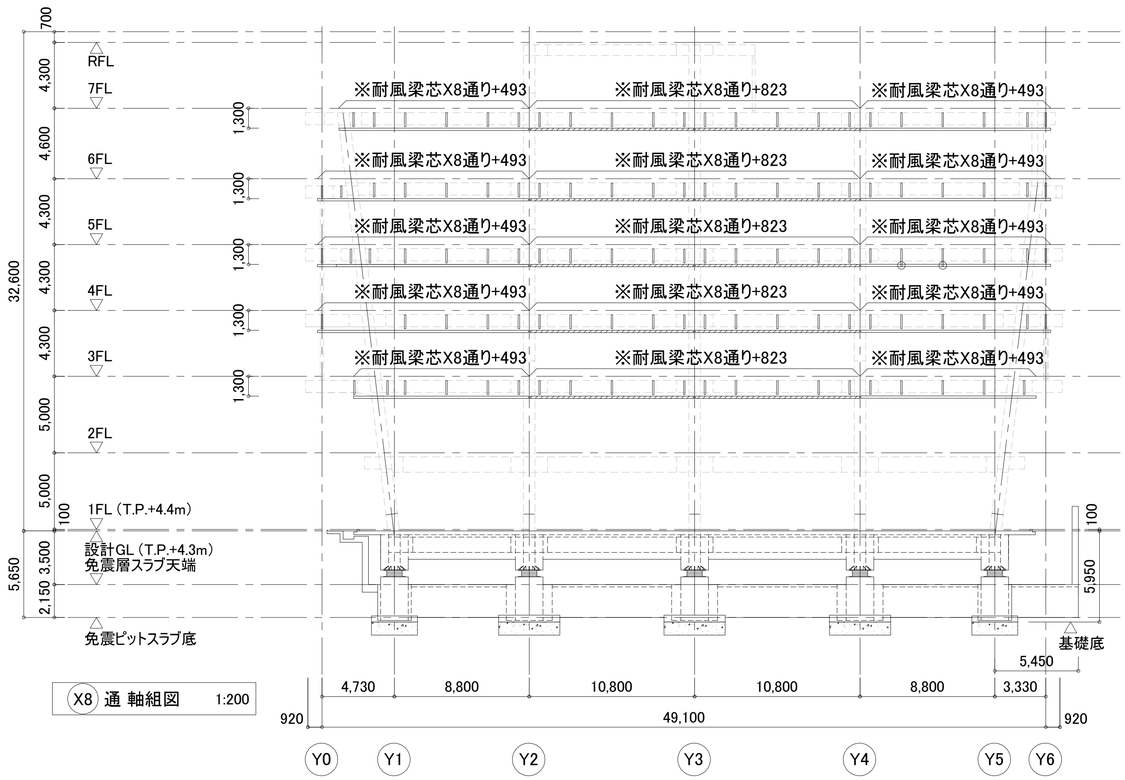
20230220



X6 通 軸組図 1:200



X7 通 軸組図 1:200



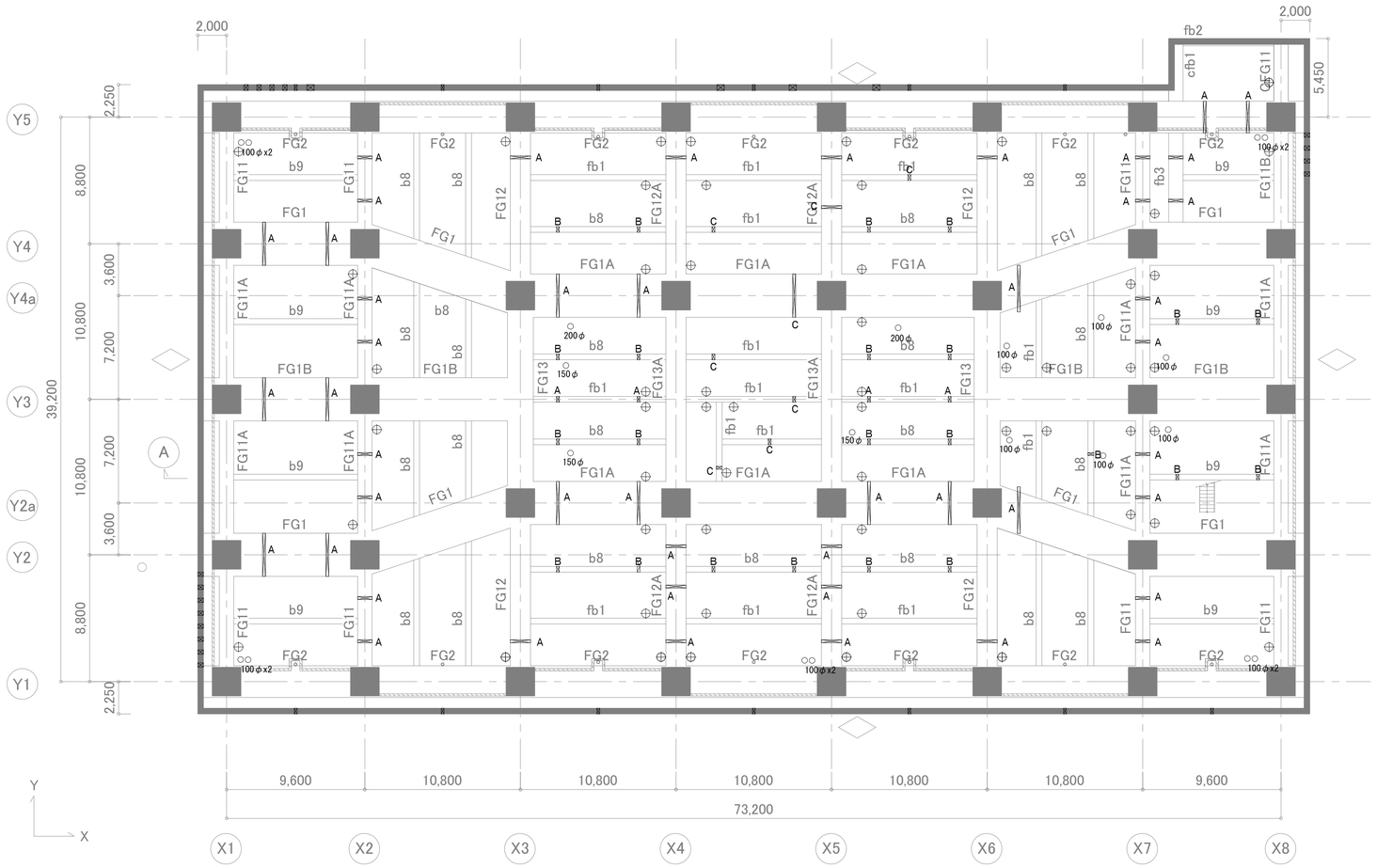
X8 通 軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。
- ◯ 印は剛接合を示す。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
	54	外装受け鉄骨軸組図(5) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



免震層伏図　1:200

免震ピット階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	配筋補強種別
FG1	100・200(半割)	6	※
FG1A	100・200(半割)	6	※
	100	1	※
	500	1	H18
FG1B	100・200(半割)	2	※
FG2	100・200(半割)	2	※
FG11	100・200(半割)	8	※
FG11A	100・200(半割)	8	※
FG12	100・200(半割)	4	※
FG12A	100・200(半割)	9	※
b8	100	19	-
b9	100	4	-
fb1	100・200(半割)	4	※
	100	6	※
	500	6	H8
fb3	100・200(半割)	1	※

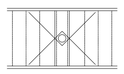
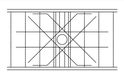
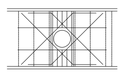
免震ピット階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
S16	100	16
	150	18
	200	4
	600	56

免震ピット階壁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
RW40	100	14
	300	16
	500	4
W15	100	28

H形配筋

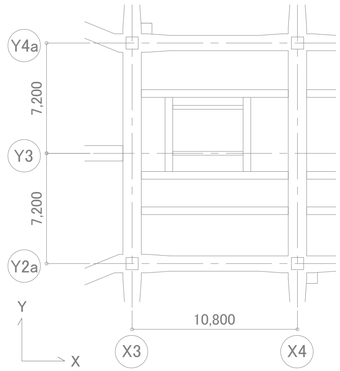
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				
H8	4-2-D25	4-2-D16	2-2-D16	3-2-D13	
H9	4-2-D29				
H18	12-2-D32	12-2-D29	2-2-D19	3-2-D13	

(注) ——— は、一般部分のあばら筋を示す。

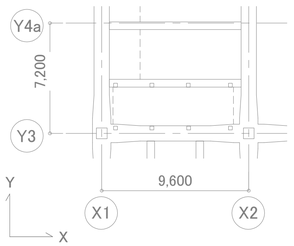
- スリーブ外径は　呼び径　とする。
- RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ-50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- RC梁について、特記なき建築工事のスリーブ材は VU(硬質塩化ビニル管)とする。
- - 印は補強不要とする。
- ※ 印は貫通孔を中心とした1m範囲で当該梁のスタ-ラップピッチを満足するよう配筋すること。
- RC立ち上がりW15には各スパンΦ100を2箇所設けること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	55	梁貫通図 (1) 1:100 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

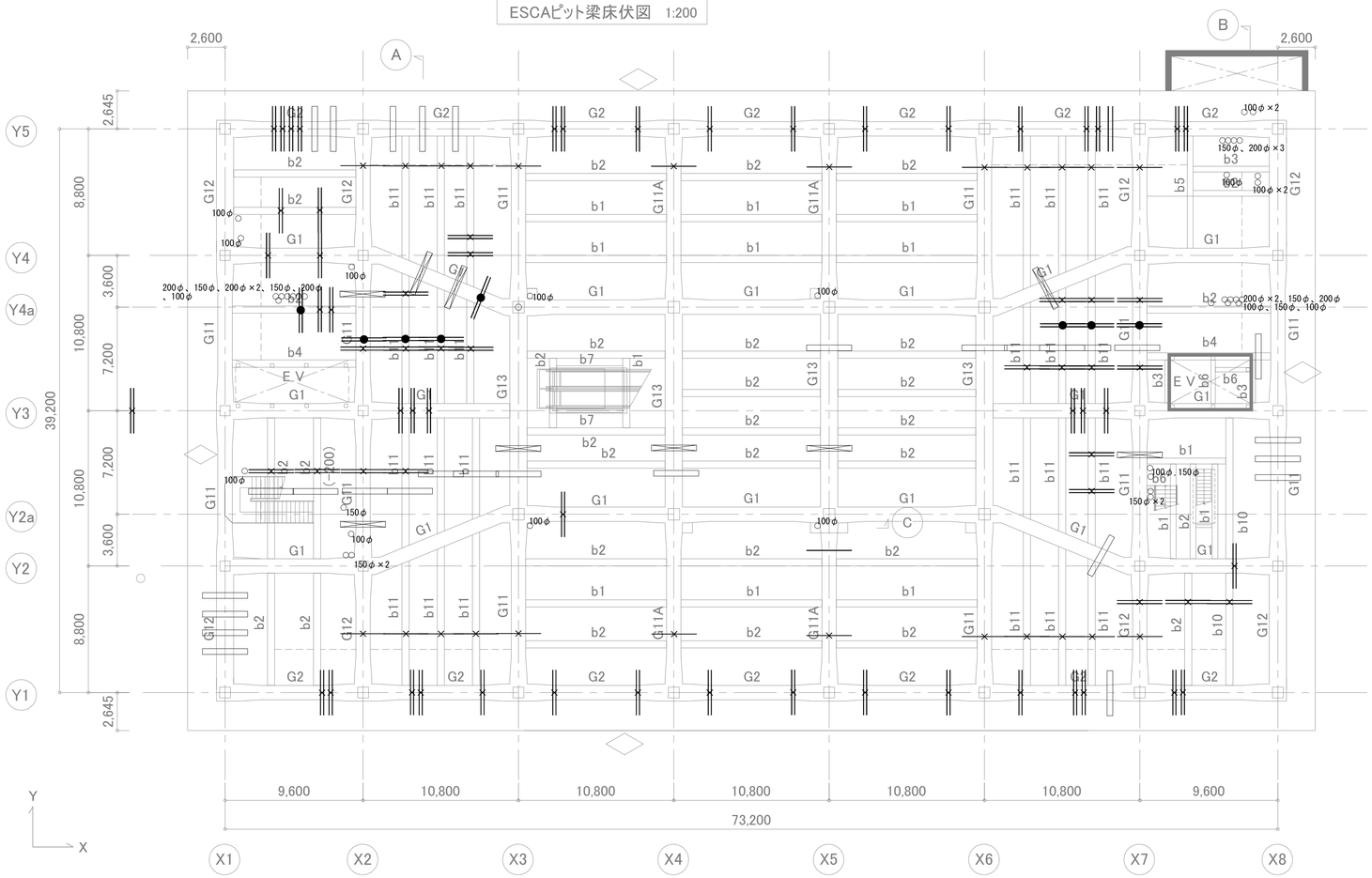
20230220



ESCAピット梁床伏図　1:200



EVピット梁床伏図　1:200



1 階 梁床伏図　1:200

1階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	配筋補強種別	補強PL
G1	150	1	H6	PL−6
	200	10	H7	PL−9
	300	1	H8	2PL−9
	500	3	H9	2PL−16
G2	200	32	H7	PL−9
	300	7	H8	2PL−9
	500	1	H9	2PL−16
G11	150	2	H6	PL−6
	200	4	H7	PL−9
	300	5	H8	PL−12
	350	4	H8	2PL−9
	500	3	H9	2PL−16
G11A	100	1	−	PL−6
	350	4	H8	2PL−9
G12	200	1	H7	PL−9
	300	5	H8	2PL−9
	350	4	H9	2PL−9
G13	300	4	H8	2PL−9
	500	3	H9	2PL−16
b2	150	1	H4	
	200	2	H5	
	300	7	H6	
b4	300	1	H6	
b10	200	1	H6	
b11	150	4	H4	
	200	14	H5	
	300	6	H6	
	350	12	H6	

1階床貫通リスト

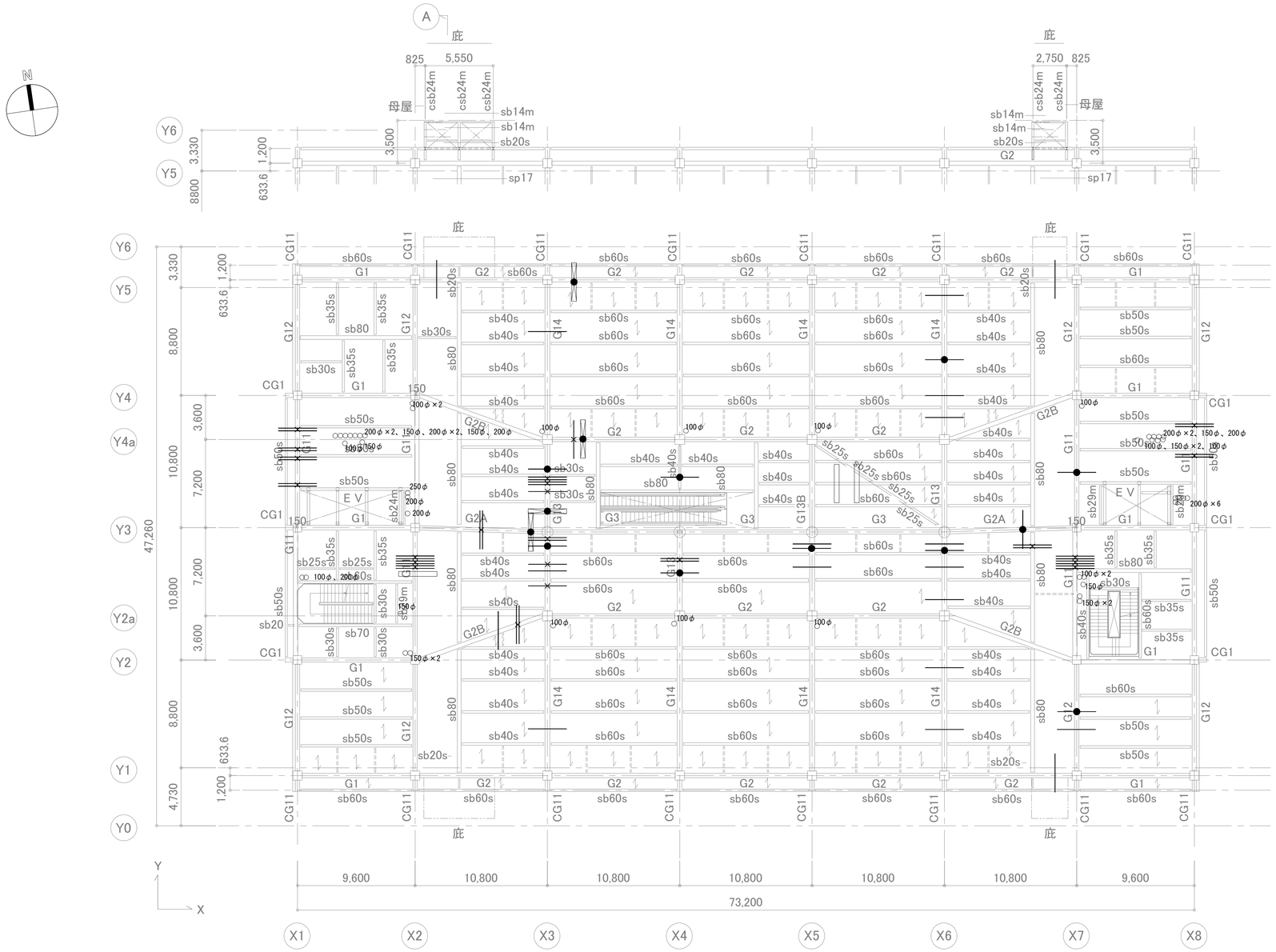
符号	スリーブ径(mm)	箇所数
S19	100	5
	150	1
	200	3
S18	100	4
	150	4
	200	8
S17	100	7
	150	6
	200	0

梁貫通　径及び本数

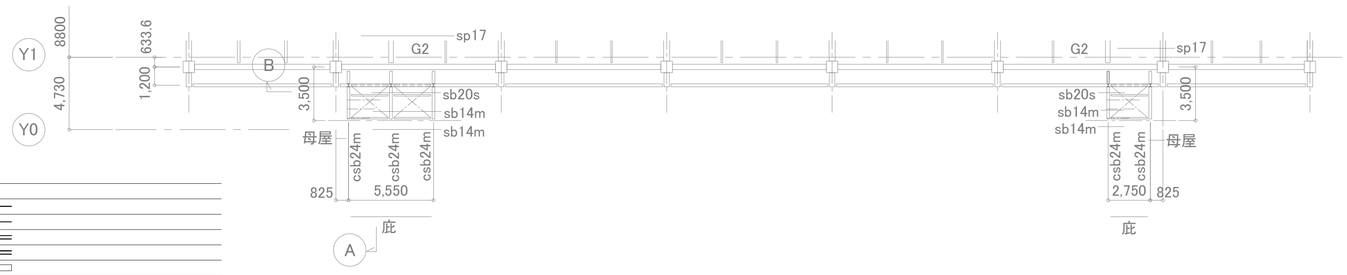
径	
100φ	
150φ	
200φ	
250φ	
300φ	
(500) 600φ	
350φ	
400φ	
450φ	

- スリーブ外径は　呼び径　とする。
- RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
- SRC梁のRC部の補強要領はMH形配筋とし、B-05による。
- SRC梁のS部の補強要領はプレート補強とし、B-08による。
  SRC梁貫通部には補強鋼管プレートを設けるものとし、B-08による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ-50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- RC梁について、特記なき建築工事のスリーブ材は VU(硬質塩化ビニル管)とする。
- − 印は補強不要とする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足しない場合、小梁追加にて補強すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 1:100	最終版	2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	56	梁貫通図（２） 1:200	見積版	2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版	



2 階 梁床伏図 1:200



2階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G2	100	3	PL−6
	350	1	2PL−12
	400	2	2PL−16
G2A	150	1	PL−6
	200	1	PL−9
	400	1	2PL−12
G2B	100	1	PL−6
	200	1	PL−9
G11	150	1	PL−6
	200	12	PL−9
	300	1	PL−12
G12	100	1	PL−6
	150	1	PL−6
G13	100	4	PL−6
	150	4	PL−6
	200	4	PL−9
	350	3	2PL−9
	400	1	2PL−12
G13B	100	2	PL−6
	150	1	PL−6
G14	100	7	PL−6
	150	1	PL−6
sb40s	150	1	2PL−9
sb60s	300	2	2PL−12
sb80	200	1	PL−9

2階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	6
DS2	100	8
	150	10
	200	17
	250	1
DS3	150	2

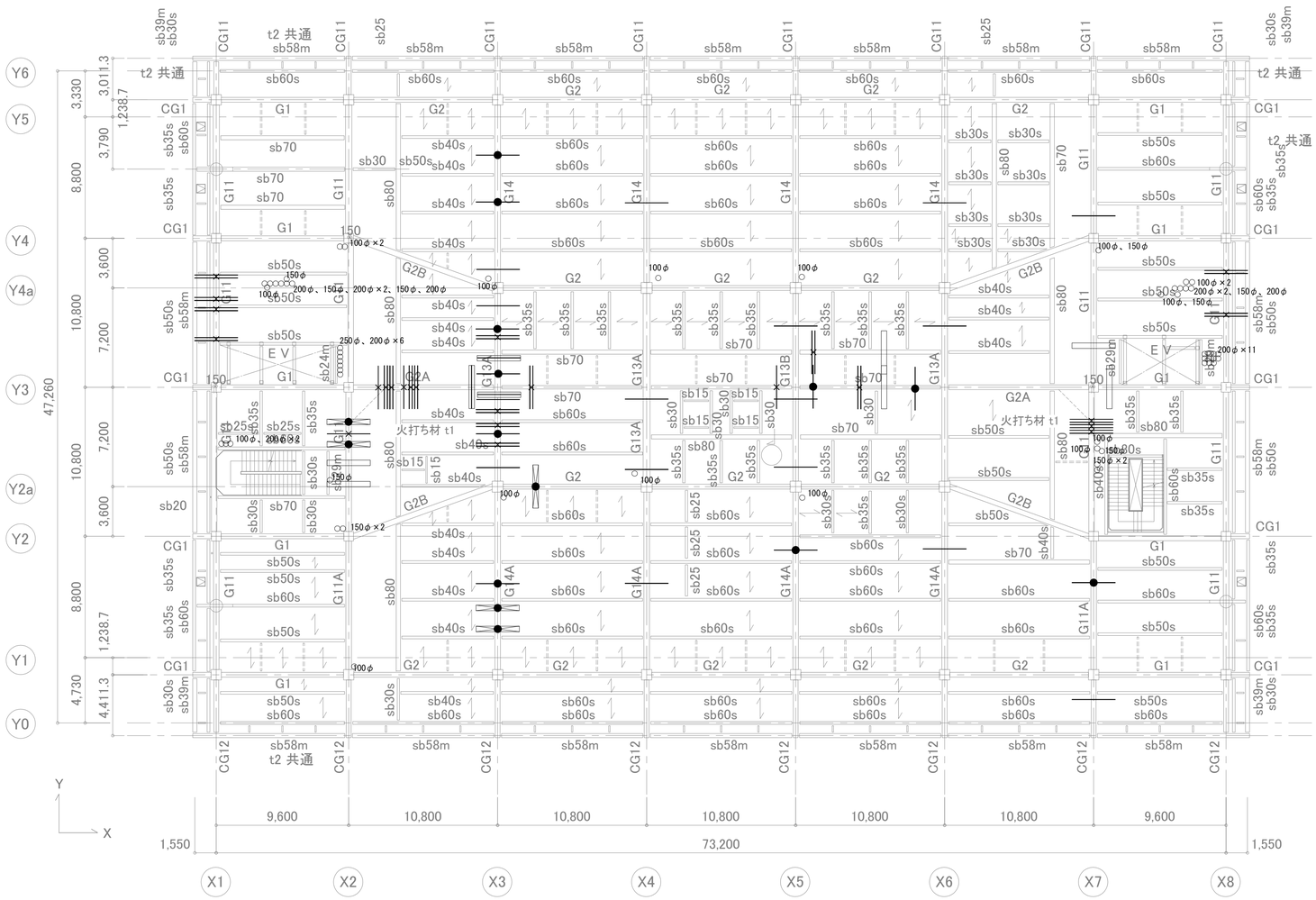
- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ−50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

梁貫通 径及び本数

径	
100φ	
150φ	●
200φ	×
250φ	●
300φ	□
(500) 600φ	⊠
350φ	×
400φ	●
450φ	⊟

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 1:100	最終版 2024. 3. 25
	57	梁貫通図（３） 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



3 階 梁床伏図 1:200

3階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G1	300	1	既製品
G2	400	1	2PL−9
G2A	150	1	PL−6
	200	4	PL−9
	350	2	2PL−9
	400	1	2PL−12
G11	100	1	PL−6
	200	6	PL−9
	300	3	2PL−9
	350	1	2PL−12
	400	2	2PL−16
G11A	150	1	PL−6
G13A	100	6	PL−6
	150	3	PL−6
	200	4	PL−9
	450	2	2PL−16
G13B	100	3	PL−6
G14	100	3	PL−6
	150	2	PL−6
G14A	100	2	PL−6
	150	2	PL−6
	400	2	2PL−12
CG12	100	1	PL−6
sb70	150	2	PL−6
	200	5	PL−9
	300	2	2PL−9
	350	1	2PL−12

3階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	6
DS1	100	1
DS2	100	10
	150	10
	200	26
	250	1
DS3	150	2
DS4	100	1

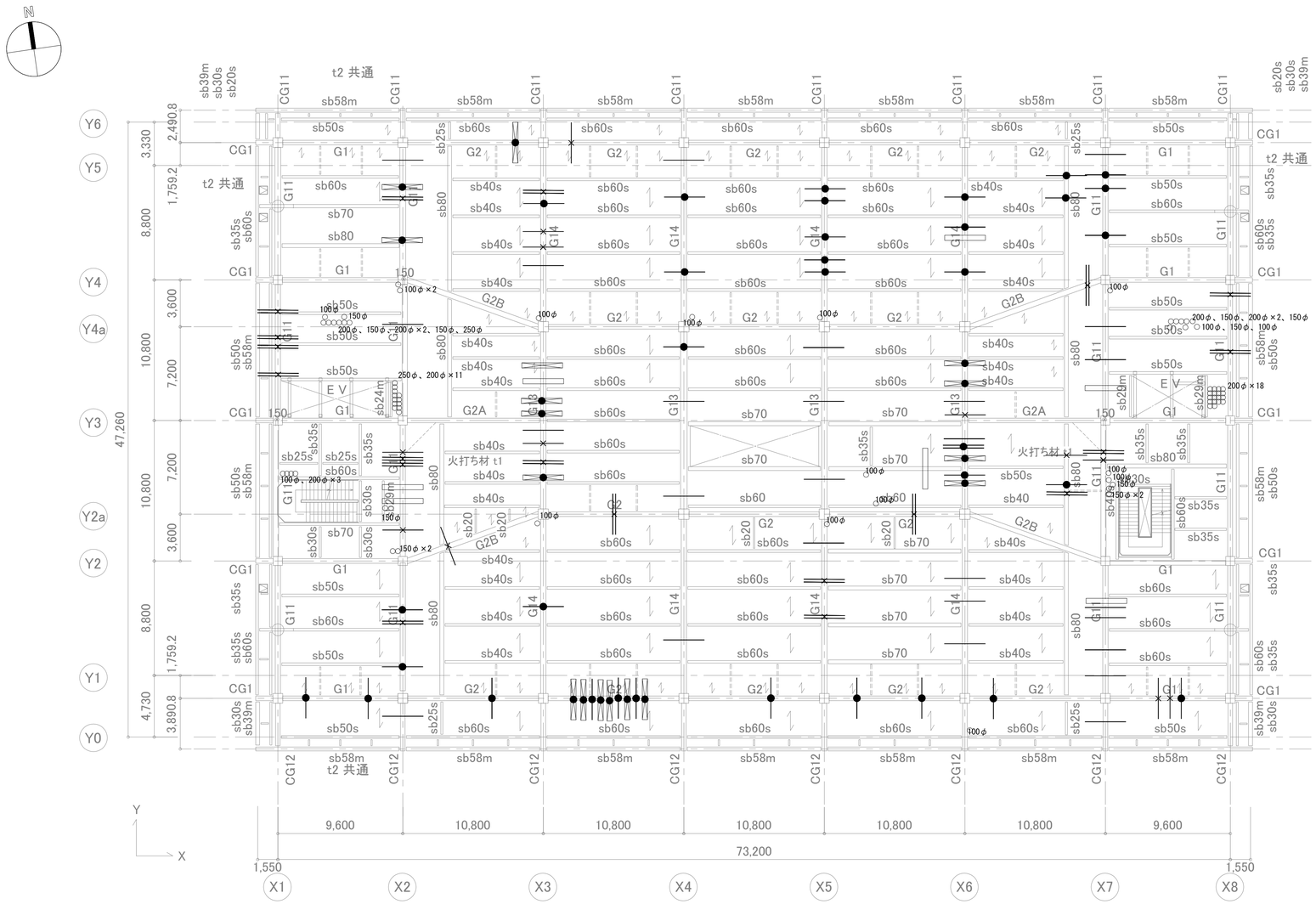
梁貫通 径及び本数

径	
100φ	
150φ	●
200φ	×
250φ	●
300φ	
(500) 600φ	
350φ	×
400φ	●
450φ	

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B−07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ−50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事 1:50	最終版 2024. 3. 25
	58	梁貫通図（４） 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



4 階 梁床伏図　1:200

7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G1	150	3	PL−6
	350	2	2PL−12
G2	150	8	PL−6
	200	2	PL−9
	350	1	2PL−12
	400	7	2PL−16
G2B	200	1	PL−9
	350	1	2PL−12
G11	100	9	PL−6
	150	5	PL−6
	200	10	PL−9
	300	4	2PL−9
	350	3	2PL−12
	400	2	2PL−16
G13	100	8	PL−6
	150	2	PL−6
	200	1	PL−9
	250	1	PL−9
	300	1	PL−12
	350	2	2PL−9
	400	7	2PL−12
	500	1	2PL−16
G14	100	5	PL−6
	150	10	PL−6
	200	1	PL−9
	300	1	PL−12
	350	4	2PL−9
	400	2	2PL−12
G14A	100	7	PL−6
	150	12	PL−6
	200	3	PL−9
	300	1	2PL−9
	350	2	2PL−9
CG12	100	2	PL−6
sb70	300	1	2PL−9
sb80	150	3	PL−6
	200	1	PL−9
	350	1	2PL−9

4階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	7
DS1	100	2
DS2	100	9
	150	10
	200	38
	250	1
DS3	150	2

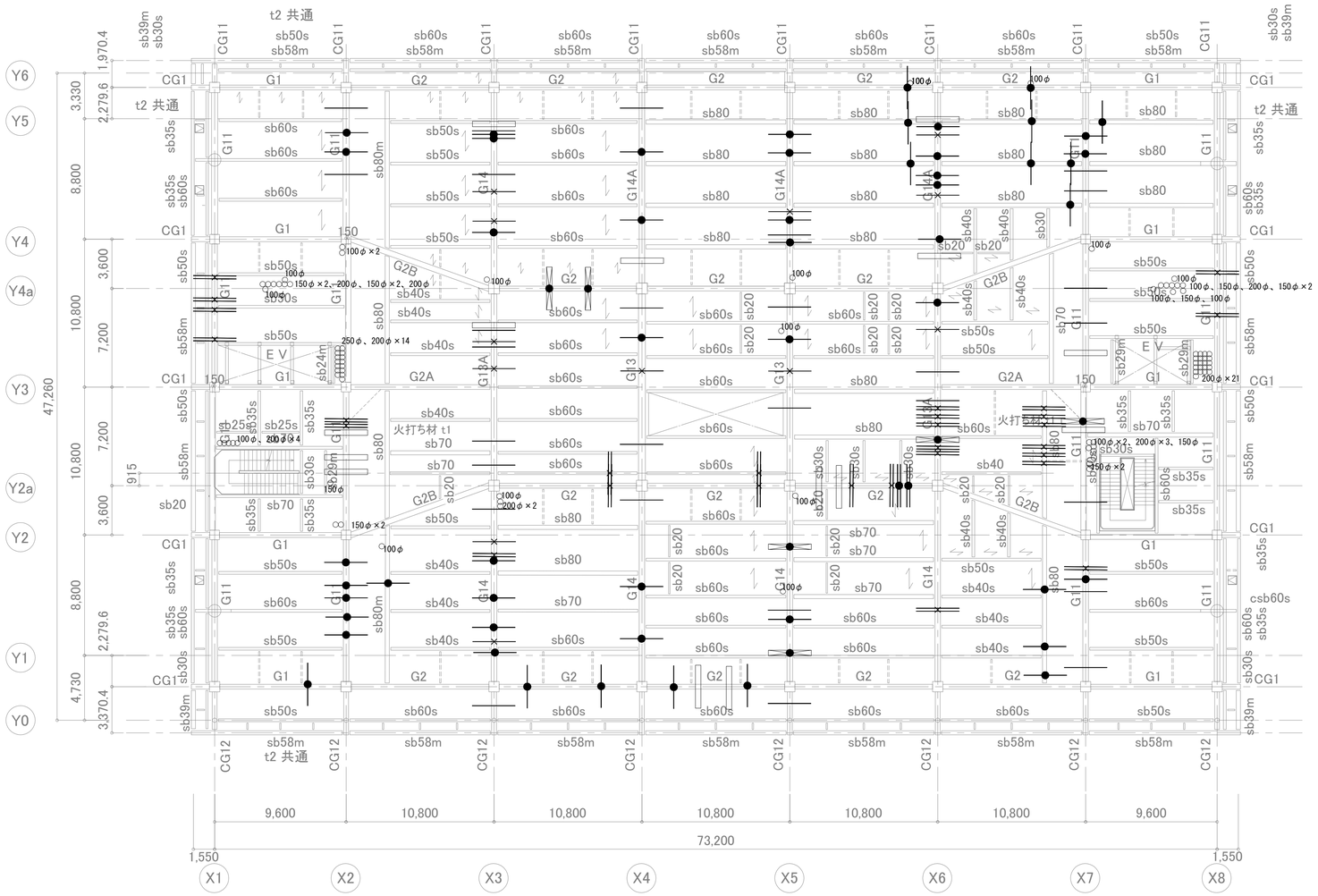
梁貫通　径及び本数

径
100φ
150φ
200φ
250φ
300φ
(500) 600φ
350φ
400φ
450φ

- スリーブ外径は　呼び径　とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B−07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ−50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	59	梁貫通図（５） 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



5 階 梁床伏図 1:200

7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G1	150	1	PL−6
G2	150	6	PL−6
	200	4	PL−9
	250	2	PL−12
	300	2	2PL−9
	400	2	2PL−16
G11	100	9	PL−6
	150	10	PL−6
	200	9	PL−9
	300	5	2PL−9
	400	1	2PL−16
G13	100	10	PL−6
	150	3	PL−6
	200	5	PL−9
	300	1	PL−12
	350	4	2PL−9
	400	1	2PL−12
G14	100	5	PL−6
	150	10	PL−6
	200	1	PL−9
	300	1	PL−12
	350	4	2PL−9
	400	2	2PL−12
G14A	100	2	PL−6
	150	11	PL−6
	300	3	2PL−9
	350	2	2PL−9
CG12	100	2	PL−6
sb60s	200	2	PL−9
sb80	150	10	PL−6
	200	6	PL−9
sb80m	150	1	PL−6

5階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	6
DS1	100	2
DS2	100	12
	150	12
	200	45
	250	1
DS3	100	3
	150	2
	200	2

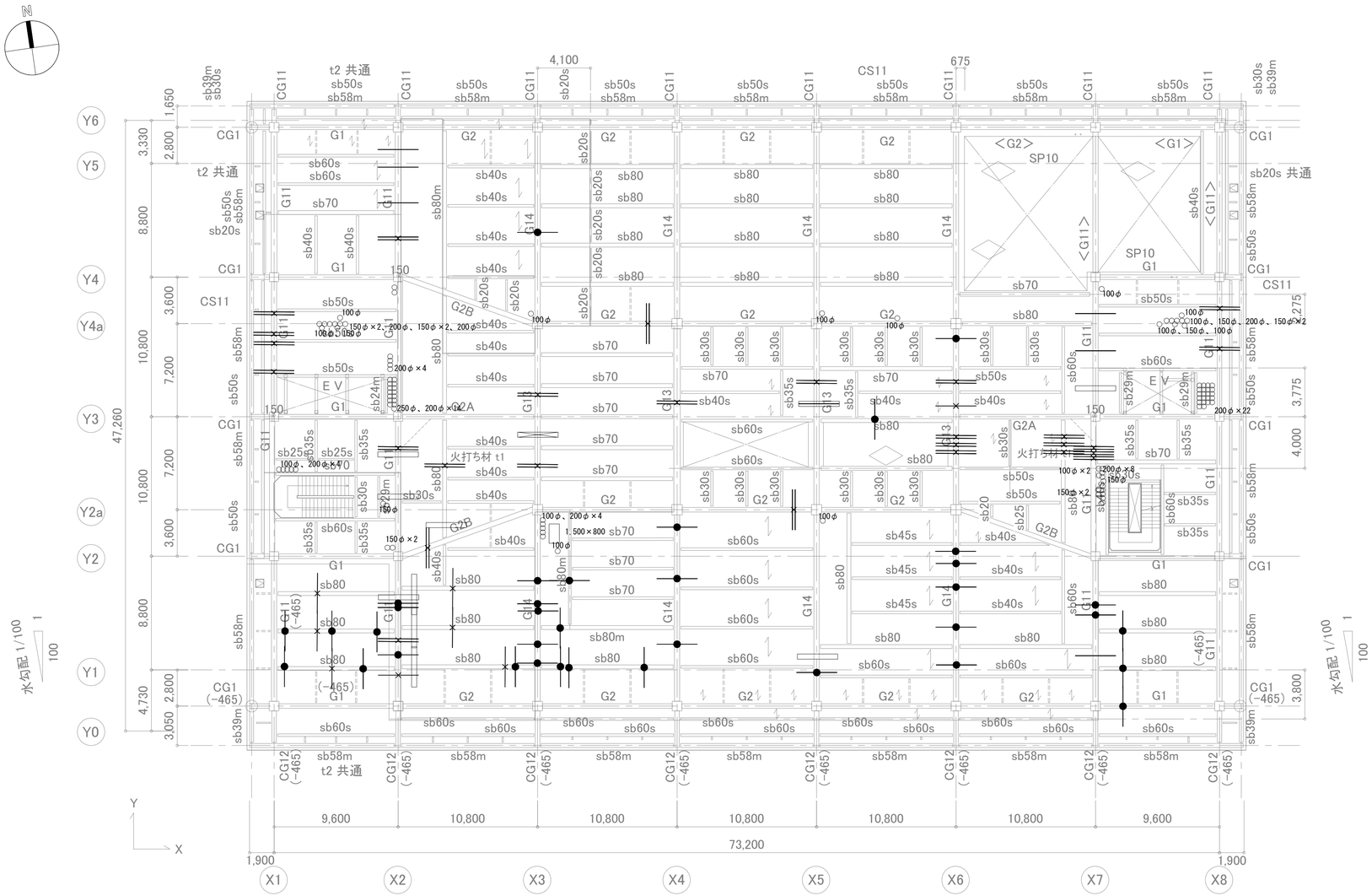
梁貫通 径及び本数

径	
100φ	
150φ	
200φ	
250φ	
300φ	
(500) 600φ	
350φ	
400φ	
450φ	

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B−07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ−50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	60	梁貫通図（６） 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



6 階 梁床伏図 1:200

6階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G1	150	1	PL−6
G2	200	1	PL−9
G2B	200	1	PL−9
G11	100	6	PL−6
	150	5	PL−6
	200	12	PL−9
	300	4	2PL−9
	350	1	2PL−12
G13	150	1	PL−6
	200	8	PL−9
	350	1	2PL−9
	400	1	2PL−12
	500	1	2PL−16
G14	150	15	PL−6
	300	1	PL−12
sb80	150	11	PL−6
	200	5	PL−9
	300	4	PL−12
	350	6	2PL−9
sb80m	150	2	PL−6

6階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS1	100	2
DS2	100	14
	150	13
	200	59
	250	1
	1500×800	1
DS3	100	2
	150	2

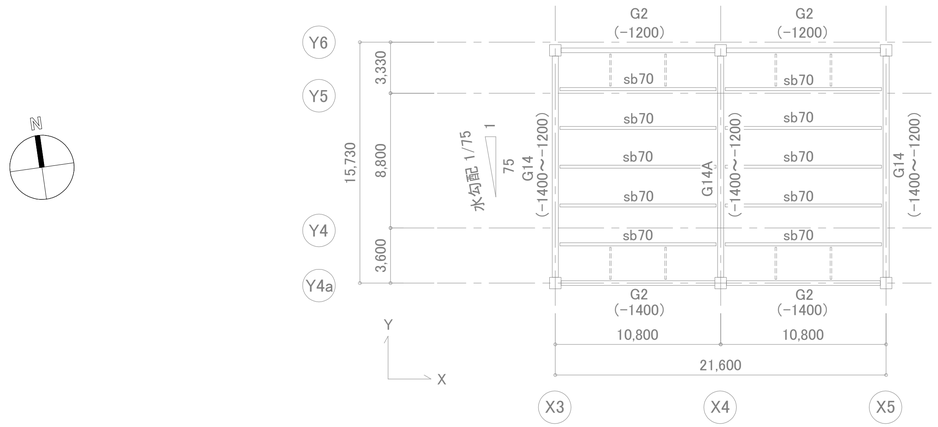
梁貫通 径及び本数

径
100φ
150φ
200φ
250φ
300φ
(500) 600φ
350φ
400φ
450φ

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ-50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	61	梁貫通図 (7) 1:200	見積版 2024. 3. 25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220



R 階 梁床伏図 1:200

梁貫通 径及び本数

径
100φ
150φ
200φ
250φ
300φ
(500) 600φ
350φ
400φ
450φ

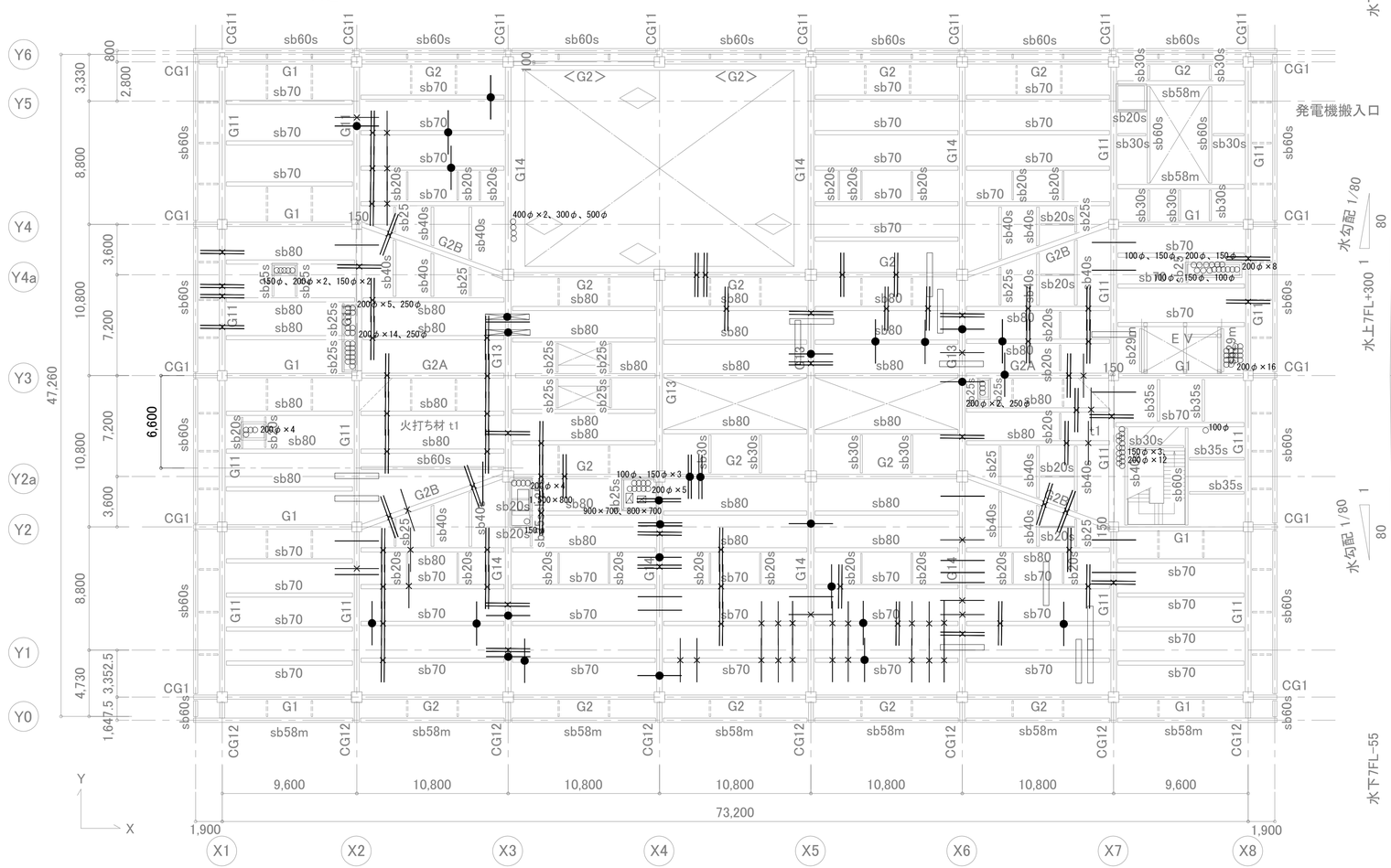
7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G2	200	6	PL−9
	250	2	PL−9
	300	1	2PL−9
G2A	150	1	PL−6
	200	3	PL−9
	350	1	2PL−9
G2B	100	1	PL−6
	200	5	PL−9
	350	1	2PL−9
G11	100	1	PL−6
	150	3	PL−6
	200	5	PL−9
	300	2	2PL−9
	350	1	2PL−12
	400	2	2PL−16
G13	100	1	PL−6
	150	3	PL−6
	200	5	PL−9
	300	2	PL−12
	350	1	2PL−9
	400	2	2PL−12
G14	100	7	PL−6
	150	5	PL−6
	200	5	PL−9
	300	2	PL−12
	350	6	2PL−9
sb70	200	9	PL−9
	250	12	PL−12
	300	24	2PL−9
sb80	200	3	PL−9
	250	21	PL−12
	300	3	PL−12

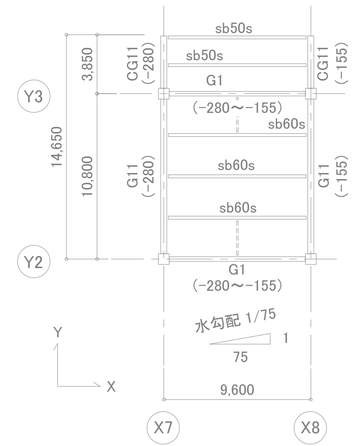
7階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS1	100	1
DS2	150	3
	200	28
DS4	100	4
	150	10
	200	46
	250	3
	800×700	1
	900×700	1
	1500×800	1
CS10	300	1
	400	2
	500	1

t2 共通



7 階 梁床伏図 1:200



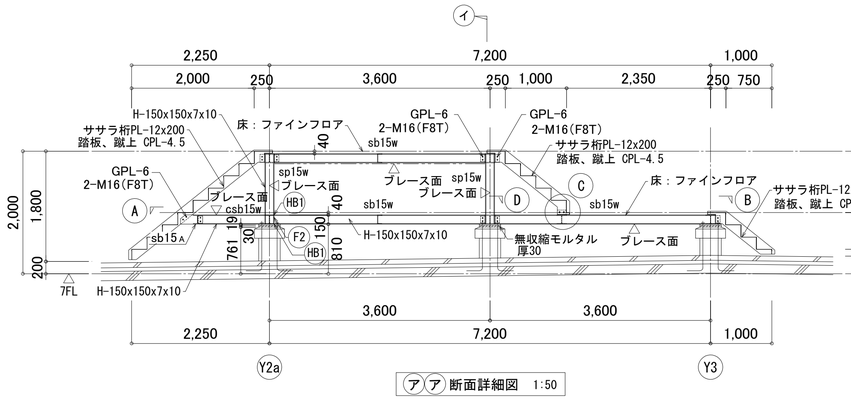
R 階 梁床伏図 1:200

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ−50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

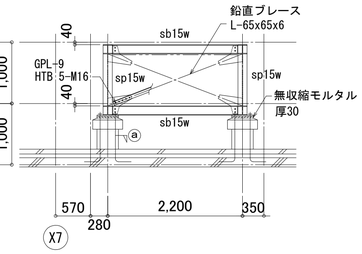
明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	62	梁貫通図 (8) 1:200	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

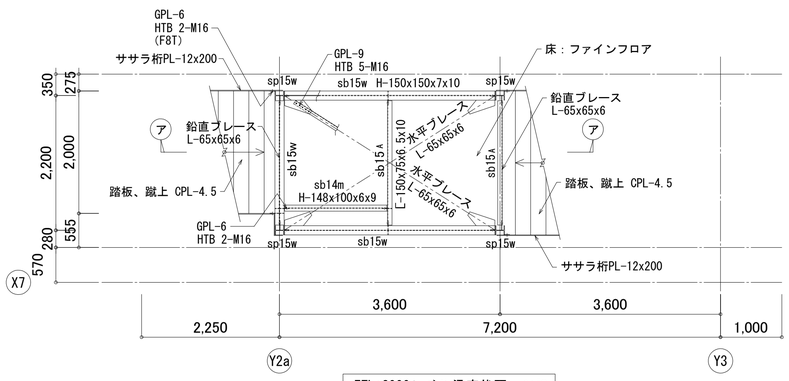
屋外階段詳細図 1:50



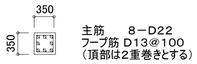
ア ア 断面詳細図 1:50



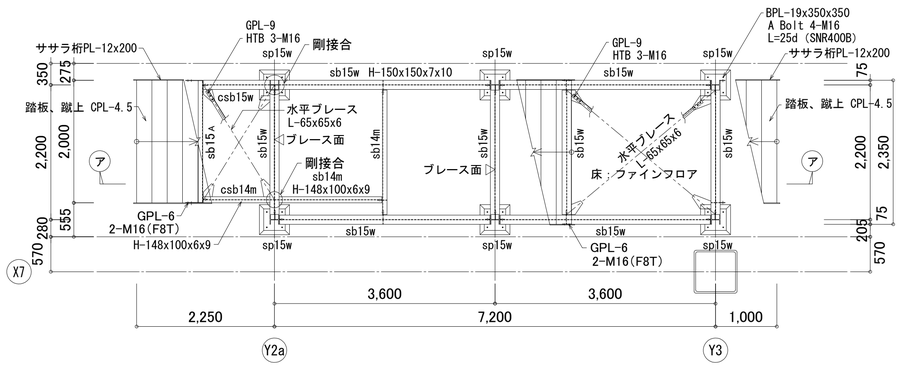
Y2a 断面詳細図 1:50



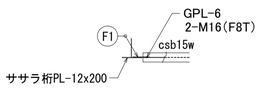
7FL+2000レベル梁床伏図 1:50



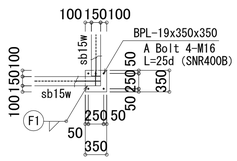
ⓐ−ⓐ 断面図



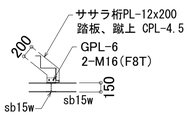
7FL+1000レベル梁床伏図 1:50



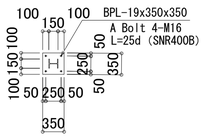
Ⓐ 断面詳細図 1:50



Ⓑ 断面詳細図 1:50



Ⓒ 詳細図 1:50

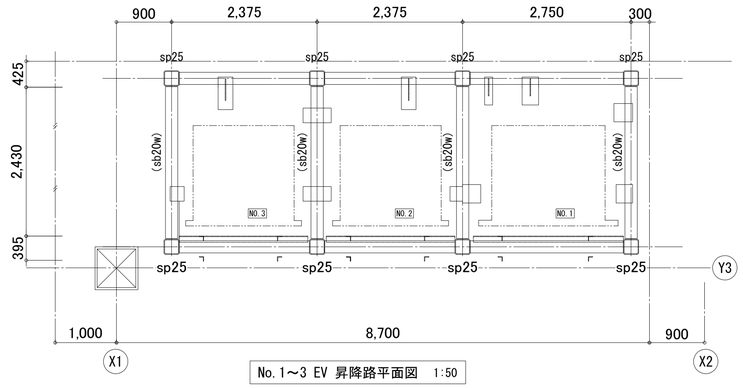


Ⓓ 断面詳細図 1:50

共通事項（特記なき限り）

- ○ 鋼材種は SN400A とする。
- ○ 高力ボルトは F8T とする。
- ○ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキ(JIS H 8643)とする。
- ○ アンカーボルト材質は SNR400B とする。

EV廻り鉄骨案内図 1:50

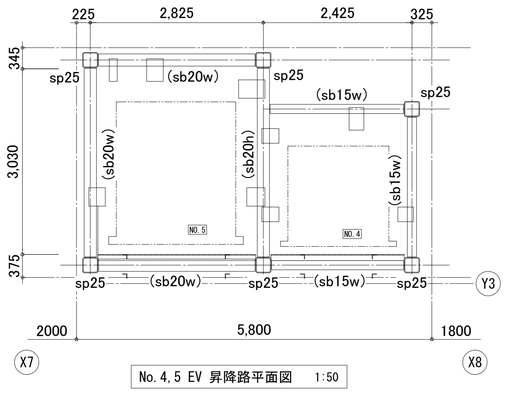


No.1〜3 EV 昇降路平面図 1:50

特記なき限り

- ○ (sb20w) は中間ビーム H-200x200x8x12 とする。
- ○ 中間ビーム取付け位置（梁天端）は下記による。

6FL+3050, 5FL+2500, 4FL+2500, 3FL+2500, 2FL+2500, 1FL+3000, 1FL+1800（共通）



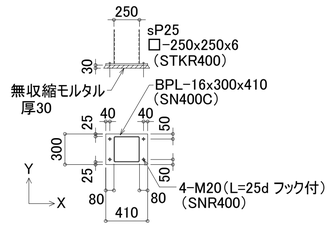
No.4,5 EV 昇降路平面図 1:50

特記なき限り

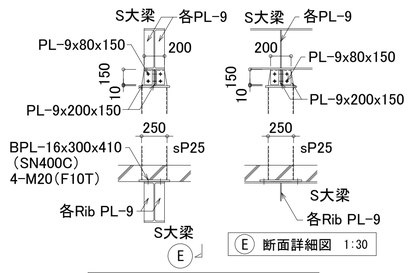
- ○ (sb20w) は中間ビーム H-200x200x8x12 とする。
- ○ (sb20h) は中間ビーム H-200x200x8x12（横使い） とする。
- ○ (sb15w) は中間ビーム H-150x150x7x10 とする。
- ○ 中間ビーム取付け位置（梁天端）は下記による。

7FL+3600 No.5EVの場合のみ。

6FL+3000, 5FL+3000, 4FL+3000, 3FL+3000, 2FL+3000, 1FL+2350（共通）

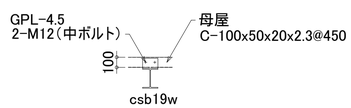


EV sP25とRCとの取合い図 1:30



Ⓔ 断面詳細図 1:30

EV sP25とS大梁との取合い図 1:30

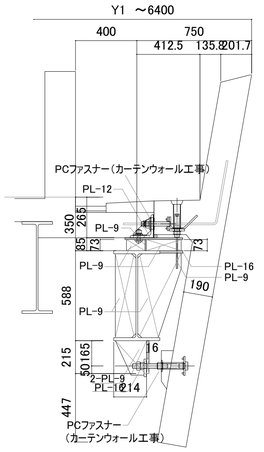


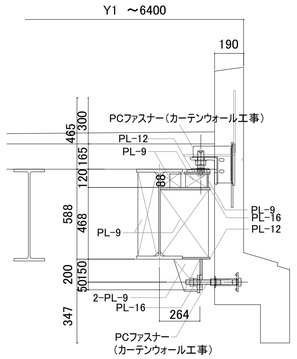
Ⓕ 断面詳細図 1:30

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	63	屋外階段詳細図 EV廻り鉄骨案内図 A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

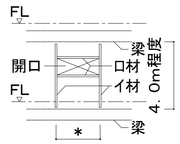
20230220

PCa版取付鉄骨要領図 1:20





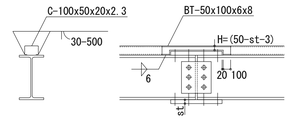
ECP版開口補強材要領



開口幅（mm）	開口補強材
600	イ材 ロ－100x100x4.5(GPL－6,2－M12(中ボルト))
	ロ材 L－50x50x6
1200	イ材 ロ－100x100x4.5(GPL－6,2－M12(中ボルト))
	ロ材 L－50x50x6
1800	イ材 ロ－100x100x4.5(GPL－6,2－M12(中ボルト))
	ロ材 L－65x65x6
2400	イ材 ロ－100x100x4.5(GPL－6,2－M12(中ボルト))
	ロ材 L－75x75x6

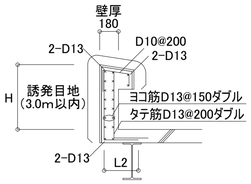
共通事項（特記なき限り）
- 補強材の鋼材種別は SS400、STKR400とする。
- 接合部は 溶接接合とする。
- 上記より開口幅が大きい場合、構造設計者・監理者と協議する。

折版受材の取付け要領図



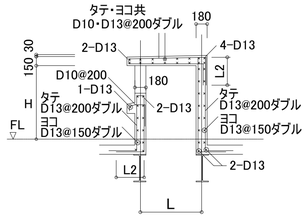
パラペット配筋図 1:30

(1)H寸法は 意匠図 による。
(2)立上り部のコンクリートは屋根スラブと同時打ちを原則とする。
やむ得ず打継ぐ場合には、打継ぎ面を屋根スラブ天端から100mm以上あけて水平目地を設ける。
100mm以上あけて水平目地を設ける。

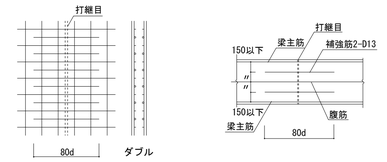


ハト小屋・ハイサイドライト配筋要領図 1:50

H、L寸法は 意匠図 による。



打継ぎ部および後打ちコンクリート部の補強



壁またはスラブの打継ぎ部

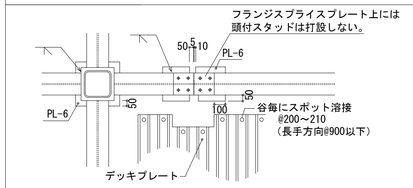
dは壁筋またはスラブ筋と同一径とし、
鉄筋間隔が1/2となるように補強する。

梁の打継部

補強筋は2-D13とし、
ピッチ150以下に配筋する。

※壁またはスラブの打継ぎ部の補強筋間隔が@100より過密、
または@300より過少となる場合は、構造設計者・監理者と協議する

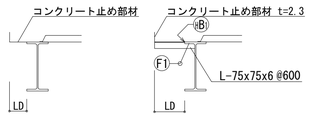
デッキプレートの取付け要領図



- デッキプレート（合成床版および一方向捨仮枠床版）の床開口について構造図に表示のない、位置での床開口は原則として不可とする。
  開口を設ける場合には監理者の承認を受けて、小梁などにより適切な補強を行う。
- 合成床版用デッキプレートの取付方法は、認定条件（構造用および耐火構造用）を遵守する。

デッキ床端部コンクリート止め要領図

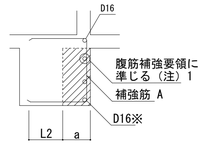
デッキ床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は下記要領でコンクリート止め部材、及び、補強部材を設けること。

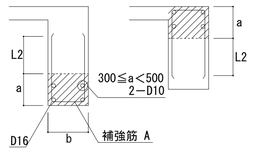


LD≦200のとき t=2.3
200＜LD≦300のとき t=3.2
300＜LD≦600

梁の打増し補強要領図

・a＜70のとき 補強筋なし





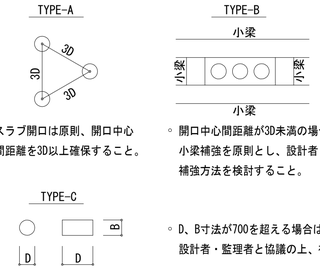
※梁側面打増しの場合は角部のD16以外は腹筋でよい（腹筋径とピッチは補助筋による）。

b＜350の場合 2－D16
350≦b＜500の場合3－D16
500≦b＜750の場合4－D16
750≦bの場合 D16@200

a	70≦a≦200	200＜a
補強筋A	あばら筋と同径・SD295・同ピッチ	構造図による

（注）1. 定着は3cmとする。ただしD16以上の場合は定着L2とする。

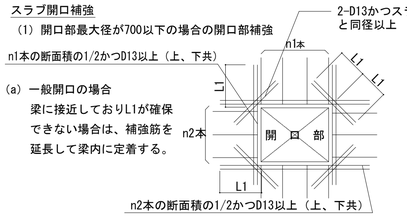
スラブ開口補強要領図



- スラブ開口は原則、開口中心間距離を3D以上確保すること。
- 開口中心間距離が3D未満の場合は小梁補強を原則とし、設計者・監理者と協議の上、補強方法を検討すること。
- D、B寸法が700を超える場合は小梁補強を原則とし、設計者・監理者と協議の上、補強方法を検討すること。

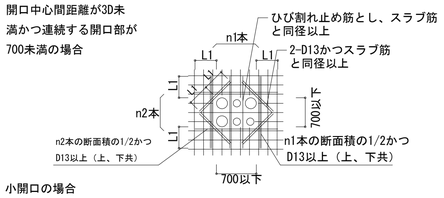
スラブ開口補強

(1) 開口部最大径が700以下の場合の開口部補強



(a) 一般開口の場合
梁に接近しておりL1が確保できない場合は、補強筋を延長して梁内に定着する。

(b) 開口中心間距離が3D未満かつ連続する開口部が700未満の場合

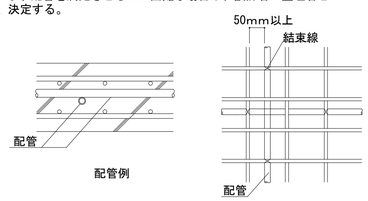


(c) 小開口の場合
スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略できる。

埋設配管要領

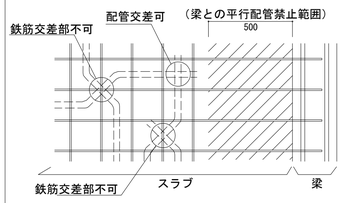
共通事項

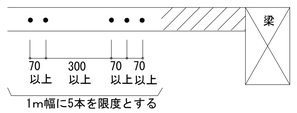
(1) 使用する配管はPF管のみとし、呼称22以下、外径30.5φ以下とする。
(2) 配管のかぶり厚さは鉄筋と同等以上を確保する。
(3) 配管は出来るだけ直線的に行い、蛇行しない。
(4) 配管は結束線などで1m以内毎に直交方向の鉄筋と結束する。
(5) 鉄筋と平行な配管は鉄筋より50mm以上離す。
(6) 配管相互のあきは50mm以上とする。
(7) 配管は極力重ねない。やむを得ず重ねる場合は2段以下にする。
(8) 盤取付部の配管立上りが集中する部位においては、そこを開口部とみなして開口補強を行う。
(9) 配管は盤取付位置周辺を除き、過度に集中しないよう配管する。目安として1m幅に5本程度までとする。
(10) この規準の適用範囲は在来工法による建物とする。
(11) この要領に示す配管を満足させるのが困難な場合は、設計者・監理者と協議の上、決定する。



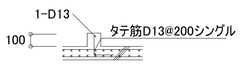
配管例

(1) 屋根スラブ及び防水を行うスラブには、原則として配管類を埋め込まない。
(2) 配管外径は部材厚の1/5以下とする。
(3) シングル配筋の場合は配管は行わなず、ダブル配筋の内側に配管を行う。
(4) 梁面より500mm以内の範囲に1.0mを超える配管を設けない。
(5) 配管同士の交差は鉄筋交差部では行わないものとし、配管同士が直交方向に交わるようにする。
(6) 配管相互のあきは70mm以上とし、3本以上平行配管してはならない。
ただし、配管同士の間隔が300mm以上の場合はその限りではない。
(7) 平行配管は1m幅の中で5本を限度とする。





LGS壁等下部RC立ち上がり配筋図 1:30

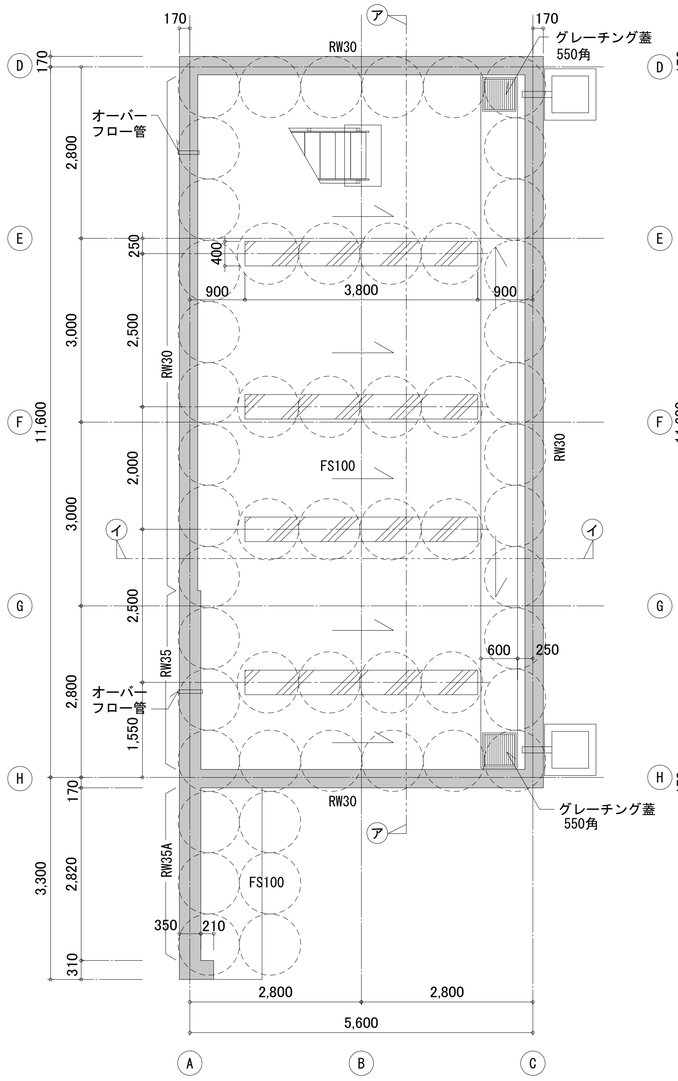


明石市政策局 企画・調整室
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号
南浦 琢磨
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号
田中 智

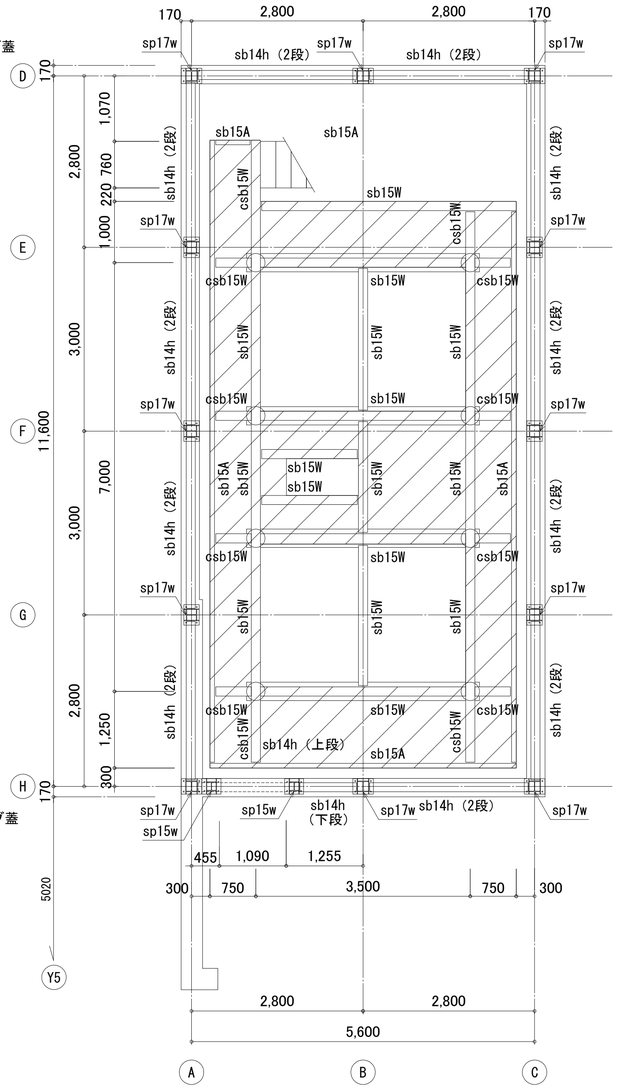
明石市役所新庁舎建設工事

B	建築工事	最終版	2024.3.25
64	雑要領図、雑配筋図 A1 1:50 A3 1:100	見積版	2024.3.25
	安井建築設計事務所	最終契約版	

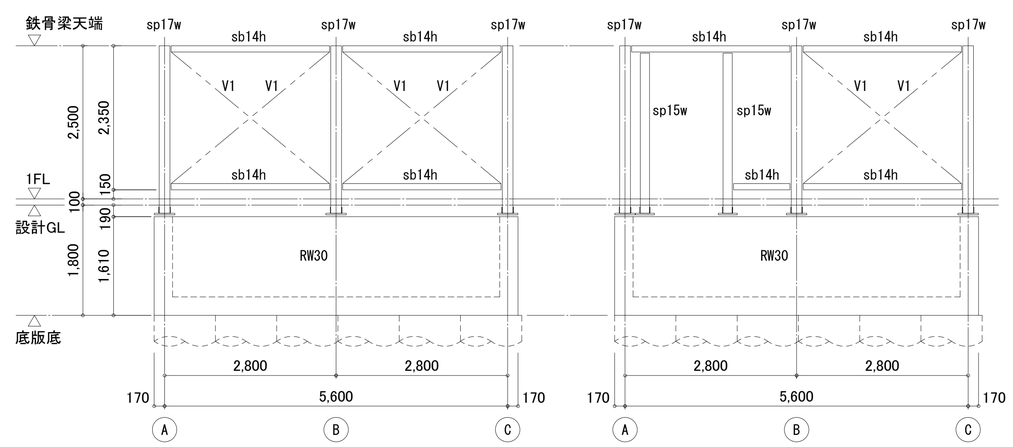
20230220



受水槽ピット部伏図　S=1:50

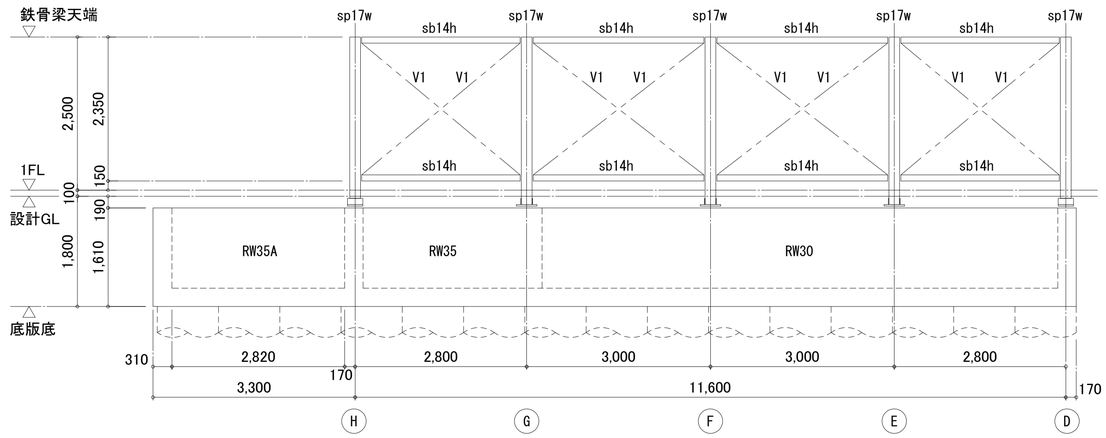


受水槽メンテナンス歩廊伏図 S=1:50

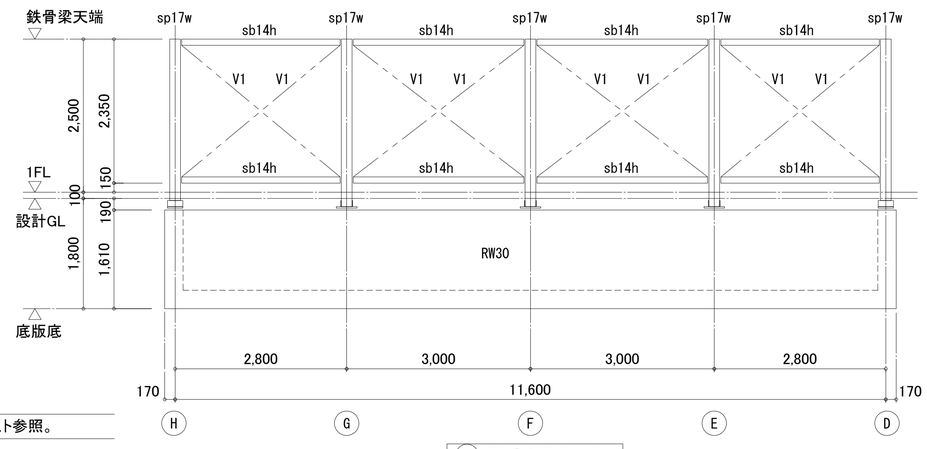


D 通り軸組図 S=1:50

H 通り軸組図 S=1:50



A 通り軸組図 S=1:50



C 通り軸組図 S=1:50

共通事項（特記なき限り）

- 底版底（FS100）はGL-1800とする。
- ◯ 印は深層地盤改良（Φ1000）を示す。
  地盤改良深度：T.P.-2.6m。
  地盤改良仕様は外構部と同様とする。

共通事項（特記なき限り）

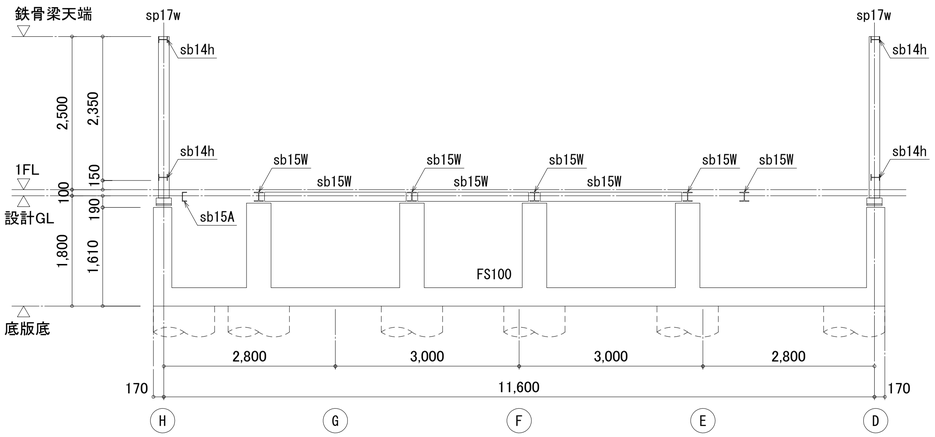
- 鉄骁梁天端は1FL-40とする。
- ⊕ 印は剛接合を示す。
- ▨ 印はファインフロア t40 を示す。

共通事項（特記なき限り）

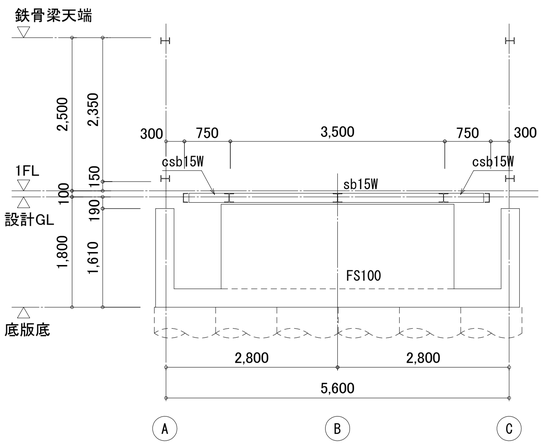
- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキとする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎 建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	65	受水槽 構造図（1） A3 1:100 A1 1:50	見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

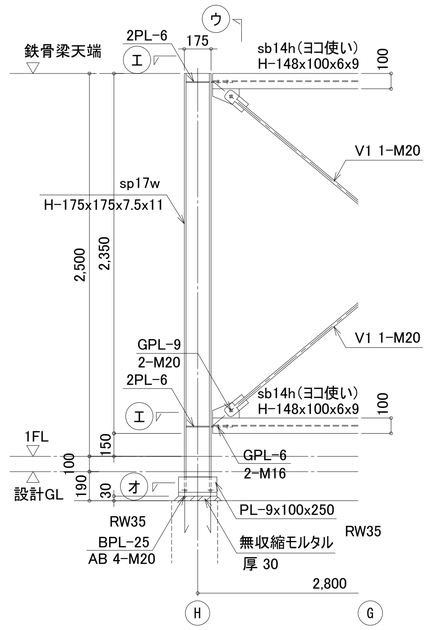


ア ア 通り軸組図 S=1:50



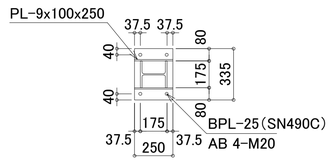
イ イ 通り軸組図 S=1:50

エ 断面詳細図 S=1:20



A 通り架構詳細図 S=1:20

ウ 断面詳細図 S=1:20



オ 断面詳細図 S=1:20

共通事項(特記なき限り)

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

共通事項(特記なき限り)

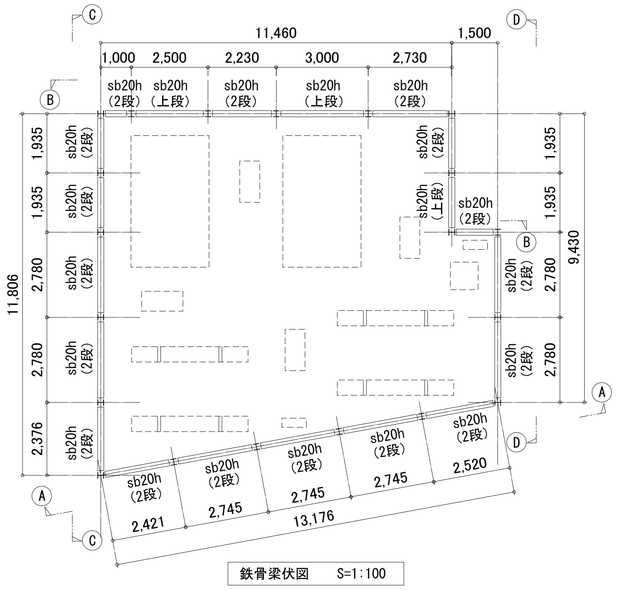
- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

明石市政策局 企画・調整室
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号
南浦 琢磨
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号
田中 智

明石市役所新庁舎 建設工事

B	建築工事	A3 1:100	最終版 2024. 3. 25
66	受水槽 構造図 (2)	A1 1:50	見積版 2024. 3. 25
	安井建築設計事務所		最終契約版

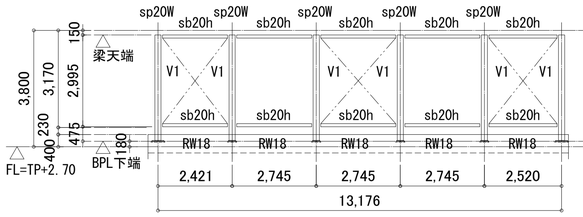
20230220



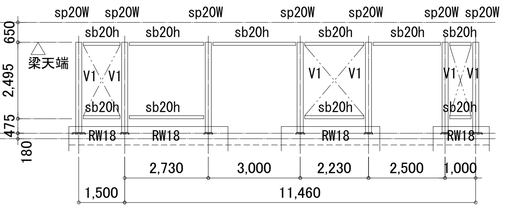
鉄骨梁伏図　S=1:100

共通事項（特記なき限り）

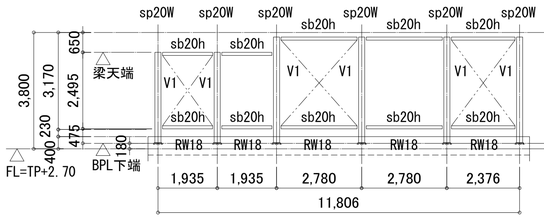
- FL=TP+2.70とする。
- 梁天端はFL+3650,+3150とする。



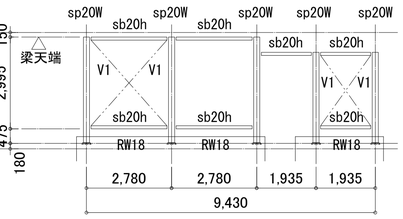
Ⓐ Ⓐ 軸組図　S=1:100



Ⓑ Ⓑ 軸組図　S=1:100



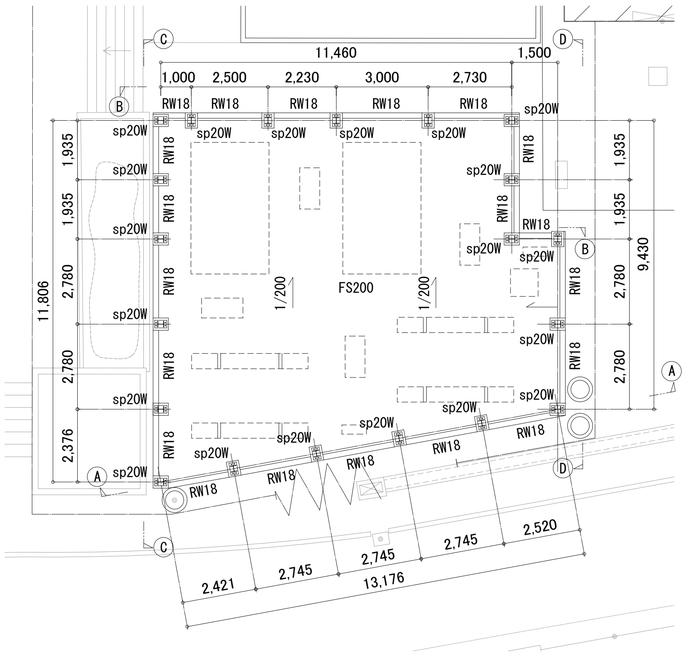
Ⓒ Ⓒ 軸組図　S=1:100



Ⓓ Ⓓ 軸組図　S=1:100

共通事項（特記なき限り）

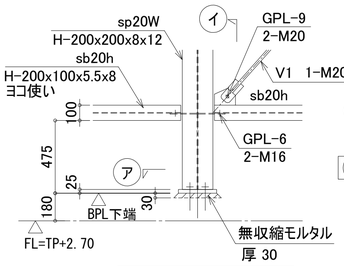
- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキとする。



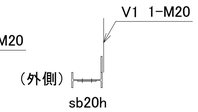
基礎伏図　S=1:100

共通事項（特記なき限り）

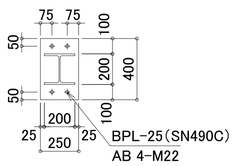
- FL=TP+2.70とする。
- 底版底（FS200）はFL-200とする。
- BPL下端はFL+180とする。



架構詳細図　S=1:20



Ⓘ 断面詳細図　S=1:20



Ⓐ 断面詳細図　S=1:20

共通事項（特記なき限り）

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキとする。

明石市政策局 企画・調整室	明石市役所新庁舎 建設工事		
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B 67	建築工事 市民会館 設備置場目隠し構造図 A3 1:200 A1 1:100	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

20230220

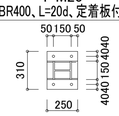
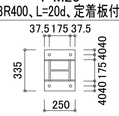
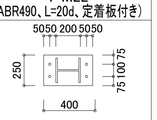
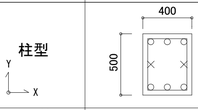
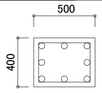
鉄骨二次部材リスト

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別　SN400A　とする。
- ボルト 特記なき限り 高力ボルト（HTB）F10T、メッキボルトは F8T とする。
- GPLは　母材と同材質とする。
- 小梁継手TYPEは　A－TYPE　とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキ　550 g／m² 以上とする。
- 雨水のたまる部分には　水抜き穴を設ける事。（20φ@1500以内）

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート（GPL）	スプライスプレート（2-SPL）	備 考
sb15A	[-150x75x6.5x10	2-M16	PL-6		
sb15w、csb15w	H-150x150x7x10	2-M16	PL-6		
sb14h	H-148x100x6x9	2-M16	PL-6		ヨコ使い
sb20h	H-200x100x5.5 x 8	2-M16	PL-6		ヨコ使い
V1	1-M20（ターンバックル締め）	1-M20	PL-9		鉛直ブレース

鉄骨間柱 リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）
- 鋼材種別は SN400A　とする。
- ボルトは　高力ボルト（HTB）F10T、メッキボルトはF8T とする。
- ガセットプレートは 母材と同材質 とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキ　550 g／m² 以上とする。
- RC柱型で主筋間隔300を超える場合、ひび割れ防止筋D13@300を配筋すること。

符号	sp15w	sp17w	sp20w
部材メンバー	H-150x150x7x10	H-175x175x7.5x11	H-200x200x8x12
柱脚	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚
ベースプレート	BPL-22×250×310（SN490C）	BPL-25×250×335（SN490C）	BPL-25×250×400（SN490C）
リブプレート	2PL-9×100×250（SN400A）	2PL-9×100×250（SN400A）	－
アンカーボルト	4-M20（ABR400、L=20d、定着板付き）	4-M20（ABR400、L=20d、定着板付き）	4-M22（ABR490、L=20d、定着板付き）
形状			
柱型			
主 筋	6-D22	6-D22	8-D22
フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
備 考	頂部フープは二重巻きとする 受水槽目隠し受け鉄骨	頂部フープは二重巻きとする 受水槽目隠し受け鉄骨	頂部フープは二重巻きとする 市民会館設備置場目隠し受け鉄骨

床版リスト

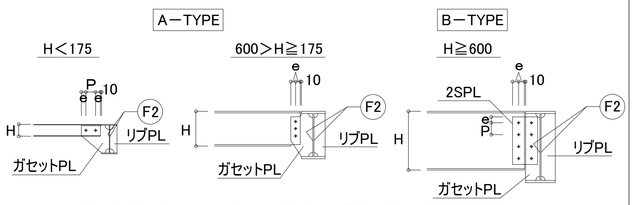
共通事項（特記なき限り）
- 直押え部分は　スラブ天端増打 ⓕ10　とする。
- 土に接するスラブ下地業は 捨コンクリート ⓕ50、砕石 ⓕ 60　とする。

符　号	版　厚	層	短 辺 方 向（主筋方向）	長 辺 方 向（配力筋方向）	備　　考
FS100	300	上	D13　@200	D13　@200	
		下	D13　@200	D13　@200	
FS200	200	上	D13　@200	D13　@200	
		下	D13　@200	D13　@200	

小梁継手要領図　（リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする）

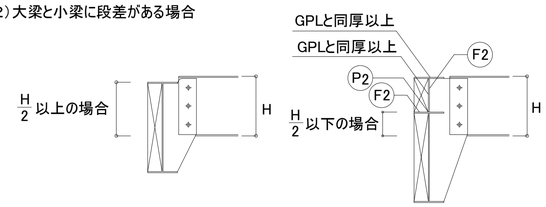
特記なき限り
- リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする。
- 座屈止め要領と仕様が異なる場合は、座屈止め要領を優先する。
- ガセットプレート形状については座屈止メ要領を考慮して定める。

（1）一般継ぎ手要領

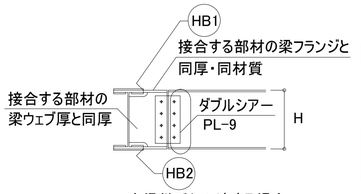


・ガセットプレートテーパー部形状は監督員の承諾を得て変更可

（2）大梁と小梁に段差がある場合



・大梁下端より小梁下端が下に来る場合も上記に準ずる。



大梁継手と干渉する場合

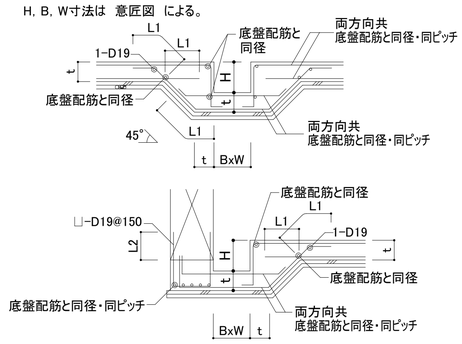
ボルトピッチ

共通事項（特記なき限り）
- 小梁・間柱・横座屈補剛等共通とする。

	M16	M20	M22
P	60	60	70
e	40	40	40

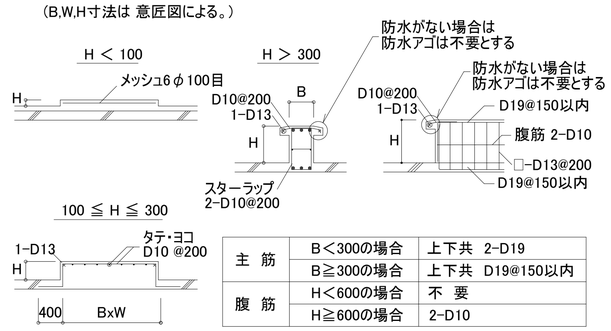
釜場配筋要領図　1:50

H, B, W寸法は　意匠図　による。



機械基礎配筋図　1:50

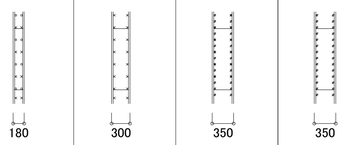
（B,W,H寸法は 意匠図による。）



主 筋	B＜300の場合	上下共　2-D19
	B≧300の場合	上下共　D19@150以内
腹 筋	H＜600の場合	不　要
	H≧600の場合	2-D10

壁リスト 1:50

特記なき限り
- 巾止筋は　タテヨコ共　D10@1000以下　とする。

符　号		RW18	RW30	RW35	RW35A
壁 厚(mm)		180	300	350	350
断 面（鉛直断面）					
縦 筋		D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル
横 筋		D10D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D16 @100 ダブル	D16 @100 ダブル
壁開口部補強筋	縦筋	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13
	横筋	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13
	斜筋	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル	6φ-100目シングル
備 考					

明石市政策局 企画・調整室

明石市役所新庁舎建設工事

〈代表設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第270990号
南浦　琢磨
〈構造設計者〉　一級建築士　国土交通大臣登録　第291941号
構造設計一級建築士　国土交通大臣登録　第1142号
田中 智

B	建築工事	最終版	2024. 03. 25
68	受水槽・設備置場目隠し部材リスト　A3 1:200　A1 1:100	見積版	2024. 03. 25
	安井建築設計事務所	最終契約版	

20230220